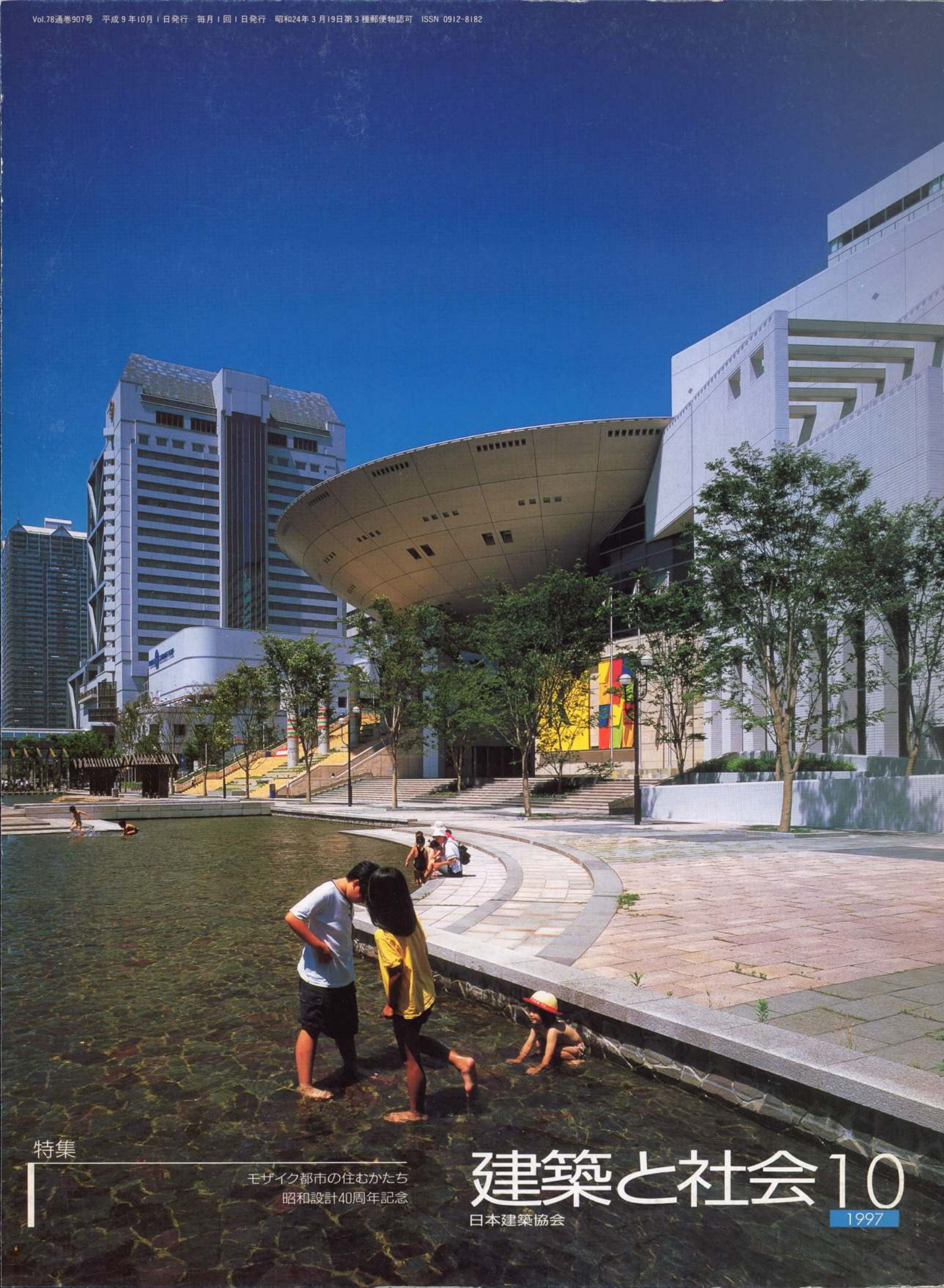
Vol.78通巻907号　平成9年10月1日発行　毎月1回1日発行　昭和24年3月19日第3種郵便物認可　ISSN 0912-8182



特集

モザイク都市の住むかたち
昭和設計40周年記念

建築と社会10

日本建築協会
1997

建築・土木教育のために考えうる最上の施設群。
かつてこれほどの「専門」学校は存在しただろうか？

優れた日本建築の歴史がいまも息づく京都で、
若者たちは技術者を目指しています。
技術を伝えたいという真摯な思いと、
学びとろうという情熱がみなぎる
広大なキャンパスで、
現代から未来へと、
これからの建築・土木を担う力が
足跡を刻もうとしています。



平成8年度 実績

- ■2級建築士国家試験合格率95%（66名中63名合格）。
- ■CAD利用技術者2級合格者数240名。
- ■施工技術者試験合格者数140名。



- ■一人一台のCADシステムを実現。総数150台。
- ■授業時間の約40%が実習授業。



KASD

〔kæsdi.〕
KYOTO ARCHITECTURAL SCHOOL OF DESIGN

学校法人　二本松学院

京都国際建築技術専門学校

〒622 京都府園部町小山東町二本松1-17　TEL.0771-63-1010　FAX.0771-63-1020

- ■建築科（2年）…建築コース　インテリアデザインコース
- ■都市工学科（2年）…土木コース
- ■専科（1年）…2級建築士取得コース

近代建築見学会
(第6回)
日本銀行大阪支店

日　時　1997年10月31日(金)
15:00-16:30
講　師　山形政昭／大阪芸術大学助教授
見学先　日本銀行大阪支店
＊大阪市北区中之島2-1
＊地下鉄「淀屋橋」駅北口前
集　合　現地
定　員　30人
＊申込者多数の場合は抽選
参加費　会員 1,000円 、一般 2,000円
＊含、消費税
申　込　10月24日(金)までに、ハガキ、FAX、電話でお申し込み下さい。
①催し名：近代建築見学会
②氏名
③個人・団体会員、一般の別
④職場・学校名
⑤参加証郵送先
⑥連絡先電話番号
をお知らせ願います。
＊参加証を10月27日(月)に発送します。
申込先　(社)日本建築協会事業課
大阪市北区梅田1-1-3-2100
大阪駅前第３ビル21階 〒530
TEL.348-0633 FAX.348-0634



中之島の日銀は周知のように明治建築の泰斗、辰野金吾の設計により、東京の日銀本店(明治29年)につづいて明治36年に建てられたものです。ネオ・ルネサンス様式の堂々たる雄姿は、我が国明治建築の精華の一つと目されているものです。
そして昭和57年の新館の建築と関連して行われた保存再生工事の早い事例としても注目されています。
今回は日頃固く扉が閉ざされている旧館全容の見学を主としながら、時間を十分にとって新館の見所も見学コースに加えています。
この機会に日銀を中心とした中之島の建築を考えていただければ幸いです。
(山形政昭)

話題建築を聞く
(第25回)
大阪ドーム
寺本敏則氏に聞く



本年3月1日にオープンした大阪ドームは、我が国初めての本格的マルチドームとして、プロ野球、コンサート、展示会などさまざまなイベントを開催し、年内集客目標600万人を大きく上回るペースで人々を集めています。「従来のプロ野球ドームを超えたイベント指向型マルチドーム」をコンセプトとして、あらゆるイベントに対応できる特殊装置を備えるとともに、大型商業施設や文化アミューズメント施設と複合化したスーパーコンプレックスを形成し、イベントの有無にかかわらず常に人々がにぎわう施設としています。こうした多目的化と複合化の背景には、大阪ドームが大阪市の新しい文化・情報の交流拠点として幅広い階層から数多くの人々を集めることを求められていることが挙げられます。
今回の講演では、マルチドームを実現するために日本で初めて導入した空間可変装置やイベント支援システムを備えたアリーナのデザインを御紹介するとともに、大阪の新しいランドマークとなったうねった屋根が連続する動きのある外観デザイン、さまざまな工夫を行った構造・設備システムの概要などについてお話し致します。
(寺本敏則)



寺本敏則(てらもと　としのり)
1939年　東京都生まれ
59年　早稲田大学建築学科卒業
現　在　日建設計・大阪本社 取締役・設計室長
主な作品
別子銅山記念館、ひろしま美術館、大分市役所、和歌山市民会館、鉄鋼会館、ツイン21、イトーキ大阪ニューオフィスギャラリー、高知市立自由民権記念館、新居浜市立別子銅山記念図書館、キーエンス本社・研究所、大阪ワールドトレードセンター、愛媛県歴史文化博物館、大阪ドーム

所 在 地　大阪市西区千代崎3丁目中2-1
建 築 主　(株)大阪シティドーム
設計監理　日建設計
設計協力　竹中工務店、大林組、電通
施　　工　大阪ドーム建設共同企業体連合
大林組・竹中工務店・清水建設・前田建設工業・大日本土木・鴻池組・奥村組・フジタ・西松建設・錢高組・熊谷組

日　時　1997年11月 7 日(金)
18:30—20:30
会　場　日本建築協会サロン
＊大阪駅前第3ビル21階
講　師　寺本敏則
／日建設計取締役設計室長
定　員　30人
＊申込者多数の場合は抽選
参加費　会員 2,000円、一般 3,000円
＊含、飲物・消費税
申　込　10月30日(木)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
①催し名：話題建築を聞く
②氏名
③個人・団体会員、一般の別
④職場・学校名
⑤参加証郵送先
⑥連絡先電話番号
をお知らせ願います。
＊参加証を10月31日(金)に発送します。
申込先　(社)日本建築協会事業課
大阪市北区梅田1-1-3-2100
大阪駅前第３ビル21階 〒530
FAX.348-0634 TEL.348-0633

中国支部交流見学会+懇親会

安芸の宮島と美術館・スポーツ施設を訪ねて

広島県立美術館
ひろしま美術館
広島ビッグアーチ
グリーンアリーナ
広島ビッグウェーブ
広島市現代美術館

ことしは本会創立80周年と中国支部創立50周年という記念の年にあたります。
今回は、この良き節目の年を迎え、かねてより念願であった支部会員の方々との交流と懇親をテーマとし、標記の見学会を企画しました。
一日目は美術館を見学しますが、徒歩で移動しますので、途中に自由行動の時間をとり入れました。市内観光を計画され方には良い機会ではないかと思います。
二日目は全行程バスツアーです。主に、スポーツ施設を訪ねますが、いずれも、アジア競技大会（第12回開催）の折、話題となった建物です。
ひろしまの秋、多数の方のご参加をお待いたします。

日　時　1997年11月7日(金)10:30-
　　8日(土)17:30
集　合　「広島県立美術館」前10:30
　　（広島県中区上幟町2-22）
　　＊名勝「縮景園」に隣接
見学先　左記6施設ほか
　　＊二日目は貸切バスで移動
宿　泊　宮島ロイヤルホテル 和風別館
　　（広島県佐伯郡宮島町1165）
定　員　40人
参加費　会員 20,000円
　　一般 25,000円
　　＊宿泊費、懇親会費、昼食費
　　入館料その他含む。
申　込　ハガキ、FAX、または電話にてお申込み下さい。
　　①催し名（「広島の見学」）
　　②氏名・年齢・性別
　　③個人・団体会員、一般の別
　　④職場・学校名
　　⑤参加証送付先
　　⑥連絡先電話番号
　　をお知らせ願います。
申込先　㈳日本建築協会事業課
　　大阪市北区梅田1-1　〒530
　　大阪駅前第3ビル21階
　　TEL.06-348-0633
　　FAX.06-348-0634

●当日の予定
【1日目 11/7】
午前　•広島県立美術館見学
午後　•ひろしま美術館見学
　　•自由行動約2時間
　　•宿舎にて交流懇親会
【2日目 11/8】
午前　•広島ビッグアーチ見学
午後　•広島ビッグウェーブ見学
　　•グリーンアリーナ見学
　　•広島市現代美術館見学
　　•解散広島市駅17:30予定



広島県立美術館

広島市の都心部に近く、国の名勝・縮景園に隣接した都市型美術館。昭和43年に開館されたが、平成8年10月に全面改築され、県の文化芸術活動の拠点施設として新たにオープンした。

所在地　広島市中区上幟町2-22
設計監理　広島県　日建設計
施　工　（建築）大成建設・戸田建設・鴻池組・上野谷建設JV
敷地面積　5,943㎡
建築面積　4,344㎡
延床面積　19,926㎡
構造規模　SRC、一部S・RC、B1、4F



ひろしま美術館

昭和53年11月、創業100周年を迎えた広島銀行がその記念事業として設立。平和記念公園に近く、鎮魂の祈りと平和への願いがこめられた格調高い美術館。

所在地　広島市中区基町3-2
設　計　日建設計
施　工　清水建設
敷地面積　5,337.67㎡
建築面積　2,385.83㎡
延床面積　3,967.22㎡
構造規模　RC、B1、1F



広島市現代美術館

平成元年5月に日本で初めての「現代美術」専門の美術館として開館。広島市内を見渡す比治山の丘陵に立地し、比治山の自然と建築とアートが共生する見事な空間を演出している。

所在地　広島市南区比治山公園1-1
設　計　広島市　黒川紀章建築・都市設計事務所
施　工　（建築）清水・大日本土木・松本・錦・大互JV
敷地面積　約29ha
建築面積　3,709.92㎡
延床面積　9,290.94㎡
構造規模　RC、一部SRC、B2、2F



広島広域公園陸上競技場
（広島ビッグアーチ）

所在地　広島市安佐南区沼田町大字大塚
設計監理　広島市　住宅・都市整備公団　東畑建築事務所
施　工　大林組・大之木建設・松本建設JV
フジタ・増岡組・栗本建設JV
敷地面積　482,774㎡
建築面積　17,684㎡
延床面積　14,895㎡
構造規模　SRC、RC、S、5F
工　期　1990年1月～1992年9月



広島県立総合体育館
（グリーンアリーナ）
＊写真・第1競技場

所在地　広島市中区基町5-1
設計監理　広島県　日建設計
施　工　フジタ・大林組・清水建設・五洋建設・大日本土木・増岡組JV（第1・第2競技場）三菱建設・日産建設・洲治組JV（第3競技場）
敷地面積　436,000㎡（公園面積）
建築面積　10,300㎡
延床面積　50,350㎡
構造規模　SRC、RC、B2、3F
工　期　1990年12月～1993年11月

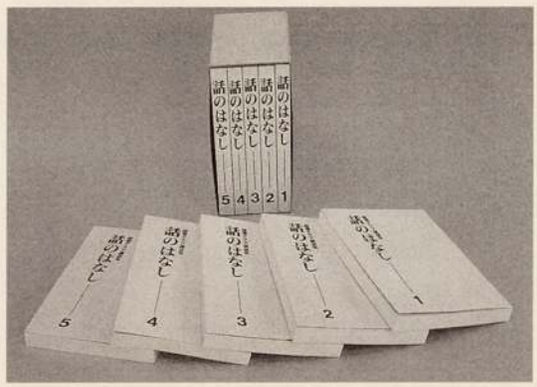


広島市総合屋内プール
（広島ビッグウェーブ）

所在地　広島市東区牛田新町1丁目
設計監理　広島市　日建設計
施　工　（総合屋内プール）イ．フジタ・前田建設・広成建設・正田建設JV
（東区スポーツセンター）ロ．間組・アイサワ工業・上野建設・山陽工業JV
敷地面積　26,000.00㎡（イ・ロ含む）
建築面積　16,530.70㎡（　〃　）
延床面積　27,163.42㎡（　〃　）
構造規模　SRC、RC、一部S、B1、2F
工　期　1987年9月～1989年3月

講演記録集「話のはなし」頒布します!

昭和47年6月に発足した「建築クラブ」（日本建築協会会員有志の集まり）は、毎月1回、大阪市内のリーガグランドホテルに学者やジャーナリストをはじめ政界・経済界・文芸界・スポーツ・芸能界など広い分野から講師をお招きして、お話を聞く朝食会を開いております。
この朝食会も本年4月には第300回の記念すべき朝を迎えました。これを記念して、講演速記録を集約し、「話のはなし」という表題のもと、最終的に118回分を5冊1セット（1冊平均約320ページ）の本に編集いたしました。講話の内容はとても多彩で、「おもしろい話」「貴重なはなし」「裏ばなし」などがいっぱい詰まっています。



B6判　5分冊

建築クラブのご好意により、1セット・10,000円でおわけできることになりました。ご希望のかたは電話またはFAXでお申し込み下さい。

申込先：日本建築協会事務局
TEL06-348-0635
FAX06-348-0634

建替モデル提案作品展

戦前長屋等建替モデル提案募集
入選作品パネル展
主催／大阪市

老朽化した戦前長屋等の民間住宅の建替促進を図るため、昨年度実施された「戦前長屋等建替モデル提案募集」（主催／大阪市、本会協賛）において入選された作品（14点）のパネル展が開催されています。
スケジュールは右記のとおりです。
多数ご参加ください。

開催日スケジュール
9月25日(木)～10月5日(日)
於、長堀ギャラリー
地下鉄心斎橋駅すぐ。（クリスタ長堀「滝の広場」中間階）
10月14日(火)～16日(木)
於、西成区民センター
地下鉄四つ橋線岸里駅②出口東へ50m
10月29日(水)～31日(金)
於、生野区民センター
市バス「生野区役所前」すぐ。
12月1日(月)～1月31日(土)
於、ATCエイジレスセンター
ニュートラム「中ふ頭駅」下車、アジア太平洋トレードセンターITM棟11階
※開催時間はいずれも9:30-17:30まで

アジア建築文化誌研究会 第16回 多民族居住地ペナンの生と死を見つめて

研究会では、1年以上に及ぶフィールド調査をおこなっている研究者を中心に、アジア、住宅、建築に関心を寄せる方がたにご参加いただき、その研究成果を発表、情報交換し、またその情報をひろく発信しアピールすることを目指しています。アジアの多様な住まい、生活慣習、伝統を学び考えることによって、住まいを多角的にとらえる契機になれば、と研究会を公開しています。
お気軽にご参加ください。

日　時　1997年10月18日(土)
17:00—20:00
会　場　学芸ホール
＊学芸出版社3F
発表者　泉田英雄
定　員　30人（申込み先着順）
参加費　500円　＊資料・飲物代
申　込　10月16日(木)までに、FAX、E-mailでお申込み下さい。
①催し名:第16回アジア建築文化誌研究会
②氏名
③職場・学校名
④連絡先：住所、電話・FAX番号をお知らせ願います。
申込先　学芸出版社編集部
（担当：藤谷）
京都市下京区木津屋橋通西洞院東入　〒600
FAX.075-342-2605
TEL.075-342-2600
E-mail:gakugei @ mbox.kyoto-inet.or.jp
主　催　アジア建築文化誌研究会
事務局：学芸出版社
協　賛　ALAP（Archi-Link Asia-Pacific, アジア太平洋建築情報ネットワーク）
後　援　㈳日本建築協会

マラッカ海峡に浮かぶペナン島は、インド洋からやってくる者にとって東南アジア世界への入口にあたる。18世紀後半、すでにマレイ人や華人たちが住んでいたところに、イギリス東インド会社が商館基地を建設した。二百年少しの歴史しかないが、マレイ半島一帯ではマラッカに次いで古い都市である。時代とともに変化しながらも、住民の居住環境は大規模な再開発なしに二百年以上にわたって継続してきた。それが可能になったのは、第二次世界大戦後すぐに制定された賃貸統制法に負うところが大である。
賃貸統制法は、居住地を投機対象から守り、また既存市街地の荒廃を防ぐことを目的にしていたが、80年代の高度経済成長期には見直しが始まり、ついに今年9月1日に廃止されることになった。この法律の廃止はペナンの最大の転機になるはずで、もしかすると「居住地」としては死ぬことになるかもしれない。私は、この居住地を1977年に初めて訪れ、最近5年間は都市史の観点から調査をすすめている。この居住地がどのように形成され、住まわれ、そしてどうなろうとしているのかを報告したい。　（泉田英雄）



100m近い高さのコムタービルから旧市街地を見下ろす



中華街（China Street）の向こうに観音廟が見通せる

泉田英雄（いずみだ　ひでお）
豊橋技術科学大学工学部建設工学系助教授

「建築と社会」誌

特集一覧● 1977~1997

大正6年3月に誕生した日本建築協会（当時・関西建築協会）の、機関誌は大正6年9月に「関西建築協会雑誌」と題して創刊された。大正8年に「日本建築協会雑誌」、さらに1年後には「建築と社会」と改題し、今日に至っている。昭和42年からは体裁をA4変形判に変え、特集と作品作風頁を二本柱に、シリーズものの頁を織り込み、その時々の社会を反映したテーマを選んで掲載してきた。

取り上げてきた特集テーマは下記のとおりで、バックナンバー購入希望は、日本建築協会事務局（TEL 06-348-0635、FAX 06-348-0634）まで。販売価格は1200円（送料・消費税含）。なお、「建築と社会」創刊号～昭和30年12月号まで全87巻の復刻版が、1991年10月から順次発行（不二出版）・配本されているので、詳細は日本建築協会事務局へお問い合わせ願いたい。

号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1977 Vol. 58	●デザインの動向ー部分と全体＊	●兵庫県ーその風土と建築・建築界	●日本建築協会60周年記念号 ●ニュータウンの管理	●コンクリートの品質管理と行政指導の方向	●日影規制と法＊	●身障者施設＊	●照明設備＊	●埋立地における構造問題ー大阪南港と芦屋浜を例として	●日本住宅公団と建築作品	●ミニ乱開発から計画的ミニ開発へ＊	●建築における省エネルギー化	●第24回青年技術者＊
1978 Vol. 59	●デザインの動向ー新旧のコントラスト	●水＊	●医療施設ー病院建築と情報システム	●外壁塗装材料＊	●電波障害と建築＊	●組合方式による集合住宅計画	●住宅設備	●新しい耐震設計	●CAD—設計とコンピュータ	●一般号＊	●第25回青年技術者＊	●ビル環境
1979 Vol. 60	●転換期の再開発＊	●大阪南港ポートタウン	●商業空間	●コンクリートのひびわれ	●日影規制＊	●ホテル建築と情報システム	●農村施設の変貌＊	●建築の終局強度の検討＊	●庄内のまちづくり＊	●80年代のインテリア＊	●第26回青年技術者＊	●建設業の労務事情＊
1980 Vol. 61	●80年代の都市と建築ーまちづくりの歴史と展望＊	●今後の省エネルギーの趨勢 ●建設金物＊	●最近の銀行建築 ●安井建築設計事務所作品集＊	●住宅の耐久性＊	●建築行政と法規＊	●最近の防水工法＊	●都市景観とアメニティ＊	●屋内体育施設の設備＊	●水ぎわのまちづくり	●今後の外装吹付仕上材＊	●第27回青年技術者 ●転機にたつマンション集合住宅＊	●これからの建築設計と新耐震設計法＊
1981 Vol. 62	●職能論＊	●中国の論文ー北京の都市計画＊	●ポートピア'81＊	●台所まわりの計画と設備＊	●シーリング材の知識＊	●災害と法ー安全な環境をめざして＊	●都市住宅ー住まい手からの発想＊	●建築物と風ーデザイナーのために ●日建設計作品集＊	●住宅・都市整備公団ー関西における都市整備を中心とした新公団の役割＊	●間仕切壁の性能評価＊	●第28回青年技術者＊	●障害者の暮らしやすい環境と設備
1982 Vol. 63	●新たな商業空間の展開＊	●省エネルギーと開口部＊	●医療施設ー地域医療と設備計画＊	●近畿の地盤と地質＊	●都市景観ーまちなみ美観への誘い＊	●大阪市庁舎（第一期）＊	●ホール建築と音＊	●大スパン構造＊	●昭和設計作品集＊	●絵本にみるすまいとまちづくり ●オー・エム・ホテル日航ビル	●第29回青年技術者 ●地方の庁舎建築＊	●風土・空気と人間＊
1983 Vol. 64	●関西の建築文化を考える	●マイコンの建築への利用	●多様化する運動施設＊	●建築と品質管理	●計画におけるコミュニケーションとプレゼンテーション	●大阪駅とターミナルビル	●維持管理と設備更新	●東海の将来と文化を考える	●オフィス・インテリアの変革	●プレストレスト・鉄筋・コンクリート構造	●第30回青年技術者 ●大阪城国際文化スポーツホール＊	●集合住宅と生活音
1984 Vol. 65	●21世紀への関西ー魅力あるまちづくりを問う	●関西の超高層ビル	●ビルのリフレッシュー内外装補修技術の現状と発展ー	●建設産業とロボット開発	●住環境と法制度	●まちの活性化と商業空間 ●京都駅南口再開発ビル＊	●消防設備のポイント	●みどりとそれをとりまく人々	●高齢化社会と生活空間	●床の構工法	●第31回青年技術者 ●ディテールの思想	●光応用システムと建築
1985 Vol. 66	●大阪湾物語＊	●東海の現在と近未来	●自由様式への道ー建築家安井武雄 ●建築物の基礎を考える	●情報化をめぐる建築・都市事情	●ホールーそれが生みだす文化ー	●建物の表情ー最近の外壁材料	●大阪国際見本市新会場	●建築と水の演出 ●神戸研究学園都市	●都市と健康・スポーツ	●接合ー人体と建築にみるー ●日建設計作品	●村野藤吾の一断章 ●伊勢湾をめぐる東海	●第32回青年技術者
1986 Vol. 67	●これからの住空間ー都市型集合住宅にみる	●屋根ーそのデザインと素材	●現代デザインーポストモダニズム10年 ●これからの防水工法	●インテリジェントビルの建築・設備計画	●自治体営繕と公共建築	●建築防災と法 ●大阪市庁舎（第2期）	●21世紀の住宅と設備	●開発ーその創造的仕掛けの鍵をもとめてー ●ツイン21	●CAD—その応用と展開	●オフィス空間の構成	●第33回青年技術者	●インテリア・イクステンションとリニューアル
1987 Vol. 68	●入浴物語	●腐食	●創立70周年記念号	●躍動する東海へ	●貯蔵・保管施設 ●大阪府立体育会館	●室内の仕上床	●駅	●行政建築家の可能性	●シティホテルの設備	●宝塚の街づくり	●建物と町並みの接点 ●昭和設計作品集	●第34回青年技術者
1988 Vol. 69	●ホテル物語	●軟弱地盤と基礎 ●文化と伝統ー東海からの報告	●設備におけるLCCとリフレッシュ ●東畑建築事務所作品集	●建物の外装リフレッシュ＊	●都心居住	●中国地方の展望とひろしまのまちなみ	●21世紀への照明	●制振	●超高層住宅を考える	●集合住宅のリフレッシュ＊ ●大阪府営繕	●第35回青年技術者 ●800号記念＊	●讀賣テレビ
1989 Vol. 70	●夢をのせる輸送設備	●リゾート事情 ●竹中工務店創立90周年記念	●色の復権 ●東海の新建築と伝統技術＊	●省力化のための材料・工法	●まちづくりと法	●博覧会とまちづくり	●都市環境創造と設備Ⅰ	●建築とアート	●構造の省力化 ●鹿島建設大阪支店建築設計部作品集	●都市環境創造と設備Ⅱ ●ユーザー参加のハウジング	●第36回青年技術者	●最近の博覧会パビリオン
1990 Vol. 71	●商品化住宅のデザイン＊	●ニュータウン・ルネサンス	●東海の都市景観 ●佐賀市文化会館	●スケール感	●プレハブ住宅技術の現在と未来	●国際花と緑の博覧会	●建築家のための設備知識ー中規模オフィスビルによるケーススタディー	●高強度化ー設計の多様化をめざしてー＊	●やわらかな住宅管理・ユーザーの役割	●都市のナイス・プレイス ●兵庫県営繕の歩み	●第37回青年技術者 ●和歌山県の展望と景観＊	●高級感ー建物の顔；感性の時代を迎えての外装材
1991 Vol. 72	●新しい都市空間づくりーⅠー	●オフィス・プレジャー ●新しい都市空間づくりーⅡー ●建築の風景	●東海支部復活30周年記念	●大阪東京海上ビルディング	●今、京都 ●建築家のための設備知識ー集合高層住宅の設備システムー	●建築と土木 ●毎日放送本社ビル ●近畿地方建設局営繕部	●一般号	●建築をめぐるトラブルとその解決 ●建設現場のイメージアップ作戦	●空間のアイデンティティ ●きんでん写真集 ●大建設計40周年	●自治体住宅政策への提言 ●大林組創業100年記念	●建築と土木ー構造技術の世界ー ●第38回青年技術者	●スリムでタフなコンクリート ●21世紀の住まいを考えるシンポジウム
1992 Vol. 73	●夢物語ー人がかわる、まちがかわるー	●こだわりのインテリア ●近畿の郵政建築15年の歩み	●建築とデザインー東海支部ー	●建築家のための設備知識ー集合高層住宅の設備システムー	●地球環境時代の建築	●街創り、住まい創りー住宅・都市整備公団関西支社10周年ー	●木構造を使ってみませんかー集成材による構造ー	●接着ー建築分野への限りなき可能性	●中国地方の町並みと建築家の「語り、夢、作品」	●屋台ー仮設の魅力に学ぶー ●ハウジングのメインストリームを探る	●いま建築教育に何が期待されているか	●京のかたちと色
1993 Vol. 74	●第39回青年技術者 ●東畑建築事務所創立60周年記念作品集	●大阪府営繕	●東海の美術館・博物館	●市民劇場の舞台設備	●環境ー限りある自然と建築とのかかわり	●都市のスカイライン	●映画の中のインテリア ●けいはんなプラザ・住友ホール	●建築の再生ー構造技術の役割ー ●大阪市営繕	●国際的パートナーシップの可能性	●福祉のまちづくり	●都市型住宅再考	●第40回青年技術者 ●環境ー人にやさしい空間創造をめざして
1994 Vol. 75	●コピー文化の新時代 ●広島の街創りアジア競技大会	●九州のインスタレーションと観	●伊勢・神宮式年遷宮と神宮界隈	●建築のエネルギーシステム	●明日に向かってー会員作品	●いま、医療施設は	●住空間における居どころへの視点	●まちなかの看板 ●竹中工務店の集合住宅	●水と建築 ●日本建築総合試験所	●建築設備のCGシミュレーション ●村野、森建築事務所	●構造美ー建築の中の美 ●集合住宅団地リニューアル	●第41回青年技術者 ●関西国際空港
1995 Vol. 76	●光がつくる風合の世界＊	●音ー騒音から操音／創音へ	●飛騨・美濃ーまちの活性化と地方文化	●トイレから見た都市文化	●トイレ空間	●接合 ●コスモタワー	●ユニバーサルデザインとは	●私の空間作法ー会員作品	●新しい「都市・建築」の視点	●建築構造と社会の接点 ●日建設計	●ライフラインと建築設備	●第42回青年技術者 ●滋賀県建築課
1996 Vol. 77	●阪神大震災から学ぶ＊	●大阪府住宅供給公社創立30周年記念	●遠江ーその地域振興と文化	●立体駐車場設備 ●大建設計	●災害！非常時に生きる法体系 ●OAPタワーズ	●いま、プールがおもしろい	●住まいの未来像	●マルチメディアがつくる世界	●キーコンセプトの新時代	●最新の大規模スポーツ競技施設の設備	●私の空間作法'96 ●九州の元気 ●りんくうの3作品	●第43回青年技術者 ●近畿地建営繕部
1997 Vol. 78	●建築のロングライフ化をめざして＊	●鉄ものがたり＊	●東海ー風土・文化とまちなみ、建築	●創立80周年記念ー建築と私と社会ー	●木造建築物の伝統技術とその将来	●住む空間の復興ー法・制度の通用と新たな展開へー ●住都公団関西支社	●素材の不思議 ●大阪ドーム	●新エネルギー ●住宅・都市整備公団改革への提言	●クロスワード都市OSAKA	●モザイク都市のひとかたち ●昭和設計40周年	●私の空間作法（予定）	●第44回青年技術者（予定） ●京都駅ビル（予定）

＊は次号

今月の表紙

神戸ファッションプラザ（六甲アイランド）
撮影　松村芳治
表紙デザイン　安里俊久

■特集予告

11月号／私の空間作法
12月号／第44回青年技術者
京都駅ビル
1月号／新しいまちづくりの予感
東畑建築事務所創立65
周年記念

編集委員会（平成９年度）

■副会長　田ノ畑好幸
金多　潔　西岡　道雄
葉貴　公明　野口　太郎
■編集理事　堀内　一夫
荒巻　恭士　※桝井　貴廣
井上　豊　水谷　昇
小島　雄　村上幸三郎
竹中　統一　山根　敏和
立野　一郎　横平　光伸
真塚　達夫　★施工材料分科会
松村　慶三　植田　実
溝神宏至朗　岡崎　康夫
山田　修　小椎八重猛
◎與謝野　久　太刀川丈爾
■編集委員　※十倉　毅
★計画分科会　福井　茂和
☆計画系　米澤　秀暢
伊継　憲幸　★法令分科会
梅村　宏尚　入江田吉仁
※小浦　久子　江山　雅己
鈴木　克彦　※城戸　史郎
田中　直人　炭崎　勉
松川　敏正　中村　正昭
横関　真紀　浜野　幸雄
吉村　英祐　■作品作風小委員会
☆建築計画系　赤木　隆
磯村千恵子　秋山　克彦
上杉　秀隆　秋山　茂
江副　敏史　朝倉　一晃
荻窪　伸彦　小笠原絵理
菅野　忠司　川上比奈子
笹村　欽也　倉渕奈千子
佐藤不二男　杉原　繁
※塚本　史郎　富田　昌義
根木　睦二　中村　文紀
刃金　国雄　藤城　義丈
山本　匡　前川　治彦
☆インテリア・住宅系　前田　幸宏
石川　佳子　増田　敬彦
加藤　力　増田　俊哉
角方　利幸　◎宮地雄一郎
北浦かほる　■会員企画小委員会
小梶　吉隆　伊藤　郁郎
小島　保人　池田　聡実
下村　陽子　◎稲木　裕子
中村　孝之　椰谷由紀子
中村　雅人　谷　浩史
※畑　康之　佐野　洋
西田　和子　高岡　伸一
渡邊　秀俊　高田　光雄
★構造分科会　高橋　麗子
大氏　正嗣　塚口　明洋
岸本　一蔵　東宮年一郎
岸本　圭暁　長友理津子
楠本　隆　増渕　昌利
下野　直人　山寄　章子
鈴木　勝博　■広告企画小委員会
田中　剛　池渕　俊男
※田辺　太一　岩井　武夫
野口　拓也　◎小幡　義明
松村　和夫　加納伸太郎
古澤　幹夫　勝　一弘
★設備分科会　河原　正雄
梶井　宏修　長野　洋一
河津　隆之　山下　修司

◎委員長　○副委員長　※幹事

印　刷　平成９年９月25日
発　行　平成９年10月１日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
大阪市北区梅田1-1-3-2100
電　06-348-0635
振替口座　00910-9-39975
印刷所　青葉印刷株式会社
日本電植株式会社
定　価　1200円〔本体価格1143円〕

建築と社会10 1997

ARCHITECTURE AND SOCIETY
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

1917年創刊　第78集／通巻907号

CONTENTS

特集● モザイク都市の住むかたち

［点描］ モザイク都市の現象●伊継憲幸・梅村宏尚・小浦久子・鈴木克彦・田中直人・横関真紀・吉村英祐・増田栄一郎 18
［総論］ 都市論としての＜モザイク都市＞●田端　修 22
［モザイク都市をつくる「まち」］ 平野郷～自治精神を受け継ぐ町づくり～●川口良仁 26
都心の「まち」●高口恭行 28
六甲アイランドCITYの街づくり●山本　茂 30
［「まち」に蓄積された住むかたち］ 伝統的都心に暮らす●吉村篤一 33
平面的モザイクから立体的モザイクまで●中田　誠 36
混在地における住工共生のデザイン●北條蓮英 39
増殖する生活の場●遠藤剛生 42
［住むかたち・まちの色合い］ モザイク都市の図像の彩り●小浦久子 46

特集● 昭和設計40周年記念

［作品］ □建築計画系 神戸ファッションプラザ／文化パルク城陽／（仮称）高知市民総合文化プラザ 70
京都市女性総合センター「ウィングス京都」・中京青年の家／青木・平通両画伯記念館「ミューゼ・レスポアール」
熊取町立総合体育館「ひまわりドーム」／大阪府立門真スポーツセンター「なみはやドーム」／長居陸上競技場
島本町ふれあいセンター／三田市総合福祉保健センター／東京都高齢者福祉・医療の複合施設基本計画
宝塚市立病院・宝塚市立看護専門学校・宝塚市立老人保健施設「ステップハウス宝塚」
姫路赤十字病院／城東やすらぎセンター（十全病院・医王ヶ丘病院・老人保健施設「ピカソ」）
六甲アイランドシティイーストコート9番街・特別養護老人ホーム「協同の苑六甲アイランド」
兵庫県警察本部庁舎／春日町庁舎／（仮称）ホワイトドームプラザ／ホテルノルド小樽／ジャンボオーナーズ淡路島／A・SQUARE
森長組神戸支店／SŌRA新大阪21／運輸省海技大学校本館／神戸市立中央小学校／エスタシオン・デ・神戸
□環境計画系 UNEP国際環境技術センター／神戸市立西神斎場／小野加東新斎場 110
奥平野浄水場管理事務所・工事事務所／豊中市・伊丹市クリーンランド余熱利用施設「クリーンスポーツランド」
堺市クリーンセンター東工場 第二清掃工場・管理棟／神戸市垂水海浜センター「平磯芝生広場」
明石市大久保浄化センター／神戸市西部処理場消化タンク／西宮市甲子園浜浄化センター
和田山町和田山浄化センター／七尾市西部水質管理センター／東和町東和片添浄化センター／大阪市下水道科学館
□都市計画系 宝塚駅前（花のみち周辺）地区第二種市街地再開発事業 124
阿倍野A1-1棟（阿倍野A1地区第二種市街地再開発事業施設建築物）
ピフレSHIN-NAGATA（新長田駅前地区第一種市街地再開発事業施設建築物）
ポルタス堺（堺駅西口地区第一種市街地再開発事業施設建築物）／新金岡地区再整備計画（再開発地区計画）
てんきてんき村まちおこし計画／岡山県大原町まちづくり計画／東大阪新都心整備推進調査
□総合技術系 進歩する技術／建築設備と環境共生／阪神・淡路大震災に学ぶ 134
［寄稿］ 昭和設計にかける期待●川口　衛 108
昭和設計創立40周年によせて●石井幹子 109
一層の創造的発信を期待する●栗原嘉一郎 133
21世紀に向けて●堯天義久 140
［ディテール］ 主要ディテール写真集 141
［年表］ 昭和設計の40年 145

会告 近代建築見学会（6）日本銀行大阪支店．話題建築を聞く（25）大阪ドーム一寺本敏則氏に聞く． 1
安芸の宮島と美術館・スポーツ施設を訪ねて．講演記録集「話のはなし」頒布します!．建替モデル
提案作品展．アジア文化誌研究会（16）多民族居住地ペナンの生と死を見つめて

作品作風 大阪歯科大学天満橋附属病院 6
ローレルスクエア登美ヶ丘第１期
坂出カトリック教会

gallery TS-1（金　澤富）●川上比奈子 14

建築の眼 福祉先進国と開発途上国●田中直人　Small Towm Life in Big City●岩本康男 16
お年寄りと建築空間●篠原佳則　気になる樹●柿本正和

Sketch Book 最近竣工した新建築作品８点 48

W 座談会ー建築教育に携わる女性たち 50

法令コーナー 耐震仕様と評価委員会ー大阪府と兵庫県ー●澤田範夫・城戸史郎 52

設備の頁 扇町キッズパークー蓄熱空調とコジェネの導入ー●小林陽ー 54

構造の頁 RC造非構造壁の地震被害に学ぶ●益尾　潔 56

施工材料の頁 複層ガラスー低放射複層ガラス●福永充保 57

基礎講座A 実例その４・結婚式のスピーチ●山田　修 58

基礎講座B 空気調和設備の概念●出崎　進 59

REPORT 煉化石あらかると●橋本秀夫 60

GBRCニュース 平成８年度の工事用材料受託試験に関する調査ー骨材の品質試験 62

書評 「建築とつきあう」（横山誠一　著）●加藤　力 63

新建材の頁 ダイライト●猪野達雄 64

information 建築学会近畿支部50周年記念行事．住宅情報誌「カーサー・ウエスト」創刊．ODPデザイン 66
セミナー．近代建築講演会．建築Next Phase研究会．第17回現代日本彫刻展．「環境・省エ
ネルギー建築賞」募集．「住まいとコミュニティづくり活動助成」及び「若手デザイナー助成」
公募．「ベルリン・ポツダム広場ー都市の一角の実験」展．「風呂とSAUNAー沐浴の原点と
未来」展．関西四大学合同建築展．昭和設計本社移転

月間の動き 平成9年7月分 68


大阪歯科大学
附属病院
OSAKA DENTAL
UNIVERSITY
テレビ大阪

作品

設計監理■
日建設計

施工■
鹿島建設

大阪歯科大学天満橋附属病院

昭和10年この地に附属病院が建設されて以来、都市型キャンパスとしての施設整備を図るため、逐次増築・改修が繰り返されてきたが、教育・研究環境の更なる充実にとっては、施設の狭隘化・老朽化が著しく、新病院の建設並びにキャンパスの再整備が企画されることとなった。

天満橋校地を地域歯科医療と臨床教育の場として位置づけ、楠葉キャンパスと機能分担をしつつも有機的な連携を図り、21世紀における歯科医療の教育・研究ならびに地域歯科医療の高度化を目指すこととした。

土佐堀通りに面した旧病院の一部を撤去し、その跡地に新病院を計画し、約1,300㎡の限られた敷地の中で中央検査・外来診療部門の充実を図るべく14階建の高層建築とし、既存棟2棟を全面的に改修する3棟による全体構成とした。

21世紀に相応しい病院づくりの観点から、豊かなアメニティの追求に心掛け、緊張感をほぐし、ぬくもりを感じさせるデザインを建物の外観からインテリアに至るまで徹底させた。特に外来診療部門では、診療室の診療チェアーをローパーティションによってブース化した大部屋オープンプランニングとし、患者と医師のオープンコミュニケーションに配慮している。また診療室の照明は、光源が患者の目に直接入らない間接照明を主体とし、ソフトな室内環境を実現している。

情報化計画にあたっては、病院内のみならず、楠葉キャンパスとも連携した最先端のシステム構築を図り、迅速で的確な医療の提供のみならず、各種の医療業務の効率化を図ることによって、患者に対する直接のサービスを向上させることを目指している。

新病院は、大阪の都心に位置しつつも周辺環境に極めて恵まれた天満橋の地の新しい都市景観をつくり出している。都心に位置する大学附属病院が少なくなる中で、地域歯科医療のシンボル的建築となることを願ってやまない。　（川島克也／日建設計）

電気設備工事：きんでん
空調衛生設備工事：大気社
昇降機設備工事：日立製作所

所 在 地 ——大阪市中央区大手前1-3-39
敷地面積 —— 5,729.79㎡
建築面積 —— 1,027.12㎡
延床面積 ——17,152.54㎡
構造規模 ——SRC、RC、S、B3F、14F、P2
工　　期 ——1995年１月～1997年２月
最 寄 駅 ——地下鉄谷町線、京阪本線・天満橋駅
撮　　影 ——東出清彦、伸和（※印）


東面外観見上げ


北面エントランス廻り※


エントランスホール

▼2階中央待合ホール※



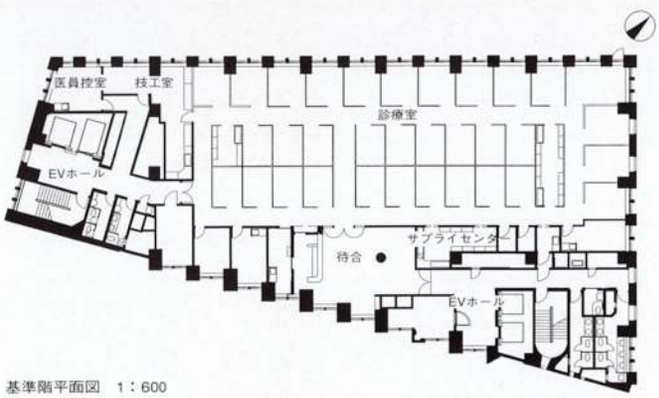
総合診療室



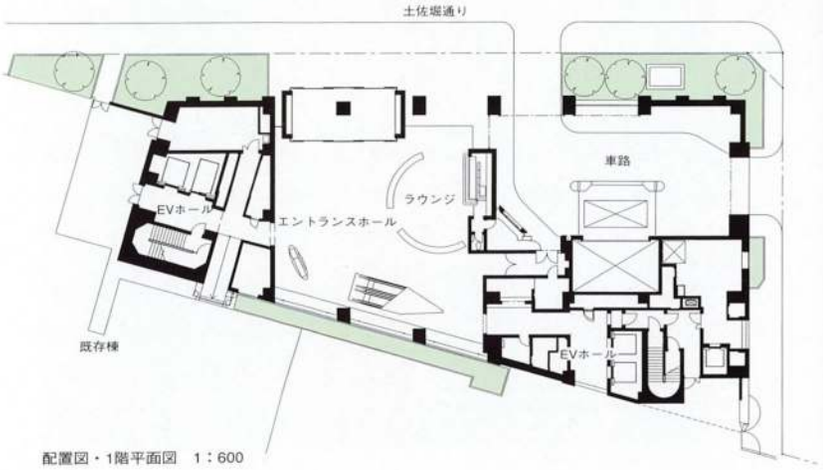
小児歯科診療室※


特別病室※

食堂※



基準階平面図　1：600



配置図・1階平面図　1：600

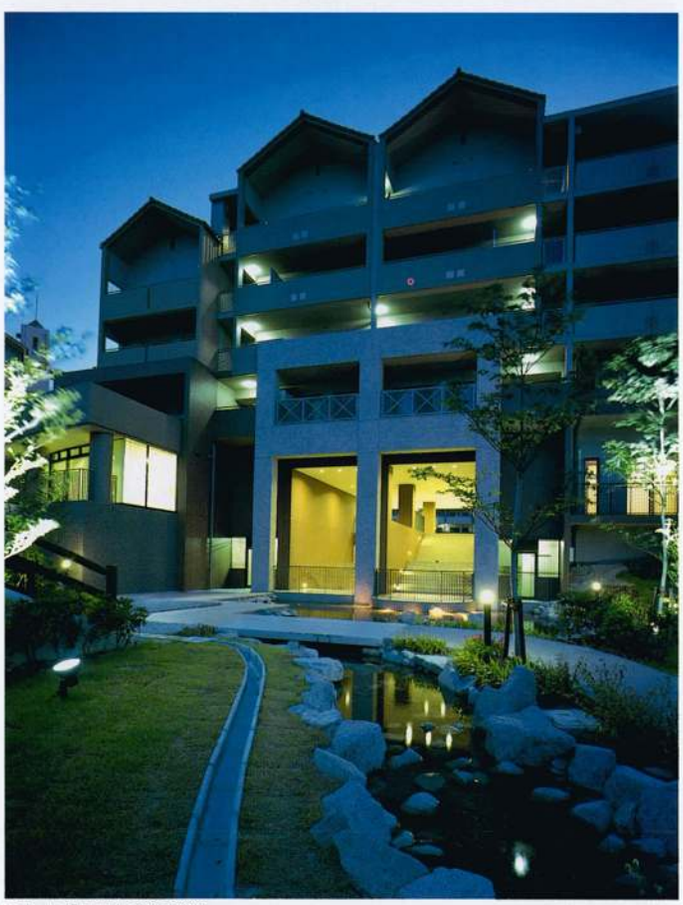


特別室

南からの全景



田園環境側からの景観



「街」と「田園」の接点部分

作品
作風

設計監理■
大林組

施工■
大林組・森本組・西松建設・モリタ建設共同企業体
大日本土木・奥村組・三和建設共同企業体
熊谷組・フジタ・不動建設共同企業体

ローレルスクエア登美ヶ丘第1期

敷地は、近鉄奈良線「学園前」駅から北へ約2.5kmの、自然環境に恵まれた郊外に位置する。約34haの大規模な開発の住宅ゾーン第1期として、「ローレルスクエア登美ヶ丘」がこの程竣工した。計画にあたっては、高質な「都市性」と雄大な「自然性」を併せ持つ環境づくりを開発コンセプトとし、“新しく快適な住文化の形成”を目標にプロジェクトを展開した。

街の骨格を形成する2つの環境軸（「街環境」…2列配置の住棟で構成する都市的な人のふれあいや街並みが楽しめる道と広場、「田園環境」…中央の緑豊かで広大なオープンスペース）を設定し、独自のデザイン展開をはかった。住宅の性能を考慮しながら、建物の高さやストリートの幅、軸線に変化を付け、空間のシークエンスを考慮したボリューム配分に重点を置いた。建物ファサードは基壇部、中層部、頂部にブレイクダウンし、ランドスケープと一体となったヒューマンスケールで、「個」の表出する集落的様相を意識させる街並みを形成した。

さらに、「街環境」にコミュニティの表出する仕掛け創り、多様なライフスタイルに応える住戸バリエーションと、高度な生活サービスシステム・維持管理システムなど、21世紀の高水準で良質な住宅のストックを目指した。

これから時とともに成長する街、住む人の生活感覚が醸成される良い街になっていくことを期待したい。

（伊藤武夫・藤岡慶子・岩垂誠／大林組）



配置図　1：4000

所 在 地 ——奈良市中登美ヶ丘4丁目1番
敷地面積 ——31,696.92㎡
建築面積 —— 8,400.55㎡
延床面積 ——46,802.15㎡
構造規模 ——RC、B1F、6F（10棟、367戸）
工　　期 ——1995年９月～1997年８月
最 寄 駅 ——近鉄奈良線・学園前駅
撮　　影 ——島　修一


「街環境」


対称なファサード構成

▼スリットから見える建物



東面外観



正面入口



多目的室入口

作品風作

設計監理■
竹中工務店

施工■
竹中工務店

坂出カトリック教会

古くは屋島と塩田で知られ、現在は瀬戸大橋の南詰め、四国の玄関口である坂出の地に、地域に密着したコミュニティ教会として計画した。

「祈りの場」として150人収容の礼拝堂と30人程度の小聖堂、納骨堂、「交流の場」として大小の多目的室とミーティングルーム、厨房等、そして司祭館からなるカトリックの教会堂である。

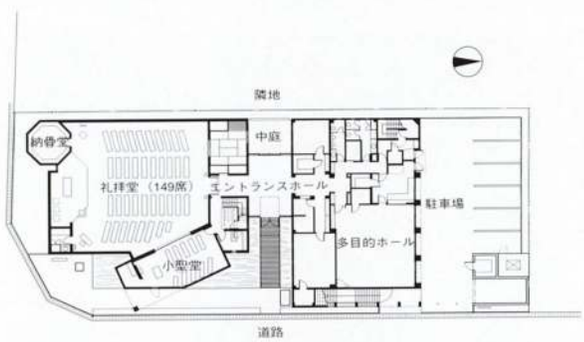
「品位ある簡素」をテーマとし、知的な真理観想の透明さを醸し出す建物となることを目指した。

建物は都市計画道路に接する東側に正面性をもち、新しい街路に緑と、よどみの空間を提供している。

外観は力強く素材感のあるテクスチャーとして、コンクリート打放し仕上げを用い、教会建築としての存在感を示し、街並みから特化したデザインとしている。

アプローチには結界を意識した、水盤と木製のブリッジを配しており、神聖な空間である礼拝堂へと導いている。

堂内は重厚なコンクリートの壁で囲まれ、外部の喧燥から切り離されている。光だけが上から差し込む空間は、祈りの場、瞑想の場としての荘厳さを演出している。十字架、祭壇等儀式や典礼に沿った事物のデザインは、長い歴史の中で完成されたスタイルを踏襲しつつ、より真にふさわしく、美しく、天上の事柄のしるしでありシンボルとなるように計画している。（小谷美知夫・榎本弘美／竹中工務店）

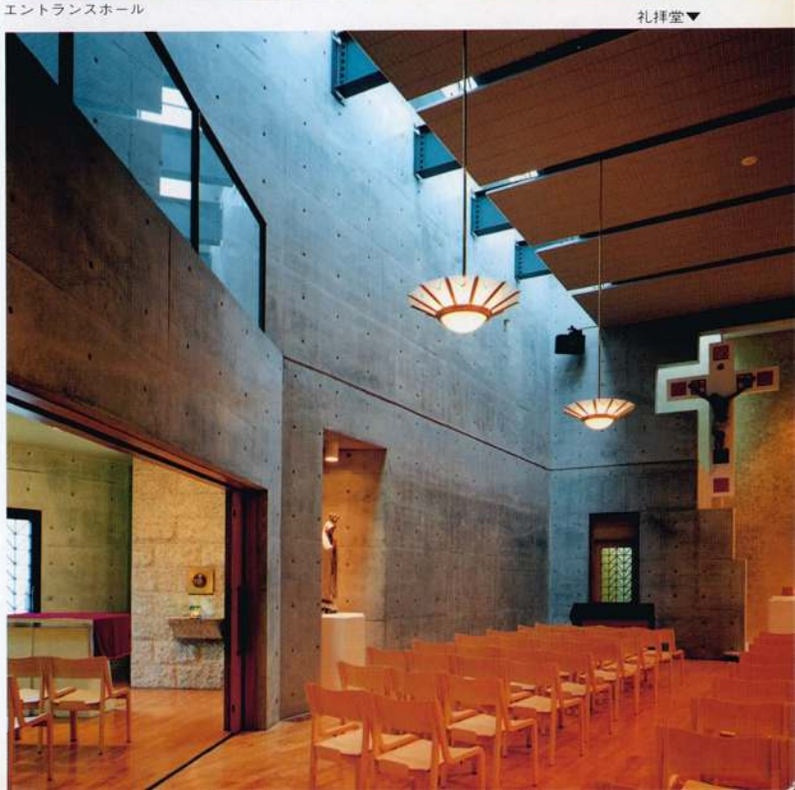


配置図・1階平面図　1：800

所 在 地 ——香川県坂出市谷町1丁目3-24
敷地面積 ——1,165.83㎡
建築面積 ——　672.08㎡
延床面積 ——　981.28㎡
構造規模 ——RC、3F
工　　期 ——1996年10月～1997年６月
最 寄 駅 ——JR予讃線・坂出駅
撮　　影 ——日本アートグラフィック


南面外観


エントランスホール


礼拝堂▼

gallery

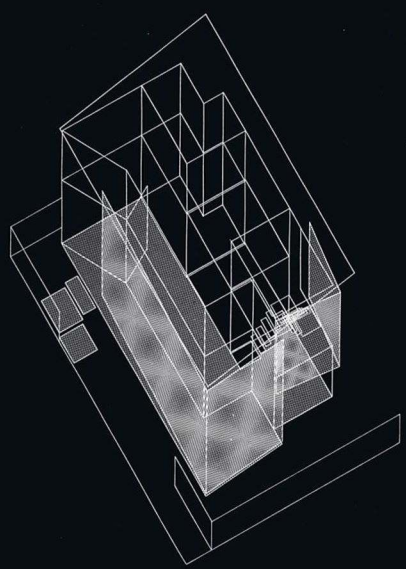
TS−1

設計
金 澤富/AMR studio



見つめること、
触れること、
交わること。
扉を開け放つこと、
旅に出ること、
書物を開くこと、
コンピューターをクリックすること。
中心から周縁へ、
排除から内包へ、
こちら側からあちら側へ。
関係や場所の様々な越境行為が、その目的意識を越え、より詩的で偶発的な冒険のようなものになればおもしろい。

金 澤富（きむ たくふ）
1964 大阪府生まれ
1987 京都工芸繊維大学卒業
1989 内海設計室
1995 AMR studio設立



撮　影—福澤昭嘉
企　画—川上比奈子（作品作風小委員会）







ARCHITECT's EYE

福祉先進国と開発途上国

田中　直人

デンマークやスウェーデン等の北欧の諸国は福祉の先進国として、数多くの国々のモデルとなっている。わが国では、21世紀の超高齢社会の到来をひかえて、国はもとより地方自治体においても、「福祉」が重要政策課題となり、都市地域計画や住宅や施設の整備に関して、さまざまな計画の策定や事業の実施が進められようとしている。いきおい先進自治体や地域への関係者の視察や福祉施策に関する研究会やシンポジュウム等の開催が盛んである。最近、デンマークを訪れた時に関係者の方から、年間何千人という視察の方を相手にしているという話を聞いた。まずは福祉の先進国の状況を勉強しようとする熱心な日本の視察団が「高齢者福祉施設は、」「コレクティブハウジングは」どうなっているかと押しかけている。視察される施設の高齢者の中には、生活に変調をきたす人も出ているそうである。福祉の開発途上国は先進国に学ばなければならないが、ここまで熱心に押しかける必要があるのか不思議である。福祉施策はその国や地域の長年に渡る伝統や風土に根ざしていることも多く、一見は百聞にしかずというものの、インスタントのコピーではすまされない。これからは、日本版の福祉のモデルを構築し、新たな福祉先進国をめざすべきである。

摂南大学工学部建築学科教授

Small Town Life in Big City

岩本　康男

日本は最も祝日の多い国だそうだが、特に秋に多く、週休3日の週がかなりある。4日働いて、3日休むというパターンは、これまでのように大阪で働いて、飲んで騒いで、疲れきって、家ではひたすら身体を休めるだけという生活では、なりたたなくなってきた。それが郊外化に拍車をかけるのか、逆に都心居住の良さが見直されることになるのか、住まい方によって異なってくると思われる。我々もそれを発言できるチャンスがきた。

大都市に住まうことの魅力は個性的で、文化的でもあり妖しげなところもある、そういう場と時間の自由さが得られるところにある。住むという健康的なことをストイックに追求するだけでなく、ビジターと共存できる楽しさ、危ういバランスがあってこそ、居住地での生活をエンジョイできる。

緑やゆとりの空間についても、大公園での憩いと同時に、路地などの盆栽や鉢植えの草花を見ると生活をしている人の豊かさを感じる。店のインテリアやちょっとした生け花でも良い。

そういえばガーデニングがブームだ。震災後、近所でも増えたのは園芸店だ。若い女性の姿もずいぶん目立つ。植物のある生活が定着してきたのだろう。ペットでも、たまごっちでもガーデニングでも生き物を育てることはよいことだ。彼女たちの興味が枯山水に移らないように祈りたい。

大阪市計画調整局計画部長

お年寄りと建築空間

篠原　佳則

学生の時、中間施設である老人保健施設が話題になっていた。研究室が病院計画の研究をしていたこともあり、24時間生活施設の一例としてあちこちの老人ホームを調査をした。

エントランスがこぎれいで、家族の人に精神的苦痛を与えない計画が多かった。実際の生活の場である居住棟にはいると、「この世界に入ってしまったらもう抜け出せないのではないのか。」と感じるものがあった。ある老人ホームではきちんとした服を着て、しっかりと生活しているように見えた入居間もないおばあちゃんがいた。一年後には別人と思えるほど他の人と同じモノトーンの世界に入っていた。施設の人は人手の少なさを嘆き、大きな不満を持って仕事をしているように見えた。

ところが、立派な玄関はなくすぐに居住棟に入れるようなとある老人ホームでは、お年寄りのペースに合わせて入浴を行い、食事をしていた。職員の走る音でなくところどころから会話が聞かれ、職員も一緒になって遊んでいるかのように見えた。

この違いは何か。必要なサービスが受けられるならば、お年寄りは施設でなく家で生活するであろう。管理し介護するのではなく、互いに楽しく暮らそうという発想が、リラックスして生活ができる建築空間を産むのではないかと思う。

安井建築設計事務所名古屋事務所

気になる樹

柿本　正和

最近はどこの市でも景観整備の一環として緑化への取組み、推進がなされつつある。庭いじりは老人のすることと思っていた私も、狭い乍らも庭付の家に引っ越してからというもの、休日には庭いじりをする様になった。一年を通じて緑をながめていると、育てるまた育っていくことに対する楽しみがあり、球根から花が咲くことに不思議さを感じ、また樹木の葉がそよぐのを見て風を感じ何故か気持ちが和んでくる。

テレビのコマーシャルではないが我が家の近くに「気になる樹」がある、否あった。樹高20mにもなる「桐」の大木で、主である民家の屋根を守るがごとく力強く雄大に広がった枝張は市からも「保存樹」に指定された、まさに近所のシンボルツリーであった。通勤の際、落葉した樹形越しに見る「朝日」や「月」の風景にはいつも感動させられた。ところが残念なことに、今年の初め都計道路の収用に当り道路の中央部になるという事で民家と共に撤去、伐採されてしまった。あっけない幕切れである。伐採後見に行くと親、子、孫の株の切口が痛々しく感じられ、なんとも悲しいものであった。最近ネットフェンスに囲まれた道路用地の中の切株から、力強く新しい枝が育っているのを見ていると、いづれ真直ぐに伸びるであろう道路が何ともうらめしく思えてくる。

㈱錢高組大阪本社設計部副部長

建築の眼

特集

モザイク都市の住むかたち

モザイクは一つひとつの細片が組み合わさって豊かな図像を表現する。
現在の都市は、様々な住まいのかたちが渾然一体となっている。かつては、まちなかの町家のまちなみ、工場と長屋のまち、郊外住宅地など、住むかたちが、あるまとまりのあるまちの姿となって見えていた。戦後のスプロールと市街地の個別的更新が進んだ結果、様々な住まい方が折り重なり、一つひとつのかたち（細片）は美しくなっていったが、図像が見えないモザイク都市。
もう一度、一つひとつの住むかたちを見直すことによって、
住む環境の彩りのわかるまちの姿のあり方を考える。



大阪市建物用途別土地利用現況図（1992）―大阪市作成―

本号特集幹事
伊縫憲幸／梅村宏尚／小浦久子／鈴木克彦／田中直人／横関真紀／吉村英祐

点描

モザイク都市の現象

時間の蓄積

住み続ける力が、新しい変化の動きより強いとき等、あたかも取り残されたかのように、旧いかたちと新しいかたちが共存する。



観光開発が進む一角に取り残された古家。おしゃれな近代的ビルが建ち並ぶ街並みに、何か強烈な存在感が……。



開発が進む都心も、表通りを一歩入れば、昔ながらのたたずまいがチラホラ。“美髪館”と名付けられた店名と窓格子が印象的。



開発に取り残された建物の屋上に育った木々は、たまたま自然発生した環境共生型建築です。



後悔空・地





オフィス街に取り残された路地。オフィスが建ち並ぶ裏側を覗くと、駐車場化した広大な空き地と古びた住宅群が、都心のあちこちに点在している。



地上げの夢の跡。バブル景気の頃、梅田に至近の住宅地・茶屋町にも地上げ攻勢が。今は波板の囲いだけが残るが、計画は静かに進行する。(大阪市北区)



ビルに囲まれた都心で営む自転車屋。“リサイクル　ゴミの山からたからもの”と書かれた立て看板が何かを訴えかけているよう。



フェスティバルゲートという異空間が西隣に出現し、ジャンジャン横町も改修中。あまりきれいにならないでほしいというのは、よそ者の勝手か。(大阪市浪速区)



この一画には数十軒の元遊郭が多数軒を並べ、未だに妖しい雰囲気が伝わってくる。元遊郭の雄「鯛よし百番」内部の桃山調装飾は、一見の価値あり。(大阪市西成区)

図象の見えないモザイク都市。このような都市のなかを歩いていると、ときどき取り残された古いモザイクの細片がきらりと光る。ビル群に囲まれた古い立派な町家、中高層住宅と共存する旧集落……。

その時々の市街地の都市活動の必要に応じて、都市はその中に、多様なまちを形成してきた。それは、都心のまわりに広がっていくとともに、古いまちに折り重なるように、新しいまちをつくっていった。その結果、現れてきた現象を、①時間の蓄積、②生活の混在、③かたちの対比、の3つの視点から拾ってみた。



中世の環濠集落・平野郷は、昭和30年代までは周りに田んぼが広がっていたが、今はスプロールに埋もれ、周囲には高層マンションが林立する。（大阪市平野区）



区画整理地区（長吉瓜破地区）内に取り残された旧集落。折れ曲がり、T字路、辻堂が生きている。



日本橋の電気街を東に入った一角に残る、RC3階建ての大阪市営南日東住宅。戦災を生き延び、路地には昭和30年代以前の雰囲気が残る不思議な空間。（大阪市浪速区）

生活の混在

様々な都市活動は、建物のタイプの構成を通して、まちの姿に反映されるだけでなく、祭りや場所の使い方にも現れてくる。



マンション化の波―工場からマンションへの転換の波が背後に迫る。土地利用の転換は、時代の趨勢とともに？



大川沿岸の都島は明治・大正期の工場地帯。低層併用住宅群と隣り合わせに大規模住宅開発が進む。

阪神大震災による被災者の応急仮設住宅が、六甲アイランドにもある。過密な平屋の長屋群の背景には未来都市のスカイラインがある。この団地には、真夏の太陽がやけに熱く静かに感じられる路地と、植木鉢や洗濯物を並べ生活感がいっぱいの路地が交錯していた。「今日はお父さんと灘の水道筋でご飯食べて来てん」という障害者向け住宅の前であった老婦人の言葉から、やっぱり昔からの住み慣れた下町のコミュニティに今も心を休める人がいることを感じた。





生活の
混在

様々な都市活動は、建物のタイプの構成を通して、まちの姿に反映されるだけでなく、祭りや場所の使い方にも現れてくる。



アーケードのルーツ？
山王町の一角に、道の上に幕が張られた商店街がある。似たような風景は、広島の宮島やセヴィリア（スペイン）にも見られる。（大阪市西成区）



谷町9丁目交差点の北西側に、谷町筋に沿って帯状に広がる墓地群。空前のバブル景気も、墓地はアンタッチャブルであった。（大阪市天王寺区）



上町台地の西斜面に広がる都心の住商混在地。8月の地蔵盆が都市に季節を告げる。



数寄間建築



予期せぬ隣人―バルコニーの眼前に出現したビルの壁面。住人は、この事態を想像していたのだろうか。



◀格子戸を開ければ、そこはF.ヘルス。京都では、お茶屋が風俗産業に改装されるケースが目立っているが、ついに祇園にも進出。



LOVEホテルに取り囲まれた住宅。うっかりすると、入り口を間違えそう。▶



住宅街に建ち並ぶLOVEホテル。日本の貧困な住宅事情の反映か？御屋敷の所有権が代替わりしてしまったせいか？



◀LOVEホテルと産婦人科とお寺が隣接した都心ならではの光景。どのような相乗効果があるのだろうか？



かたちの対比

土地の高度利用や用途転換などの動きが、敷地単位で個別的に行われてきた結果、現れてくるかたちの対比。



寺の前に整備された広場と、そこに設置されたモニュメント。その背景には高層のマンションが建ち、微妙なバランスを保つ風景を創り出している。



大都市居住のかたち―小規模戸建てか、大規模マンションか。大都市でのマイホーム実現は、二者択一しかないのだろうか。



京都市登録有形文化財に指定されている秦家(下京区)と隣接するマンション。秦家では建物を維持していく費用を捻出するために、この場所で料理屋を営んでいる。



新·旧、高·低の対比の構図。ただし、マンションは、茶系で統一？



町家の中庭の借景はマンション。



西宮市六湛寺町の市街地再開発。古い寺に隣接して超高層マンションが建設中。



尼崎の寺町。周囲には雑多なビルが押し寄せ、寺町だけが浮き世から別世界。



京都の都心では、今マンション建設のラッシュ。それに伴い反対運動も盛んです。



昔ながらの通りのアイストップは、いずれこの地のたどる道？

●写真とコメント
伊縫　憲幸
梅村　宏尚
小浦　久子
鈴木　克彦
田中　直人
横関　真紀
吉村　英祐
増田栄一郎

総論

都市論としての〈モザイク都市〉

田端　修

魅力的な地区の集まり
＜モザイク都市＞のイメージ

都市環境の魅力のありようを思うとき、地区ごとの個性がゆたかに展開し、全体として多様性に満ちている、そのような状況は誰しも望むところであろう。本稿は、＜モザイク＞としての地区の集まりがつくる＜モザイク都市＞という枠組みのもと、このような方向の都市づくりに向かうための示唆を見いだそうとするものである。

＜モザイク都市＞とは、それぞれの地区がそれぞれの個性をもち、全体としてみれば、これらが集まって鮮やかな絵柄を描いているような都市、そのような都市構成のあり方をいうボキャブラリイと理解されるが、まず当の＜モザイク＞について見ておこう。

＜モザイク＞は、「色ガラス・色大理石・色石の細片を合わせて文様・絵画を構成する画法。初期キリスト教建築やビザンチン建築に多く用いられた」(角川国語大辞典)もので、古代に遡る絵画法のひとつであった。いま少し技法的に述べれば、初期的には「彩色した大理石の小さな立方体を漆喰にはめ込んで図案を作る古代の手法で、末期のギリシャ美術およびローマ美術に完全なかたちにもたらされたもので、絵画の複製の手段としても用い」られるようになったが、続くビザンチンに代表される「キリスト教時代のモザイクの材料は色ガラスを焼きつけたもの」に変わっていったという。しかしながら、「ガラスの小片は色調の濃淡を十分に表すことができないため、彩描された絵画を模するには不適当であったが、装飾や新しい種類の絵の制作には大いに使用された。大理石片とは異なり、金色を含む強烈で豊かな色彩を持っていたからである。しかもこれらのガラス片は、画一的な壁面の単調さを破る小さな反射鏡の役割を演じ、壁面を固い石というよりは、照り返す光より成る輝くスクリーンのようなものに変えてしまう。……ガラス・モザイクは、このような美的効果において、建築術の真のパートナーであった」(以上の引用部分は、H. W.ジャンセン＆S.カウマン著、木村重信・辻成史訳「美術の歴史」創元社、1980年による)

上述引用には＜ガラス・モザイク＞のもつきらびやかさが巧みに記述されているが、よくできた＜モザイク都市＞もまた、そのような輝くばかりの都市としてわれわれの目の前に立ち現れることになるのだろうか。

大阪市街地のモザイク分析
＜モザイク都市＞の構成

ここでは＜モザイク都市＞はモザイクのように色鮮やかな地区の集まりによって構成される都市としたわけだが、そのモザイクの実際的なありようについて、大阪を題材にして考えてみよう。具体の都市市街地においてモザイクはどんな形をとるのか。

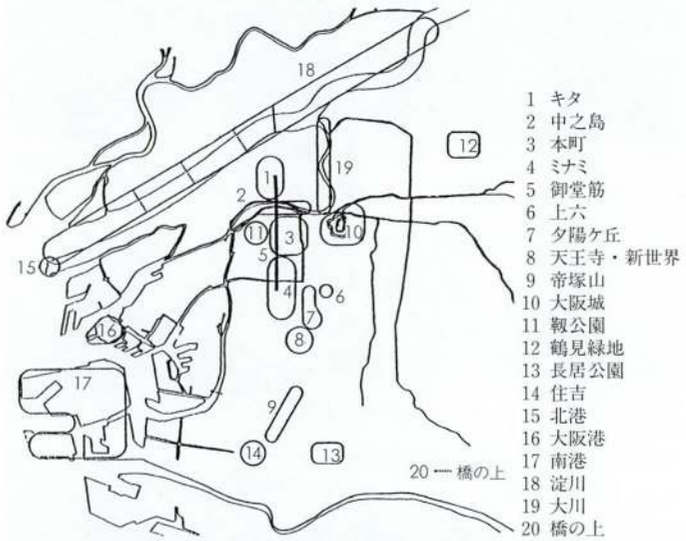


図1　「好きな場所」として多く挙げられた地区・大阪
鳴海邦碩・橋爪紳也編「大阪の空間文化―商都のコスモロジー」(TBSブリタニカ、1990年)より

その構成が端的に示された絵柄として、＜「好きな場所」として多く挙げられた地区＞を取り上げよう。大阪市民約250人に聞いた「あなたの好きな場所をできるだけ挙げてください」というアンケートの結果を集約し、図化したものである(**図1**)。これによりピックアップされた19の地区(橋の上、を除く)は、それぞれ上記のような意味でのモザイクの一片として位置づけてよいであろう。名前を聞けば多くの人が訪問の経験をもち、どんな場所であるかを思い起こすことができるなど、アイデンティティや環境的イメージのはっきりした地区である。

ここに描かれた地区以外の白地の地域には、大阪の「ふつうのまち」が広がっている。住宅や商業・工業用途が適宜入り混じった、ごくありふれた都市市街地といってよい。図1でピックアップされているのは、市民の多くがこぞって挙げる「好きな場所」であるが、一方、それ以外の「ふつうのまち」は、一般に当該地域の住み手を除けば知名度が低いと考えられる。取り上げられなくても無理はなかろう。こうして選ばれた場所は、都心部一帯のほかは海・川などの水辺地と大規模公園などに偏っていて、居住地に類する地区としては「帝塚山」「夕陽丘」の2地区にとどまっている。

少々遡ることになるが、いま少しリアルに大阪の市街地を区切る作業に取り組んだことがある。市街地を「区切る」めやすは市街地基盤の違いに置いた。結局のところ、明治以前に形成された歴史的市街地や集落――特有の道路構成と町割、社寺・伝統的家屋等を含む歴史的経緯をもつ市街地――から、近代期の耕地整理・区画整理による計画開発市街地――ここには多種多様な長屋住宅群や住工混

合市街地がつくられた——の広がり、そして非計画的に拡大した市街地——帝塚山は明治期、美章園や大今里一帯は戦前期のスプロール市街地であった——のように、「開発形態」と「開発時期」をベースにし、さらに第二次大戦による「戦災の有無」によって、市街地類型を区分することになった（**図2**）。

こうして、24タイプの「市街地の型」を抽出することができたが、この区分法に沿って作成した＜24類型による市街地区分図・大阪＞では、区切られたモザイク状市街地の一つひとつが想像以上の複雑な絡み合いを示している様子がわかる（**図3**）。

このモザイク的区分は、長期にわたって変動余地の小さい、市街地の基盤形成の差異をベースにしたものであるから、たとえば建物利用・土地利用のあり方とも連動している。個々のモザイクでは、共通する道路形態や街区・敷地の形状、さらに建てづまり状況などが、市街地空間の変動を制御する一種の遺伝子の役割を果たすことになる。そして地区モザイクの町並み形成の固有化に働きかけ、人びとの住み方・暮らしの風景づくりに影響を及ぼし、個性的「まち」の創出に強い作用を及ぼすのである。

以上のように、都市はほとんど数え切れないほどのモザイク的市街地の集まりとして理解することができるとともに、その一つひとつのモザイクは個別のベクトルをもった個性的な地区市街地として成立していることがわかる。そしてしばしば、「まち」と称される市街地のまとまりは、このようなモザイクの一片一片、あるいは数片を集めた地区のことであるといえるのである。

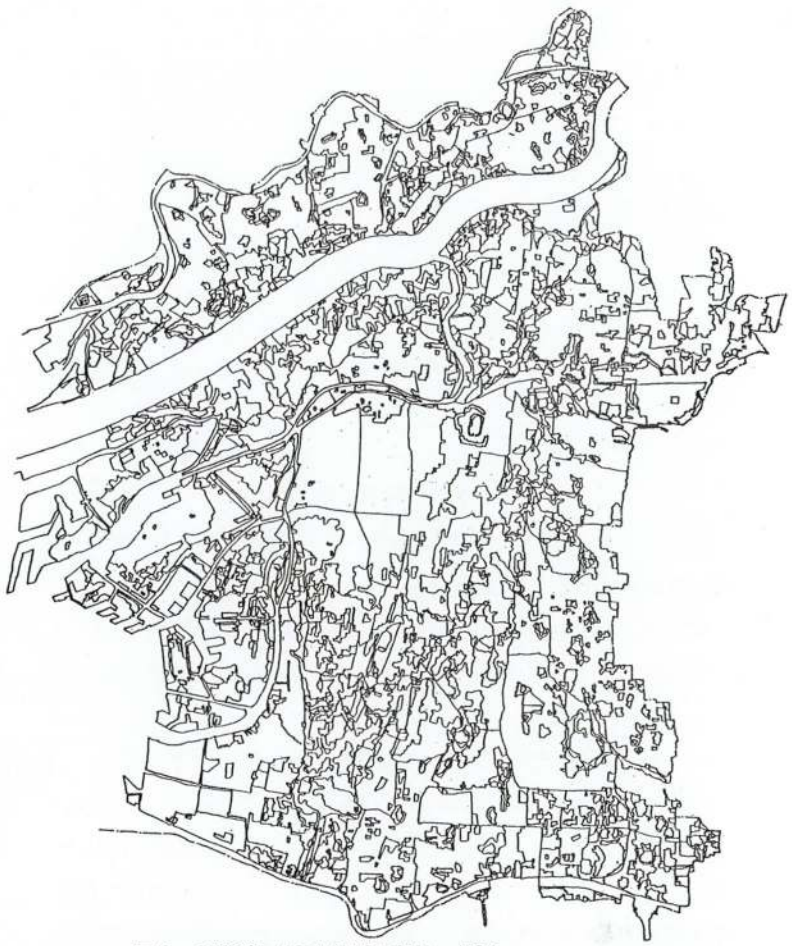


図3　24類型による市街地区分図・大阪
「住宅系再開発の手法に関する調査報告書」（日本住宅公団、昭和54年）

このようなモザイク状の都市の構成は、おおむねどのような都市においても描写・作図可能であるが、例えば京都市において描くことになると、歴史的市街地部分が肥大したり、耕地整理タイプのモ

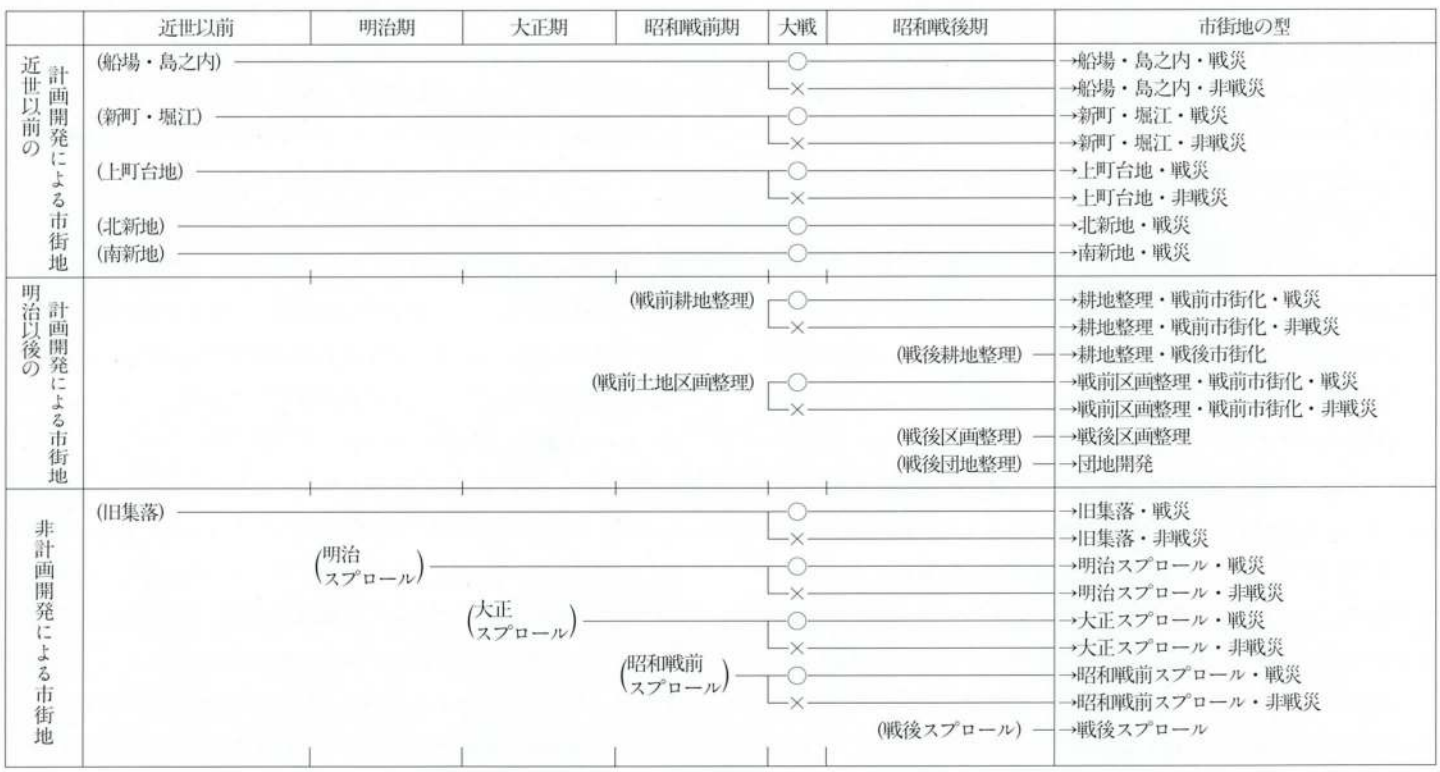


図2　大阪市における市街地の型　「住宅系再開発の手法に関する調査報告書」（日本住宅公団、昭和54年）

ザイクがごく限られることになったりするであろう。そういう意味では、都市ごとに「モザイク構成」のかたちが異なってくるということになる。

未来を導く都市像

＜モザイク都市＞への道程

■「人気地域」と「ふつうのまち」

図１の絵柄から抜け落ちている一帯も、実はモザイク状の「まち」で覆われていることがわかった。だが、実際的には、これらの「まち」の大半は個性化や魅力づけの程度においてさほど強いイメージをつくり上げていないということも同時にいえることである。

現在の都市は、図１にみるような強いイメージをもつ「人気地域」と、外部の人びとにとってさほど魅力をもたない「ふつうのまち」に分かれているということになる。都市にはそういう２タイプのモザイクがある、と考えてもよい。しかし本当は、あらゆる場所がきらきらと輝き合い、都市全体として魅力を発散している、そんな都市が好ましいのではないだろうか。可能ならば一片一片のモザイクが華やぎながらつながり合う＜モザイク都市＞にしていく道筋も探してみたいではないか。

■都市間競争と地区間競争

わが国をはじめ欧米各国の都市では、今後長期間にわたって、大規模の人口・産業の集中や市街地の膨張など、「右肩上がりの社会・経済条件」は想定し得ない。大都市域での顕著な人口増加などはとても望み得ないということである。こんな条件のなかで、これからの都市施策はどのような方向をとることになるのだろうか。

このところ喧伝されるのは個別都市の生き残り策という視点である。代表的なサバイバル策として、例えば都市間競争が挙げられる。全体のパイの大きさは変えようがないが、より多くの取り分を自分の都市のほうに取り込もうとするわけである。

これに対して筆者が推したいのは、都市内での地区間競争（あるいは地区間競創）策である。一つひとつの地区について、その場所に固有の役割があり、その地域独自の「らしさ」がある。小さなエリアごとに具体的に地域資源や魅力要素を確かめいっそう高めていく、そんな都市づくり策が求められているように思われるのである。

そして、都市内部から発する改造・修復の積み重ねこそが都市全体を魅力化する方法となるのではないか。あるいはそういった方向こそが都市間競争に打ち勝つための力となるのではないか。

この地区間競争を基本コンセプトにした都市イメージが、ほかならぬ＜モザイク都市＞であることは誰しも想像のつくところであろう。＜モザイク都市＞のコンセプトをよりいっそう磨き上げることが期待されるというものだ。

これからの地区間競争に耐え得る「まち」モザイクの強化策はどんなものになるか。そのための留意点や考え方について、以下で少しばかり考えてみたい。

■＜一極集中都市＞と＜モザイク都市＞

都市の目標像としての＜モザイク都市＞は、一つひとつの「まち」モザイクに強いイメージ喚起力をもたせたいという方向性をもっている。すべての「まち」の環境魅力をそれぞれに引き上げようというイメージを含み込んでいるわけである。別の言い方をすれば、それは、都心まわりにのみ再開発プロジェクトを集める＜一極集中都市＞とでもいえる都市像とは対照的なものといってよい。

この議論は先に提示した「人気地域」と「ふつうのまち」とも関連する。「人気地域」とは住み手以外の多くの人びとが折にふれて往来する「まち」であり、そのことによって地域内外の相互交流が生まれ、広がることになる。「ふつうのまち」もまた、このように人びとが互いに行き交う「交流のまち」としての性格をもつように変えていきたい。市民それぞれがお互いに「まち」を知り合い、それぞれの面白さを感じ合うことで、都市全体への関心も高まることになるのであろう。また地域外からの来街者の視線によって「まち」が＜見られる＞ことを経験し、意識することになる。人というものは、多くの人から見られることによって立ち居振る舞いが自然に洗練される、とよく言われる。「まち」という環境においてもまた、その見え方を整える意気込みが、「まち」の住み手のなかから生まれてくると考えても、まったくおかしくはない。＜モザイク都市＞のもつ「交流都市」としての性格は「まち」のデザインに大きな影響を及ぼすことになるはずである。

こうして、＜一極集中都市＞とは在来の「人気地域」中心に都市整備を進める都市であるが、＜モザイク都市＞の方向はこれを超えて「ふつうのまち」を一種の「人気地域」に変えていくことによって、小地域が互いに往来しあう＜交流都市＞づくりにつながってくる、そんな都市像であることがわかってくる。

■＜まわりを観る＞眼力

ところで、これを「都市」のなかの「まち」モザイクを元気づける方策、「部分」をいかす「全体」というしくみとして見るとき、しばしば犯しやすい失敗は、すべての「部分」を横並び型に整えようとする強迫的観念の軛であろう。隣の「まち」に負けないように音楽専用ホールをつくる、あるいはより客席数の多いホールを建設するといった競争は、互いに足の引っ張り合いをするのみであり、さんざんな稼働率しか数えられないままに客席にほこりを溜まらせ最新のホール設備の扱い方さえ忘れられていくことになる。

輝きのあるモザイクの一片として「まち」を再整備させるうえでは、自分のところだけを見るという我田引水的なスタンスでは失敗する。まわりをよく観察し、そのうえでイメージ喚起力の十分に高い「まち」づくりを実行する必要があるわけだ。＜まわりを観る＞眼力を磨く必要がある。

このように考えると、都市パターンとしての＜モザイク都市＞には、都市における「全体と部分」「都市とまち」との関係性を問い直す観点が含み込まれていることが了解されてくるのである。

■「まち」モザイクの魅力と「人気」

個別地区たる「まち」モザイクの魅力を探っていくと、そこに営まれている仕事や産業のかたちが「まち」の環境的個性につながっていることに気づくことになる。生き生きした「まち」には、働く人の姿や忙しく行き交う人、そして加工や販売の対象となるモノがあふれ、渾然一体となった地域環境のなかから固有の地域性が醸し出される。これに比べれば、郊外専用住宅地域の環境はどこも似たり寄ったりである。相当広い範囲を歩いてみても、人は驚くほど少なく、また風景にも違いが現れてこないという経験は誰しももっているであろう。先述の用語でいえば「人気（ひとけ）がない」ことと「人気（にんき）がない」ことが、ここでは共通している。

郊外地域を、図2に整理した考え方にそって区分すると、モザイク状地区のユニットが際限ないほど大きくなってしまう。大規模宅地が短期間のうちに造成された地域では、「開発形態」「開発時期」の共通するエリアが連担することになり、とても図3にみるような細かに入り組んだモザイク状のマップにならない、ということである。

わが国の都市市街地はすでに＜モザイク都市＞として出来上がっているという指摘もあるだろうが、都市づくりの目標像として＜モザイク都市＞を位置づけ、上述の郊外地域をも含め、都市域全般に広く「まち」モザイクを連続させていくことが、生き生きしたまちづくり、都市づくりへの基本方向である。筆者は＜モザイク都市＞を、目標とするに足る都市像と考えているのである。

おわりに
全体像への手がかり

目標としての「モザイク都市」という観点を繰り返し提示してきたが、これに関連して「まちづくり」と「都市計画」をどのようにつなぐことができるかという問題を取り上げてみたい。

思い返してみれば、在来の都市プランづくりは主として専門家の間でのみ議論され、決定されるという前提のもとに構想・構築されてきたきらいがある。提案・計画の必要が、都市の膨張をコントロールし、効率よく市街地を造成することなど、政策的・マクロ的な時代状況にあったこととともかかわっていよう。

しかし、右肩上がりから右肩下がりへの時代的変調という事情の変化も関連して、これからは徐々に人びとの生活拠点である「まち」づくりを出発点として、全体としての「都市」づくりに連結していく方法――先にみた「地区間競争」などもそれだが――が拡大していくと思われる。都市づくりのしくみを、行政や専門家に任せ放しにするのでなく、ふつうの市民がそれを納得して受け入れることができるものに変えていくことがますます必要になってくる。

たとえば近年各地で＜まちづくり協議会＞タイプの市街地整備への取り組みが進んでいる。今後の都市整備は、このような住民参加型のまちづくりを積み重ねていくという側面を増すであろう。

すでに述べてきたとおり、＜モザイク都市＞の方法は、「まち」や「部分」の整備を拠り所にして、「都市」や「全体」のレベルアップを目指すプログラムでもある。＜まち協＞タイプの方法と共鳴するところがあることは確かである。

これらの議論にはもう一方からの、逆からみた問題が指摘されるべきであろう。つまり、市民個々人が自分たちの住まっている都市を全体像として理解することにさほど関心を抱いてはいないかも知れないこと、あるいはそういった理解に対して得手でないかも知れないこと、などである。いったい都市の何を知れば知ったことになるのか。身の回りからはるかに遠い地域を含む都市の全体を身近に引き寄せる手がかりも用意しておかねばならない。

この設問への回答は前段までのあちこちに、まさにモザイク状に散りばめてきているのであるが、小論を閉じるに際しての結びの役割を兼ねて取りまとめておこう。

身の回りの環境としての「まち」が仕事・くらしと一体化した、生き生きした環境であればあるほど、あるいは、まちづくり活動に参画するなどのコミットを通じて、人びとは自分の「まち」への愛着を膨らませるであろう。そして、仕事にせよ、まちづくり活動にせよ、地域内外を結ぶヒト、モノそして情報の交換によって成立するものであるから、次第に異なる「まち」についての関心が芽生え、内外市民の交流が広がり、活発化するのも道理である。こういった経過を辿ることによって、人びとは自分の「まち」から始めて「都市」「全体」へと至るつながり方を発見し、「都市」のあり方に対する考え方や意識を育てうるのである。

＜モザイク都市＞は、個々の市民が都市の全体を身近に引き寄せるための、格好のプログラムを内包している都市像であり、「まち」モザイクから都市の全体像にいたる、手にとりやすい＜手がかり＞を具えた都市像であるということができる。

（たばた　おさむ　大阪芸術大学教授、工学博士）

平野郷～自治精神を受け継ぐ町づくり～

川口良仁

「平野郷」は、大阪市の東南にある平野区の中心に位置し、東西約1000m、南北約800mの菱形で、もと環濠集落を形成していた地域である。

平野の地名は、大徳寺文書の嘉元２年（1304）の項に「在摂国住吉郡平野御庄之内……」とあるのが初見である。一方、伝承によると平安時代の９世紀初頭、坂上田村麿の次男、広野麿がこの地を賜わって所領としたが、その名「広野」が転訛して「平野」となったとも伝えている。

■自治都市の成立

この地を領有した坂上氏は、以来子孫代々民部を名乗り、そこから分家していった一族が７つの地域をそれぞれ開発して、園地名田主として支配していった。これが平野七名家である。町はこの七名家を中心に、荘民の中から選ばれた人々の合議によって運営された。



「摂州平野大絵図」
宝暦13年(1763)刊
環濠は２カ所以外はすべて埋められたが、現在の濠内の町割りはほとんど変化はない。㋑、㋺、㋩…の記号は13カ所の木戸口を示し、その場所にあった地蔵堂は㋑を除いて、ほぼ当時の場所に現存する。



現在の平野地域の地図に、環壕のあった位置を重ね合わせたもの

南北朝から戦国時代にかけて、摂河泉の交通の要衝であった平野郷は度々戦禍に巻き込まれた。そこで郷民は自衛の手段として、町の周囲に二重の濠と土居を築き、13の出入り口には惣門を構えるなど、城下町に似た「環濠自治都市」をつくり上げた。その形態は宝暦４年（1754）の地図によってうかがい知ることができる。

自治都市形成の背景には平野の商人の活躍があり、とくに七名家の筆頭・末吉家は朱印船末吉丸によって海外貿易にも進出するほどであった。こうした富裕な商人の経済力が、町民をして地域共同体としての連帯を強化し、自治的意識の向上につながっていった。

■近世の平野

その後、信長、秀吉時代には平野郷は直轄地となり、秀吉は天正20年（1592）に平野周辺を含む土地、１万石を北政所（おね）の所領とした。

大阪夏の陣の戦火で平野郷はそのほとんどが消失したが、元和元年(1615)、家康の命により町の復興が始まり、翌元和２年に郷内の碁盤目割りが完成した。現存する町割りは当時のものである。

徳川時代になっても、各町の主だった者を年寄とし、七名家筋の総年寄を中心に町政治を行った。信長、秀吉、家康と、激しく変化する時代にあっても、平野は自治の心を失わず、上手に切り抜けた。

■近代と市街化

平野郷の町割りは、明治維新後も大きな変化はなくほぼ旧状をとどめていたが、環濠は一部埋め立てられ、もはや自衛の策としては用いられず、ため池や水路に形を変えている。

大正３年、旧阪堺軌道・南海平野線が開通。大阪の都心に通勤する人が増加した。郷周辺には工場が建ち、とくに奈良街道周辺は市街化が進み、町は北部、北東部に広がり始める。

昭和になると、南部、南西部の市街化が進み、工業が農業に取って替わり、郷周辺の田園地帯の宅地化が徐々に見られるようになる。戦後は、耕地整理事業などによってますます旧田畑地帯の宅地化が進み、昭和49年の平野区成立の際には、それまで残っていた泥堂、野堂など由緒ある町名も消えてしまった。

現在の平野を構成する特徴的な要素

大阪の外延的発展により、地図上では、平野は「環濠自治都市」の輪郭を失い、一ベッドタウン都市として埋没したかのようだ。しかしその形は見えにくくなったとはいえ、自立した環濠都市の面影とまとまりのある生活圏は今も、町のあちこちに息づいている。

■歴史的環境の保持

周囲をめぐる環濠が失われたことを除けば、町割りの基本的構成は元和２年から現在まであまり変化を受けず、旧環濠都市の碁盤目



平野の歴史と共に歩んできた
七名家の一つ末吉家

筋の骨格が現在の町並みの基盤となっている。

伝統的町屋　約150年経つと思われる農家造りの今野家から昭和戦前期の長屋形式まで、現存する町屋も各年代にわたり、その間に一戸建て町屋を中心としながらも多様な住宅形式が形成され、変化のある町並みをつくり出している。地区全体にある町屋のうち6割程度は戦前の建物で、歴史的な雰囲気を形づくっている。

社寺　神社は杭全神社と三十歩神社の2カ所、寺院は融通念仏宗の本山である大念仏寺をはじめ19カ所が町中に点在する。それらの大部分は歴史的建造物として景観のポイントになっている。

地蔵堂とだんじり小屋　環濠の出入り口に設けられていた13の木戸口こそ現存しないが、そこに建てられていた地蔵堂は1カ所を除いて今も当時の位置に現存する。また、その近辺には各町所有の夏祭りのだんじりを格納する「だんじり小屋」も9カ所設けられている。いずれも住民により手厚く維持管理されている。

しかし、町中に和菓子、染物呉服などの伝統的店舗や江戸期の道標なども残された地域ではあるが、建造物や住宅の老朽化とともに平野は改築、再開発による取り壊しの危機に見舞われ、阪神大震災以後はその傾向が顕著になっている。

■自立したコミュニティ―行政圏域と祭礼圏域―

平野のまちにおいて、町衆の共同体意識を深いところで結んでいるのは、江戸時代より綿々として続く祭礼の圏域である。

祭りの圏域は、明確な資料は残されていないが、明治時代にはおよそ11の大字を地域としていたと推定され、現在は9カ所から成り立っている。この平野の夏祭りは、牛頭天王を祭神とする杭全神社で、毎年7月11日より4日間にわたり行われ、13日の宵宮祭には九つの町が「だんじり」を繰り出し、約20万人の人出で賑わう。

「だんじり」を維持管理しているのは各町の祭りの組織で、夏祭り全体の運営は、代表者で組織する「平野夏祭り実行委員会」の協議のもとに行われる。この夏祭りの組織並びに運営には全く行政は関与しておらず、経済的にも各町の住民による寄付によって賄われている自立した住民の組織である。ここにも自治都市としての伝統がうかがわれ、新旧の住民はもとより、老若男女を問わず心をひとつにまとめる大きな役割を果たしているといえよう。

住民主体の町づくり

平野で住民の中から、歴史ある町を見直し個性のある住みよい町づくりをしようという気運が盛り上がったのは昭和55年（1980）年のこと。南海平野線の廃止に伴って壊される運命にあった八角形の駅舎の保存再生運動に端を発している。「平野の町づくりを考える会」が結成され、今日まで歴史的景観の保持や歴史的遺産の復興、伝統行事の保存など「歴史を生かす町づくり」を中心テーマにハード、ソフトとりまぜてさまざまな町づくり運動を展開してきた。

とくに平成5年に町の民間施設を無料で開放して始めた「町ぐるみ博物館」運動は、今年は10カ所の「だんじり館」が加わり、従来の9カ所にプラスして合計19カ所もの、全国でも類を見ない館数の規模になっている。また昨年より続いて今年も7月に開催された「モダン de 平野」という催しは、町をアートにするというコンセプトで、平野の町をテーマにアーティストと住民が共同で芸術活動を町中で展開した。従来のハード・ソフトに加えてアートという新しい切り口での町づくり運動である。

平野の町づくりを考える会・活動年表

1980 平野の町づくりを考える会結成 南海平野駅舎の保存運動	*1992*「御田植神事保存会」発足
1983 景観協約運動	*1993* 町ぐるみ博物館（9館）開館
1985「含翠堂講座」開講	*1994*「平野酒」「平野飴」「平野蒟蒻」復興
1986 町並み総合調査	*1995* 写真集「おもろいで平野」出版
1987「平野連歌」再興	*1996* 町はアート・第1回「モダン de 平野」
1989「平野昔話」出版	*1997* 町ぐるみ博物館「だんじり館」（10館）開館 第2回「モダン de 平野」

■歴史を生かす町づくりの視点

残したい手垢の歴史　現在の平野は定住性が高く、歴史的な重層性と雑居性を備えた庶民の町である。私たちが町づくり運動で残していきたいのは、文化財として価値あるものだけを残す静態保存ではなく、いきいきとそこで生きている庶民の手垢の歴史である。

歴史保存は攻めの発想　経済性優先で進められた近代化の町づくりへの反省から、路地や長屋的な共同住宅が見直されて新たな町づくりに取り入れられてきているが、平野においては都市化によって失われていったそれらのものがまだ息づいている。17年間の町づくりを通してわかったことは、受け身と思われた歴史の保存は、実は時代を先取りする攻めの発想である、ということである。

故郷と呼べる町に　町の歴史と伝統を大切にすることが、自分の町に誇りを持つことにつながる。大都市にあっても、ここが自分の故郷だと胸を張って誇れる、そんな町を次の世代に伝えたい。

■住民主体の町づくり

住民による町づくり運動を継続してきた「平野の町づくりを考える会」は、「自分たちの町は住んでいる者でつくる」という自治都市の精神を受け継ぐ気持ちで、行政を当てにしないで小さくとも自分たちで出来ることから実践してきた。だれのためでもない、住んでいて楽しい町にしたいから、自分自身のための町づくりである。

（かわぐち　りょうにん　平野の町づくりを考える会事務局、全興寺住職）

都心の「まち」

高口恭行

茶臼山・夕陽丘界隈

大阪市天王寺区。下寺町の東側に面する東西200メートル、南北1.5kmにわたって寺と神社と森が密集する細長いエリヤがある。南から順に天王寺公園・美術館・慶沢園・茶臼山・一心寺・安居神社、そして主として浄土宗の25ヵ寺と天王寺七坂と言われた坂道と生國魂神社である。航空写真でみるときわだって樹影の濃いエリヤで、大阪市の都市計画公園と風致美観地区が重ねて指定されている。

25ヵ寺のうち北よりにある大覚寺・光明寺・万福寺・金台寺・源聖寺・浄国寺などは戦災を免れ、その威容と背景の緑によって、都心とは思えぬ歴史的な雰囲気を見せているのである。だがこのエリヤに特別な名前はない。言うなれば茶臼山・夕陽丘界隈とでも呼ぶしかないのだが、大阪の数少ないアイデンティティ空間としてより明確に顕在させるならば、大阪はその都市モザイクにおいて画竜点晴をうることができると思われるのである。

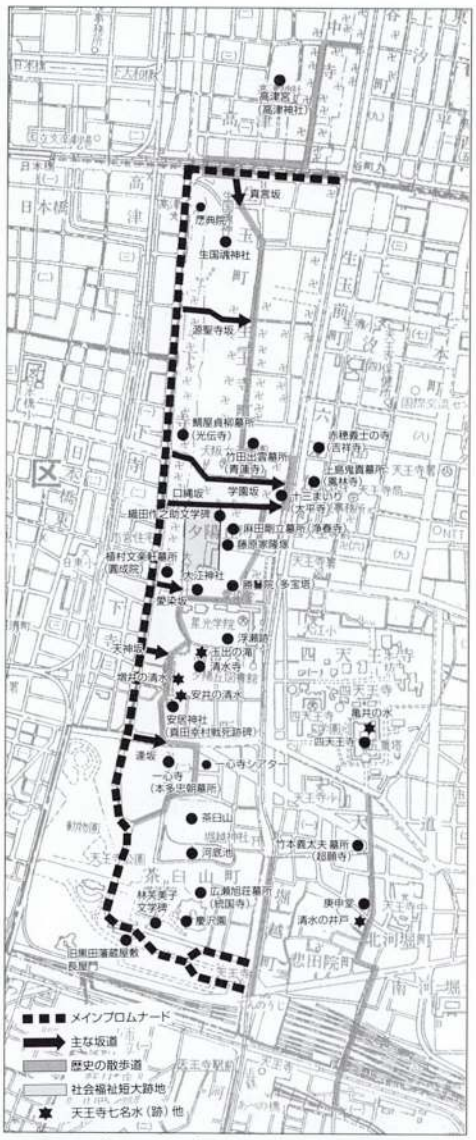
歴史

夕陽丘は上町台地上。四天王寺のほぼ西付近にある。古来、浄土信仰のテキストとなった観無量寿経に夕陽のなかに極楽浄土を観想する「日想観」の記述があり、この付近はその適地とされてきた。前方に大阪湾の海と淡路・六甲の山並みがある。台地はその海面から15メートルの高さにあった。眺望の地なのである。法然と後白河法皇が一心寺で、藤原家隆がその夕陽庵で、日想観を修したと言われている。熊野参詣の人々もここから夕陽を拝んだ。言うまでもなく、この眺望の地形は今日なお健在なのである。

茶臼山は一心寺の南。台地上さらに盛り上がった小山で、和気清麻呂が古代の大和川を大阪湾へ放流するために水路を掘った際の残土の山とも、古代豪族の墳墓とも言われている。横にその掘あとが川底池としてあり、清麻呂をまつる堀越神社がある。茶臼山一帯は



大阪冬の陣で家康の本陣となり、夏の陣では激戦地となって真田幸村が安居神社で伐死したと伝えられている。明治になって川底池の南に住友本宅慶沢園が建設され、今日、公園の一部となっており、こうした一連のことも、概してこの地が眺望の地であることの左証といってよいだろう。

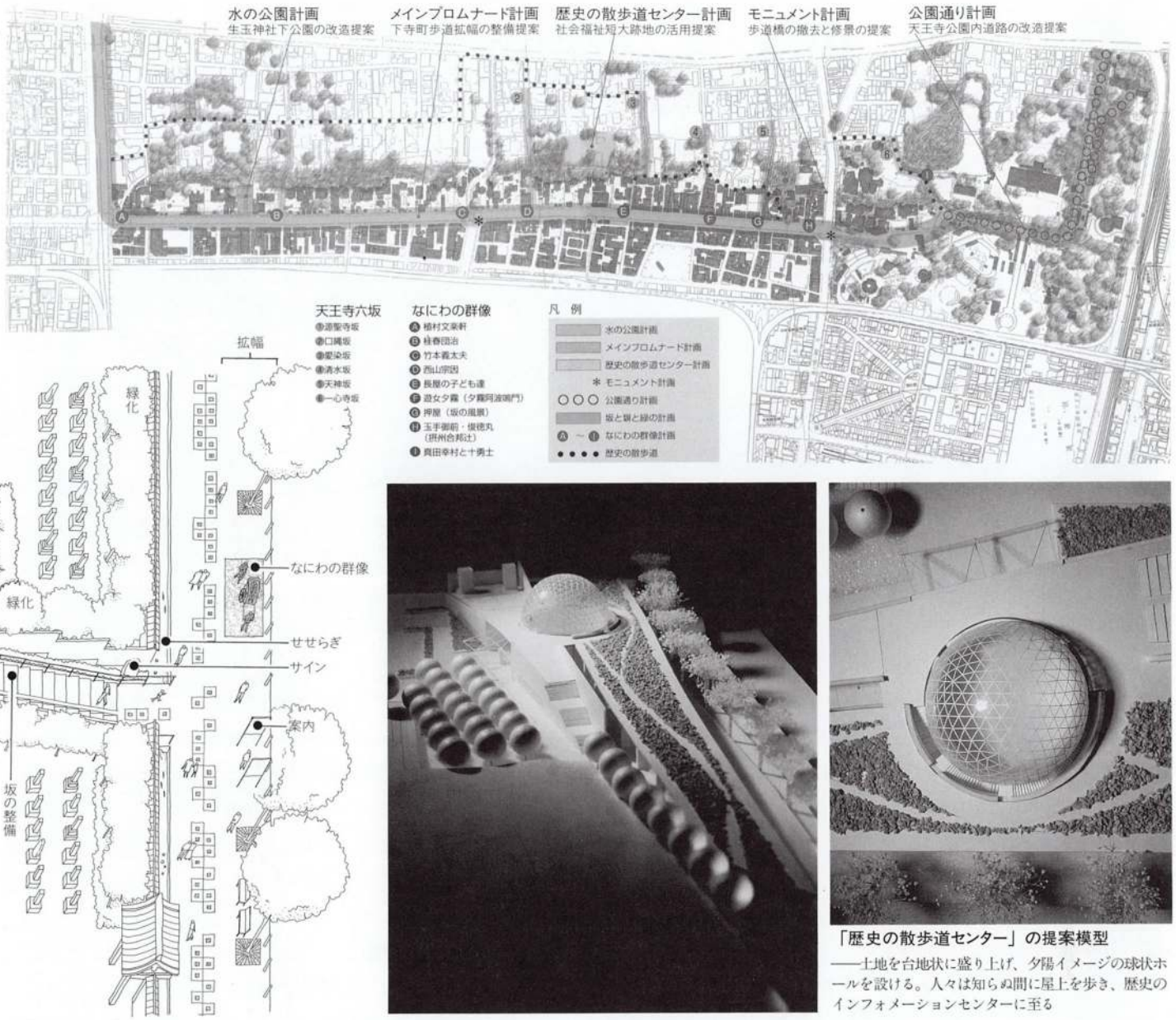


〈歩いて楽しいまちづくり〉のための地域資源分布

界隈の斜面上、生玉寺町には40ヵ寺。下寺町に25ヵ寺があるのだが、その間の斜面地はどちらの寺からも裏庭にあたり、そのために寺町の成立以来そこに豊かな緑の帯が保存されてきた。この緑の帯と直交するかたちで「七坂」があり、麓には湧き水が出て「七名水」と言われてきた。この社寺と緑と坂を舞台に、有名な浮瀬(うかせ)など眺望を誇る料理屋や茶屋が存在していた。上方落語「天神山」では、安居天神の森で狐が登場する。寺院群には江戸期を代表する庶民の墓が多数あって、竹田出雲、植村文楽軒、夕霧大夫、小西来山、田能村竹田、麻田剛立など枚挙にいとまがないのである。

一心寺シアター・應典院・なにわ人形芝居フェスティバル

この界隈に付属する「眺望の地形」「緑の帯」「坂道」「歴史」などの集積は、界隈が散策空間として突出した条件をもつことを示している。事実、下寺町は、戦前まで毎月お大師さんの21日には千日前竹林寺から四天王寺にいたる長い縁日参詣の露店でにぎわっていた。



「歴史の散歩道センター」の提案模型
——土地を台地状に盛り上げ、夕陽イメージの球状ホールを設ける。人々は知らぬ間に屋上を歩き、歴史のインフォメーションセンターに至る

一方、寺院群はそれぞれの宗派において観音めぐり、地蔵めぐりなど、寺院が集積していることを利して市民に巡拝という散策のシステムを提供していたのである。下寺町25ヵ寺においては阿弥陀佛四十八願所の巡拝システムをもっていた。今日それが失われているのは戦災と、道路拡張と自動車交通の増大などの経緯にあわせて、50年の中断が過去のシステムを忘れさせているのである。

こうした状況の中で、新しい界隈顕在化の動きといったことがいくつかあげられる。

第一は一心寺シアターのオープンである。平成７年、ふとした機会に一心寺脇にあった生花卸売市場の古い建物が、主として小劇団と落語・講談・浪花節などに供する小屋に変身して、活動を開始した。第二は下寺町のこの界隈の北端にある大蓮寺頭塔寺院である應典院が仏教文化ホール的なかたちで平成９年春に再建。これまた独自の活動を開始している。第三に、平成８年春、下寺町25ヵ寺が連合していわば寺町ルネッサンス的な願いをこめて各寺院の境内と本堂を開放活用するイベント「なにわ人形芝居フェスティバル—冥途 in てらまち」を開始したのである。

これらの動きが、それぞれに発展するならば、戦後50年間排気ガスの中にくすんでいた茶臼山・夕陽丘界隈に今日的な関心と評価を呼びもどすにちがいないのである。

2008年大阪オリンピックまでに 茶臼山・夕陽丘プロムナードを出現させよう

この界隈は、大阪の都市モザイクの中で特に歴史と文化の色濃い大阪のアイデンティティ空間なのである。今日の大都市大阪には、すでに市域に分散する史蹟をつなぐ「歴史の散歩道」のネットワークが存在している。茶臼山・夕陽丘界隈はそのネットワークの中央にあり、もっとも密度の高いエリヤである。奇しくも藤原家隆が日想観を修しつつ没した夕陽庵跡に隣接して約１ヘクタールの土地がある。この場所はまさしく「歴史の散歩道センター」の適地である。

たとえば2008年の大阪オリンピックにおいて、世界の人々は何を見るのか。オリンピックの競技。近代的な競技場。OBP の高層建築群。ウォーターフロントの開発。南北新地のにぎわい。しかしモザイク的にみれば、歴史と文化のこの界隈が顕在していなければまさしく画竜点晴を欠くのである。

（たかぐち　やすゆき　一心寺住職、建築家、京都大学工学博士）

モザイク都市をつくる「まち」

六甲アイランドCITYの街づくり

山本　茂

すべからく、都市は様々な住み方、形がモザイクのごとく混じり合い、重なり合って成立している。

六甲アイランドは「海の手六甲」（住みたい街＝行きたい街）というキーワードに象徴される、都市の新しい住み方、形の様々な提案を具現化することにより、計画的に創り出されてきた街である。

住み方の表現が一つの都市の形となる事例として、六甲アイランドCITY（RIC）を紹介してゆきたい。

新しい住み方の提案ー「海の手六甲」ー

■ライフスタイルに応じ超高層から戸建てまで

RICでは、超高層住宅から高層、低層、戸建て住宅と、幅広い住戸形式を準備し、多様な個性、生き甲斐等々ライフスタイルに応じて、プラン、住まい方を選択可能なものとしている。

集合住宅では、やさしさ仕様、ペット対応仕様、音楽室付き、アトリエ付き等の付加仕様を設定したものや、住棟丸ごと国際規格仕様と銘打って、海外から赴任してきた人たちにも対応できる十分な空間を備えた住宅等々を設定した。戸建て住宅では、「娘夫婦と暮らす家」「グルメたちの集う家」「家族のバスタイム」等々、一邸一邸テーマを決め、家族構成、ライフスタイルを想定したプランを住宅の数だけ取りそろえた。

■ライフステージに応じ住み替えのきくプラン

街づくりにおいて、住み手が街に愛着と誇りを持つことほど重要なものはない。そのためには「定住できる街」にすることが不可欠である。われわれはライフステージに応じて住み替えのきく規模、間取りの住宅を準備した。実際、最初の入居から9年あまりを経た現在、新築マンションの分譲においても、中古市場においても、RICの住み替え需要は極めて高いものがある。さらに子供夫婦が住んだ後に親夫婦が、あるいはその逆といった親子近居のケースも多い。

■コミュニティ参加の形

住民が街の主役となるためには、住民の心意気を喚起する必要がある。第一期の住宅の入居の際に、事業主グループが住民とともに「ウェルカムパーティ」を催したが、これはさらにRIC内の企業や学校等を巻き込み「RICジャンボリー」（**写真1**）と名称を変えて、住民の間に根付く行事に成長した。

一方、施設に関しても、住民のコミュニティの場として最初の入居時よりコミュニティセンター「RICL」をオープンした。ここには、中央防災センターにてRIC内を24時間監視する管理施設とともに、プール、アスレチックス、カルチャー教室等のコミュニティ施設がある。また、CATV設備を有し、六甲アイランド内の自主放送や、FAXによる生活情報サービスを行っている。各マンション街区のスーパーロビーにはフロント機能を与え、住民への情報サービス、宅配サービス等を行っている。

外部空間においても、住棟を囲み型配置にすることによって生み出された中庭、プレイロットや、街角広場、せせらぎの道等、住民の出会いの場、ふれあいの場を配置した。中庭は、原則としてセキュリティゾーンを設けないため、各街区の住民たちがオープンにつきあい、ふれあえるものとした。中庭等の一部に設けた自由花壇では、竣工時に植えられた草花を絶やさないよう住民有志の協力で見事な花壇が維持されている。

■環境づくりへの参加

住民が誇りの持てる街環境を維持していくためには、つくり手の志や細やかな心遣いが住民に伝わり、引き継がれていく必要がある。このため、関西の建築家を起用して建築を一つひとつ丹念につくり、各住棟が住民に愛着の持てるものとし、街全体が建築のミュージアムギャラリーのごとく輝くものとなることを目指した。

また、子供たちの心に残るふるさとの姿を目に見え触れることができるものとするため、街角には特徴のある形態、色彩、用途を有する街角建築を配し、その足元に彫刻、シンボルツリー等を備えた街角広場（**写真2**）を設けた。これにより、自分の街、住棟の位置、特徴をはっきりと視認することができ、来訪者にも分かりやすい＝



写真1　RICジャンボリー



写真2　街角広場



写真3　せせらぎの道

親しみやすい街となる。この彫刻を選定する際には、彫刻展を催し、市民投票を行うなどして住民の環境意識を高め、街への愛着を深めてもらえるよう配慮した。街や学校での祭り、イベントの際には、街角広場をめぐるスタンプラリーを住民や子供たちが企画するなど、住民に親しみの持てる場所、シンボル的な場所となっている。

またマンションゾーンと戸建てゾーンのバッファーゾーンとしてせせらぎの遊歩道（**写真3**）を設けたが、これはそぞろ歩きの場となり、子供が笹舟流しに興じ、水に親しめる空間となっている。

この、住環境の維持と人的交流を目的として、事業主グループとRIC内企業が拠出して街づくりのための基金（実際には神戸市内全域が対象となる）をも設立している。

■情報の受発信

「海の手六甲」という新たな環境創造のため、われわれは「住みたい街＝行きたい街」という両備性の魅力を持つ街をつくり出すことを目指した。このためには、街は常に活性化し、知的刺激に満ちたものでなければならない。

このため、情報発信、交流のできる商業施設を誘致してきた。風俗、文化の先兵たるファッション情報を受発信できるアパレルマート、RICより新ブランドの孵化と発信を期待した水辺店舗（テーマは「FROM ROKKO」）、外資系企業、ホテル、美術館、映画館等々は、住みたい、行きたい魅力溢れる街をつくり出すことだろう。

住み方、形の整合性のために

以上の新しい住み方の提案は、ランダムに投げかけられただけでは、街全体としては混乱を引き起こし、期待する効果が発揮できないことになる。このモザイクのそれぞれのパーツをうまく整合し、相乗効果が引き出せるようにする必要がある。

以下に、この調整のためになされた手法、調整の形について記す。

■ゾーニング、動線の計画

街のゾーニングは、中心部に超高層、その両サイドに高層そして中層、戸建てと順次低くなる明快なものとし、街全体としてシンボリックなスカイラインを形成するよう意図している。用途的には、中心部が業務商業ゾーン、周辺部が住宅ゾーン、文化レクレーションゾーンとなる。

街全体の歩行者動線としては、中心部に新交通駅や、商業、文化施設をつなぐ2階レベル（駅においてはコンコースレベル）の動線「シティーモール」（**写真4**）が業務商業ゾーンを周遊し、ここから四方に延びた枝動線は、歩道橋にて公道を横断し、住宅ゾーンにつながる（「シティーモール」を含む全体の2階レベルの動線を「スカイウェイ」と呼んでいる）（**写真5**）。さらにスカイウェイの要所（横断橋の両端等）には車椅子対応のエレベータ（**写真6**）を設置し、街全体のバリアフリー化を図っている。

街の中心軸には、リバーモール（**写真7**）と呼ばれる親水空間が南北に広がり、その上部を新交通が往来する。

RICを含む都市機能ゾーンの周囲は、幅40m～100mの「シティヒル」と呼ばれる小高い丘が、港湾用地とのバッファーとなる。リバーモールとシティヒルは数本の緑道で結ばれ、さらにマンションゾーンと戸建てゾーンとのバッファー兼遊歩道であるせせらぎの道がリバーモールの支流のごとくシティヒルへと延びる。

公道を除いて、マンションゾーンと戸建てゾーンとの境界をなすせせらぎの道、マンション内及び戸建て街区内の動線や境界は、できる限り自由なライン（四角割りでなく）で形成した。

■デザインコード

RICでは、建築家の個性が十分に発揮できるよう、細部にわたるデザインコードを設けず、概念的ともいえる程度にとどめている。

街全体として、住棟として、美しいスカイライン（**写真8**）を形成すること、街角には特徴あるデザインの街角棟を配置すること、上部、中間部、基部による三層構成を基本とし勾配屋根（住宅は直線により、業務・商業ビルは曲線により構成される屋根）を載せること、できる限り分節、スリットを設けること、設計者相互の調整



写真4　シティーモール



写真5　スカイウェイ―人工地盤より新交通駅へとつながる(左)、住宅ゾーンにつながる(右)



写真6　車椅子対応のエレベータ棟

（デザインの相乗り）を図ること、これがデザインコードの主要なものである。

一方、環境デザインにおいてのデザインコードは、街角広場を官民同一仕上げとすること、官の歩道の街路樹に対応して民側でも植栽を施すことにより歩道を緑道化する「二重街路樹」等々である。

以上のことをふまえて、遠景としてのスカイライン、街のシルエット、中景としての通りのデザイン、近景としての場のデザインをしっかりと創っていこうということである。

■商・住の調整

業務、商業施設と住宅とは、おのずから相容れない要素を持つものである。音、光、商業サイン等、商業地の喧噪は、住宅地には似合わない。

住宅に面するビルには、ミラーガラスを用いない、屋根等の金属部分の反射を抑える、高所サイン、電飾サインの制限等々。さらに「スカイウェイ」を利用する歩行者から住宅のプライバシーを守る。一方、自社ビルのプライバシーよりも住民のプライバシー・利便性を優先した、ビルを貫通する自由な歩行者動線の存在（**写真9**）など、住宅中心に商・住の調整をしている。これも「街の主役は人であり、街づくりの基本は住まいづくりである。住む人たちの誇りがその街の発展につながる」という想いで街づくりにかかわってきた「住宅屋の街づくり」ならではのことかもしれない。

■開発の順番、スピード

既存の街とは異なり、全く無の状態から街をつくっていく場合、開発の順番及びスピードは、その街に住む人々に大きな影響を与える。人口定着が進まなければ、スーパーも病院も進出しないし、公共サービスも不十分である。

RICでは、第一期750戸の入居の際には、仮設スーパーを建設し、内科、小児科等の医院を誘致した。人口が少ないときこそ必要な警察にいたっては、無償で建物を提供して入所してもらった。場所と蔵書を提供して住民のボランティアにより図書館を運営している、等々。

シティーモール等の歩行者動線は、部分オープンの際には、近接して行われる工事動線との交錯がないことは無論のこと、歩行者に不安感や不快感を与えないものでなければならない。

このため、効率の良い動線、開発、施工の順序を吟味しなければならないし、計画中、工事中の場所には、仮設の電灯や、場所によっては植栽やペインティングを施さねばならない。

■景観規制

前述のような住環境を維持するためには、住民の環境意識は無論のこと、これを担保する仕組みが不可欠である。

RICでは街全体に、用途地域等の従来型の規制とは別に、地区計画により用途、壁面後退等さらに踏み込んだ規制を設けて環境維持を図っている。これに加え、戸建て住宅ゾーンでは建築協定を締結し、環境、デザインの細部に及ぶ監視が可能なものとしている。建築協定に関しては、住民が自主運営するのが建前であるが、これからも事業主として、設計者、施工者としてかかわっていくことになるだろう。

おわりに

われわれが営々と創り上げてきた街を、予期せぬ激震（試練）が襲った。阪神間に未曾有の被害をもたらした大地震であったが、我がRICは地盤の液状化もなく、建物の構造的被害も皆無であった。

我が国の権威を集めて、地盤及び建築に検討を重ねてきたこと、そして、その結果を手厚く実行したことによるものと、われわれの真摯な街づくりの志が天に通じた思いである。

地震後、他のどの地域にも先駆けて組織化された住民により、救援、復旧活動がなされてきたことは、われわれがまいた街づくりの種（コミュニティづくり）が花咲き、実を結んだといっても過言ではないと思えるのである。

（やまもと　しげる　積水ハウス株式会社六甲開発事業部設計課長）



写真7　リバーモールと水辺の店舗群



写真8　スカイライン

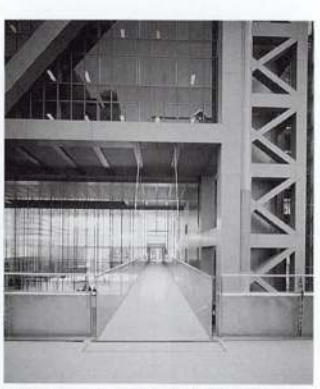


写真9　ビルを貫通するスカイウェイ

「まち」に蓄積された住むかたち

伝統的都心に暮らす

吉村篤一

わが国の都市が、西欧の都市に比べて都心の稠密度が低いのはよく知られていることであり、木造と石造という建築構造の違いにより、1～2階建ての日本の都市と、ほとんどが4～6階建ての西欧の都市とでは基本的に空間構造が違っていたといえる。また西欧の都市の中心部は、ほとんど中世以来の形をそのままの状態で継承して現在に至っている都市が多く、その成り立ちからみても、城壁で囲まれた旧都心地区は、近世以前は外敵の侵入を防ぐための一種の運命共同体的な性格を有していたし、そのためにいわゆる共同体意識も高かったといえる。それゆえ近代以後の人口増によるスプロール化で周辺に広がることはあっても、歴史的都心地区はその都市の特徴がよく表れた居住地域として存在し続けているし、小都市であってもそういった地域に住み続けることが市民としてのステイタスであり、誇りでもあったであろう。また、そういった地域で集まって住むためのルールを永年の間に身につけてきたことも事実である。

わが国の都市の特徴

わが国の都市の場合、特に1950年代以後経済成長とともに爆発的に都市が近代化された時期には、都市の中心地区に住もうという意識はなくなっていた。もともと西欧のような共同体意識が稀薄であったこともあり、集まって住むのは苦手だったのだろう。都市は経済発展の道具として利用され、都心は住む場所ではないといった風潮が蔓延した。大都市は経済成長のおかげで物質的には裕福になったが、都心の居住環境の保全についてはほとんど考えられなかったといっても過言ではない。わが国の多くの都市において、都心が住みにくくなってしまったのはこのような理由によるのであろう。

その結果、都心は働く場所で、住むのは郊外の新興住宅地、といったパターンが一般化し、経済成長により地価が高騰した結果、経済効率の悪い住居は都市から追放されてしまったわけである。すなわち郊外のニュータウンや新興住宅地に住んで都心に働きに出る、といったいわゆる通勤業務体系が一般化してしまい、都心に住むのは特殊な人たちだと思われるようになってしまった。

そういった状況の中で「都市住宅」という雑誌が創刊されたのが1968年。ちょうどわが国の経済が急激に成長し始めた頃で、若い建築家たちの間で話題になっていたが、今から思えば象徴的な出来事であった。中でも東孝光氏の「塔の家」が発表され、世間一般の人たちが郊外の住宅地に住もうとしていた時期に、どうしても都心に住みたいという気持ちが高まった建築家とその家族のための象徴的な住まいであったし、現在もなおほとんどそのときの状態のままで存在し続けている。当時「都市住宅」にとり上げられた住宅はほとんどが独立住宅であり、いわゆる都心地区のものばかりではないが、都市的な要素を備えたものがほとんどであった。この「都市住宅」という言葉のイメージと編集内容が非常に魅力的であったことも、私たち建築に携わる者にとって、都市に住むのは楽しいことなのだ、という考えを定着させたし、また「都市」と「住宅」について興味を抱かせたエポックメーキングな雑誌であった。おそらくそのおかげで都市居住の見直しができたのであり、現在でもなおその影響は十分あるといえる。

町家の継承と創造

ところで、京都の町家も典型的な“都市住宅”であることは周知の通りである。そして京都の都心も他都市と同様郊外の住宅地へ出ていく人が多く、いわゆるドーナツ化現象が続いており、上京、中京、下京といった近世以前から都市を形成していた地域の人口は減少し続けている。そして町家がとり壊され、マンションに建て替わっていくという現象が問題になっている。けれども、それだけに町家の大切さが認識され出し、町家を残そうという機運も高まり、良識ある人たちのあいだでは相当な力となってきていることは間違いない。都心地区のいわゆる田の字型地域*1の内部でも、表通りから一歩中へ入ると静かな住宅街といった雰囲気があり、町家が軒を連ねているところも多い。また西陣地区においても町家の保存再生運動が盛んであり、まだまだ町家の力は衰えていないともいえる。

町家建築は、都市の中で低層高密に住むための空間構成やデザインが何世代も経て洗練され、完成度の高いものになったのである。また個別に建て替えができる独立住宅であり、都市住居としてのルールを守って更新していけば、都市の街区構成はくずれないことになっていた。町家は間口が狭く奥行きの長い短冊型の敷地で、外部環境に接するのは前面道路と裏庭だけであり、隣家に接する部分は壁であるから、光や風を採り入れるためにはその内部に外部空間を設けなければならない。そこで生まれたのが坪庭（中庭）であり、都市型住居の良否は、この小さな外部空間の設け方に左右されるといっても過言ではない*2。現に、京都の町家の連続平面を見ると（図1）、主要な室は必ずいずれかの坪庭に面するよう工夫されていることが分かる。そして道路側も外部と接するための開口部が必要ではあるが、プライバシーを守るための工夫として格子やすだれが考案され、また雨をしのぐために深い軒を出すことになり、陰影のあるファサードを構成することになったのである。

＊1　右図の地域をさす。
＊2　吉村篤一“現代建築における坪庭的空間”、「新坪庭考」INAX出版
＊3　吉村篤一「“地模様”としての建築」、住宅建築、90年8月号
＊4　「町家型共同住宅設計ガイドブック」
　　京都市及び町家型共同住宅研究会編



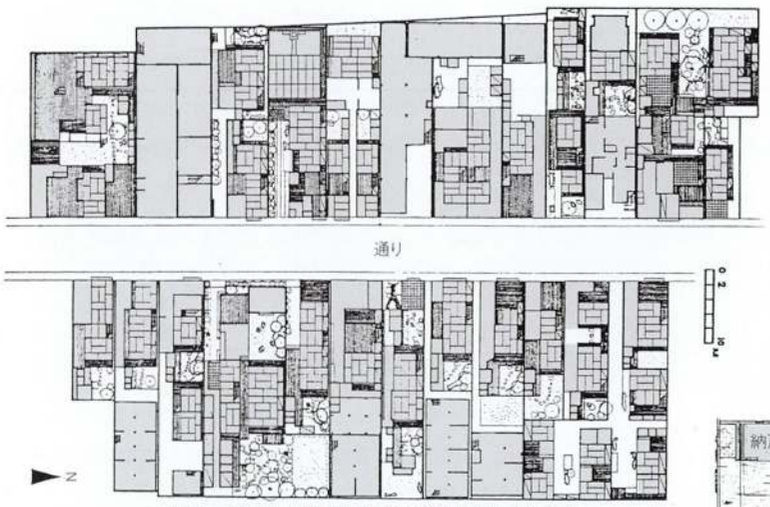


図1　京都、都心部町家街区平面図（1階）
「プロセスアーキテクチュア」No.116より

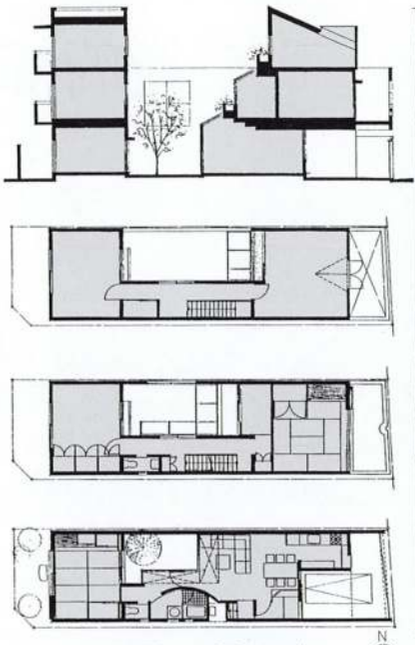


図2　中京の町家
（設計：吉村篤一）

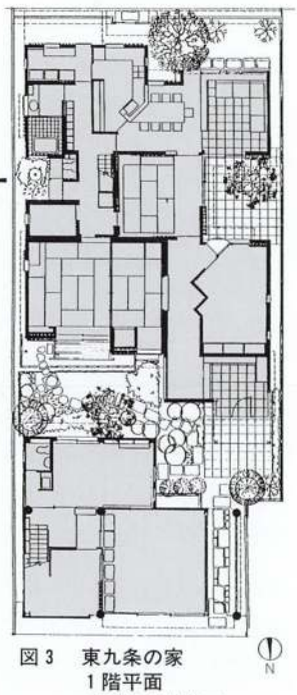


図3　東九条の家
1階平面
（設計：吉村篤一）

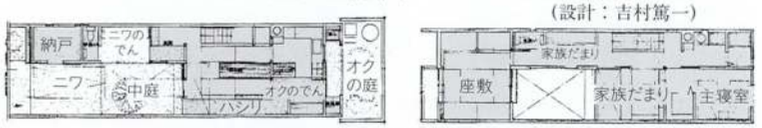


図4　くらしをとりもどす家（設計：DHR委員会）



図5.1　一般型マンションに建て替わった場合の連続立面
「町家街区における集合住宅の計画に関する研究」より



図5.2　町家型共同住宅に建て替わった場合の連続立面
「町家街区における集合住宅の計画に関する研究」より

こういったことはほんの小さなアイデアではあるが、このおかげで京都の都心の住環境が守られ、美しい町並みが形成されてきたわけである。現在、私たちは先人の考えた簡単なアイデアを無視し、新しい技術でカバーしようとして、町並みをくずしてしまったといえよう。私たちはこのような町家の空間構成を継承しながら、現代の都市生活を満足させるため新町家を創造していく必要がある。そうしないと先人の残してくれた遺産をないがしろにしてしまうことになる。多少の困難は伴うかもしれないが、それを乗り越えなければならない。こういった新町家と従来の町家とが混在することにより、新しい京都の町並みが形成され、美しい“地模様”[*3]となっていくはずである。

図2、**3**は坪庭をとり入れた現代町家の例であり、**図4**は京都の町家の良いところを再認識する意味で「くらしをとりもどす家」というテーマで設計された、中庭や通り庭のある新町家の計画案である。現代都市は価値観の違う人たちの集まりである。価値観の多様化する中で、いかに上手に集まって住むか、というテーマだけでも大変であり、その上“伝統的都心”という条件が加わるとさらに難しい問題が生じてくるが、このような現代生活のニーズに応えられる新町家を創造することにより、京都の都心は今よりももっと魅力的な街になる可能性は高い。

町家型共同住宅の提案

町家は、その空間構成において集住のためのいろいろな知恵を結集しているが、あくまでも独立住宅であり、従来の木造は2階建て程度である。一般的には現代都市の都心地区の土地利用からすると効率が悪いし、都心居住を促進するためには中層の共同住宅も必要になってくる。ところが一般的な共同住宅の形態は京都の町家の空間構成とは全く違った発想で建てられるため、街区としては異物が混入した形となってしまっている。現行の建築基準法は京都の都心の町家による街区構成の形態とは関連性がないため、2階建ての町家の隣に6～8階建てのマンションが合法的に建てられてしまうことになり、ビル風や日照の問題が生じ、紛争が絶えないわけである。そこで町家の空間構成を受け継ぎながら、さらに現代的都市居住のニーズに対応した集合住宅を考えてみてはどうか、というのが「町家型共同住宅」の提案の主旨である。

既存の京都の町家街区は、その連続平面から推測すると建ぺい率80%、容積率120%程度であり、現代都市の土地利用からすれば低すぎる面があり、4～5層の共同住宅の必要性も生じてくる。そして既存の町家や建て替わった新町家、さらに数戸がまとまって建て替わった中層の共同住宅が混在していくことになろう。その際「町家

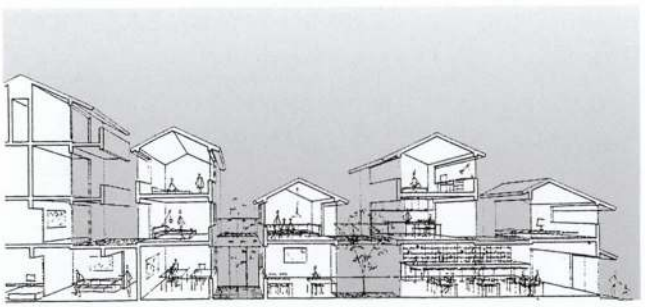


図6
立体坪庭のイメージ
「町家型共同住宅ガイドブック」より



図7　町家型共同住宅試設計イメージ図「町家型共同住宅ガイドブック」より



図8
北野洛邑館
2階平面図
（設計：吉村篤一）



図9　北野洛邑館正面

型共同住宅」を導入すれば、都心のマンション問題はある程度解決できる可能性がある（図5.1〜2）。立体坪庭や立体街路を導入するなどして、新しい集合住宅を創造していく（図6）ことが、京都の都心居住を促進するための方策であろう。

「町家型共同住宅」はもちろん現代建築であるから、従来の町家の形態をそのまま踏襲した“町家のような形をした”共同住宅ではない。あくまでも現代の時代精神を反映し、かつ都市居住のニーズに対応しながら、さらに新しい生活様式にもマッチしなければならない。町並みづくりにも積極的に参加し、新しい入居者も、従来のお町内の人たちとも容易におつきあいのできる空間構造を有することも必要である。それは新しい「家」と「みち」との関係をつくる立体路地であったり、従来の町家建築が仕事場共存の併用住宅であったことの継承による、地域のにぎわいをもたらすための商住の複合化をすすめる（図7）ことなどで対応できるであろう。また現代では避けて通れないくるまの問題があり、「くるま社会」に対応することも必要な条件となる。

京都市では、このような「町家型共同住宅」を推進するためにガイドブックを作成し*4、一般市民にも理解を深めてもらうとともに専門家には共同住宅を計画する際の手引きにしてもらおうとしている。またこのような共同住宅は、京都市のような歴史都市だけにとどまらず、これからの都市の都心居住における空間デザインのあり方として、ひとつの方向性を示唆しているといえよう。

最後に、実際にこのガイドブックの指針にもとづいて実現した町家型共同住宅を紹介しておきたい。これは京都の上七軒というお茶屋街の中にできたもので、12戸の住戸と2軒の店舗を含んでいる。コンクリート打ち放しの日本瓦葺きで5階建て（図8、9）の集合住宅であるが、お茶屋街の町並みに調和するおだやかなデザインで、上七軒の通りから見ても違和感なく納まっている。これは軒線をそろえたことにもよるが、街区を構成する一単位である町家の規模を守りながら全体の構成を行ったことにもよるといえる。また内部には中庭を設け、その中庭を中心にして各住戸が配置されていたり、ささやかな路地空間も設けられている。

*

都心に集まって住むには、何らかのルールが必要であるにせよ、いろいろな障害もあるので、先人の知恵を継承しながら新しい工夫を加えることによって、それらを乗り越えていくことは可能なはずである。新しい世紀はすぐそこまで来ているが、こういった新しい形態の共同住宅を開発しながら、既存の町並みとの共存した街区が形成されていく時代になることを期待したいものである。

（よしむら　とくいち　建築家、建築環境研究所主宰）

「まち」に蓄積された住むかたち

平面的モザイクから立体的モザイクまで

中田　誠

密集市街地空間のエントロピー的認識

大阪のＪＲ環状線外回り電車に乗って、線路外側に広がる市街地景観を眺めていると、このような錯覚を覚えることがしばしばある。つまり高低・大小さまざまな建物群が、あたかも熱帯雨林のごとく見えてくるのである。確かに、熱帯雨林は多種多様な生物種が少しずつ密集して環境を形成しているといわれ、見事なモザイク的生態であると考えられる。一方、寒帯林では少数の針葉樹種を中心に比較的単調な生態をなすといわれている。このような生態の違いは、生物に与える環境の拘束条件の強弱によっておこる。つまり、寒冷な地域では自然条件が厳しくて生存発達の可能性が限定されている一方、熱帯では水や太陽光が豊かにあり生物発達の拘束条件がゆるいため生物が確保できるそれぞれの環境テリトリーが膨大であるということらしい。郊外住宅地はさしずめ寒帯林といったところか。ともかく、密集市街地を熱帯雨林に見立てることを手掛かりに、市街地を何か新たに見る方法がないだろうかというのが拙稿の意図である。

このような、自然環境を都市環境と比較なぞらえることにはもとより無理がある。典型的な自然景観は安定的な極相（クライマックス）を示しているのに対し、都市景観は経済活動や都市集中への変化の中にあるからである。これまでの都市は、急激な経済成長に伴う公共投資、都市人口の急増、地価高騰等、都市形成の環境条件が安定していなかったと言えよう。しかしながら、経済の低成長や土地需要の緩和、都市人口の安定、公共投資のカットなど昨今の我が国の都市形成の環境条件は、比較的安定したものになってゆくであろう、と考えれば都市環境もある極相を呈し始めるのではなかろうか。そして、現在の密集市街地がすでに極相に近い都市環境に達しているというのが、わたしの予測である。

密集市街地の環境条件

モザイクとしての密集市街地空間が極相に近いと考える訳は、以下のいくつかの点からである。

■土地の利用容積

密集住宅地を歩くと直ぐに気づくことに、宅地の容積率や建ぺい率以上に土地利用されているらしいことである。道路幅員や公園の不足を考えると、実効上の土地利用はさらに高い。密集市街地での共同建て替えを検討すると、従後の戸数が大幅に減ることは常識である。阪神大震災で倒壊した住宅の再建が進まない理由の一つに、合法的には従前の床が確保されないことにある。しかし、建物利用の実態は、老朽化や接道の不便などから空き家等が常に一定程度用意されており、新たな参入者や用途転換の自由度を担保しているとも考えられる。

■土地の利用用途

密集住宅地の土地利用は、多くは長屋や文化住宅などの住居系であるが、そのほかにもさまざまな利用がされている。工場、商店、倉庫、農地などなど。空地は放置されたままのものや駐車場になったりもしている。個々の敷地利用は変遷してゆくが、総体としてすべての利用形態が等価のごとく見えてくる。用途地域の上でも、準工業地域など規制の緩い指定が、将来的方向性を強制的に与えていない。

■土地権利の細分化

密集市街地の建て替えの促進のために、まず種地を確保して移転者用の受け皿住宅を確保するのが定石と考えられている。しかし、そのような方策を取ろうとしても、容易にまとまった空き地や遊休化しそうな工場を探すことが困難である。小さな共同化を図ろうと隣接する数戸を合わせても、敷地面積のまとまりにはなりにくい。長屋や文化住宅なら敷地面積の上では一定の規模を確保できるところであるが、土地の細分化とともに権利の細分化が進んでいて、状況は小規模住宅地以上に複雑である。このような状況は、もともと投資・購入しやすく小規模につくられたものが、相続や権利売買の結果、さらに細分化が進んだ結果である。これらの細分化は、権利の取得や処分、さらには地域への参入・転出を容易にすることに作用すると考えられる。

■地価の形成

このような小規模敷地の地価は割高になりやすい。その上、指定の容積・建ぺいを超えて建てられているとさらに高い評価になってしまう。というのも不動産取引では、基準法の適否は決定的な障害ではないからである。また権利が重複した物件では、権利者それぞれが自己の権利を高く評価しがちである。このように地価的に過開発な状況では、外部からの投資なしにはさらなる開発は困難である。

エネルギー的に独立した世界で、安定的な平衡状態に達するとき熱力学ではエントロピーの増加の結果「熱死（ヒートデス）」に達したと学んだ記憶があるが、ある意味では密集市街地はこの熱力学の世界に近いと言えるのではなかろうか。中心市街地のように公共投資や旺盛な経済活動もなく、郊外住宅地のように厳格な開発規制のない密集市街地は、マクロに見れば熱的に閉鎖された平衡世界であり、ミクロに見ればランダムな相互運動を行っているのである。それを一方の見方からすると、極相であると考えられよう。

密集市街地がこのような世界であるとすれば、道路整備や街路景観の秩序を与えるためには自らの変化はなかなか望みようもなく、

外部からのエネルギー（補助金や公共投資）は不可欠であることが、了解されるだろう。

立体的モザイクへ

高密でモザイク的な密集市街地の更新プロジェクトは、各市各地区で検討・実施されてきているが、その整備の考え方、方法論は単一ではない。その地区ごとの状況に合わせた方法をそれぞれ探っているのが実態である。とはいえ、大きく３つの考え方に分けられるのではなかろうか。

①少数の権利者の比較的広い土地を種地に、一定量の住宅等を比較的短時間で整備するもの

②可能性の高い地区を定め、マスタープランを描き小規模な開発を連鎖的に連続させてゆくもの

③複数の隣接権利者が敷地の共同化を図り、区分所有の建物を市街地の中に点的に建設するもの

市街地空間の乱雑さ（エントロピー）は①～③の順に高くなる。①②は条件的によほど恵まれた地区でないと考えられず、今後は、いきおい③の方法をどのように支援できるかが、課題になってくるだろう。震災により周辺一帯が倒壊した場合でも、共同化は極めて困難であるからだ。さて、③により市街地の土地利用の乱雑さは低くなったといえるが、土地の権利は住棟の各室にそれぞれ変換される。平面的モザイクが立体的モザイクに変換された訳である。建物の不燃化・街路景観整備といった物的変化がおこる反面、モザイク的構造には大きく変化を及ぼさないといった解釈も可能であろう。

具体的事例から

①門真市朝日町地区（カルチェ・ダムール）

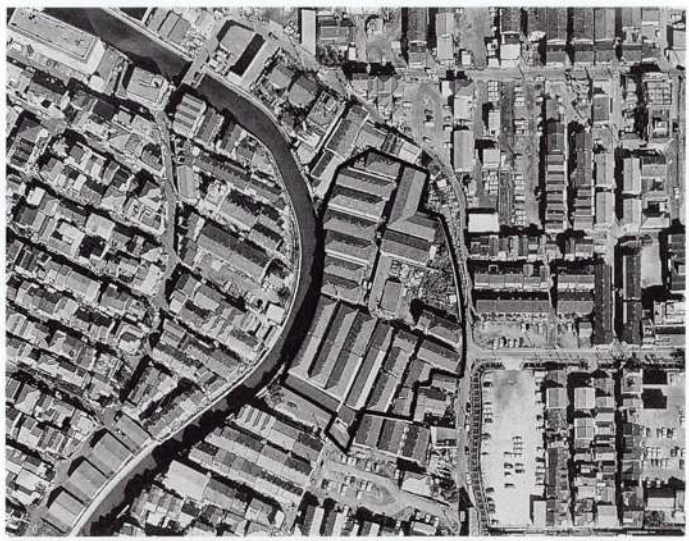
所　在　地　大阪府門真市朝日町１－１他

事 業 区 域　7,416㎡〈権利者８名〉

従前従後戸数　253戸／136戸

整 備 状 況　完了（平成２年10月）

当地区は、次に述べる東大利地区とほぼ同時期に府・市を中心に検討が進められた。規模は東大利地区とほぼ同一であるが、ここの特徴は、比較的少数の権利者による同時期整備にあるだろう。道路公園の整備により200%近い容積確保が可能になっている。数値的指標は持ち得ていないが、エントロピーの低下量は、３例中最大であろう。規模・権利者・地区形状のまとまり等好条件にも恵まれた事例である。今後の住宅需要から見て、一時期のまとまった供給は徐々に困難になることが予測され、残念ながら密集市街地の中に発生しにくいパターンであろう。



▲図１　門真市朝日町地区の従前区域図

▼図２　整備後配置図



②寝屋川東大利地区

所　在　地　大阪府寝屋川市東大利町342－１他

事 業 区 域　約7,100㎡〈権利者36名→（11名）〉

従前従後戸数　399戸／140戸

整 備 状 況　ほぼ完了

当地区の特徴は、地区内の道路網を補強しながら事業化可能な小ブロックごとに事業を進めていった点にある。小規模連鎖型整備の典型であろう。現在５ブロック中４ブロックが完成しているが、その間、建設は10年を超えようとしている。既存の道路網に従った小規模ブロックのためか、容積率は150%程度にとどまっている。ブロックごとの整備のため、デザイン的調整は図りつつも適度な変化が街並みにもたらされている。また住宅需要の点でも周辺の木賃住宅家賃水準より明らかに高くなるとはいえ、需要量に見合った段階的入居が図れていると考えられる。



◀図3
寝屋川市東大利地区
の従前区域図
(昭和61年当時)



図5
長田区H町の
従前区域図

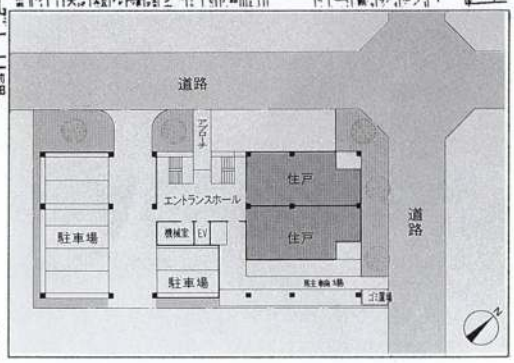
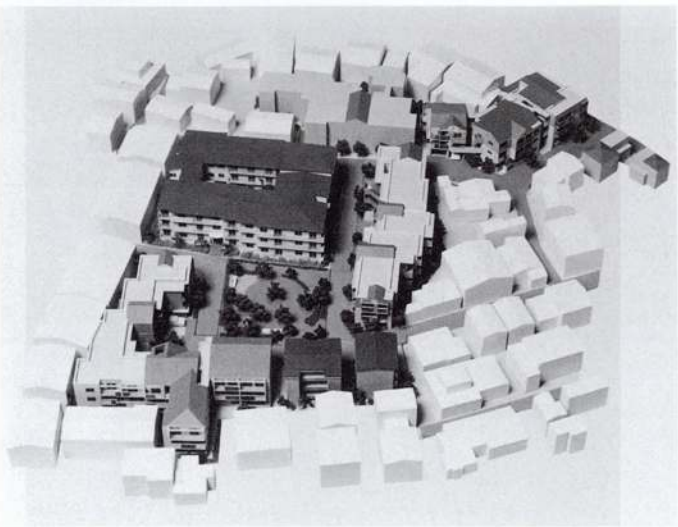


図6
長田区H町の
配置予定図

▼図4 整備模型図



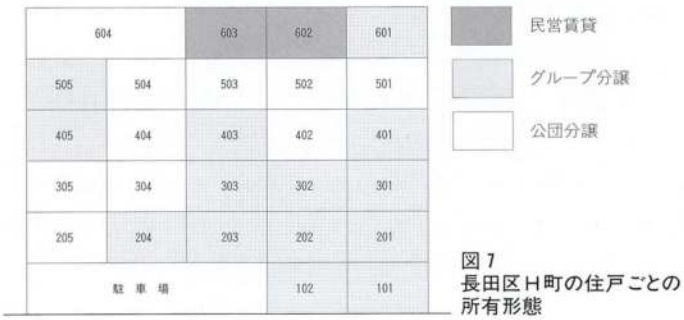


図7
長田区H町の住戸ごとの
所有形態

③長田区H町地区

所　在　地　神戸市長田区H町

事業区域　650㎡〈権利者14名〉

従前従後戸数　15戸／26戸

整備状況　事業計画策定中

当地区は、阪神大震災で倒壊焼失した長田区の区画整理地区内の共同建て替えの検討地区である。共同化再建の希望調査に基づき集約換地を受けた権利者14名と公団が、コーポラティブ住宅と等価交換の手法により事業検討を行っている。区画整理により道路整備が進められるため、街区の整序は大幅に向上し、これにより容積率の向上（戸数増）と立体的な混在（モザイク）が生じたと見える。エントロピーの平衡移動という側面も有しているだろう。隣どうしの共同化は、困難が多いとはいえ潜在的な需要は高く、事業推進のための支援と混在を運営してゆく文化的蓄積が不可欠である。

以上見てきたように、3つの手法はそれぞれ個別のものであり、いずれかに収斂してゆくものでもない。また、これらの事業が発生する頻度は個別整備に比してはるかに小さい。いわば、密集市街地の中でのそれぞれのモザイクであるとは考えられまいか。しかしわずかな点ではあるが、市街地を魅力的にしてゆくことのできる重要なモザイク要素として考えるべきであろう。

おわりに

モザイクという言葉に触発されて、日頃ぼんやり思っていたことを一気呵成に書き連ねることとなった。当初与えられた題は「高密度に暮らす」であったが、少しねらいの外れた内容になったかも知れない。しかし、密集市街地はすでに高密なモザイク構造を有しており、今後大きな構造的変化がおこらないと考えるならば、そのモザイク構造をとらえつつ、より豊かな市街地空間を形成してゆけるのは、むしろこれからの時代ではないか、とも思っている。デザイン的な分析には至らなかったが、密集市街地へのまなざしの一例を提起することで、これに替えさせていただいた。

（なかた　まこと　住宅・都市整備公団関西支社住宅市街地部建築課）

「まち」に蓄積された住むかたち

混在地における住工共生のデザイン

北條蓮英

震災をバネにした工場リニューアル

最近、西淀川区佃にある木材工場を伺う機会があった。阪神淡路大震災後、工場の建て替えとあわせて緑化したという。

「この一帯は、大阪市内でも被害がひどく、地盤が液状化し敷地はでこぼこになった」と、S社長は生々しい写真を見せながら語った。「昭和40年代に建て替えした工場は20度ほど傾いてジャッキアップ工法で起こし、本社屋は全壊したため建て替えを行い、同時に緑化することにした」「緑化の動機は、かつて当社敷地の道路側に幅1m程度の緑地があり、サツキが咲き、通行する人をほっとさせていた。ところが最近、周辺にマンションが建ち、人通りが増えて道路を少し広げるため、残念ながらこの緑地が撤去されてしまった。この顛末をある会合で区長に話すと、緑化をすると事業費の1/2以内で、200万円まで補助してくれる制度を教えてくれた」。つまり、S社長の原風景意識は、助成制度がインセンティブとなって顕在化、具現化したといえる。

「建て替えにより変わったことは？」「そうですね」と、少し間をおいてから語り出した。「中途採用の新聞広告をうったところ、わずか2名の募集に対して70名からの問い合わせがあり、震災前の状況とは様変わり。尼崎方面のカネヘン関係がよっぽど悪いとみえて、大勢来た。理由はそれだけではなく、工場リニューアルのせいと思う。というのは、従来、面接に来ても会社の入口付近をうろうろしてから帰ってしまうのが多かった。歩留まり半分と言われるが、今回は50名弱、7割の方が面接を受けた。これには驚いた」「それはすごい。街の中の工場も、働き手の労働環境や周りの住環境と共存することが今や常識になってきた感がありますね」。



歩道沿い緑化と夕陽に美しい建物外観で街に潤いを醸した木材工場本社（大阪市西淀川区）

「無秩序混在」から「秩序ある住工共存・調和」へ

この例は、震災が直接的契機となっているが、近年、都市内の住工混在地に立地する中小企業が、建て替えや立体化等のリニューアルとあわせて緑化、工場外壁の美装化などを行う例が増えている。

大阪市でも、平成5年度から工場内部や外的環境の快適化を進めた企業に対する表彰制度を実施し、平成8年度末現在で計19社を表彰した。

従来、都市内立地の工場というと、公害問題の元凶とみなして、都市内部から追い出し、郊外か臨海部や地方都市に移転促進する手法がとられてきた。しかし、この四半世紀の間に、この考え方は大きく軌道修正せざるを得なくなった。

公害対策の進展、環境意識の高まり、産業構造のリストラ等を背景として、中小企業も独自技術の展開、高付加価値化の努力を重ねてきた。都市内で立地継続していこうとする（あるいは、せざるを得ない）中小工場は住工共存・調和を前提に都市との共生を図るのがむしろ道理といえよう。それに、市民の雇用確保、二次産業と三次産業とのバランスある持続的成長といった「都市の成長管理」の観点からみても、住工の「無秩序な混在」を回避して、「秩序ある共存・調和」を指向するのが時代のトレンドになっているといえる。



住工混在地に対し刺激的で思い切ったデザインの建築金物工場（大阪市平野区）

中小企業の工場空間のメタボリズム

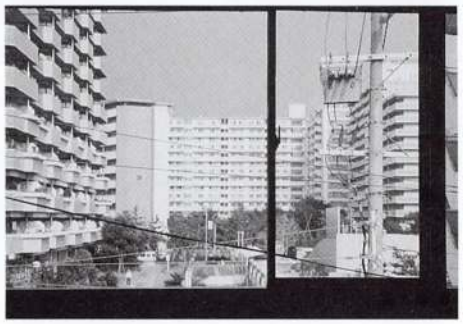
地域社会において住工が共存していくには、とりわけ、工場サイドの努力や負担に依存するところが大きい。それは、住と工との人間的関係（ヒューマン・リレーション）、つまり、それぞれの暮らしの場において相互の気配りの土壌が形成されているかどうかにかかっている。やや大袈裟にいえば、工場（経営者）が地域社会とどう付き合ってきたかの履歴とも関係している。また、その背景として企業が取り扱う生産品目等の業種や生産工程、経営基盤と経営戦略のほか、経営者の住居観、住環境を配慮した設備のレイアウトができる敷地条件（規模と形状）かどうかによっても異なる。

プラスチック金型製作のF製作所は、終戦直後此花区高見町にて創業し、半世紀になる。時代の変化に即応しながら技術の特化を図

りつつ、周辺の土地利用変化の中で住工共生を進めてきたといえる。量産部門を地方（岡山県）に移転し、当該大阪工場は敷地 826㎡、従業員20人程度と小規模ながら、ギア関連、弱電ＯＡ、試作生産部門にシフトする役割分担を図っている。



▲前面道路からセットバックによる植栽と大きな窓で開放感のある金型製作工場
（大阪市此花区）



▶
工場２階会議室から遠望できる高見フローラルタウンの町並み

当工場の立地推移を聞くと、大阪内立地の中小企業の立地基盤の確保に対する苦労が実によくわかる。すなわち昭和21年、自宅を改造し、１階は旋盤を設置して作業場に、２階を住居とする典型的な町工場から出発した。戦後復興の中で、昭和27年に住宅は従前のままで、近接地にたまたま取得できた農地に工場を移転した（これが現在地）。昭和40年頃、工場隣接地を取得して作業場を増築拡張、さらに、昭和45年頃その西隣に倉庫用地を取得した。

このように、敷地を順次拡大していったため、工場のレイアウトは、必ずしも効率的とはいえないが、制約の多い中で、敷地の有効利用の工夫をしている。昭和50年代後半、隣接地のラサ工業の移転が具体化し、その跡地を拠点に、周辺の土地利用転換によるまちづくり（高見フローラルタウン）が計画された。当該工場主の住宅も道路用地にかかり、その事業に協力して住宅を移転することになり、倉庫隣接地に建設した。平成８年、最も古い建物（設計室、事務所）の建て替えを実施し、作業空間の労働環境のクリーン化を図る一方、工場の隣接地に広がる高見フローラルタウンの街並みとの調和にも配慮している。また、金型製作という生産工程の性質上、音や粉塵は全く発生していないが、放電加工は電波障害の影響を与えることから、工場の建て替えに際しては、その対策として工場内壁に亜鉛引き鉄板で防御（シールド）している。

住工共存と事業主住宅の立地

自営は、併用住宅から出発することが多い。これが成長すると、工場を移転するか事業主住宅を移転して、工場に転換する。経済成長期には、受注増や経営規模の拡大に伴い工場空間の拡張ニーズが起こる。隣接地の取得だけでなく、手近に取得できる用地を求めて敷地をタコ足的に拡大していくのが通例である。先のＦ製作所の場合は、大阪市の市街化発展の波の前兆期にあたったことが幸いした。中小企業では親元、得意先、関連企業との関係から、いきなり地方へは移転できない。せいぜいでも都市内部か、縁辺部に用地を求める。創業の古い事業所で中心部付近に立地していたのが、昭和30～40年代に市内周辺部や府下に拡大している。移転当時は未市街地であったところが、その後の宅地化により住工混在化した地域が少なくない。加えて、宅地化による地価上昇、固定資産税等のコストアップ等、中小企業にとって経営環境や立地環境が不利化する。

一方、近年の時代の変化により工場閉鎖、用途転換による縮小型の新陳代謝が見られる。都市計画道路や地下鉄、高速鉄道の整備により、立地条件が大きく変化してくると、都市内部での工場生産よりもマンションなど用途転換等の土地経営指向が生まれてくるのも、これまた必然である。新たな住工混在化が懸念される。



手入れが行き届いた事業主住宅の庭の緑と併存した建築金物工場
（大阪市平野区）

こうした企業の生き様としての新陳代謝の中で、事業主住宅を工場との関係でどこに立地させているかにより、住工共存の評価が変わりうる。併用住宅はむろん、事業主住宅が工場敷地内もしくは、工場地に近接して立地している場合、そこに中小企業と地域社会との接点が生まれる。この接点が、住工共存の条件になりうる可能性が高いといえる。

事業主住宅が工場と近接していることのメリットとしては、経営面では工場管理上好都合とみられること（夜間管理は、警備会社委託の場合が多いが、緊急時の対応には近接居住が有効）のほか、「町

内会の方々と日頃から接触を保つことで、住民意向を事前に察知して、必要な対応策をできるだけ早く講じることができる。問題が大きくなってからでは対応のエネルギーも費用も大きくなり、手遅れになる」、とF製作所社長は地域社会との共生の効果を指摘する。

高度・有効利用による展開



中間階も加工工場や駐車場にし、上階層は事務営業部門とし、屋上庭園を備えた8階建ての立体工場（大阪府浪速区）

高地価、窮屈な敷地等のコストアップ要因に対する企業側の対応としては、土地の高度・有効利用を進めるしかない。高度成長時代は敷地を目いっぱい使用していたのが、近年の量的生産の縮小、高付加化による工場空間の遊休化等が生じて敷地内部に余裕が出た場合や、生産設備の特性から容積率が高く使えないような場合、高い土地コストを吸収する手法として、工場地の高度利用が課題となる。工場以外の設計部門、事務部門、厚生福利部門の立体化、軽量設備による作業空間の多層化や、駐車場等の非住宅を併存させた対応がある。

冒頭で紹介した木材工場は、製材機能の外部化に伴い倉庫が不要となり、そこを立体駐車場に転換するといった有効利用を図っている。また、上記写真の例では、工場空間を多層化し、あわせて内部空間の物流動線の自動化（倉庫自動ラック化）を図ることにより、必要な原材料を短時間で作業場に取り出すシステムを導入し、工場全体の情報化を図っている。

東京圏（東京都大田区）では、工場施設の上部空間を活用して賃貸住宅を併存させている例は多い。

地区レベルでの住工共存の展開

住工共存に対する、工場サイドのとりうるメニュー例を挙げる。

●空間的処理。工場天井高を高くする。空気抜きによる騒音の軽減。荷捌き場所を敷地内に確保。地盤を砂利敷で隣接地と縁切。

●緑化。前面道路側の緑化、工場外壁のデザイン化。

●設備機械を隣接住宅から離すレイアウト上の工夫。モノの移動はクレーンを使用（クレーン台車を金属製からウレタン製に）。内壁に防音防振断熱材使用。

●建物構造を鉄筋に。外壁にALC版。開口部を狭く、気密性サッシの使用。

●作業場に冷暖房設備を設置。スポットクーラー設置等々。

こうした個別対応メニューは、地区レベルにおける住工共存のまちづくりの中で展開していくと、より大きな相乗効果が期待できる。

地区レベルの住工共存の手法としては、都市計画制度では以前から特別工業地区制度がある。これは、伝統産業や地場産業の集積地区において多くの適用実績がある。例えば、京都の伝統産業・西陣地区では、住居地域内における零細生業層の立地保護・育成の観点から、作業場面積は用途地域の制限基準と同じとしながらも、織機は3台まで使えるように原動機出力の緩和を図る一方、周りへの騒音防止策として建物構造、開口部の制限を強化している。

一般に、大都市の住工混在地では、業種が多岐に及ぶため、特定業種の集まる地場産業地区のような適用はできにくい。そこで発想されたのは、まちづくり活動を通じて地区計画制度を活用する試みである。神戸市真野地区では、まちづくりルールの合意の上で、準工業地域でも住居地域並みの工場制限をしたり、逆に、工業地域では、操業環境を保全する主旨から共同住宅の立地規制を図ろうとする地区計画を定めて、住工共生を図ろうとしている。

以上のような規制手法のほか、操業環境の低下、立地基盤の悪化に直面している中小企業に対して、モノづくり創造拠点を整備する方策が課題とされる。大阪市では、中小工場が安心して操業できる生産拠点の整備を図る手法として、CIT（都市型中小工場団地）事業がある。時期はやや古いが、第一号は、内陸部の数少ない工業専用地域内の平野区加美地区で実施した。計画上の仕掛けとしては、敷地の外周は都市計画道路があるが、これを直接サービス道路とせずに、工場の荷捌き動線は、団地内部で解決するクローズドシステムとする。また、その歩道の安全、快適性を確保するため、道路側の敷地境界に幅員1mの緑地帯を設ける。敷地内部において建物の壁面後退をする。これらを担保するため建築協定を結んでいる。

（ほうじょう　れんえい　株式会社アーバン・プランニング研究所代表取締役、工学博士）

「まち」に蓄積された住むかたち

増殖する生活の場

遠藤剛生

今回の企画全体のテーマは「モザイク都市の住むかたち」であり、その主意書に示された現状の日本の都市に対する認識は、①欧米諸都市のような独自性と個々の都市の目指す方向が見えない日本の都市、②様相の異なる「まち」がモザイク状に拡がる今日の都市、③その市街地も部分ごとにまとめられる再開発手法によって更新されている都市、等である。このような都市の中で住むかたちを確認し、モザイク都市の環境デザインを考えようという企画である。

私に与えられたテーマは「増殖する生活の場」であるが、このテーマの根底になければならない基本的な考え方は、現状の都市の良い部分も悪い部分も含めそのすべてを認め、そこから「まち」づくりを行うことだと理解している。しかし、一方ではモザイク都市の環境デザインというフレーズの含む意味は、今も数多く進められている周辺の環境の悪い部分を否定して、いや、もしかするとモダニズムの価値観によって過去のすべてを否定して、まずモザイク都市ありき、そのモザイク都市を前提とした環境デザインに対する考え方と手法を模索するという考え方かも知れない。もしそうだとするならば、論は大きく二つに分かれてしまうのかも知れない。

私に与えられたサスティナブルな街づくりをイメージするテーマと、全体のテーマであるモザイク都市のあり方とは相矛盾する考え方であり、同時平行的に進む他の人たちの論文との関係が食い違うのか、それともつながるのか、原稿を書きながらそのことに非常に興味を抱いている。

このことは何も嫌味や生意気で言っているのではなく、事ほどさように今日の都市づくりに対する価値観は多様であり、実体的にはその考え方から生まれる一つひとつのエレメントによって都市が構成されている。すなわち、やっぱりモザイクなのか、それとも関係性のデザインなのか？　このような企画の俎上にのせられた自分自身にも非常に興味がわいてくる。

日本の都市の課題

日本の都市の歴史を、誤解を恐れず概観すると、かつて日本の都市は木造中心の建築によって構成されていた。そこへ明治以後、レンガ造を中心とするヨーロッパ文化の中で育った様式の建築が輸入され、かつての木造の街づくり、空間の形式、形態等ことごとく否定され、二つの価値観から生まれた新旧の建築が混在した。戦後モダニズムの考え方は、場所の特性も生活習慣も空間の構造も否定した抽象的な考え方であり、そこから生まれた建築によって、これらすべてが再度否定された。この三つの考え方から生まれたエレメントが三重になったものが今日の都市の姿である。

このように歴史の流れは、常に過去の都市と建築を否定することによって更新されてきた。それでもなお、今後も過去の建築や社会を否定し続けるのか、それとも例えば貧しい時代の建築は貧しいなりにその時代の総体を表しているし、また豊かだった時代も同様である。その縦軸の時間によって積み重ねられた日本の都市の歴史も、横軸に広がる今日の都市をも評価し、実在の都市のその上に、新しい計画を連続させようと考えるのか、今そのことが問われている。都市は人と物によって構成されているが、人すなわち都市の生活や習慣を含む社会そのもののあり様も縦軸、横軸で捉え、それらのすべてを連続させようとする意識があるのか無いのか、今そのことも合わせて問われている。

日本の都市に欧米の都市のような独自の形が見えないのは、この過去を否定し続けたことにより都市の重層性が消え、その規範が見えなくなったことから生まれている。例えばローマは2000年の歴史が重層し、時代が連続し、街のコンテクストが生まれている。かつてジェノバの街で経験したことだが、経済性と合理性を追求し、ベイエリアと背後の街との間に日本の街同様に高架の高速道路を建設したが、街は高速道路によって二つに分断された。今この街では、長い時間と多くの人々の生活の重層によって生まれた街の良さと、この街の100年の計を考えたときに、高架道路はこの街にふさわしくないという理由によって、地下埋設型に更新するという。市民は自分たちの街を深く考え、機が熟したときに考え方の間違っていた部分を更新する。この価値観こそが街を育て続ける考え方だと思っている。また、ボストンにおいても、スカイスクレーパーが林立するボストンの街よりも、オールドタウンの路地や溜まりのあるヒューマンな街の空間構造と低い建物によって構成される街こそがボストンにふさわしいという理由によって、超高層建築を禁止し、高架道路は今解体されている。その高架道路の跡には帯状の公園が計画されている。この計画の魅力は、かつて失敗した計画の跡地までも歴史的な遺産として価値化してしまい、一つの街の物語りとして再構成してしまうしたたかさであり、そのことに舌をまいてしまう。

何も日本の街が悪くて、欧米の街が良いと言っているのではない。増殖する街づくりの価値観とはこのようなものだし、果敢にトライアルする姿勢に人間の英知を感ずるのである。

開放系計画手法

私自身が最近かかわったいくつかの計画事例を引きながら、具体的に「増殖する生活の場」をつくり出す計画の手法をここに紹介したいと考えている。

■古市団地

まず第一に大阪市営古市団地であるが、この計画は指名コンペに



古い団地で育った
緑のある風景
（関目団地）

よって、古い団地を更新しようとする例である。この団地は久米権久郎氏によって昭和28年に計画された団地であるが、当時はまだいわゆる戦後のニュータウンが建設される直前の時期であり、数を追求する時代の走りではあっただろうが、その計画から、建築家の社会に対して果たすべき役割は何かということを教えられた。計画の内容は住棟配置にも、人々の生活の視点や景観的な視点から捉えても、見事な群建築の空間が構成されている。その後数多く生まれる日本の公営住宅団地と比較しても、その空間の構成、個別的な空間の集合から生まれる多様な生活空間のあり様、住棟のバラエティー、住戸ユニットの多様さ等、すべてにわたって優れており、戦後日本の公営住宅の教科書になった団地である。

この団地に一歩足を踏み入れると、大都市の真ん中にこんな心地よい空間があったのかと、驚いてしまう。本来、中層の公営住宅の共用空間は、個人が自由に使用できないルールになっている。しかし庭にはトウモロコシやズイキイモ、カイワレ大根や、なすびやきゅうりなど畑仕事の好きな人々が集まって、野菜をつくり日常生活を楽しんでいる。また専用庭のある住棟では、柿やミカン、ナツメなどを育て自分の住まいの前を個別化し、四季の変化を楽しみながら生活者みんなで自分たちの環境を育てている。かつて計画者が考えた生活領域を越えて、40年にわたって育てた自分たちのルールによって領域の再構成を行っている。

このような生活の実態を観察し、新しい計画の中にこの日常生活の心地よさを盛り込みたいと考えながら提案を行った。具体的には22の提案という形で計画をまとめたが、その主な柱は、

①古い団地の道路を再活用する。この団地に住む人たちのみならず、この地域の人々にとっても日常の中に組み込まれている通学や買い物などで通る日常生活の道である。

②古くから育った緑を再活用する。今まで見なれ親しんだヒマラヤ杉や桜の木などを新しい計画の中に蘇らせ、ここを故郷と考えている人たちの心に残る風景の一つひとつを継承しようと考えた。

③屋上に菜園をつくる。かつて、クラインガルテン的な活用がなされていた共用空間と比較すると、葱や玉葱を植えていた畑も規模が小さくなり、4階のルーフストリートに位置を変えてしまったが、新しい計画の中に土いじりのできる場所を用意した。

④久米思想を継承発展する。住棟の構成も幾何学的な空間構成によらず、かつて計画されていた稲穂型の有機的な住棟配置に学び、新しい計画に蘇らせ、軸線は変化し、スカイラインも低・中・高層の混在により、エネルギーを感じさせない日常の風景にしようと考えている。

この22の要素を盛り込み、新旧の団地は形態的には全く変わってしまうが、この団地が育ててきた人々の生活に対する思いをつなぐ提案を行った。

■関目団地

古市団地から北にブロックをひとつ越したところに、公団関目団地がある。この団地もかつての団地内道路や育った緑を活用し、竣工して1～2年の団地ではかつて目にしなかった風景が生まれ、地域の人々の心をつなぐ落ち着いたたたずまいになっている。

■香里団地

次にもう一つ、かつて東洋一のニュータウンといわれた香里団地だが、計画から35年以上の歳月を経て、更新される時期に至っている。大阪市の古市団地、住宅・都市整備公団の関目団地はおのおの戦後日本の住宅づくりに多大な影響を与え、重要な位置づけにある団地だったが、香里団地はそれ以上に、その後の日本の集合住宅を中心とする街づくりに果たした役割は大きく、この歴史的な団地が今、更新の第1期をスタートしようとしている。

この計画も古市、関目同様に、かつての育った自然的、社会的環境を大切にし、生活と景観の連続性を計りながら、新たに今日の時代の精神と建築のあり様とを加え、なおその上に厳しい現実をも加えて新しい街に生まれ変わり始めている。

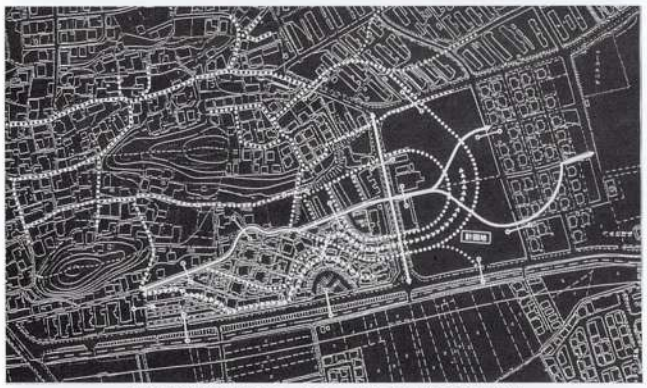
かつて山中の小さな水田群だったと思われる地形や、山の尾根の部分、谷の部分等を今に残しているが、このニュータウン用地全体は戦時中、軍の施設用地として利用されていた。その後新しい住宅団地として生まれ変わった歴史がある。その旧団地の計画時に自然の地形を残すべく大造成を加えないで計画された団地である。その複雑な地形のアンジュレーションや、昔のままの残っている雑木林等を大切にし、またニュータウンが計画されたときに植えられた緑や、そのとき旧地形をきめ細かく読みながら造成された地形、道路や広場、並木や小川など土地の履歴を大切にしながら、新しい計画の中に組み込もうと考えられている。このニュータウンも外部の街との関係は閉ざされた関係になっているが、新しい計画では外に向かって開かれた連続一体的な街が良いと考えている。

■中庄団地

岡山県営中庄団地の第3期計画では、もっと積極的に周辺の街並みに対して開き、一体感のある街並みの形成を意図している。すなわち、周辺には古くからの有機的な空間構造を持つ里山集落があり、



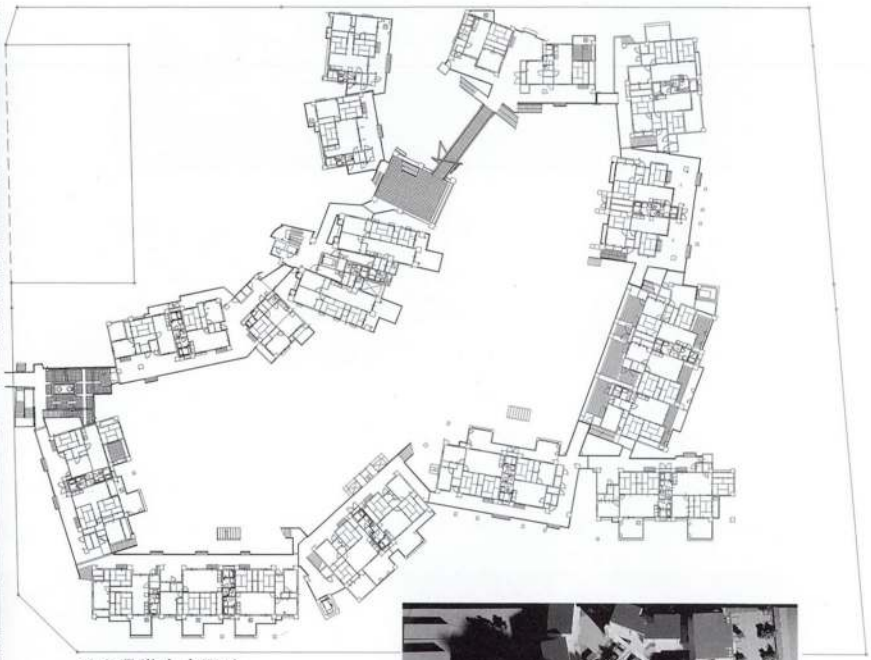
形式の異なる住宅地ごとの道空間構造図



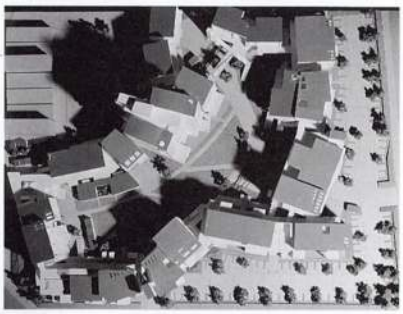
敷地周辺道路をネットワーク化する空間構成図



周辺の街に対する第３期計画の空間的役割図



岡山県営中庄団地
第３期計画
３階平面図



模型写真―真上から望む―



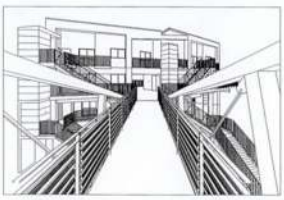
模型写真―北西上空から望む―



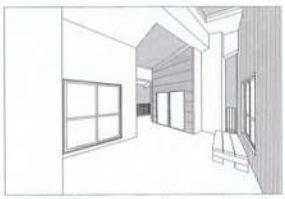
グランドレベルの団地内道路を、北の２期側から南の３期側に向かって進んできたルートの風景



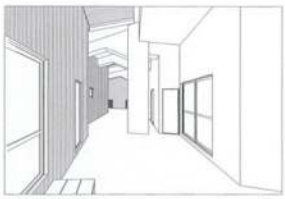
グランドレベルＨＩ棟間のプレイロットから北側外部階段を望む



３階ペデストリアンデッキを通って、３期側から４期計画に向かって進むルートの風景



５階Ｇ棟ルーフストリートの路地が折れ曲がり、溜まり空間をつくり出している風景



５階Ｇ棟ルーフストリートの住戸にはさまれた路地の風景

その隣には戦後開発された１宅地70坪前後の１戸建て住宅群がある。計画地の東側には倉敷市営住宅がある。この住宅は建て替え前の県営住宅同様、スレート葺き屋根の簡易耐火構造平家建てで、建物が平行に並んでいる。３期計画の南には、１戸建ての企業社宅が碁盤目状に整然と並んでいる。そして西側には、いくつもの事業主体の異なるミニ開発の建売住宅群が並んでいる。そして岡山県営住宅自体も、昭和30年代に建設された中層ポイント型住棟、盤状住棟と、今回新しく建てられた第１期、第２期の県営住宅がある。これ

ら周辺の街並みはすべて住宅によって構成されている。しかし同じ住宅とは言いながら、そのおのおのは古い里山集落を除いては、すべて増殖等を意図しない自己完結型の戦後の価値観によって建設された住宅群である。

これらの住宅群を、否定できない現実の街のエレメントとして位置付け、それら住宅群の中心的な位置に新しい県営住宅の第1期・2期・3期・4期が計画されている。この中庄団地の計画では、これらすべての住宅をネットワーク化し、その関係を結び、生活の面でも景観的にも、連続一体的な街にしようと考えている。

具体的には、周辺住宅地の人々がこの県営住宅に住む人々と交流を深め、互いに自分たちの住宅地と思えるよう、人や車の道をつないでいる。また、風景の連続化を計るべく、古い団地の公園に植えられたポプラを新しい団地の緑の中に加えている。新しい計画では住棟に隙間をつくり、ピロティも多用し、互いの視界を開き、目線をつなぎ、日常の生活の中になじみや親しみの生まれる空間構成を行っている。また風景の連続性によって互いが訪れやすい環境にするために、里山集落の空間の構造や屋根の素材や色調、形態等に関係性を持たせ、景観的なつながりをつくり出している。また、新しい住宅群は建築空間的な強さやエネルギーを抑え、むしろ民意によって生まれる街の雑然とした親しみやすさを生むため、住棟配置の軸を多様に振り、コンクリートブロック化粧積み、波形スレート、平板スレートの壁、木材、どぶづけの鉄部等、素朴な材料を混ぜて全体をまとめている。

この3期計画では、権力を象徴する比類なき建築の美しさ等は求めず、親しみの持てる日常の場をつくり出すことを目指している。最近、中庄団地第1期、2期計画が竣工したが、この住宅地を神戸芸術工科大学の鈴木成文先生の指導のもとに研究室の学生が団地と周辺の居住者の生活について調査した結果報告によると、かつてこの地域に生活する人々から倉敷市の児童相談所に持ちかけられた種々の相談が、新しい住宅が生まれたことによりその件数が顕著に減り、環境が人々の心に自信を持たせ、癒してくれる力のあることを証明した、という。地域や社会に誇りを生む街づくり、建築づくりの手法があることと、建築にそんな力があったことを再認識し、第3期計画にかかわる私も勇気がわいている。

都市は生きている

いくつかの事例を通して私が主張したかったことは、都市は生きているということである。

すなわち、都市の連続性は山や川、空や緑などの自然的要素と、道路や鉄道、建築やアートなど人工的要素、そしてわれわれの日常生活や習慣、文化や経済など社会的要素の三つの要素の連続性によって満たされると考えている。これらおのおのの要素をなお、縦軸の歴史的連続性と横軸の計画と周辺地域の連続性として捉え、それらの要素の関係性を計ってゆくことが増殖する生活の場をつくり出すことだと考えている。

かつてわれわれは、新しい生活の場を創造しようとしてプロトタイプを生み出しきた経験がある。すなわち、ニュータウン計画では小学校区を一つの単位とする近隣住区単位というプロトタイプを考えた。街区ではクルデザックや囲み型、平行配置等というプロトタイプを計画した。住棟では階段型、廊下型といったプロトタイプをつくり、画一的な配置手法を繰り返し用いてきた。住戸では、生活者の日常生活をよく観察し、意識調査を行い、その中から設計条件を抽出し、nLDKタイプといわれる標準世帯用の住戸のプロトタイプを計画した。これらプロトタイプを求める考え方は、このような考え方を受け入れなければならない社会的背景と必然性があって生まれた手法であったが、しかしその手法には時代を超えて生き続けてきた自然や、その自然と人間がかかわって育ててきたかつての都市環境や伝統的な日常生活の連続性等が欠落し、プロトタイプ型の街づくりの考え方と手法はその役割を終えつつある。

今われわれは、プロトタイプをつくり街づくりが行われたその中から、科学的に物事を捉え、研究し計画に反映するその手法には多くの学ぶことがあると考えている。しかし、またしても、都市型住宅は囲み型だといった日本の街のコンテクストと何らかかわりを持たないプロトタイプ至上主義的な考え方が頭をもたげてくる状況は理解しがたく、日本の都市づくりでは、再び型を求める考え方の中には答えがないと私は考えている。

だとすると今日既存の街の街づくりに対して有効な手法とは、「郷に入れば郷に従え」だし、新しい街では周辺にやがて迫ってくるであろう街の姿を先見的に読み、その街と連続する街の種をまいておくことだろう。すなわち、計画地の自然的、都市的な、物と物の関係性を深く読み、また、社会的すなわち人と人のスムーズなかかわりの生まれる関係性の計画手法が重要だと考えている。新しく計画された街は古い街と連続し、生き続けてゆく長い時間の中で、良いものは残り、評価されないものが消えてゆく、そのような街づくりの手法である。

ただ単に場所を読み、地域の環境になじめばよいというわけでなく、伝統を守り、われわれが生活する今日の時代を加え、古い街や建築を否定せず、超えて優る街づくりの方法であるが、口で言うのは優しく形にするには困難だ。が、中庄方式もひとつの方法である。

（えんどう　たかお　建築家、遠藤剛生建築設計事務所）

住むかたち・まちの色合い

モザイク都市の図像の彩り

小浦久子

8月の昼下がり、空堀商店街を抜けて上町台地を西へ下る。商店街に通じる路地のところどころに、地蔵盆の赤い提灯が見えた。店の切れ目にある路地の入り口に飾られた2つの提灯に引き寄せられて、路地に入る。L字型の路地の角にお地蔵さんの祠がある。飾り付けの途中だった。その奥に長屋が並ぶ。お地蔵さんの向こうの空には、高層マンションがそびえていた。この辺りは、都心のなかでは、唯一戦災のときに焼け残ったところである。

大阪には、様々な「まち」がある。市街化の歴史と都市の更新のプロセスのなかで、旧いまちと新しいまちが折り重なっている。↙

期を迎え、都心は業務地化が進み、周辺部の戦前長屋地区で木賃アパートや文化住宅が建てられた。

昭和40年代後半から、周辺のたんぼでミニ開発やマンション建設が進み、旧集落は市街地のなかに取り込まれていく。西区や上町台地の都心部でも、マンションが建てられるようになる。そして持ち家の更新が進む。産業構造の転換にともない、工場やヤード跡地では大規模な住宅開発が始まった。

時代の要請に応じて、様々な「まち」がつくられ、市街地の更新が進み、多様なモザイク（＝まち）が都市をつくってきた。↙


提灯の並ぶ商店街に面した路地の入り口（空堀）


計画的開発住宅地区の緑（ベルパーク）


路地の緑（三軒家）

蓄積された市街地

江戸期の町人地である船場・島之内が、今の大阪の都心。当時は豊かな商業の町として、町家が並ぶまちなみが形成されていた。表の町家と裏の長屋。職住が一体となったまちの面影は、現在の都心にはほとんど残っていない。

明治期に、近代工業の形成とともに工場労働者の住む借家（長屋）が建てられ、周辺部での長屋建設によって市街地がスプロールしていく。このころ、豊かな商人の職住分化が始まり、彼らの別宅が建てられた帝塚山や夕陽丘などに高級住宅地が形成されていった。

大正期になると、現在の環状線の外側へとスプロールが広がり、臨海部では工場で働く人々の長屋街ができる。周辺部の東部・南部（阿倍野・住吉等）では耕地整理等による宅地化が進み、ホワイトカラーや中間層向けに質の高い前庭付き戸建て風長屋が供給される。東部市街地で、住工混在地が形成され始めるのもこのころである。

都心から臨海部にかけて、戦災により市街地が焼失した。これまで9割が借家だったのが、財産税・固定資産税の強化、地代家賃統制令等の影響で居住者への売却・持ち家化が進み、これが長屋の切り取り型の更新につながる。戦災復興と人口急増、そして高度成長

住むかたちの表現力

大阪の市街地を鳥の目で見れば、土地利用現況図に示される多様な用途が混在する点描の図が見える。また少し地上に近づくと、高層ビルの並ぶ都心、住工混在地、低層住宅が密集するところ、マンションが建ち並ぶところ、緑の続く寺町界隈、ネオンが光る繁華街、海上都市など、多様な表情が見えてくる。それぞれの「まち」に時間の蓄積があり、人は住み続けている。

まちを歩いてみると、蓄積された住むかたちが見えてくる。

例えば、長屋の緑とマンションの緑はかなり違う。マンションの緑は計画された緑であり、対価を支払って美しく維持されているものが多い。環境も買う対象なのである。

環状線のすぐ外側には、スプロール市街地が残り、職住が混在したまちがある。高密度で、確かに防災面からは危ない。しかし、路地に入ると、緑の豊かさに驚かされることがある。各戸の前に並べられた鉢植えやほんの少し残っている土に植えられた草花が、豊かだ。長屋の緑は、そこに住まう人々の手によって育まれている緑である。お互いに気遣いながらの生活がある。

住工混在地を歩くと、道は通行路であると同時に作業場でもある

ことがわかる。道に面した工場や倉庫の入り口付近をフォークリフトが行き交う。併用住宅、製造卸の中小ビル、普通の住宅などが共存している。大きく開いた作業場の入り口、事務所や店の表、住宅の玄関の引き戸と植木鉢など、道に対してオープンな町並みがある。

塀に囲まれたお屋敷の並ぶまちは、道に対して閉鎖的である。住工混在地が町屋の系譜にあるのに対して、これは武家屋敷につながる。かつてサラリーマン向けに建てられた高級長屋も屋敷型である。小さな前庭と真壁の塀を巡らせた門構えが並んでいた。

これらに比べるとミニ開発やプレハブ住宅のかたちは、商品としてのアピールはあっても、住むかたちの色合いは希薄だ。それでも、まちなかでは地域に応じて使い込まれ、生活が表出してきている。住み手の方が、つくり手よりずっとしたたかである。

今では、それぞれのまちで、長屋の個別建て替えによる戸建て化や、お屋敷のマンション化や宅地の細分化などが進み、まちでの仕事や住まい方、街区構成や敷地規模などの空間の使い方に埋め込まれている「まち」の色合いは見えにくくなってきている。

住むかたちは、マンション、長屋、戸建て、併用住宅など、住宅タイプやデザインのことだけをいうのではない。建物が道や隣とどのようにかかわるのか、生活空間のパブリックとプライベートの感覚、緑や玄関周り等について住み手はまちに対してどのように手を加えていくか、といった暮らしの表現力の現れが、住むかたちになる。建物はその一つの要素であり、この表現力を誘発する環境形成のために果たす役割は大きい。

まちの色合いのあるモザイク都市へ

ジェントリフィケーションの進んだニューヨークのソーホー地区でも、建物はそれほど変わっていない。荒廃した倉庫街の安い家賃に惹かれ、多くの貧乏アーティストが住みつき、次第に人が集まり出す。倉庫の大空間を生かしたアトリエ住宅やギャラリーが増え、まちの名が高まるに従い、家賃は上がり、最初の住人は住めなくなる。新しいまちは生まれたが、かつての倉庫街の建物が多く利用されているだけ。中味が変わったのだ。

大阪では、住戸の8割近くが民間住宅であり、その他の施設も公共施設以外は民間である。建物に対してまちのストックという意識は希薄で、経済活動と連動して土地の有効利用が図られ、個別的に建て替えが行われている。

そのなかで取り残されてきた住まい、密集市街地や古くからの住宅地、混在地の更新が課題になっている。低層高密のまちには低層高密の暮らし方がある。日照時間が短くても接地性の高いその環境には、広々とした緑のなかの中高層住宅とは異なるまちの使い方がある。混在地には混在地だから成立する仕事と生活がある。それぞれの「まち」の色合いを磨き直していく更新の方向があるはずだ。

地域の環境は、住み方の表現である。混在地には混在地の、長屋には長屋の、戸建て住宅街には戸建て住宅街の住むかたちがある。建物がつくる街ではなく、住み手やまちの活動がにじみだし、その表現力がまちの色合いを形成する。これはとても日本的、アジア的なのかもしれない。

住むかたちは、建物だけでは決まらない。だから見た目が全く異なる新しい建物になっても、住むかたちを表現する要素や環境構造を継承していけば、まちの色合いは見えてくる。その試みを、本特集では示している。これまでのスクラップ・アンド・ビルド型の市街地更新は、モザイクの数個をすっかり違うものに取り替えた結果、もとの図像が見えなくなった。住み続けるまちづくりでは、一つひとつは新しくなっても、もとの図像は残し、より鮮やかにしていくことが、モザイク都市の魅力につながる。

（こうら　ひさこ　大阪大学助手、工学博士）


住工混在地の道は作業場でもある（九条）


塀が続く邸宅街（帝塚山）


塀型長屋の名残（阪南町）



2618

2618 守口市市民保健センター

設　計：守口市建築課・浪速設計
施　工：竹中工務店
a．守口市大宮通1丁目13番7号
b．4,444.14㎡
c．2,870.80㎡
d．10,846.28㎡
e．鉄骨造（地下鉄骨鉄筋コンクリート造）B1F、4F、P1F
f．平成7年7月～平成9年3月

赤ちゃんからお年寄りまで、市民一人ひとりに対し、保健・医療・福祉の体系的なサービスが提供できる拠点施設である。
検診・医療・保健指導・福祉・情報管理機能の5つの大きな機能を1階の大ロビーを中心に有効に関連づけながら明確にゾーニングし、利便性の向上を図っている。
また、公園に挟まれた立地条件を生かし、樹木を写し込み、環境にとけこませ、センターが公園の中に同化した有機的ロケーションを確立している。
そして、4枚のアーチ形状をした屋根（老・若・男・女を象徴）が大地のように安定した基盤の上で、中心に立ち上がる卵（生命誕生の象徴）を支えている様子をシンボリックとしている。



2619

2619 佳翠苑皆美増築工事3期

設　計：竹中工務店
施　工：竹中工務店広島支店
a．島根県八束郡玉湯町玉造1218-8
b．10,354.77㎡
c．5,539.01（うち増築部1,016.05）㎡
d．17,890.03（うち増築部5,366.64）㎡
e．増築部S造、9F、P3F
f．平成7年7月～平成8年8月

島根県の観光地、玉造温泉にある佳翠苑・皆美は、松江市内の老舗旅館、皆美館の別館として昭和27年に開業した温泉旅館である。客室のほか、ロビー、宴会場、ギャラリー、カラオケコーナー、浴室（露天風呂）の増設を図った今回の3期増築によって全110室550名収容の旅館へと成長を遂げた。「飛天」と名づけられた今回の棟は、既存の6階建に対し9階建と高層になることから、既存との調和を考慮しつつ、垂直線を意識したデザインとし、浴室のある最上階においては、屋根を分節するなど内観から求められる屋外的イメージと外観デザインの調和を図っている。
インテリアは、既存の数寄屋風イメージに対し、「洋」のイメージ、京風の華やかさを感じさせる色使い・ディティールを持ち込み、佳翠苑・皆美に新しい価値を付加すべく計画している。



2620



2621

2620 大阪府営富田林東第１期高層住宅

設　計：大阪府建築部営繕室（財大阪府建設監理協会）
施　工：中道組・美馬建設・金剛組・佐生建設・まこと建設・松田工務店・安田建設・山本土建
a．富田林市清水町
b．　27,000㎡
c．　4,438.23㎡
d．22,896.88㎡
e．SRC6～10Ｆ　301戸
f．平成６年３月～平成８年９月

2621 ＮＩＣビル

設　計：東畑建築設計事務所
施　工：松村組京都支店
a．京都市南区吉祥院這登中町16-1他
b．　717.74㎡
c．　384.50㎡
d．1,422.16㎡
e．ＲＣ（免震構造）、４Ｆ、Ｐ１Ｆ
f．平成８年５月～平成８年12月



2622



2623

2622 アーバンエース三宮ビル

設　計：エヌ・ティ・ティ関西建物一級建築士事務所
施　工：鹿島・東急・奥村・ナカノ・東海共同企業体
a．神戸市中央区小野柄通4-1-22
b．2,438.00㎡
c．1,441.21㎡
d．18,465.77㎡
e．SRC：Ｂ１Ｆ、Ｓ：１～13Ｆ、Ｐ１Ｆ
f．平成７年７月～平成９年１月

2623 堅田郵便局

設　計：近畿郵政局　施設部
施　工：イチケン
a．滋賀県大津市今堅田２丁目21-26
b．4,116.69㎡
c．2,404.46㎡
d．4,712.35㎡
e．ＲＣ、３Ｆ、Ｐ１Ｆ（付属舎：Ｓ、Ｂ１Ｆ）
f．平成７年12月～平成９年２月



2624



2625

2624 シンフォニックシティ西神中央

設　計：フジタ大阪支店一級建築士事務所
施　工：フジタ神戸支店
a．神戸市西区美賀多台１丁目２番
b．15,296.46㎡
c．　4,545.65㎡
d．35,435.38㎡
e．SRC、Ｂ２Ｆ、15Ｆ、一部ＲＣ
f．平成７年２月～平成９年２月

2625 阪急ヒルズコート高槻

設　計：大林組本店一級建築士事務所
施　工：大林組
a．大阪府高槻市上土室１丁目1-1
b．32,879.44㎡（第１～４期合計）
c．13,392.22㎡（第１～４期合計）
d．63,400.85㎡（第１～４期合計）
e．ＲＣ、6～20Ｆ、７棟(第１～４期合計)
f．平成４年10月～平成９年２月

凡例

a．所在地

b．敷地面積

c．建築面積

d．延床面積

e．構造規模

f．工期

[座談会]

Welcoming

建築教育に携わる女性たち

今回は、建築教育に携わる女性ということでお集まりいただいた。女性が多いとなると、住居学科ということになるが、もっと初歩的な段階で教育に携わっていらっしゃる方をということで、大阪府内の工業高校で教鞭を取っていらっしゃる３人に集まっていただいた。３人とも20代、教壇に立たれてから２～３年ということで、フレッシュな意見を伺うことができた。

――自己紹介もかねて、今学校で教えている内容を紹介してください。

野田　大阪市立工芸高等学校建築デザイン科で教諭をしています。学校では、建築全般を教えています。建築の学科に関しては、広く浅くやって何でも教えなければなりません。

尾﨑　大阪府立今宮工業高等学校定時制課程建築科で講師をしています。もともと専門は機械です。工業数理や構造力学を教えています。工業数理とは、工業に関する数学や物理の基礎です。

下川　大阪府立布施工業高等学校建築科で講師をやっています。積算とパースの描き方（着彩）や、座学で計画をやっています。

――座学って何ですか？　何か特別な学問なんですか？

下川　授業は、８～10人ぐらいでやる実習と、講義からなります。その講義のほうを座学と呼んでいます。

――皆さん今は教員ですが、建築を学ぶ人間としては、最初から建築の教員になろうと思って建築を学ばないと思うんですよね。建築を学ぼうと思ったきっかけをお話いただけますか？

野田　大学を選ぶ時、物理と美術が好きだったので、進路の資料を見て「建築」だったら自分に合うんじゃないかと選びました。実際入ってみたら「ちょっと違うなぁ」と思いましたけど。住宅の設計は、生活と関係させて組み立てるのが面白かったです。でも、好きな物理と数学はあまり関係なかったですね。(笑い)

尾﨑　高校の時、理系に入れば文系の大学も選択できるかなぁと思って親に内緒で理系に進みました。結局、親が怒ってしまって理系の大学を受けざる終えなくなってしまいましたけど。(笑い)建築は美的センスが必要とされると思ったので、自分には向かないと思いました。物理が好きなのと、動くものが好きだったので、機械科に進学しました。大学では、力学や流体力学などの力学を主に勉強していました。

下川　中学校の頃から理系に行きたいと思っていました。絵も好きだったので、美大系の建築学科に進学したかったのですが、学部が終わった時点で、もう少し設計や歴史を勉強したいと思って大学院に進みました。

――建築の教職に就いたきっかけは何ですか。また、実際に教員になられてからはどうでしたか。

野田　どうも小さい頃は、先生になりたかったみたいですね。進路について迷っていたら、講師登録という制度があるのを知って、それがきっかけで教員になりました。正直言って、教員になるまで内情はよくわかっていませんでした。ただ、一般の就職は建築業界では夜遅くまで仕事をしたり、力の面で男と対等にはできないだろうなぁとは思ってたところもありました。

尾﨑　博物館などの内装関係の会社に就職しました。本当にやりがいのある楽しい仕事でしたが、残業がきつくて体力的にもついていけなくなったので、その会社を辞めました。夜中の12時までとか気づいたら夜中の３時とか作業していても意識が切れている事もありましたね。会社を辞めてゆっくりしていたころ、教員免許を一緒に取った友人から「講師の仕事があるけどどう？」と言われて、はじめは何もわかりませんでしたが講師登録して現在に至っています。

下川　大学院に行って、建築史を本格的に勉強するようになってから、今やっている建築史を教えてみたいなぁと思うようになりました。西洋建築史を専攻したのですが、歴史ではなかなか就職が難しくて。教員試験を受けましたが最初は落ちました。設計事務所に就職が決まっていたのですが、土壇場になって講師の話があり父も教師だったこともあって、教員を選びました。構造が苦手なのと積算は現場の知識が絡むので、毎日勉強しながらの自転車操業です。

――教職に就かれて、現実とのギャップはどうでしたか。

野田　自分が教壇に立っていいのだろうかという不安がありましたね。知識のなさから来るものと、自分自身の未熟さからくる不安でしょうね。

下川　最初は、建築をやる面白さとかを高校生に伝えたくて、「建築とは何か」とか「君たちはなぜ建築を学んでいるのか」とか切り出して話していたんですけど、のってこなくて。生徒のほうは、そんなことよりも構造計算の仕方とかもっと実務的なことを聞きたがっているんですよね。実際、実務の知識だけで建物は建ちますから。少しは眼を輝かせる生徒もいるんですけど、どちらかというと役立つことを教えてあげた方がいいのかなぁと思っています。

尾﨑　理想としては、生徒の言うことを受け止めてそれを消化して接する先生がいたので、そういう先生になろうと思いました。でも実際教える場が、夜間部で私よりも年上の人が多くて、人生経験も豊富だし、とても人間的に自分は未熟だと意識せざるをえませんでした。定年退職後に通って来てる方もいらっしゃいますからね。

――生徒に接する際に気をつけていることはありますか。

野田　できるだけ自分の色に染めないように気をつけています。生徒が何を考えて、どうしたいのかを知ろうと努めているつもりです。

尾﨑　方法は教えるけれど、選ぶのはあなたよ―のスタンスでやっています。

野田　でも、言われた通りにしかやらない生徒が多いですよね。

下川　建築を勉強したいと思って入学してくる子も入れば、親に言われて仕方なしに入ってくる子もいて、結局後者の子は「つまらんから、退学する」で、悲しいですね。建築の面白さを少しでもわかってもらいたいと思っても、理論だけではついてこないので、「衣食住の３分の１を占めている、大事なことを勉強しているのだからいい加減にやったらあかん」とか言うと15、６歳の子でも少しはわか



尾﨑文子

大阪府立今宮工業高等学校 定時制課程 講師

大学卒業後、教育関係機器製作会社に入社。文化教育施設や教育訓練施設の企画・設計・施工を主にしている部に所属。制作管理として設計、施工に携わる。4年間勤務した後、大阪府立西野田工業高校定時制課程デザイン科にて初めて教鞭を執る。
97年4月より、大阪府立今宮工業高校定時制課程建築科に勤務。年齢、知識、授業態度など全てにおいてバラバラの生徒に対し、いかに解りやすく楽しいと感じる授業をするにはどうすれば良いか、どのような教師であるべきか、手さぐりで毎日頑張っています。



下川美保

大阪府立布施工業高等学校 建築科 期限付常勤講師

福井県出身。福井工業大学建築科を卒業後、福井大学大学院工学研究科博士前期課程環境設計工学専攻を修了。西洋建築史（主に世紀末ウィーン）について研究。
96年4月より、大阪府立布施工業高等学校建築科に常勤講師として勤務。今年で2年目である。昨年1年間は、暗中模索状態であったが、今年はやっと教師の仕事の全容が見え、改めて教育の難しさを実感。教育の主体は生徒であり、生徒たちにとってよい教育とは何か、また、建築という広い学問を教育することの意味を日々探求中。



野田千賀子

大阪市立工芸高等学校 建築デザイン科 教諭

大阪工業大学大学院修了後、期限付教諭として、大阪市立都島工業高等学校、大阪府立西野田工業高等学校に、1年間ずつ勤務する。
その後、大阪市立工芸高等学校に赴任、現在に至る。今、自分が何をすべきか、生徒一人ひとりに何をさせるべきか、自問自答しつつ、悪戦苦闘の毎日を送っている。

W

るようですけど。

――先程もお話があったように、言われたことしかやらない子とか、やる気がない子とかいると思うんですけど、そういう生徒にやる気を出させるにはどうされているのですか。

野田 どこかいいところを見つけて褒めるようにしています。製図だと、コンセプトを考えさせて、その段階で面白がらせてたりする工夫をしています。出来上がった図面がもうひとつでも、コンセプトはよかったねぇという具合です。

尾﨑 夜間部に大工さんが生徒として来ていて、高校だけは出ておきたいという感じで来られてるから、三角関数なんて現場で使っていても実感が伴わないのでやる気ないんですよね。人数が少ないので、話し合いをすることによって人間的な触れ合いができてきて、こっちを好きになってもらうことによって、やる気を出させている感じですね。嫌われちゃうと生徒が授業に出てこないということもあるんですよ。

――女の先生ということで良かったことや困ったことはありますか。

野田 女の先生は「甘い」と見られるようですね。怒っても怒っているように見えないらしくて。怖くないから、全然いうことを聞かないこともありますよ。「座りなさい！」と叫んでもいうこと聞きませんが、体の大きい男の先生なら「座れ」の一言で座りますからね。

尾﨑 白衣着てたら、保健のおばちゃんと間違えられましたね。(笑い) 本当にできるのかどうか、わざと質問されて試されるときがありますね。誠意をもって接すれば、生徒にとっては男女より個人差だと思いますね。あと、男性が踏み込めない領域の話を聞いてあげられるというのが、女生徒にとって安心できるみたいですね。どこの教科でも、生徒にとっては男女の先生がいればいいなぁと思います。私自身としては、頼れる人間であるよう努力していきたいですね。

下川 力がない点ぐらいでしょうか。実験の時は、力がなくて重いものを持ったりできないので、生徒に手伝ってもらいます。あとは、男の先生よりなめられやすいということでしょうか。若くて女というだけで、反発する生徒もいて授業が混乱してしまうこともあります。ただ、反発していた生徒が卒業式のとき「ゴメン」と謝りに来てくれたこともありました。なだめてすかしてもだめなら、個人的になぜそういう行動をとるのか話し合いますね。

――教員をしていると、どうしても現場での知識や情報不足になりがちだと思うのですが、そういう点はどうカバーしてますか。

野田 確かに現場とのギャップには不安を感じます。出来るだけ研修会に出たり、夏休みに友人の現場を見せてもらったりしています。

下川 夫が設計事務所に勤めているので、そこから情報を仕入れたりしています。大学時代の友人にも時々会ったりして、今何をしているのか聞いています。

尾﨑 私も建築出身の友達からちょくちょく情報をもらっています。

――今後の夢や目標を教えて下さい。

野田 教員は子供が産まれても続けていきたいですね。今、1年生の担当をしているので進路を見つけてちゃんと就職していけるように指導していくことがとりあえずの目標です。人間的にも未熟な子もいるので、社会に適応できるように指導していきたいです。自分自身としては、学生時代に社寺建築を研究していたので、それをライフワークとして続けていき、いつか授業で還元していきたいと思っています。

尾﨑 人とのつながりを大切にしていきたいと思っています。気持ちがあって人が動くことを前の会社で学びましたので、生徒と先生が互いに触れ合えるような授業をしていきたいですね。それが生徒達にとって、社会に出てからも役に立つのではないかと思っています。

下川 目の前に迫った採用試験ですか。(笑い) 教員になれたらやはり、一生続けていきたいです。

――本日は台風の中いろいろとお話を伺い、ありがとうございました。

野田 他の建築の女の先生と話し合える機会が持てて良かったです。

下川 同じ工業高校で教える辛さみたいなものを共感できて、心強かったです。

尾﨑 頑張っている先生が他にもいるんだなぁと思ってうれしくなりました。

企画／会員企画小委員会
Director/Y. INAKI
1997年6月28日　於本会会議室

耐震仕様と評価委員会―大阪府と兵庫県―

澤田範夫　大阪府建築部建築指導課
城戸史郎　兵庫県都市住宅部建築指導課

大阪府

耐震性能と耐震仕様

耐震改修促進法に基づく耐震改修計画は、構造耐震指標（Is）が0.6以上を基準として評価、認定することになっている。しかし、実際は耐震性能は様々な考え方のもとに検討され、その基準にも一定の幅がある。公立の小中学校については、文部省の指導により$Is=0.7$以上ないと補助の対象にならない。また、平成８年10月に定められた「官庁施設の総合耐震計画基準」では、公共建築物は、防災上の重要度に応じた耐震性能を確保することとされ、避難所に指定された学校は、構造耐震安全性の目標をII類、すなわち重要度係数1.25となり、$Is=0.75$以上を推奨している。したがって、当該施設の位置付けを踏まえた、改修計画の検討が求められている。

また、耐震性向上工法も鉄骨ブレースや耐震壁の増設のほか、炭素繊維巻き付けによる柱の耐震補強や鉄骨屋根の付け替えなど、構造計画や施工計画等の幅広い知見から的確な評価が必要となっている。

大阪建築物耐震改修計画評価委員会

大阪府では、耐震改修計画の認定審査を円滑に進めるため、現状では必要に応じて専門家の意見を求める必要があると考え、平成８年７月に「大阪建築物耐震改修計画評価委員会」を設置した。

１．府内13特定行政庁による共同設置

府内13特定行政庁により構成する協議会（「大阪府下特定行政庁連絡協議会」以下「特連協」という）に負担金を支出し、㈶大阪建築防災センターに設置・運営を委託している。

２．申請者の費用負担ゼロ

大阪府の場合、評価委員会に対して評価を依頼するのは、認定の事前協議や本申請を受理した特定行政庁である。申請者はあらかじめ評価を得ておく必要もなく、ましてや費用の負担もない。これは、耐震改修を促進するためには、認定を円滑に進める必要があることから、極力申請者の負担軽減を図ったものである。

３．本委員会と個別審査

委員会は学識経験者４名、実務経験者３名の７名で構成されている。審議方法は、本委員会で特定行政庁から案件の内容等の説明、質疑応答の後、委員長が学識経験者（担当主査）と実務経験者（担当）のペアを指名する。以後、これら担当委員と行政庁、設計者が集まって個別審査を２回程度実施、担当主査が評価書（案）を作成、再度本委員会に諮って成案とする。二度目の本委員会は委員長の了承を得て、評価書（案）を各委員に照会し、書面裁決で実施することもある。これまでの実績からみて、１件の評価に約２ヵ月程度は必要である。

４．認定を受ける民間建築物等が対象

本委員会は耐震改修計画の認定にさきがけて評価を行うもので、認定を受けない案件や、耐震診断のみの評価は行わない。また、民間建築物及び特定行政庁以外の市町村の公共建築物を対象としており、特定行政庁の庁舎や学校等は対象外である。

平成９年８月末現在、民間２件、公共１件が評価済み、民間１件が審査中である。なお、認定は評価委員会の評価を経ず認定したケースもあるので、６行政庁で民間（事務所）３件（うち評価２件）、公共（学校）７件（うち評価１件）である。

大阪建築物耐震改修計画評価委員会の開催状況等

◆本委員会　（平成９年８月末現在）

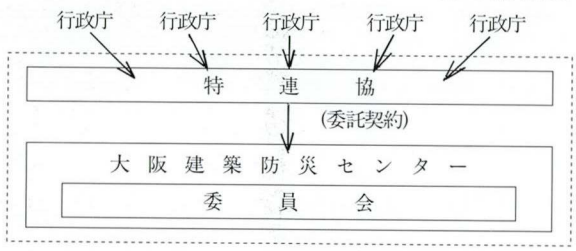
(1)平成８年７月16日
(2)　〃　　８月20日
(3)平成９年１月28日
(4)　〃　　７月31日

◆評価した計画

民間事務所ビル耐震改修――３件（うち１件評価中）
中学校屋内運動場　〃　――１件

◆設置、運営の形態

大阪府下特定行政庁連絡協議会から、㈶大阪建築防災センターに設置及び運営を委託。



◆委員名簿

平成９年７月現在（敬称略）

	氏名	所　属	専門分野等
委員長	森田司郎	㈶日本建築総合試験所常任理事所長*	総　括
副委員長	窪田敏行	近畿大学理工学部教授	コンクリート構造
委　員	井上一朗	大阪大学工学部助教授	鋼　構　造
〃	田才　晃	大阪工業大学助教授	コンクリート構造
〃	多賀謙蔵	㈳日本建築構造技術者協会関西支部	構造全般
〃	小野俊博	㈳大阪建築士事務所協会	構造全般
〃	浅野満男	㈳大阪建設業協会	施　工

※前京都大学工学部教授

耐震改修計画の認定に関する運用方針の検討

促進法の運用にあたっては、特連協に「耐震改修分科会」を設置し、府下特定行政庁が連携して検討・調整してきている。先にのべた「評価委員会」の設置や事前協議制度のほか、以下のような方針を定めてきた。今後とも法運用等に関する検討を続けていきたい。

１．構造計算書等の添付省略（国や特定行政庁等が申請する場合）

法律施行規制を定め、国や特定行政庁等が認定申請する場合には、構造計算結果のみの添付を求め、建築確認申請に準じて、構造計算書等の添付を省略することとした。

２．「工事完了証」の交付

促進法は、建築確認が必要な規模の工事以外は認定した計画の検査などの規定はない。そこで、法律施行要領を定めることで、申請者の交付申請により「工事完了証」を発行できることとした。

（さわだ　のりお）

兵庫県

兵庫県耐震判定基準

兵庫県においては、“既存建築物耐震改修計画推進会議“(庁内の庁舎管理者を中心とした耐震化を推進するための連絡会議、会長／兵庫県防災監）を創設した。その専門機関として“専門委員会”を設置し、その検討成果が、平成８年10月23日に兵庫県知事に答申されている。

委員長／日下部馨神戸大学教授、委員／堯天義久元神戸大学学長、河村廣神戸大学教授、田渕基嗣神戸大学教授で構成された専門委員会の答申「兵庫県耐震判定基準」の考え方は、以下の通りである。

■答申の考え方

本基準は、建築物の耐震改修の促進に関する法律（平成７年法律第123号）第３条の規定に基づき定められた特定建築物の耐震診断および耐震改修に関する指針（以下「指針」という）に示された構造耐震指標の考え方を基本として、次のような検討を加えたものである。

施設の用途ごとに必要と考えられる耐震性能は、「官庁施設の総合耐震計画標準検討報告書（平成８年３月)」(以下「官庁施設の報告書」という）に示された施設用途による耐震安全性の分類に基づき、全国営繕主管課長会議幹事会でまとめた「地方公共団体施設の耐震安全性の検討について」報告書に提案された耐震安全性の標準的な目標値を採用した。既存建築物にあっては、その機能維持の観点や技術的限界から目標値の達成が極めて困難な場合が想定されるため、目標値の達成を義務づけるのではなく、達成することが望ましいという努力目標とした。これはやむを得ない表現であり、重要な施設では建て替えることも考慮するなど、極力努力して目標値を達成するべきであると考えている。

判定基準は地震入力をどう評価するかが重要な課題であり、現状では十分解明されておらず、今後の研究成果を待たざるを得ない。したがって、現時点では、兵庫県南部地震も含めた過去の震災例等から定められた「指針」の判定値をおおむね標準な値と判断した。その上で、地形の影響や地盤と建築物の相互作用のうち、地形条件の一部について検討を行い本案に盛り込んだ。また、非構造部材の検討や大地震時の変形制限等については「官庁施設の報告書」に示された規定が妥当と判断し準用した。その他、セットバックを有する建築物における注意点や、柱梁接合部の安全性確認の必要性等について言及している。

なお、この基準は兵庫県の県有施設について適用するために策定したが、県有施設に限らず県下市町の公共施設、さらに民間建築物についても準用することにより、県下の建築物の耐震性向上に寄与できると考える。

耐震改修計画の認定申請に関する取り扱い

兵庫県（県下特定行政庁を含む）においては、建築物の耐震改修の促進に関する法律（以下「法」という）第５条に基づく耐震改修

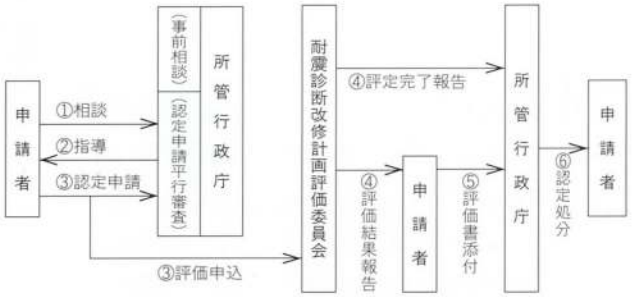


図１　耐震改修計画に関する認定フロー

の認定申請について取り扱いを平成９年３月13日に定め、当分の間、下記の通り取り扱うこととする（図1）。

(1)　専門機関の評価

建築物の耐震改修計画法に基づく認定申請をしようとする場合は、当該耐震改修計画の内容について、あらかじめ㈶兵庫県住宅建築総合センター内の耐震改修計画評価委員会または所管行政庁が同等以上の専門的機能を有すると認めた機関の評価を受けるものとする。

ただし、耐震改修の内容が軽易なもの、または所管行政庁が評価を受ける必要がないと認めたものを除く。

(2)　評価書の添付

建築物の耐震改修計画の法に基づく認定申請にあたっては、所管行政庁の認定処分を受けるまでに、認定に係る専門機関の評価書を認定申請書に添付するものとする。

兵庫県耐震診断改修計画等評価業務実施要領《抜粋》

■評価の対象

兵庫県内の建築物で、以下のもの以外を対象とする。

(1) 建築基準法施行令第81条の２の規定の適用を受ける建築物

(2) 耐震改修に伴い建築基準法第38条または第67条の２の規定の適用を受けることとなる建築物

■兵庫県耐震診断計画評価委員会の設置

(1) ㈶兵庫県住宅建築総合センター内に設置する。

(2) 委員会は原則として毎月１回開催する。

(3) 評価に係る調査のために専門部会を設置する。

(4) 委員会は、専門部会の報告に基づき評価を行う。

■評価書の交付

センターは評価の結果を、「耐震診断評価書」「耐震改修計画評価書」「耐震診断改修計画評価書」として申請者に交付する。

参考までに、兵庫県耐震改修計画等評価手数料を**表１**に示す。

表１　兵庫県耐震診断改修計画等評価手数料（消費税は含まず）　（円）

S：延床面積（㎡）	耐震診断改修計画評価（診断＋改修）	耐震診断評価	耐震改修計画評価
S≦ 2,000	300,000	150,000	150,000
2,000＜S≦ 5,000	500,000	250,000	300,000
5,000＜S≦15,000	600,000	300,000	350,000
15,000＜S≦40,000	700,000	350,000	400,000
40,000＜S	800,000	400,000	450,000

注）(1)耐震診断改修計画評価は，耐震診断評価＋耐震改修計画評価を内容とする．
(2)耐震診断評価手数料は，単純に耐震診断改修計画評価の半額とする．
(3)耐震改修計画評価手数料は，原則として，耐震診断評価手数料と同額，耐震診断改修計画評価手数料の半額であるが，耐震診断の後，時期をずらして提出される．したがって，耐震改修の評価にあたっては，再度，耐震診断の内容を検証する必要がある．その経費を50,000円と設定し，2,000㎡以下の小規模建築物を除いて加算することとした．

以上、評価委員会について紹介したが、詳細については以下に問い合わせていただきたい。

㈶兵庫県住宅建築総合センター内

建築防災課　　TEL 078-252-3983（直通）

（きど　しろう）

扇町キッズパーク―蓄熱空調とコジェネの導入―

小林陽一
㈱安井建築設計事務所大阪事務所設備部統括主任

最近、電力負荷の平準化を計るため、改めて蓄熱空調システムとガス冷房の普及拡大が進められている。ここでは、扇町キッズパークへの蓄熱空調システムとコジェネシステムの導入事例を紹介する。

扇町キッズパークは、大阪市北区扇町開発土地信託事業〈共同受託者：住友信託銀行㈱、㈱大和銀行〉により、扇町公園の北東角に建設された地下2階／地上13階建、延床面積51,751.65㎡の建物である。低層階に遊体験的学習施設の「キッズプラザ大阪」、飲食店舗、低層階の一部および高層階に「関西テレビ放送」が入る複合用途施設である。大阪の中心の梅田地区と天満地区を結びつけるシンボル施設として、情報発信性、先進性を象徴した幾何学的デザインでまとめている。

7月にオープンした「キッズプラザ大阪」は、連日子供たちでにぎわっており、「関西テレビ放送」も10月から扇町より放送開始する。



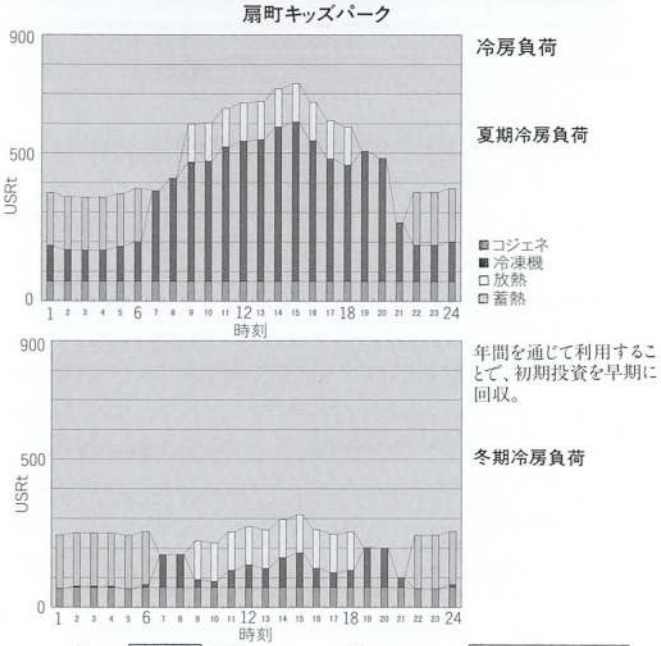
扇町キッズパーク

蓄熱システムとコジェネシステムの導入

扇町キッズパークの熱源は機能上、管理上、「キッズプラザ大阪」、店舗、共用部分のための共用熱源と、「関西テレビ放送」のための専用熱源に分けて計画した。両施設とも内部発熱負荷が多く、冬期も冷房負荷が発生する。この年間を通じて生じるベースの冷房負荷を、安価な蓄熱調整契約電力を使用できる蓄熱システムとエネルギー効率の高いコジェネシステムによりまかなうことにより、初期投資を早期に回収し、以降の安価なランニングコストのメリットをいかす計画である。

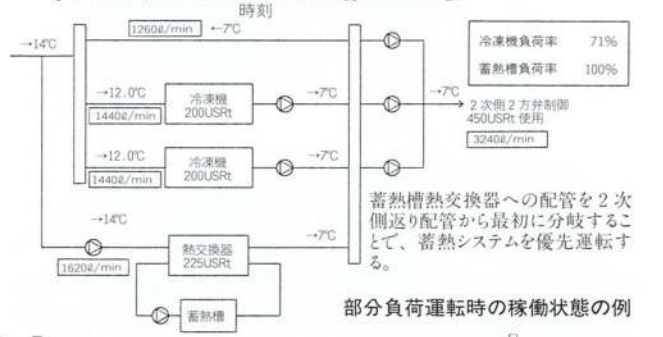
採用したシステムは、それぞれの施設の特徴にあわせて、共用熱源には、安定した放熱が行え管理の容易な内融式氷蓄熱システムを、関西テレビ放送専用熱源は、夜間冷房しながら蓄熱でき冷凍機COPの高い水蓄熱システムと24時間の冷房負荷に対応するコジェネシステムとしている。

蓄熱システム設計のポイントの一つは、夜間に蓄熱した冷熱をいかに使い切るかである。扇町キッズパークでは、冷水送水温度差を7℃と大きくとるとともに、蓄熱用熱交換器への返り配管を2次側返り配管の最初から分岐することにより、蓄熱槽を他の冷凍機に比べて優先的に使用できる計画としている。



共用熱源

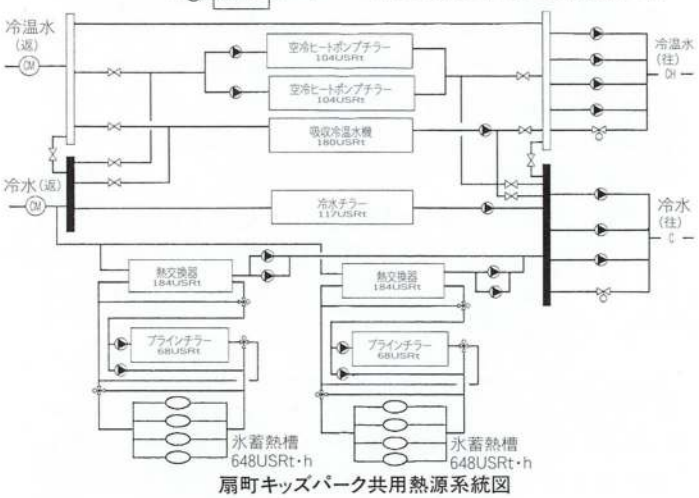
施設の性格上、日によって入場者数に変動があり、負荷条件が変わることが予想されるので、熱源は細分化し、きめ細かな台数制御により効率的な運転ができるように計画している。冬期に冷房負荷が生じることも予想されるので配管系統は冷水、冷温水の2系統とした。夏期は冷水、冷温水のバイパス弁を開とすることにより一体化し台数制御を行う。熱源エネルギーは電力、ガスの併用としている。冷暖房用熱源としてガス吸収冷温水機、空冷ヒートポンプチラー、冷房用熱源として氷蓄熱システム、水冷チラーを設置している。



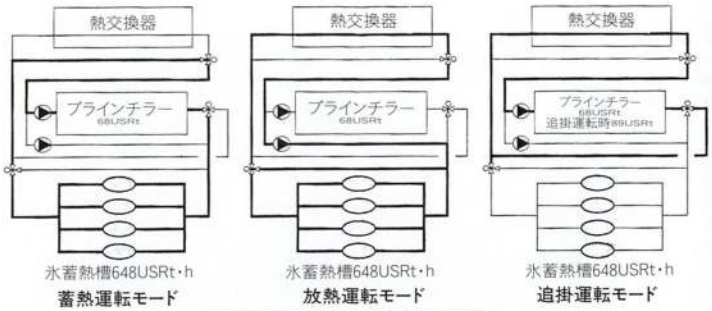
部分負荷運転時の稼働状態の例

■共用熱源の氷蓄熱システム

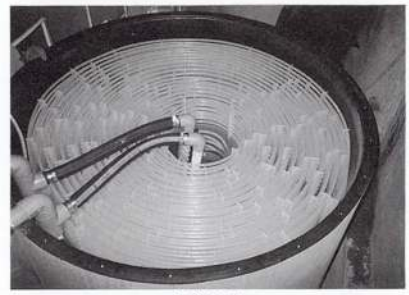
水冷ブラインチラー68USRt(製氷時)＋氷蓄熱槽162USRth×4基の氷蓄熱システムを2組み設置し、合計約1300USRthの蓄熱が行える。氷蓄熱システムには、スタティック型（外融式、内融式)、ダイナミック型などがあるが、ここでは、可動部がなく、IPF(氷充塡率）が高いので、メンテナンス性、省スペースに優れている内融



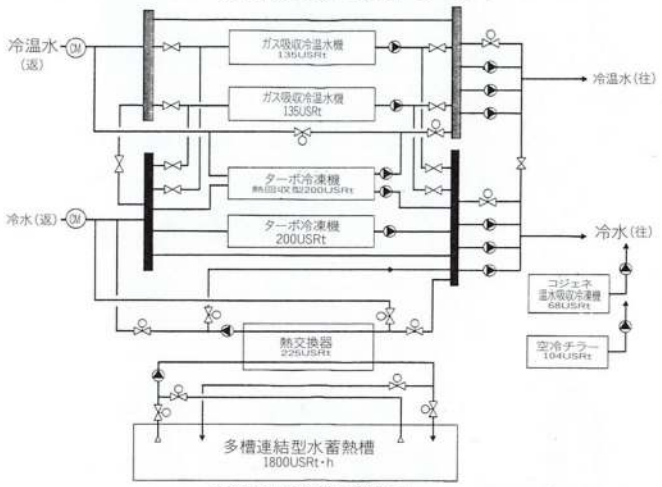
扇町キッズパーク共用熱源系統図



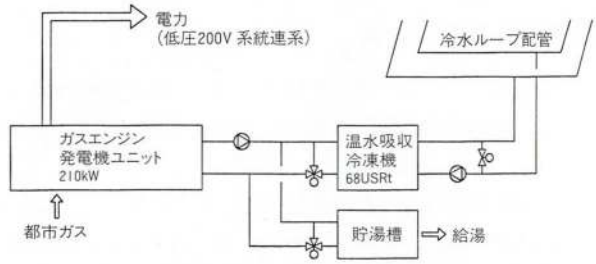
氷蓄熱システム運転パターン図



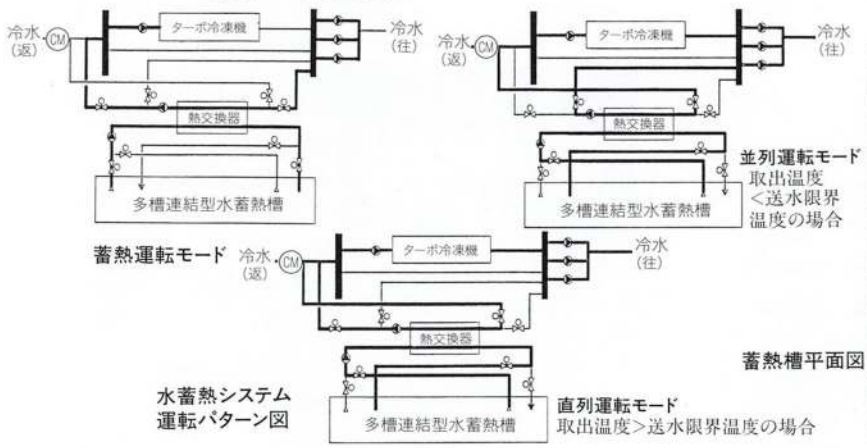
氷蓄熱槽



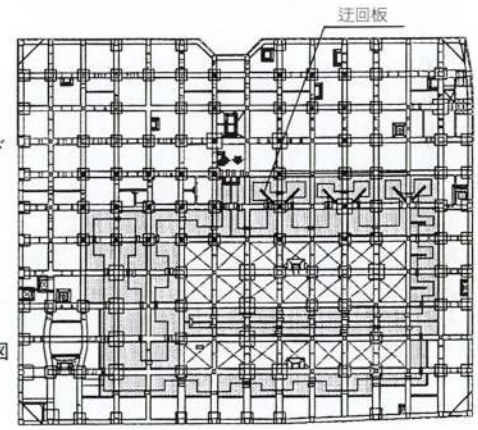
関西テレビ熱源系統図



ガスエンジンコジェネレーションシステム



水蓄熱システム
運転パターン図



蓄熱槽平面図

式を採用した。槽はポリエチレン樹脂製で、その中にブラインを通すポリエチレン管が、らせん状に収納されている。水冷ブラインチラーは昼間は出口温度を5℃に変更し、冷凍機群の台数制御に組み入れて追掛運転が行える。

関西テレビ放送専用熱源

いかなる場合にも放送機能を継続できるように、熱源システムも信頼性の高い設備とする必要がある。また、年間24時間稼動となることから、特にランニングコストが安く、省エネルギー性に優れた設備とすることを目指した。

信頼性の面から、熱源エネルギーは電力とガスの二元化とした。放送系最重要室は、中央熱源のほかに発電機電源による100%バックアップ用パッケージエアコンを設置している。熱源機器は小容量に分割し、機器故障、メンテナンス時（1台分）においても通常運転が行える。配管系統は冷水、冷温水の2系統とし、放送系最重要室のある階の屋上部分でループ配管として、将来の更新工事などの場合にも支障のない計画としている。年間を通じて生じる放送機器等のベースの冷房負荷を、水蓄熱システムとコジェネシステムにより処理する。水蓄熱システム用の熱源には、夜間の冷房負荷を処理しながら蓄熱できるターボ冷凍機を設置した。ターボ冷凍機は1台を熱回収型として、冬期に排熱回収による暖房が可能なようにし、省エネルギーを計った。冬期の暖房、夏期の電力ピークを抑えるためガス吸収冷温水機を設置している。

■専用熱源の水蓄熱システム

地下2階駐車場下のピットを冷水蓄熱槽として利用している。蓄熱槽は62槽の多槽連結型で、約1,250㎥の容量を確保している。できるだけ死水域をなくすため、テント布製の迂回板を設置した。蓄熱および放熱は熱交換器を介して間接的に行うことで、搬送動力の低減、水質劣化の防止を計っている。水蓄熱槽の有効利用を計るため、蓄熱槽取出温度が負荷側送水限界温度を超えた場合はバルブを切り替え、冷凍機と直列接続することにより、返り冷水温度近くまで有効利用できるように計画している。

■専用熱源のコジェネシステム

ガスエンジン210kWの排熱を、温水吸収冷凍機68USRtと給湯用貯湯槽の熱源として使用している。省スペースで雰囲気冷房の不要な屋外設置型とした。温水吸収冷凍機は、屋上で、24時間冷房負荷の大きい冷水ループ配管に接続することにより、常に高負荷での運転となり、エネルギー効率がよい。

（こばやし　よういち）

RC造非構造壁の地震被害に学ぶ

益尾　潔
㈶日本建築総合試験所構造部長　工学博士

1997年1月の阪神・淡路大震災では、RC造、SRC造の低層から高層の多くの建物に被害が生じた。特徴的な被害として、RC造非構造壁に起因するものがある。その被害形態としては種々のものがあるが、ここでは、袖壁が取り付いた柱のせん断破壊に着目したい。

今回の地震では、桁行方向において非構造壁が廊下側に多く、バルコニー側に少ないといった共同住宅特有の非構造壁配置に起因して、多くの共同住宅において上記の被害形態が観察された。

このほかにも、今回の地震では、非構造壁に関連して、剛性評価法やスリットの効果などの種々の問題が露呈した。

非構造壁配置の影響

桁行方向のバルコニー側と廊下側の非構造壁の典型例を**図1**に、それらの損傷度を比較した調査結果[1]を**図2**に示す。この調査の対象は、RC造、SRC造の共同住宅144棟である。これによると、バルコニー側に比べて廊下側の被害が多いことがわかる。これは、廊下側では非構造壁が多く取り付くことにより廊下側架構の水平剛性が大きくなり、これに伴い非構造壁に被害が集中するためである。

同調査では、主要構造部材の損傷が軽微であっても、非構造壁にかなりの損傷が発生することも明らかにされた。

袖壁付き柱の被害形態

桁行方向・廊下側の袖壁付き柱の被害状況を**写真1**に示す。これは、1976年建設のRC造7階建共同住宅の被害例[2]である。同建物は、図1に示すように、典型的な片廊下型住宅であり、被害度は桁行方向において中破となった。また、損傷が大きかった袖壁付き柱は、廊下側構面において非構造壁が最も多く取り付いた短柱部分であった。このような被害状況をふまえると、袖壁付き柱の耐震性能の評価にあたっては、独立柱に比べて終局耐力は大きいものの、水平剛性が高いために地震力が集中して作用すること、並びに終局耐力時の層間変形角が小さく、さらに終局耐力後の変形性能が低いことを勘案する必要がある。このことは、現行基準法によるD_s値や耐震診断基準によるI_s値の評価だけでは、RC非構造壁に関連した地震被害の予測が難しいことを示唆している。

袖壁付き柱の破壊性状

独立柱および袖壁付き柱の荷重－変形関係および破壊状況[3]を**図3**および**写真2**に示す。試験体は、1971年以前の旧基準により設計された中層建物の下層柱を想定し、縮小率を1/2.5程度としている。

図3によると、独立柱は、部材角Rが1/100rad.で最大耐力に達し、耐力が低下した。これに対して、袖壁付き柱は、部材角Rが1/200rad.で最大耐力に達した後、対角線上のせん断ひび割れが大きく進展し、耐力が急激に低下した。このように、袖壁付き柱の破壊に至る性状は、独立柱に比べて明らかに脆性的である。

*

あとがき　非構造壁が主架構に取り付き、かつ耐震性能が不足した既存建物の耐震補強方法、とりわけ使いながらの補強方法は、未だ明解な方法が見いだせない。しかし、既存建物の耐震性能を向上させるためには、パーフェクトでないにしろ、上記の問題の解決が必要不可欠である。　（ますお　きよし）

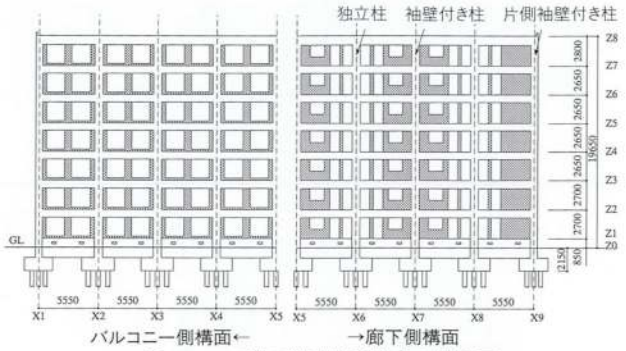


図1　RC造7階建共同住宅の軸組図

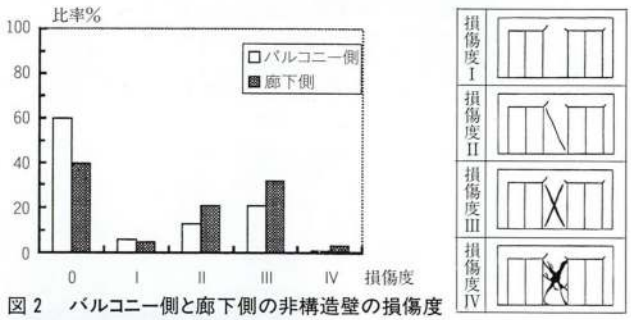


図2　バルコニー側と廊下側の非構造壁の損傷度



写真1
廊下側の袖壁付き柱の被害状況

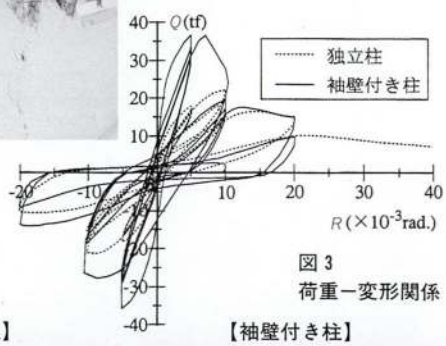


図3
荷重－変形関係

【独立柱】　【袖壁付き柱】

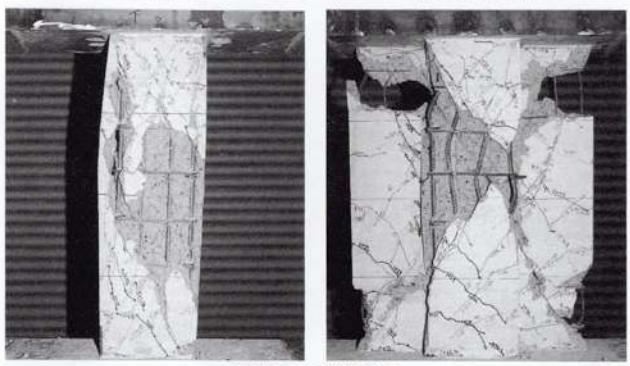


写真2　破壊状況

参考文献
1）前田建設工業：兵庫県南部地震災害調査報告書［集合住宅編］－2次部材の損傷状況調査－、平成7年3月15日
2）益尾潔、上田実香：阪神・淡路大震災による集合住宅の被害分析、－非構造壁の影響－（西宮市に建つ中破建物の場合）、GBRC, No.81, pp.28-35. 1996. 1
3）益尾潔、井上寿也、尾谷透：RC造正方形断面柱および袖壁付き柱のカーボン繊維シートによるせん断補強実験、－実験計画および実験結果－、GBRC, No.84, pp.30-51 1996. 10

複層ガラス―低放射複層ガラス

福永充保
旭硝子㈱担当部長

複層ガラスはガラスの断熱や遮熱性能向上を主な目的とした製品で、**図1**のように、通常2枚のガラスの間に中空層を設け、周辺をシールドして一体化し、内部の結露や汚れ防止のために、この中空層を乾燥状態にしている。複層ガラスには目的に応じた色々な品種があるが、紙面の都合もあるので、ここでは、最近国内でも普及が著しい「低放射複層ガラス」を紹介したい。

複層ガラス高性能化の必要性

普通の複層ガラスは単板ガラスに比べて約2倍の断熱効果があるが、壁や屋根面に比べるとまだ性能は低く、建築の高性能化には、さらに高断熱な複層ガラスが必要になる。また、普通複層ガラス(①ペヤグラス)は、夏の日射熱の侵入を抑える遮熱効果は普通の単板ガラスとほとんど変わらず、冷房効果向上や負荷低減には、遮熱性能の高い複層ガラスが必要になる。複層ガラスの高断熱性能や遮熱性能を得る方法として、ガラス面に透明な金属薄膜をコーティングした「低放射ガラス(Low-E：Low Emissivity Glass)」の選択透過機能を利用するのが一般化してきている。低放射複層ガラスには、遮熱性能があまり高くない「高断熱複層ガラス(②サンレーヌ)」と遮熱性能が高い「高断熱+遮熱複層ガラス(③サンバランス)」がある。(**図2**)

低放射ガラスによる高性能化

熱は「伝導」「対流」「放射」によって移動する。ガラス面での断熱・遮熱性能向上はこれら三つの熱の移動を制御して行う。

複層ガラスの断熱性能は構成する板ガラスの板厚にはほとんど影響されず、空気層の厚さにより変化する。空気層が厚くなるにしたがって断熱性能は向上するが、12㎜付近から性能向上がみられなくなる。これは空気層が厚くなると、ガラス面との摩擦が少なくなる中央部空気の対流伝熱の増加により、断熱性能の向上がなくなるためである。空気層厚12㎜の複層ガラスと空気層厚100㎜程度の二重ガラス面の熱貫流率は、ほとんど差がない。

○**熱貫流率の比較**

- 3㎜厚普通板ガラス　：5.1kcal/m² h℃
- 12㎜厚普通板ガラス　：4.9kcal/m² h℃
- 普通複層ガラス（3㎜+A6㎜+3㎜）　：2.9kcal/m² h℃
- 普通複層ガラス（3㎜+A12㎜+3㎜）　：2.5kcal/m² h℃

（Aは空気層厚を示す）

そこで、さらに「高断熱」や、日射熱の侵入を低減して「遮熱効果」を得るためには、放射熱のガラス面の通過を制御する必要がある。普通板ガラスは、放射熱をほとんど通過させてしまうので、複層ガラスの片側に低放射ガラスを使用して、高断熱や遮熱性能を得る。**図3**に示すように、高断熱複層ガラス（サンレーヌ）を得るためには、太陽光線は通過して、暖房熱の主波長である遠赤外線をはねかえす低放射ガラス（高断熱型）を採用し、さらに高断熱と合わせて遮熱効果が高い複層ガラス（サンバランス）には、太陽光の近赤外線もはねかえす低放射ガラス（高断熱+遮熱型）を採用する。その性能比較を**図4**に示す。

複層ガラスの市場規模と今後の需要動向

板硝子協会によれば、国内の複層ガラスの需要は平成8年で年間570万m²であった。国の新省エネルギー基準では、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ地域が複層ガラスを使用する地域となっているが、現在策定が進められている「(仮称) 次世代省エネ基準」では、新築住宅着工70%を占めるⅣ、Ⅴ地域も複層ガラス地域となるので、さらなる需要拡大が予想される。非住宅も合せ、新築建物の総開口部面積は5,000~6,000万m²／年程度あり、その大部分にまだ単板が使用されている我が国では、今後、複層ガラスは建物の有力な高性能化の方法になる。

（ふくながたけやす）



図1　複層ガラスの構造

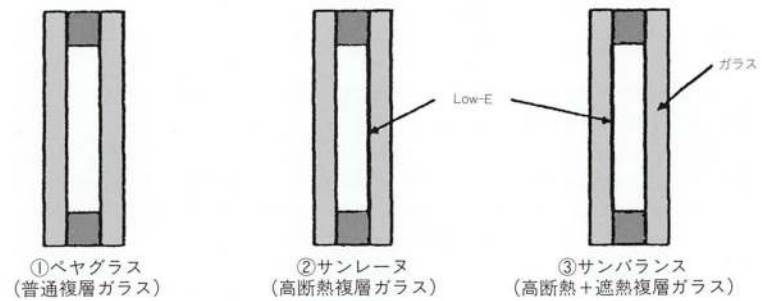


図2　高性能複層ガラス

●光・熱（電磁波）の種類によって「波長の長さ」が違う

短い ―――――――――――― 長い

太陽光（紫外線）～（可視光線）～（近赤外線）～暖房熱（遠赤外線）

●金属薄膜(Low-E 膜)の「選択透過機能」→必要な波長の電磁波は透過
不要な波長の電磁波はカット

（可視光線）を透過して

○高断熱の方法＝（遠赤外線）（暖房熱）のカット

○遮熱の方法＝太陽光の（近赤外線）（日射熱）をカット

図3

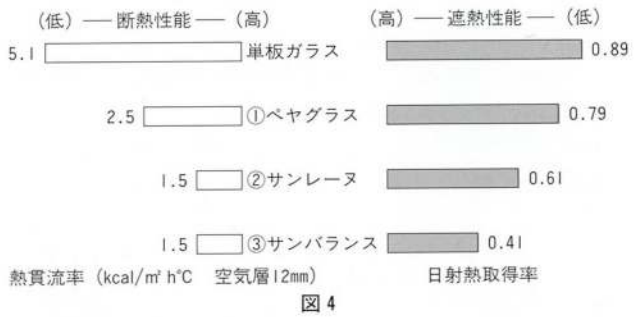


図4

実例その4・結婚式のスピーチ

山田　修
修　建築事務所

1）建築人の多い席でのスピーチ

結婚披露宴でのあるスピーチ

一同ぼう然，会場のフンイキに全然関係のない言葉で，まず人の機先を制する．

「みなさん，鉄筋コンクリート造の建物をご存知でしょう？」

鉄筋コンクリート造の建物は，鉄筋という骨組とコンクリートという肉の固まりからできています．がっちりとした色黒の鉄筋さんが本日の新郎さんであり，ふっくらとしたモチハダのコンクリートさんが本日の新婦さんであります．

みなさんのごらんのとおり，新郎さんは，鉄筋のように強じんな体ですが，そのまま放っておきますと，さびや火災という誘惑にかかって，使いものにならなくなってしまいます．たとえそのような悪友の誘惑がなくても，細長い骨だけでは自立することはできません．これらの欠点を暖かくカバーしてくれるのが，柔らかいねり立てのコンクリートの新婦さんなのです．

一方，新婦さんは，これまた新郎さんに劣らず，コンクリートのように丈夫で長持ちしそうな健康体ですが，そのままでは引張り力に対してきわめてもろい性質をもっていますから，いざという時にはねばりがなくてこわれてしまいます．これらの欠点をしっかりとカバーし，建物の中心となってふんばってくれるのが，たくましい鉄筋の新郎さんなのです．

ところで“夫婦は他人”ともいわれます．これは異なった環境で育ったがゆえに，性格も性質も異なるのは当然のことを表わしているのだと思います．このように，お互いに性質の異なる相手でありますが，いったん縁あって結ばれた以上は，相手の欠点を絶対に責めず，進んで自分の長所でカバーしあい，お互いが信頼しきってあの頑丈な建物を構成していかねばならないのです．ほんとうに美しい“夫婦のキズナ”ともいうべきものが，鉄筋コンクリート構造の建物だといえます．

しかもこの建物は，年月の経過につれてコンクリートが硬化していきますから，新郎さんの脱線は，年とともに自然にできなくなっていくでしょう．そうでなくても鉄筋はコンクリートからぬけ出さないように先端がカギ状に（人指し指を折り曲げたゼスチュア）曲げられています．

新郎さんの手は，いまのところまっすぐにたれ下がっていますが，そのうち鉄筋のように曲がり切って新婦さんを絶対に離さなくなりますよ．そうです!!　お互いが固く相手とだき合って完全に一体化してしまうのも時間の問題です．

新郎さんにひと言いっておきましょうか．新婦さんをしつけるのもねり立てのコンクリートのうちですよ!!　いまなら新郎さんという仮枠を組んだとおりにコンクリートは流れてくれますが，硬化してからでは，手おくれですぞ（男性側より拍手あり）．“テコでも動かぬ女房の尻”の被害を受けぬように，チョッピリ新郎さんに味方させてもらいました．新婦さん，ごめんなさいね!!

まだ部合のよいことがありました．それは両材料の線膨張係数がほとんど一致することです．鉄筋が1cm伸びればコンクリートも1cm伸びないと，建物の一体化はくずれてしまいます．だんなさんが右を向こうといえば，奥さんも右を向いてもらわなければ困るのです．寒いときにはいっしょにちじかみ，暑いときにはいっしょに伸びて下さい．

どうぞ鉄筋コンクリートの建物のように，本日より新郎・新婦さんは一心同体となられ，しっかりと大地に根をおろし，あらゆる外力，あらゆる試練に耐え，ビクともしないねばりのある建物を築いていって下さい．“あなた100まで，わしゃ99まで，ともに白がの生ゆるまで”のたとえのように，鉄筋コンクリート造の寿命は半永久的（70～80年）といわれています．これからの長い人生の出発点にあたり，鉄筋の新郎さん，コンクリートの新婦さんの緊密な協力体制をお願いいたしておきます

拙著「図解鉄筋コンクリート・鉄骨構造設計の基礎知識（1974年初版オーム社刊，以後改訂2版17刷1997年発刊）」のものである．短命な技術書の世界で23年間元気よく生きてきた．
（誌面の制約上「鉄筋とコンクリートの結婚式」のイラストは省略）

上文は，むかし，わたしの教え子の結婚式上でしゃべったスピーチを，読者向けに記述したものだ．ゆっくりとしゃべれば5～6分はかかるから，現代向きではない．そこで3分間用（400字づめ原稿用紙2枚弱）にちじめたのが次の文章である．

特徴を出すために，あえて英語を入れてみた．会場の雰囲気に合わせてサラリと流せば，きざっぽい話にならない，と思うが……．

鉄筋の新郎○○○○君，コンクリートの新婦××××さん，ご結婚おめでとうございます．おふたりは，異質の材料ですが縁あって結ばれ，鉄筋コンクリート造建物のように，一心同体になる運命にあったのですねェ．

そんな建物の建築に向かって，本日より建築工事を始められるご両人，新郎さんは鉄筋のねばり強さを，新婦さんはコンクリートで鉄筋を包むやさしさをもち，半永久的な鉄筋コンクリート造の住宅を築いていってください．

夫婦はアカの他人と申します．性格も性質も異なります．が，決して相手の欠点を責めてはいけません．相手の欠点は自分の長所でカバーしあってください．キザのようですが，ここでへたな英語を入れてみました．Don't blame you for your fault!　「あなたの欠点は責めない」ということです．ちょうど，鉄筋とコンクリートの関係がピッタリと当てはまります．

これは，わたし自身にもいい聞かせている言葉です．夫婦は死ぬまでアカの他人ですから，この言葉は大切に胸に秘めております．

新郎○○君，新婦××さん，鉄筋コンクリート造建物のように，しっかりと大地に根をおろし，あらゆる外力・あらゆるゆうわくに耐える頑丈な建物を築いてください．

それが，わたしの願いであり，ここにおられる皆様がたの祈りでもある，と思っております．――失礼いたしました――

2）わたしの媒酌人用スピーチ

媒酌人として，ひとこと挨拶を申しあげます．

皆様には，ご多忙のところ，当会にわざわざご出席くださいまして，ありがとうございました．かねて，ご婚約中の（山本治夫）君と（木村幸子）さんは，本日10時に当ホテル結婚式場でめでたく挙式の儀をとり行いました．ここに，つつしんで，ご報告いたします．

さて，新郎の（山本治夫）君は，19○○年生まれで△△大学建築学科を卒業され，すぐに株式会社○○工務店大阪本店に入社，建築技術者としての道を歩まれました．その間，一級建築士を取得し，3年間，中国広東省珠海市のレジャーランド建設の日本側技術者として駐在されています．

いっぽう，新婦の（木村幸子）さんは，19○○年生まれで△△大学英文学科を卒業され，すぐに○○石油株式会社大阪支店に入社，総務部秘書課に勤務されていました．その間，二級秘書検定の資格をとられています．

二人の出会いは，夜の英会話教室の学習だった，と伺っております．

ここで，お二人にお祝いの言葉をさしあげます．

（治夫）君・（幸子）さん，ご結婚おめでとうございます．夫婦というものは「ウウウ，ウウウウ」と息を合わせながら，高い山を登りゆく姿に似ています．アカの他人が，いきなりチームを組んで未知の山頂を目ざすのですから，どちらかの弱い方に体力を合わせないと，チームは分解してしまいます．お互いの短所は責めず，相手の短所は自分の長所でカバーしあって頂上をめざしてください．

さて，皆様がたにお願いがあります．お二人は，すぐれた資質に恵まれていますが，まだ若く，人生経験も未熟です．どうぞ，よき先輩・よき友人として，新郎（治夫）君・新婦（幸子）さんに末長いご指導とご厚情をいただきますよう，お願いいたします．

最後になりましたが，一つ披露させていただきます．本日の媒酌人は，もう一組おられました．それは，新婦を紹介してくださった伊丹で家具屋をしておられる田中一雄さんご夫妻です．どうぞお立ちになって下さい．お世話になりました．厚く御礼申しあげます．

ご列席くださった皆様がた，本日はまことにありがとうございました．（山本治夫）君・（木村幸子）さん，ならびに両家に代わりましてお礼を申しあげ，わたしの挨拶といたします．失礼いたしました．

上文は（　）のなかと両人の紹介部分（起承転結の転の部分に当たる）を代えれば，他に転用できよう．当文（400字づめ原稿用紙2枚強）は，間をとってゆっくりとしゃべると3分間で終了する．挨拶は間が大切だ．間のとり方によって，内容に新鮮さと深みを加えることができる．わたしは，この原文を頭にたたきこみ，会場では原稿なしで，列席者の顔をまんべんなく眺めながら（新郎・新婦の祝いのことば時は両者をみる）挨拶をした．好評だった．大切なことは，①紋きり型のことはいわない，②美辞麗句は並べない，③3分以内に納める，ことである．媒酌人は慶事の先導者だから，ほほえみを浮かべ明かるい声で，かつテンポとリズムをつけ，やや高い声（ドレミのソの段階）でしゃべる演技力がいる．一世一代の芝居を演じる役者の心構えが必要だ．そのためには反複練習（推敲と同じ）をくり返さなければならない．　（やまだ　おさむ）

空気調和設備の概念

出崎 進
出崎建築設備設計事務所

建築技術者の方々が理解しにくい点に、冷凍能力と冷暖房能力があると思います。今回は、この項について記載したいと思います。

冷凍能力と冷暖房能力

■冷凍能力とは

冷凍能力とは、「空気調和・衛生用語辞典」(空気調和・衛生工学会編)によれば、単位時間に低温側(蒸発器)より吸収する冷凍機の能力をいい、kcal/h、冷凍トン、の表し方があります。

冷凍トンには、日本冷凍トンと米国冷凍トン(USRt)がありますが、一般には米国冷凍トンが多用されています。

1日本冷凍トンとは、0℃の水1000kgを一昼夜(24時間)に、0℃の氷にすることができる冷凍能力をいいます。水の凝固潜熱79.6kcal/hとして、3320kcal/hです(1日本RT=79.6×1000/24=3320kcal/h)。一方、1米国冷凍トンでは、2000lb(ポンド)を1トン、水の凝固潜熱144Btu/lbとして、3024kcal/hとなります(1USRt=144×2000/24=12000Btu/h=3024kcal/h)。

■冷暖房能力とは

室内温湿度を常時一定としたとき、外壁や窓ガラスを通して流出入する熱、在室者の発熱、照明器具による熱、各種器具類の発熱、室内清浄度の確保また臭気の除去などを目的として流出入する空気による熱、などで室内空気に伝わる熱量等があります。これにダクトでの負荷、ファン発熱による負荷を加えた熱量が空調機の負担する熱量で、空調機負荷と呼ばれています。

さらに空調機負荷に、配管での負荷、ポンプ発熱による負荷を加えたものが熱源装置の負担する熱量で、機器容量(能力)を冷房能力といいます。

また、室温変動を考慮したとき、室内から実際に取り去るべき熱量を除去熱量といい、負値は暖房の場合で、供給側を意味します。また、その値が負値のときに暖房用供給側となり、暖房負荷となります。これらの熱量より機器容量(能力)を暖房能力といいます。

冷凍能力、冷暖房能力の能力表示

冷凍能力、冷暖房能力等には、次の2通りの表示があります。

(1) 空調技術者がよく使用する「空気調和ハンドブック改訂4版、熱源負荷の概算値」によれば、全館空調の事務所建築については冷凍機負荷の概算値として、延べ面積33m²(10坪)当たり1RT(床面積当たり90kcal/m²h)といわれてきました(2970kcal/h=33m²×90kcal/h)。これは、省エネルギーシステムや蓄熱槽を使わない場合は、東京以西の地区において現在でも使用されている値です。

2970kcal/h≒3024kcal/h(米国冷凍トン)

(2) 次のように表現する場合もあります。1USRt=1HP

冷凍機の圧縮機容量は1冷凍トン当たり1HP=0.75kWで表されます。

次に、パッケージエアコンの冷暖房能力の表示が改正されています。JIS(JIS B 8616)によりますと、国際規格と整合させるため、能力表示がキロカロリー(kcal/h)からキロワット(kW)に替わり、カタログ、技術資料、仕様書等の性能表示は国際単位系表示となりました。新旧比較のめやすを、**表1**に示します。

表1の見方として、33m²×90kcal/h=2970kcal/hの能力を空冷式パッケージエアコン能力に算定すると、2970kcal/h÷2500kcal/h=1.188HPですが、実際には3150kcal/h(1.3HP)、新能力表示では3.6kWの機種を使用します。

能力表示は、1冷凍トン、1HP、kW等の使い分けをしていますので、これに注意することと、慣れることが大切だと思います。

注) 1kcal=3.97(Btu)

(でさき すすむ)

表1 JIS改正による新旧能力比較表

◀冷房能力　暖房能力▶

●空冷式			125/140	112,000/125,000	50
新能力表示 (kW)	現行能力表示 (kcal/h)	呼称馬力 (参考HP)	140/160	125,000/140,000	60
			200/224	180,000/200,000	80
1.6/1.8	1,400/1,600	0.7	250/280	224,000/250,000	100
2.0/2.2	1,800/2,000	0.8	280/315	250,000/280,000	120
2.5/2.8	2,240/2,500	1	●水冷式		
3.2/3.6	2,800/3,150	1.3	1.8/2.0	1,600/1,800	0.6
4.0/4.5	3,550/4,000	1.8	2.5/2.8	2,240/2,500	0.9
4.5/5.0	4,000/4,500	2	4.0/4.5	3,550/4,000	1.3
5.0/5.6	4,500/5,000	2.3	5.0/5.6	4,500/5,000	1.8
5.6/6.3	5,000/5,600	2.5	5.6/6.3	5,000/5,600	2
6.3/7.1	5,600/6,300	2.8	7.1/8.0	6,300/7,100	2.5
7.1/8.0	6,300/7,100	3	9.0/10.0	8,000/9,000	3
8.0/9.0	7,100/8,000	3.3	11.2/12.5	10,000/11,200	4
10.0/11.2	9,000/10,000	4	14.0/16.0	12,500/14,000	5
12.5/14.0	11,200/12,500	5	22.4/25.0	20,000/22,400	8
14.0/16.0	12,500/14,000	6	28.0/31.5	25,000/28,000	10
18.0/20.0	16,000/18,000	7.5	45.0/50.0	40,000/45,000	15
20.0/22.4	18,000/20,000	8	56.0/63.0	50,000/56,000	20
25.0/28.0	22,400/25,000	10	71.0/80.0	63,000/71,000	25
31.5/35.5	28,000/31,500	13	90.0/100	80,000/90,000	30
35.5/40.0	31,500/35,500	15	112/125	100,000/112,000	40
40.0/45.0	35,500/40,000	16	140/160	125,000/140,000	50
50.0/56.0	45,000/50,000	20	180/200	160,000/180,000	60
56.0/63.0	50,000/56,000	25	224/250	200,000/224,000	80
71.0/80.0	63,000/71,000	30	280/315	250,000/280,000	100
100/112	90,000/100,000	40	355/400	315,000/355,000	120

新能力表示 (kW)	現行能力表示 (kcal/h)	新能力表示 (kW)	現行能力表示 (kcal/h)	新能力表示 (kW)	現行能力表示 (kcal/h)	新能力表示 (kW)	現行能力表示 (kcal/h)
1.0	900	6.7	6,000	26.5	23,600	106	95,000
1.1	1,000	7.1	6,300	28.0	25,000	112	10,000
1.2	1,120	7.5	6,700	30.0	26,500	118	106,000
1.4	1,250	8.0	7,100	31.5	28,000	125	112,000
1.6	1,400	8.5	7,500	33.5	30,000	132	118,000
1.8	1,600	9.0	8,000	35.5	31,500	140	125,000
2.0	1,800	9.5	8,500	37.5	33,500	150	132,000
2.2	2,000	10.0	9,000	40.0	35,500	160	140,000
2.5	2,240	10.6	9,500	42.5	37,500	170	150,000
2.8	2,500	11.2	10,000	45.0	40,000	180	160,000
3.0	2,650	11.8	10,600	47.5	42,500	190	170,000
3.2	2,800	12.5	11,200	50.0	45,000	200	180,000
3.4	3,000	13.2	11,800	53.0	47,500	212	190,000
3.6	3,150	14.0	12,500	56.0	50,000	224	200,000
3.8	3,350	15.0	13,200	60.0	53,000	236	212,000
4.0	3,550	16.0	14,000	63.0	56,000	250	224,000
4.2	3,750	17.0	15,000	67.0	60,000	265	236,000
4.5	4,000	18.0	16,000	71.0	63,000	280	250,000
4.8	4,250	19.0	17,000	75.0	67,000	300	265,000
5.0	4,500	20.0	18,000	80.0	71,000	315	280,000
5.3	4,750	21.2	19,000	85.0	75,000	335	300,000
5.6	5,000	22.4	20,000	90.0	80,000	355	315,000
6.0	5,300	23.6	21,200	95.5	85,000	375	335,000
6.3	5,600	25.0	22,400	100	90,000	400	355,000

広島の近代文化遺産 煉化石（レンガ） あらかると

橋本秀夫
㈳日本建築協会中国支部副支部長

煉瓦と産業革命

わが国では上古より土を焼く生活習慣とその技術をもっていたが、仏教文化とともに伝来した磚（せん）はさらに芸術性をもち、寺院の土間に敷き詰め祭祀の一助となった。しかし建築構造材にまでは進展しなかった。

先般、台湾の明治建築研修旅行中、深山の一集落で最古の手法をもつ日干し煉瓦の農家（ルーツ）に出合った。エジプト煉瓦を想い出し、台湾文化の森厳さに感激し、伝承された技術に敬服した。

「江戸湾の水は、テームズ河畔に通じる……」と呟くとき、欧州強国は植民地を求めアジアに来航した。日本でも黒船に眠れぬ夜？寝ぼけて女台場を作ったが、防禦戦力とならず……あわてふためいて反射炉を築いてみた。「白煉瓦」の知恵も浅く……東奔西走するが「鋼大砲」の夢は至難の業（わざ）だった。

耐火煉瓦研究は随分遅れて、産業革命の夜明けを迎えた。

「トンヤレ節、農兵節（ノーエ）」で文明開化の幕は開き、赤煉瓦（ハイカラ）の銀座の街にガス灯と柳の賑わいを見せ始めた。

岡蒸気が黒煙を吐くころ、富岡製糸工場の木骨煉瓦はひときわ色美しく、春霞の中に異国のドレスが浮かんでいる。

野麦峠に血の涙が流され、真珠の絹糸を織りあげた。「絹の道（シルクロード）」は、港・横浜異人館にたどりつくと生糸が金貨に代わり維新政府を養い、日本丸は世界に出帆した。





江田島兵学校―中庭と幹部候補生学校庁舎（学生館）―
M26／3竣工、英人ダイアック、英国からの輸入煉瓦。
兵学校時代は第一学生館と呼ばれ生徒の寝室及び自習室として使用されていた。
現在は自衛隊幹部候補生の学生館として使用。一部を事務室としている。

煉化石（レンガ）王国・瀬戸内

ハイカラを運んだ煉瓦文化は、広島にも現れた。呉鎮守府、呉海軍工廠、広島湾要塞と芸予要塞、広島兵器・糧秣・被服の各支廠等、海陸軍施設をはじめとし紡績工場、商業建築、官衙建築も煉瓦でつくられた。特に江田島海軍兵学校は、英国式風格をもつ代表的作品である。

M 12　賀茂郡三津村字西山の豊島喜右衛門、登窯式煉瓦工場設立。以降、煉瓦工場地区となる。
21　同上地区煉瓦、呉鎮建設副委員長等実地巡視、高品質として買い付ける。（芸備日報）。
21　豊島煉瓦工場（西山）、東京丸の内三菱煉瓦街に大量輸送（芸備日日新聞）。
36　鉄道呉線開通。トンネル・架道橋に安芸三津煉瓦使用。
40　佐伯郡能美の高田煉瓦、三井物産と煉瓦用石炭600ｔ購入契約締結（芸備日日新聞）。
40　佐伯郡地御前の諏訪煉瓦、官用、軍用として納入（刻印ウ、ス）。
40　賀茂郡安芸三津の西山煉瓦、第５師団、九州、上海租界等に納入。
42　呉電気鉄道㈱開通。赤煉瓦造の火力発電所設置。
T 元　広島軌道㈱開通。（火力発電所、変電所設置）。

瀬戸内沿岸各地（地御前、能美、安芸三津、伊予三津浜等）は良質粘土を産出し、気候風土も煉瓦製造に適し、煉瓦の花を咲かせた。特に隣の三石耐火煉瓦は海外技術の導入により呉工廠でステンレス鋼を生産し、兵器産業は躍進した。

明治初期に早くも登窯から出発した煉瓦工場は、ドイツ技術によ



牛田水源地―明治軍用上水道は、広島市民を伝染病から救ってくれた。この濾過池も今はない



呉軍港呉海軍工廠第九工場―罐詰め工場同様外観が美しい建物である

る輪環窯式に転換し、混練～成形～カット法にも改良を加え、石炭燃料により均一で強固な材質となり、建築界の規格品として市場に出た。

煉瓦のオナマの顔に打ち込まれた刻印（㋮㋬シ㋩㋣㋜㋷㋥…）は工事中、敷モルタルで塗りつぶされる……？　つぶされることが分かっていながらあえて刻印を打つ職人！　煉瓦に自分の生命を打ち込む職人根性!!……は素晴らしい職人芸だと思う。

昭和24年広島城総掘調査をしているとき、大きな石垣の裏から、以下のような石垣紋様を発見した。（名古屋城にも同じ紋様が見られる）

御天守㊄㊀▽△東小天守∞㋑～㊥㊗㊀㋲㋐㋻㊄等 ㋷㋥の□㊀△▽㋷ 」「」㋐㊉㊀△㊄◎

毛利軍団城普請の責任者の刻印である。完成後は見ることも出来ない石垣の裏に刻んでいる。煉瓦刻印とともに品質管理、製品の責任と信頼のある日本人的心の発想だと思う。

瀬戸内煉瓦産業の大成功は、蒸気に勝る大量輸送と機敏な回漕力、宅急便的サービスにあった。しかし煤煙公害の発生と大地震により、ハイカラ赤煉瓦造は明治とともに崩壊した。

アンネビック法（耐震ＲＣ造）が新時代を迎え、瀬戸内煉瓦圏は再び閑静なみかんの村にかえった。

れんがはマドンナ

近郊の代表的な煉瓦造を見てみよう。

M26　江田島海軍兵学校（第一術科学校）　英式

31　牛田軍用水道濾過池（東区市民公園）　英式
38　呉工廠第九工場（砲煩部精密工場）　英式
43　宇品陸軍糧秣支廠（広島市郷土資料館）　蘭式
43　出汐陸軍兵器支廠（広島大学医学部）　蘭式
44　可部水力発電所（太田川漁協）　英式
　　千田町広島電軌発電所（広島電鉄㈱）　英式
T２　出汐陸軍被服支廠（近代文化遺産検討中）　蘭式

上記の中で、美しいとよばれる建物３箇所を挙げる。

Ⅰ）東洋のアナポリス江田島兵学校は、風光明美な瀬戸内にある。建物は厳正な貴公子像を現し、明快で活力がある。特に桜花爛漫、中庭連続アーチと純白な手摺は神秘性を生み、宮殿にある青年士官と貴婦人のロマンを感じさせる。

Ⅱ）呉工廠造兵部第九工場は、グラマン機銃掃射を受けたが男性的で偉丈夫なモダンボーイである。広島の罐詰工場と日傘を回しランディブーする姿を想うと、戦争の重苦しい帷から解放される不思議な名作である。

Ⅲ）携行罐詰め日本一の成績をもつ糧秣工場の飾り柱頭は、二五の迫持ちを造形美学に成長させ、優艶なカキツバタの風情をみせて愛らしい。妻部柱形装飾は絵画的要素をもち、博物館美術館と呼びたい珍しい煉瓦工場である。

いずれの煉瓦造建物も、安らぎと喜びを与えてくれる。これら建物を明治文化遺産と呼び、大切に保存活用できることを有難く想い、感謝の誠を捧げる。

（はしもと　ひでお）



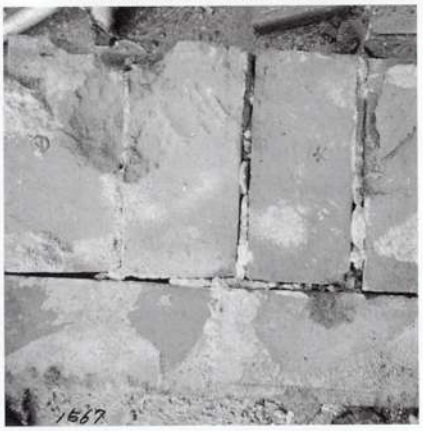
宇品旧陸軍糧秣支廠工場の1/3を残し、広島市資料館として使用（外壁保存補修活用）



出汐町旧陸軍被服支廠４棟残存。被爆建物。明治文化遺産として保存と活用を検討中（広島で最初のＲＣ造化粧煉瓦積工法）



出汐陸軍兵器支廠―８×50K×２階の大規模煉瓦造であるが、今はない。広島大学医学部として活用



煉瓦刻印　㋐㋮―解体工事のとき発見

注）
煉瓦石：明治初期ごろの呼び名
煉瓦：明治中期以降の呼び名

REPORT

GBRCニュース
GENERAL BUILDING RESEARCH CORPORATION OF JAPAN

財団法人 日本建築総合試験所
〒565 吹田市藤白台5-8-1
TEL.06-872-0391 FAX.06-872-0784
業務時間 9：00～17：15

平成8年度の工事用材料受託試験に関する調査—骨材の品質試験—

1．はじめに

当試験所の工事用材料試験部門では、試験業務の一環として、年間に受託している工事用材料試験の結果を集計し、昭和56年度より当所発行の機関誌GBRCに毎年掲載している。平成8年度の集計がまとまったのでここにその抜粋を述べる。

2．集計対象

集計の対象とした骨材は普通骨材で、細骨材では受託試験の全数について、粗骨材では骨材の最大寸法25㎜以下のもの（但し、ふるい分け試験結果については20㎜のみ）を対象とした。なお、当試験所が直接、レディーミクストコンクリート工場で試料を採取して試験を行なったものは対象外とした。

集計の対象とした試験項目は下記に示す11項目である。

(1)ふるい分け（F. M.）、(2)洗い損失量、(3)単位容積質量、(4)絶乾比重および吸水率、(5)安定性損失量、(6)粘土塊量、(7)塩分量、(8)比重1.95の液体に浮く粒子の量、(9)有機不純物、(10)すりへり損失量、(11)軟石量

試験方法はいずれもJISまたはJASS 5によった。ただし、細骨材、粗骨材ともに粘土塊量試験は、前洗いを行うJIS A 5308による粘土塊量試験のみ対象とした。

3．集計方法および集計結果

上記の各試験項目について、骨材の種類および産地別に分類し集計した。

今回、集計結果の詳細は誌面の構成上割愛し、ここでは海砂、山砂および砕石について、代表的な項目の試験値の分布状況をヒストグラムで表し、図—1～3に示した。

4．まとめ

4．1　受託の状況

受託試験から見た細骨材の種類の比率は、海砂が全体の38%、山砂が14%、その両者の混合されたものが13%となり、海砂と山砂で全体の65%を占めている。近年の傾向として砕砂のデータ個数が増加傾向にある。

粗骨材については、砕石が全体の90%を占め、増加傾向にある。次いで川砂利5%、山砂利3%となっており、これらは減少傾向にある。

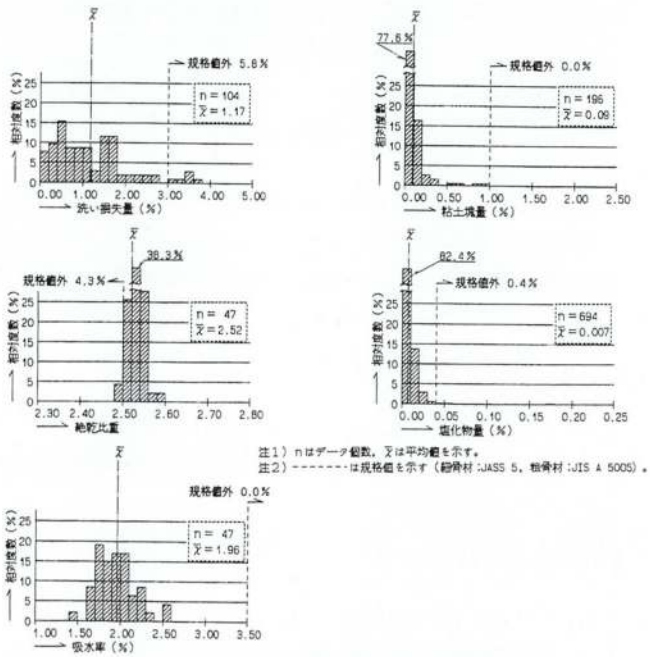
4．2　洗い損失量、絶乾比重、吸水率、粘土塊量、塩分量

図—1に海砂のヒストグラムを示したが、損失量3%を越えるものが5.8%、比重2.5%以下が4.3%、塩分量0.04%を越えるものが0.4%あり、吸水率、粘土塊量については規定値を外れたものはなかった。

図—2の山砂は、損失量で3.5%で、規定値を外れていた。比重、吸水率、粘土塊量については規定値を外れたものはなかった。

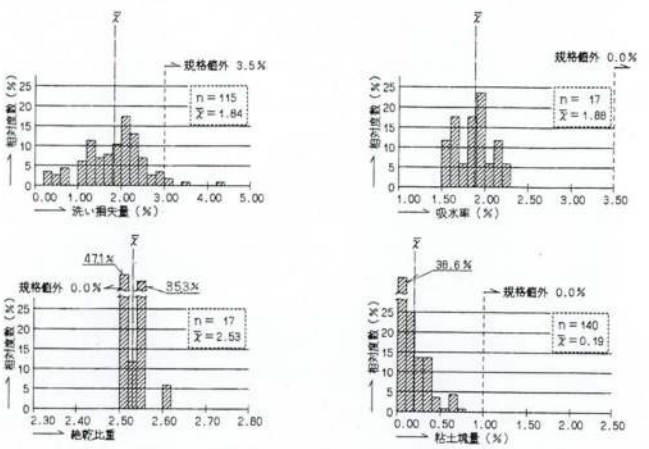
図—3の砕石は、損失量1%を越えるものが7.4%、比重2.5以下が2.7%、吸水率3%を越えるものが2.7%、粘土塊量0.25%を越えるものが1.9%あった。

上記以外の試験の集計詳細、およびその他詳細については当所発行のGBRC 87（1997.7発行）を参照されたい。

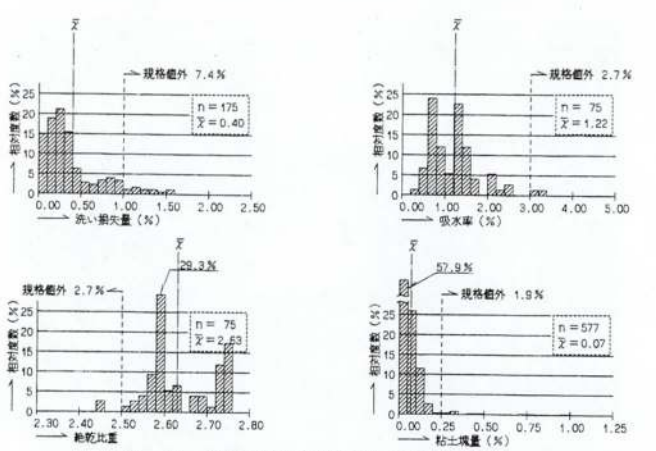


注1）nはデータ個数，x̄は平均値を示す。
注2）- - - - - - は規格値を示す（細骨材：JASS 5，粗骨材：JIS A 5005）。

図—1　海砂の各試験値のヒストグラム



図—2　山砂の各試験値のヒストグラム



図—3　砕石の各試験値のヒストグラム

書評

建築のコモンセンスを問う

加藤　力



建築とつきあう
—建築の作法・設計の作法・人間関係の作法—
横山誠一　著
建築技術
1997年7月1日刊
四六判　223頁　本体1,890円

ごく普通の当り前のことでも、普段は見過ごしていて、あらためて指摘されると“ナルホド、そうだったナ”と教えられることが多々ある。こうした事に触れると、日頃いかに固定観念の中に身を置き、思考の回路が閉ざされたまま、生活に流されているかを思い知らされて、反省する。

「建築とつきあう」(横山誠一著)は、世間で暗黙のうちに造り上げられてしまった建築の、いささか誤ったイメージや概念を問直し、“ナルホド、そうだったナ”とあらためて考え直させてくれる本である。

冒頭に、建築設計事務所とは「建築の設計と事務の両方をする所」とある。言われてみれば確かにその通りで、デザインや図面を作成するだけが建築設計事務所の仕事ではない。施主、施工者、近隣住民、あるいは関係官庁など多くの人達との打ち合わせ、折衝、調整、依頼、協力など幾多の事務手続があって、はじめて建築は出来あがる。こうした事はあまりカウントされないが、設計事務所の仕事の中ではきわめて重要な部分を占める。

著者は、長年にわたり大手建築設計事務所で、それもごく若い頃から管理職を勤めてきた。建築設計事務所が、何であるのかを身をもって体験し、実践してきた。建築設計事務所の運営ノウハウとその仔細を知りつくしている。そうした実務の蓄積の上で書かれた本であるから、全体に筋が通り説得力がある。

だが、この本の内容は建築設計事務所の経営・運営のノウハウについて書かれたものではない。エッセイ風の形式は取られているものの、単なるエッセイともまた違う。“建築とは何か”“設計とは何か”と云った造形の根元にまで触れる内容に迫っている。確かに、著者の語る“建築論”には違いない。しかし、建築論特有の、しかも建築の内輪だけでしか通用しない厄介で、難解な言葉で書かれたものでは決してない。それは、著者が最も避けてきたところのものである。

平易に、誰もが使っている日常の言葉と言い回しで、しかも解かりやすく語られている。それが本書の特徴であるが、実は著者にとってはここが、一番肝心で、最も言いたかった事ではなかったかと思われるところである。建築が一般の人間社会や生活感覚と遊離した特別のものでは決して無く、日々暮らす人間生活の関係の中で、無理なく自然体として造り出されるものである、との基本姿勢が貫かれている。

本書の内容は大きく、建築の作法、設計の作法、そして人間関係の作法の三章で構成される。

建築の作法とは、建築をつくる上でのコモンセンスのことである。一般にはこのコモンセンスが随分誤解されているが、その間違いを正してくれる。例えば、「家を建てる場合には、プレハブ住宅を勧める」とある。設計者としてはなかなか口に出して言えることではないが、“ナルホド”一般の人にとっては家づくりは本当に大変な仕事である。それを身をもって知っているからそう言える。

設計の作法とは、設計する上での見識のことと解釈できる。見識などと著者は言わないが、建築設計者の社会における立ち居振る舞いのことである。その中の一つに「設計者は建築馬鹿になるな」とある。「専門の勉強は必要だが、それ以上に建築の設計者には社会学が必修である」。社会から学ぶことを説き、終局のところ、そうした積み重ねの中での人柄や人間性の問われる仕事、と言う。これも言われて然りである。

人間関係の作法とは、人と建築とのかかわり合いを述べている。「良い建築造りの基本は、良い人間関係づくりにある」と、人間関係のマネージメントの大切さを説く。また、建築づくりの中で主役は誰かを、問題とする。「建築が主役と思うのは主客転倒」という。これもなかなか忘れがちなことである。

かつて、著者はジオ・ポンティを引き合いにして、「建築を愛しなさい、しかしその前にその中味を愛し、生活を愛し、そこに住む人間を愛しなさい」と、語ったことがある。(建築と社会　1987/7)

ナルホド、人をも本当に愛せない者に、良い建築が造れるはずがないのである。その肝心なところを教えてくれる。

(かとう　つとむ／京都工芸繊維大学造形工学科助教授)

新素材

ダイライト

大建工業株式会社
本社　大阪市北区中之島２丁目３番18号
（新朝日ビル）〒530
ダイライト事業部　営業課　06-228-3804
工場　岡山市海岸通２丁目５番８号　〒702
ダイライト事業部　開発課　086-262-5910

開発意図

木材は有用は資源であり、特に南洋材の資源保護は地球環境にとって重要な課題である。その解決策として、主にパーティクルボードやMDF・OSBが合板の代替として検討されてきているが、木材であることには変わりがなく、根本的解決には至っていない。構造用合板に替わる、無機の未利用資源を有効利用した高強度の素材の開発が求められてきた。

また、従来の無機系素材は、防火性は優れているが、強度、重量、加工性に劣るという欠点があり、軽量かつ加工性に優れた素材が求められてきた。

これらの欠点を克服し、軽量で高強度、その上加工しやすい無機系新素材が［ダイライト］である。

この商品の開発にあたっては、メーカーの長年にわたる建材に関する知識とボード作りに関するノウハウが活かされており、技術の結晶によって生まれた商品といえよう。

原料・生産体制

原料は、溶鉱炉から排出される鉱滓から造る鉱物繊維と、自然界に豊富にある火山性堆積物のガラス質材料を発泡軽量化したもので、国内未利用資源を用いているため安定供給・価格の安定化が可能である。岡山に、100億円を投じ、年間生産規模1500万㎡の工場を建設し、平成９年５月より発売を開始している。

製品体系

表１に示すように、ダイライトは、その特徴を生かして３分野を主な用途としている。それぞれの製品特徴は、分野別に以下の項目が挙げられる。

１．耐火野地板―

商品名：ダイライトＲＴ

・軽量であるため作業性が大幅に向上し、高所での作業にも安全である。従来品と比べて、切断時間で約2/3、ビス打ち時間で約1/2と大幅に施工性が向上する。(従来の耐火野地板に比べ60%以下の重量―18㎜厚36kg/枚→21kg/枚になる。)

・安全性を高めるためスベリどめ加工を施しており、これも作業性の向上に役立っている。

・設計上でも1000㎡で、およそ10トンの軽量化が可能となり、建物全体としての軽量化が図れる。

・曲げ破壊荷重が強く、積雪等の荷重に対しても安全性が高くなっている。(606㎜スパンで短期許容荷重1200kgf/㎡と従来品の1.5倍の荷重に絶え得る。)

・曲面施工も最小曲率半径６ｍまで可能であり高い施工性を持っている。

・各種屋根葺材での屋根耐火30分の認定を取得している。

２．耐力面材～燃えにくい・腐らない・白蟻に強い寸法安定性に優れている

商品名：ダイライトＭＳ

・無機質素材でありながら構造用合板と同レベル以上の壁倍率を認定された。12㎜厚品は壁倍率3.0と構造用合板以上の高い値が認定され、燃えにくいことも含めて住宅の安全性が向上し設計の自由度もアップした。

商品名：ダイライトＭＫ

・石膏ボードより軽量でありながら、高壁倍率を認定され、クロスも張れる仕様である。各種受け材方式が認可され設計の自由度がＭＳとの併用により更に向上する。

商品名：ダイライトＭＹ

・構造用合板並みの床水平構面耐力を、無機系素材として初めて認定された。(２×４用)

３．産業用基材

商品名：ダイライトＦ及びＪ

・室内空間を装う多様な化粧ニーズに対応する基材であり、表面が高緻密・平滑性に優れているため、突板・シート張り・塗装・ダイレクト印刷等様々な用途が可能である。更に、加工性に優れ、寸法安定性にも優れている。

おわりに

ダイライトは木質系の長所と無機系の長所を併せ持つ次世代の新素材といえ、メーカーでは用途の多様化に応えるため、厚さ５～25㎜の製品化を考えており、またパネル化工法に対応するため原板サイズを最大長さ６ｍまで可能とするなど、今後の建材の動向も念頭にいれた対応を考えている。　**(猪野達雄／編集委員)**



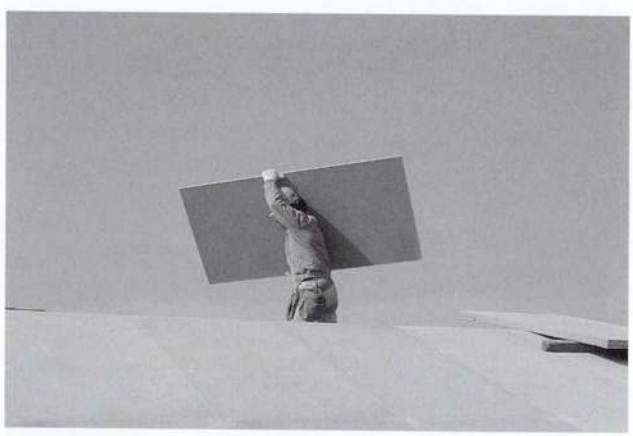


表1　ダイライトの主な用途

用途	商品名	厚み構成	比重	不燃性
耐火野地板	ダイライトRT	18.0㎜	0.70	準不燃
耐力面材	ダイライトMS(外壁下地材)	9.0㎜　12.0㎜	0.70	準不燃
	ダイライトMK(耐力クロス下地材)	9.5㎜　12.5㎜	0.63	準不燃
	ダイライトMY(耐力床下地材)	15.0㎜	0.70	準不燃
産業用基材	ダイライトF	6.0㎜　9.0㎜	0.70	不　燃
	ダイライトJ	6.0㎜　9.0㎜	0.70	準不燃

表2　ダイライトＲＴ物性表

項目		物性（自社測定値）	
気乾状態	不燃性	準不燃（個）第2897号	
	耐火性	屋根30分耐火 R—0274（金属・スレート瓦） R—0318（粘土瓦）	
	厚さ　㎜	18	
	比重	0.7	
	重量　kg/枚（サイズ　㎜）	21（910×1820）	
	曲げ強度　N/㎠（kgf/㎠）	1860（190）	
	タッピングビス保持力　N（kgf）	990（101）	ビス胴径　4φ ビス頭径　8φ
	タッピングビス頭引抜き強度　N（kgf）	1270（130）	ビス胴径　4φ ビス頭径　8φ
※吸水状態	吸水率　%	8.0	
	厚さ膨張率　%	0.30	
	長さ膨張率　%	0.12	
熱伝導率　W/mK（kcal/mh℃）		0.13（0.11）	
凍結融解試験		異常なし	
最小曲率半径　m		6.0	

※気乾状態→24時間吸水時の変化

表3　ダイライトＲＴ許容荷重（等分布荷重）

母屋ピッチ（㎝）	短期許容荷重（kgf/㎡）	長期許容荷重（kgf/㎡）
45.0	2200	1100
60.6	1200	600

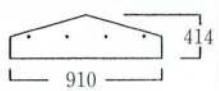
＊短期許容荷重は、曲げ強度の2/3で計算
＊２mの積雪では、420kgf/㎡（200×３kgf/㎡×0.7）の長期荷重がかかる

表4　ダイライトＲＴ許容荷重（集中荷重）

母屋ピッチ（㎝）	短期許容荷重（kgf/㎡）	長期許容荷重（kgf）
45.0	520	260
60.6	380	190

＊短期許容荷重は、曲げ強度の2/3で計算

表5　軒先、けらば及びむねでの風圧力に対するダイライトＲＴの安全性

高さ	20m	30m	40m	50m	備考
風圧力(kgf/㎡)	381	421	453	479	$P=1.5\times120^{4}\sqrt{h}$
ダイライトＲＴのビス１本当たりの風圧力(Kfg/本)	39.4	43.5	46.9	49.5	ビスピッチ　タテ@300 ヨコ@606 16本/３×６枚
ダイライトＲＴの母屋に対する安全性（倍）	3.3	3.0	2.8	2.6	ビス胴径　4φ ビス頭径　8φ 長さ　30㎜以上 ビス頭引抜き強度130Kgf (127ON)
繊維セメント屋根材でのビス１本当たりの風圧力（Kgf/本）	27.8	30.8	33.1	35.0	
ダイライトＲＴの繊維セメント屋根材に対する安全性（倍）	3.6	3.3	3.1	2.9	ビス胴径　4φ ビス頭径　8φ 長さ　30㎜以上 打込み深さ　板厚 ビス保持力　101Kgf (99ON)





建築学会近畿支部50周年記念行事

㈳日本建築学会近畿支部が昭和22年11月29日に創設されて50年。近畿支部では10月～11月にかけて≪関西発：都市と建築の未来―新しい時空間へ≫をメインテーマに数々の50周年記念行事を企画している。

■「平城宮朱雀門の復原」特別見学・展示会

工事用の素屋根が残った状態で、建物の完成真近な姿を見学することができるこの秋に、見学会が実施される。建物形態や規模・質感を含めて当時の建物を体感できるチャンスである。参加費無料。

日時　1997年10月20日(月)・21日(火)　9：00～16：00
会場　平城宮朱雀門の現地（奈良市平城宮跡）
定員　1日当たり2000名

■シンポジウム「平城宮朱雀門復原―建築技術における伝統と現代の邂逅―」

朱雀門の復原設計のプロセス、構造面での現代技術の支援、伝統と現代の建築技術の施工の実態等を、復原工事に携わった各分野の専門家が紹介。参加費無料。

日時　1997年10月21日(火)　13：00～16：00
会場　奈良国立文化財研究所平城宮跡資料館講堂（奈良市佐紀町）
定員　200名（申し込み先着順）
講師　田中　琢氏（奈良国立文化財研究所）、春日井道彦氏（文化財建造物保存技術協会）、木村勉氏（奈良国立文化財研究所）、木林長仁氏（竹中工務店）
司会　宗本順三氏（京都大学）、山岸常人氏（京都大学）

■記念シンポジウム・第2回「文化ストックとしての建築の再生と継承」

歴史家・都市計画・構造家・行政からパネラーを招き、建築のつくる文化的環境の継承のあり方について、海外の事例をまじえながら討議する。

日時　1997年10月17日(金)　13：30～16：30
会場　生田神社会館大会場（神戸市中央区山手通1-2-1　TEL078-391-8765）
定員　200名（参加費無料）
講師　有村桂子氏（いるか設計集団）、浅川滋男氏（奈良国立文化財研究所）、西澤英和氏（京都大学）、宗田好史氏（京都府立大学）、佐藤定義氏（神戸市）、安井清氏（安井杢工務店）
司会　鳴海邦碩氏（大阪大学）、瀬川輝夫氏（竹中工務店）、浮田高志氏（安井建築設計事務所）

＊

以上10月の催しには、建築学会会員以外の参加をも募っている。参加希望者は、参加したい行事名・氏名・連絡先住所・電話番号を明記し、ハガキ等で㈳日本建築学会近畿支部（〒550 大阪市西区靱本町1-8-4 TEL06-443-0538）へ連絡のうえ、開催当日直接会場へ。ただし、「朱雀門復原特別シンポジウム」は往復ハガキ（返信ハガキには宛名を明記）で申し込むこと。

住宅情報誌「カーサ・ウエスト」創刊

関西で建築家による住宅を建てたい人を応援する情報誌「カーサ・ウエスト」がこのほど創刊された。同誌は、関西圏で建築家を探している建築主に建築家を紹介すると同時に、住まいづくりの参考情報を提供することをめざした内容で、創刊号では都市型の狭小敷地における住宅を特集として取りあげている。文章も一般の人々でも理解できる表現にしており、また総工費、坪単価なども記載している。



定価1,800円。第2号は12月に発行予定。

問合せは、㈲ホットキューブ・伊東まで（〒530 大阪市北区天神橋1-14-15-503　TEL06-352-9895 FAX06-352-9896）

ODP デザインセミナー

大阪デザイン振興プラザ（ODP）では「ヒットデザインはいかにして創られるか」を今年のテーマにデザインセミナーを開いているが、10月の特別セミナーで、「のぞみ500系」等の車両デザインを手がけた木村一男氏から「変わりゆくデザインの役割」と題した話を聞く。

テーマ　「変わりゆくデザインの役割～のぞみ500系の開発をめぐって」
日　時　1997年10月17日(金)　15：00～16：30
会　場　アジア太平洋トレードセンターATC ITM棟10階 デザインセンター内セミナールーム
定　員　100名（先着順）
参加費　2000円（当日会場で支払い）
講　師　木村一男氏（国際デザインセンター専務取締役）
――東京芸術大学美術学部卒業。旧国鉄時代から鉄道車両のデザイン開発に携わり、現在、国際デザインセンターでデザイン振興活動に取り組んでいる。
申込み　10月16日㈭までに電話かFAXで、アジア太平洋トレードセンターITM事業部（TEL06-615-5510、FAX06-615-5137）へ。

近代建築講演会

取り壊されたもの、取り壊しが心配されるもの、保存が決まったもの、大切に活用されている近代建築の写真150点を映写、説明する。

テーマ　「見なおそう南大阪の近代建築―幻燈で見る明治・大正・昭和戦前の建築―」
講　師　柴田正己氏（明治建築研究会代表）
日　時　1997年10月20日(月)　14：00～16：00
会　場　和泉市コミュニティセンター（大阪府和泉市府中町2-7-5 JR和泉府中駅徒歩10分）
主　催　桃山学院大学エクステンションセンター
申込先　上記（TEL0725-54-3131）

建築 Next Phase 研究会

土木分野でランドスケープデザインを手がける建築家、デザイナーが増えているが、人間の深層心理をふまえたデザイン・アプローチ、充実したパターン・スタディーを行うなど、従来にないユニークな方法に基づいた実作活動を展開する講師による講演内容。斎藤裕美氏は、新日本坂トンネル・抗口、新鍛治屋敷橋・遮音壁、青森ベイブリッジ・エクステリア、守谷町・信号機をはじめとする実績をあげている。

テーマ　「空間デザインへの新しいアプローチ―空間創造研究所がつくるランドスケープとインテリア」
講　師　斎藤裕美氏（空間創造研究所・デザイナー）
司　会　細野　透
日　時　1997年10月31日(金)　18：30～20：30
会　場　東京デザインセンター（東京都品川区東五反田5-25-19）
参加費　2000円（学生1500円）
申込先　東京デザインセンター建築 Next Phase 研究会「公開セミナー」係（TEL03-3445-1121）

第17回現代日本彫刻展

テーマ　「煌（きらめく）」
構　成　招待作品10点と公募入選作品10点合計20点
会　期　1997年10月1日(水)～11月10日(月)
会　場　宇部市野外彫刻美術館（宇部市常盤公園内）
入場料　460円（入園料）
主　催　宇部市・現代日本彫刻展運営実行委員会・毎日新聞社

「環境・省エネルギー建築賞」募集

(財)住宅・建築省エネルギー機構（理事長：山口信夫氏）は、建築物として優れた作品であるとともに、環境負荷を低減し、省エネルギーについて建築主、設計者、施工者の協力により顕著な成果を上げ、波及効果が期待される作品を募集する。

表彰部門　(イ)事務所ビル部門
(ロ)商業・サービスビル部門
(ハ)その他部門

対象建築物　(1)国内で竣工した建築物（戸建て住宅は除く）の新築、増築、改築、模様替え等。用途、規模は問わず。
(2)1年以上使用しているもの
(3)平成5年4月以降に竣工または増改築等の工事が完了したもの

応募資格　建築主・設計者・施工者の連名とする

提出資料　応募申請書、建築・設備の概要、全景写真および代表的な建築図面、設計要旨及びエネルギー消費量の実態、その他の資料

応募締切　1997年**10**月**28**日(火)必着

審査委員　藤井　正一氏（芝浦工業大学名誉教授）
松尾　陽氏（明治大学）―委員長―
石川　哲久氏（建設省住宅局）
石野　久彌氏（東京都立大学大学院）
和泉　洋人氏（建設省住宅局）
岡　建雄氏（宇都宮大学）
岡部　憲明氏（岡部憲明アーキテクチュアネットワーク）
小玉祐一郎氏（建設省建築研究所）
小峯　裕己氏（千葉工業大学）
坂本　雄三氏（東京大学大学院）
島崎　勉氏（建設省建築研究所）
田中　雅資氏（住宅・都市整備公団）
吉田　倬郎氏（工学院大学）

資料請求　(財)住宅・建築省エネルギー機構建築研究部
（〒102 東京都千代田区二番町4-5
FAX03-3222-6696）

「住まいとコミュニティづくり活動助成」及び「若手デザイナー助成」公募

(財)ハウジングアンドコミュニティ財団（理事長：合田耕平）では、「住まいとコミュニティづくり活動助成」と「若手デザイナー助成」の二つの助成事業について、本年度も公募を行う。

助成期間　1998年 **4** 月 **1** 日～1999年 **3** 月**31**日

募集期間　1997年**10**月 **1** 日～1997年**12**月**10**日
（応募要項・申込書の請求は、本年11月10日までに官製ハガキで(財)ハウジングアンドコミュニティ財団助成係まで）

審査決定　選考委員会で審査の上、98年2月下旬に決定の予定。

■「住まいとコミュニティづくり活動助成」

内　容　民間グループによる住まいとコミュニティづくりについての先駆的・創造的活動を支援。

助成金額　1件当たり原則として200万円を上限として合計1600万円

選考委員　委員長小澤紀美子氏(東京学芸大学教授)他7名

■「若手デザイナー助成」

内　容　若手デザイナー及びそのグループの1年間のデザイン研究を支援するもので、今年度のテーマは「集住体の未来像」。

助成金額　1件当たり500万円を上限として合計1200万円。

選考委員　柏木　博氏（武蔵野美術大学教授）
隈　研吾氏（建築家）

問合せ　(財)ハウジングアンドコミュニティ財団担当：筒井、黒澤（〒107 東京都港区赤坂3-21-20 赤坂ロングビーチ　TEL03-3586-4869）

「ベルリン・ポツダム広場―都市の一角の実験」展

現在、ヨーロッパ最大の都市計画プロジェクトは、東西ベルリンの境に位置したポツダム広場を中心とする地区で進められている。同展では、建設中のこのプロジェクトを、1991年～1994年までの創造プロセスをふまえて、参加した建築家たちによる模型、オリジナルドローイング、スケッチ、図面、映像などで紹介。

会　期　1997年**10**月 **7** 日(火)～**10**月**24**日(金)
9：30～17：30（土・日・祝日休）

会　場　東京都第二本庁舎2F 交流展ホール（東京都新宿区西新宿2-8-1）

入場料　無料

主　催　東京ドイツ文化センター／ifa ドイツ文化対外文化センター／東京都

展示内容　模型18点／スケッチ・ドローイング・図面103点／写真16点／映像1点（予定）

問合せ　デルファイ研究所担当：伊藤、仲條(TEL03-3222-5031)

「風呂とSAUNA―沐浴の原点と未来」展

日本とフィンランドという遠隔の地にありながら、世界の沐浴文化の中でもっとも特徴的な発展をとげた日本の「風呂」とフィンランドの「SAUNA」。その原点を明確にしながら、各々の文化伝統と現代までの多様な発展の姿を、写真、図版、立体、モックアップ、映像等で展示構成し、4つの主題「やすらぎ―Relaxation」「きよめ―Purification」「いやし―Healing」「たのしみ―Comfort」を手がかりに探る。

会　期　1997年 **9** 月**26**日(金)～**10**月**12**日(日)

会　場　新宿アイランドアクアプラザ（東京都新宿区西新宿6-5-1新宿アイランドタワー円形棟B1F、地下鉄丸ノ内線西新宿駅下車）

観覧料　一般500円（学生400円）

主　催　風呂＆SAUNA展実行委員会、デルファイ研究所

問い合せ　デルファイ研究所
（TEL03-3222-5031、FAX03-3222-5033）

関西四大学合同建築展

テーマ　「FUTUER VISION」

主　催　四大学合同建築展実行委員会（大阪芸術大学／京都精華大学／京都造形芸術大学／京都芸術短期大学）

■展示会

会　期　1997年**10**月**21**日(火)～**10**月**26**日(日)
10：30～18：30

会　場　ギャラリー楽（京都市左京区北白川瓜生山2-116　TEL075-791-9121）

■シンポジウム

パネラー　井上章一（国際日本文化研究センター助教授）
入江経一（建築家）

司　会　松本　正（京都造形芸術大学専任講師）

日　時　1997年**10**月**25**日(土)　17：45～19：15

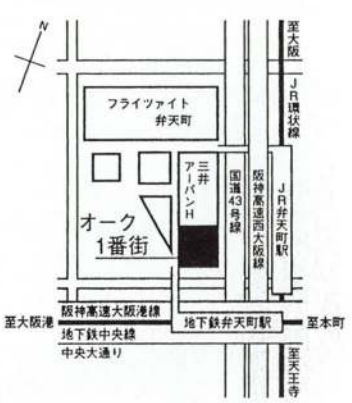
会　場　京都造形芸術大学・京都芸術短期大学内・直心館J41教室（京都市左京区北白川瓜生山2-116）

問合せ　大阪芸術大学建築学科合同建築室
（TEL0721-93-3977 内線3335）

昭和設計本社移転

(株)昭和設計では、創立40周年を迎えるのを機に、事務所機能の総合化、高度化を図るため、本社をこのほど下記に移転した。

本社新住所　〒552-0007 大阪市港区弁天1-2-1-800
（オーク1番街・受付8F）
TEL06-575-5555代表



月間の動き

【平成9年7月分】

編集委員会

第4回会員企画小委員会
1日　7時～9時　於本会会議室
出席者　稲木副委員長ほか2名
議　事　(1)シリーズものの報告と掲載予定
　　(2)新しい企画案
第3回法令分科会
2日　2時～3時45分　於本会会議室
出席者　城戸幹事ほか3名
議　事　(1)「法令コーナー」の企画
　　(2)法令特集の企画
第4回構造分科会
2日　6時～8時30分　於本会会議室
出席者　田辺幹事ほか4名
議　事　(1)編集委員追加の件
　　(2)「構造の頁」の企画
　　(3)構造特集の企画
第4回施工材料分科会
3日　4時～6時　於本会会議室
出席者　十倉幹事ほか5名
議　事　(1)特集の企画
　　(2)「施工材料の頁」の企画
第2回計画分科会―計画系―
4日　6時30分～9時　於本会会議室
出席者　小浦幹事ほか2名
議　事　10月号「モザイク都市の住むかたち」特集の企画
合同分科会特集編集第2回会議
15日　6時30分～9時　於本会会議室
出席者　朝倉委員ほか6名
議　事　平成10年1月号合同分科会「神戸、阪神の新しい都市づくり」(仮称)特集企画
第3回広告企画小委員会
17日　5時～6時　於本会会議室
出席者　小幡副委員長ほか2名
議　事　(1)8月号「新エネルギー」「住宅・都市整備公団改革への提言」特集広告経過報告
　　(2)9月号「クロスワード都市 OSAKA」特集広告経過報告
　　(3)10月号「昭和設計創立40周年」特集広告経過報告
　　(4)11月号「京都駅ビル」特集広告経過報告
　　(5)独自特集企画経過報告
　　(6)作品作風欄報告
　　(7)収支状況報告
第4回編集委員会
17日　6時～8時30分　於本会会議室
出席者　與謝野委員長ほか9名
議　事　(1)8月号「新エネルギー」特集「住宅・都市整備公団改革への提言」特集経過報告
　　(2)9月号「クロスワード都市 OSAKA」特集経過報告
　　(3)10月号「モザイク都市の住むかたち」特集企画検討
　　(4)11月号「会員作品―私の空間作法」特集報告
　　(5)2月号「構造」特集報告
　　(6)新シリーズ「社会の眼」及び「その裏頁」の企画検討
　　(7)新シリーズ「素材と技術が生み出すデザイン」(仮称)企画検討
　　(8)収支状況報告
第4回設備分科会
23日　6時～8時50分　於本会会議室
出席者　桝井幹事ほか5名
議　事　(1)来年度の設備特集の企画
　　(2)「設備の頁」の企画
第4回作品作風小委員会
24日　6時30分～9時　於本会会議室
出席者　宮地副委員長ほか6名
議　事　(1)前回編集委員会の報告
　　(2)作品の掲載状況並びに掲載予定

事業委員会

第4回　若い会員の集い小委員会
8日　7時～9時45分　於本会会議室
出席者　廻幹事ほか4名
議　事　(1)実施報告及び今後の予定
　　(2)「委員の時間」
第3回広報小委員会
9日　6時～8時　於本会会議室
出席者　川村副委員長ほか9名
議　事　実施報告及び今後の予定
第3回見学会小委員会
10日　6時～7時40分　於本会会議室
出席者　福島副委員長ほか10名
議　事　(1)新委員の自己紹介・挨拶
　　(2)実施報告及び今後の予定、見学会の候補
第3回事業委員会
16日　4時～5時30分　於本会会議室
出席者　多井委員長ほか4名
議　事　各小委員会からの報告と検討

建材委員会

第4回建材委員会
9日　3時30分～5時30分　於本会会議室
出席者　元木副委員長ほか9名
材料説明：火山性ガラス質複層板／担当猪野委員
議　事　(1)今後の検討建材
　　(2)秋期工場見学会

出版委員会

18日　5時～6時　於本会会議室
出席者　山田委員長ほか6名
議　事　(1)〈プロのノウハウ〉と特装本の経過報告
　　(2)今後のテーマと執筆者選定
　　(3)第17回「プロのノウハウ」講座

建築家に何ができるか

第5回「阪神大震災・被災地の現場から考える」
「都市の記憶の継承―登録文化財制度と建築家の役割」
村上裕道／兵庫県教育委員会社会教育・文化財課主査
25日　6時30分～9時　参加者　26名

プロのノウハウ講座

第17回「建築基準法の難解条文を読みこなすコツ」
18日　6時～8時
講　師　高木任之／㈳日本木造住宅産業協会専務理事
参加者　23名

建築クラブ

第303回朝食会
8日　8時～9時30分　於リーガグランドホテル
演　題　「自分らしさ」の風潮の中でのお洒落検証
講　師　皆美あい氏(イメージスタイリスト)
参加者　56名

80年史編纂委員会

第3回80年史編纂委員会
7日　4時～6時45分　於本会会議室
出席者　長谷部委員長ほか4名
議　事　80年史の編纂内容(目次等)

入会者(敬称略)

〔個人会員2名〕
黒田　憲二(鹿島建設)　　竹中　勇夫(日建設計)

◀会員の訃報
名誉正会員　吉原九州男(吉原組)　1997年7月9日

〔訂正〕
本誌1997年9月号「建築の眼」頁の「南海電鉄浜寺公園駅」欄中、「長野、片岡建築事務所」となっているのは、「**辰野**、片岡建築事務所」の誤りです。謹んで訂正します。

SHOWA SEKKEI

40years of Showa Sekkei
昭和設計40周年記念特集

建築計画系
神戸ファッションプラザ
文化パルク城陽
(仮称)高知市民総合文化プラザ
京都市女性総合センター「ウィングス京都」・中京青年の家
青木・平通両画伯記念館「ミューゼ・レスポアール」
熊取町立総合体育館「ひまわりドーム」
大阪府立門真スポーツセンター「なみはやドーム」
長居陸上競技場
島本町ふれあいセンター
三田市総合福祉保健センター
東京都高齢者福祉・医療の複合施設基本計画
宝塚市立病院・宝塚市立看護専門学校・宝塚市立老人保健施設「ステップハウス宝塚」
姫路赤十字病院
城東やすらぎセンター(十全病院・医王ヶ丘病院・老人保健施設「ピカソ」)
六甲アイランドシティイーストコート9番街・特別養護老人ホーム「協同の苑六甲アイランド」
兵庫県警察本部庁舎
春日町庁舎
(仮称)ホワイトドームプラザ
ホテルノルド小樽
ジャンボオーナーズ淡路島
A・SQUARE
森長組神戸支店
SŌRA新大阪21
運輸省海技大学校本館
神戸市立中央小学校
エスタシオン・デ・神戸

環境計画系
UNEP国際環境技術センター
神戸市立西神斎場
小野加東新斎場
奥平野浄水場管理事務所・工事事務所
豊中市・伊丹市クリーンランド余熱利用施設「クリーンスポーツランド」
堺市クリーンセンター東工場　第二清掃工場・管理棟
神戸市垂水海浜センター「平磯芝生広場」
明石市大久保浄化センター
神戸市西部処理場消化タンク
西宮市甲子園浜浄化センター
和田山町和田山浄化センター
七尾市西部水質管理センター
東和町東和片添浄化センター
大阪市下水道科学館

都市計画系
宝塚駅前(花のみち周辺)地区第二種市街地再開発事業
阿倍野A1－1棟(阿倍野A1地区第二種市街地再開発事業施設建築物)
ピフレ SHIN－NAGATA(新長田駅前地区第一種市街地再開発事業施設建築物)
ポルタス堺(堺駅西口地区第一種市街地再開発事業施設建築物)
新金岡地区再整備計画(再開発地区計画)
てんきてんき村まちおこし計画
岡山県大原町まちづくり計画
東大阪新都心整備推進調査

総合技術系
進歩する技術
建築設備と環境共生
阪神・淡路大震災に学ぶ

特別寄稿文 他
川口衛氏のコメント
石井幹子氏のコメント
栗原嘉一郎氏のコメント
堯天義久氏のコメント
主要ディテール写真集
年表:昭和設計の40年
40年のあゆみ
編集後記
施工会社一覧

略号 Abbreviation

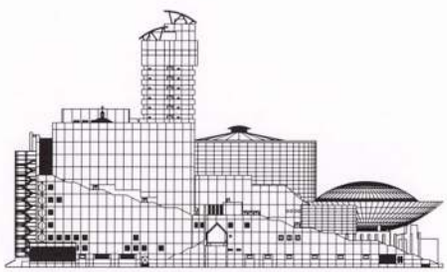
Ar	Architect
StE	Structural Engineer
ME/EE	Mechanical Engineer/Electrical Engineer
Su	Supervisor
Co	Consultant
Pl	Planner
CivE	Civil Engineer
PE	Plant Engineer
DS	Design Supervision
DC	Design Consultant


Kobe Lausanne Hotel

神戸ファッションプラザ
Kobe Fashion Plaza

建築計画系

建築主: 株式会社 神戸ファッションプラザ
所在地: 神戸市東灘区向洋町
構造規模: S+SRC. B2－19F
延床面積: 91,664㎡
工期: 1993.8～1997.3



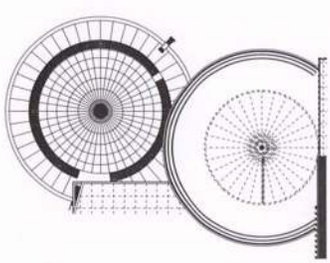


“ファッション”概念の建築形態化

神戸ファッションプラザは、神戸の海上都市六甲アイランドのほぼ中央に位置している。全体デザインは低層部を古代の遺跡が風化した丘とし、その上に現代の建物がのるという構成にして過去から現代そして未来へと続く時の流れを表した。そして、上昇しながら周囲を巡る大階段は何十年かごとの繰返しを行いながら、螺旋状に進化するファッションの世界を象徴している。ファッションとは過去から未来へと流れて行く“時”の流れをある切断面で切った時に現れる人々の様々な動きではないだろうか。このコンセプトを基に、建築形態としては螺旋状の時の流れの中に時を越えて飛来してきたUFOが突きささり、その流れを切断するという表現にしている。また、無限に繰り返すであろうファッションの流れを配置上、アトリウムとUFOの円形を部分的に重ね合わせて∞を形づくることで暗喩している。我々はこれらのコンセプトを具現化するとともに、神戸市が官民一体で進めてきた街づくりを継承・発展させ、よりよい都市環境形成に寄与することを念頭に計画を進めて来た。

Ar: S.Mitsumune, E.Ko, A.Takatsu, T.Nakajima, S.Nakade, N.Sawa, M.Ito, F.Matsumura　StE: H.Kunitomo
ME/EE: K.Seto, A.Akayama　Su: T.Yonemoto, T.Nakajima, T.Kawakata
DS: Mamoru Kawaguchi, Professor, Hosei University (Structural planning)
Yoshiteru Murosaki, Professor, Kobe University (Disaster prevention planning)
Yoichi Ando, Professor, Kobe University (ORBIS HALL Acoustic planning)









アトリウム

デザインテーマとしての“無限”

張弦梁構造の屋根とそれを支える柱、梁の構造の美しさを素直に表現することを心掛けた。そこに、時空を超えて飛来したUFOが建物の皮膜を突き破って貫入し、デザイン的なアクセントとしている。また、床デザインは張弦梁のパターンを映し、中心部の直径3m部分にその縮小パターン、さらに中心の直径30cm部分にも強化ガラスに縮小パターンをエッチングし、スケールを変えてパターンを繰り返すことにより、ファッションの無限の繰り返しを暗喩した。

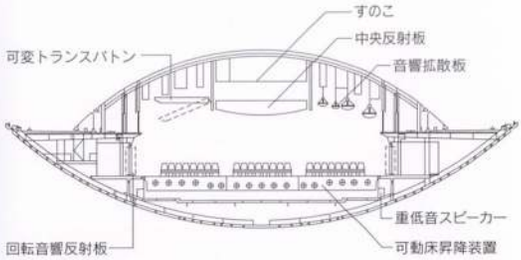






左から、ミュージアムホール、ファッションウイング、ライブラリー



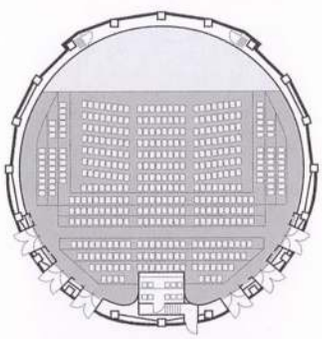


オルビスホール断面

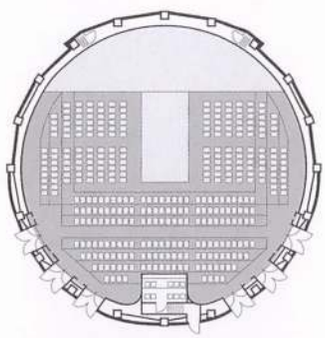




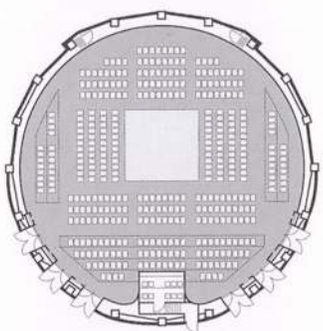
上左：スラストステージタイプ、上右：断面図、下左：ホワイエ、下右：平土間タイプ



コンサートステージタイプ

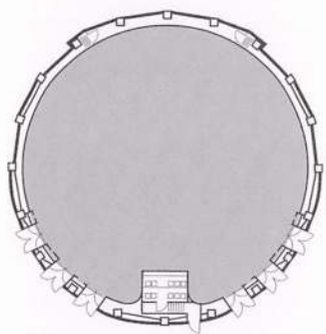


スラストステージタイプ



センターステージタイプ

このパターンの変化は、床について電動昇降床、椅子については床下収納型電動昇降椅子と舞台下部に収納する可動席にて対応している。



平土間タイプ

円形多目的ホールの音響計画

音に対する知覚が右脳の空間把握、左脳の時間把握という2つの脳の働きによるという観点から、空間上と時間上の2つのカテゴリーに分けて、電気音響から生演奏まで対応可能なホールとなるよう音響計画を組み立てた。

空間のコントロールとして、①照明装置を兼ねた天井中央の音響反射板と多数の小型拡散板により音の拡散に務めた。②床下に5箇所重低音スピーカを設置する等、音場として床下空間を積極的に利用した。③開閉式反射板や、表が反射性で裏が吸音性の回転反射板、舞台上部の可変角反射板により、IACC（両耳間相互相関度）の向上に務めた。

時間のコントロールとして、①固有の残響時間を非常に短く設定し、アコースティックな音のイベント時には、残響調整室を使って建築音響と電気音響を融合させるシステムによる残響付加を試みた。②平面計画上、突出した母子室等により、"ささやきの回廊"となることをさけた。



文化パルク城陽
Joyo City Cultural Center

建築計画系

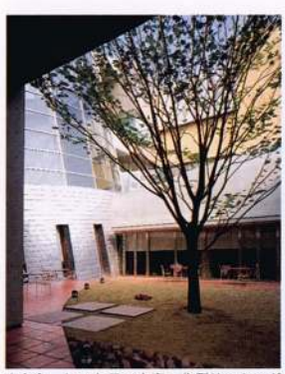
建築主: 城陽市
所在地: 京都府城陽市寺田今堀
構造規模: SRC＋S＋RC. B1－5F
延床面積: 19,968㎡
工期: 1993.3～1995.6





“感動”“交歓”“創造”の場

城陽市は、京都と奈良の中間に位置し、ベットタウンとして発展してきており、文化活動が活発な地域である。
本施設は、音楽主体でありながらも本格的な舞台機構設備をもった多目的ホール（1305席）、市民利用を主眼にした親しみのある中ホール（400席）、プラネタリウムやプレイルームのある子供館、図書館、歴史民俗資料館、会議室や調理実習室等からなるコミュニティセンター等、多くの文化機能をもった施設である。
各施設を様々な要素でデザインしてそれぞれの表情をもたせ、それらを有機的につなぐことにより、新しい発見を喚起させることを狙っている。
親しみある施設として、オープン以来、予想をはるかに超える市民や見学者が訪れ、気軽に立ち寄れやすい施設として、これからも愛され続ける事を願っている。

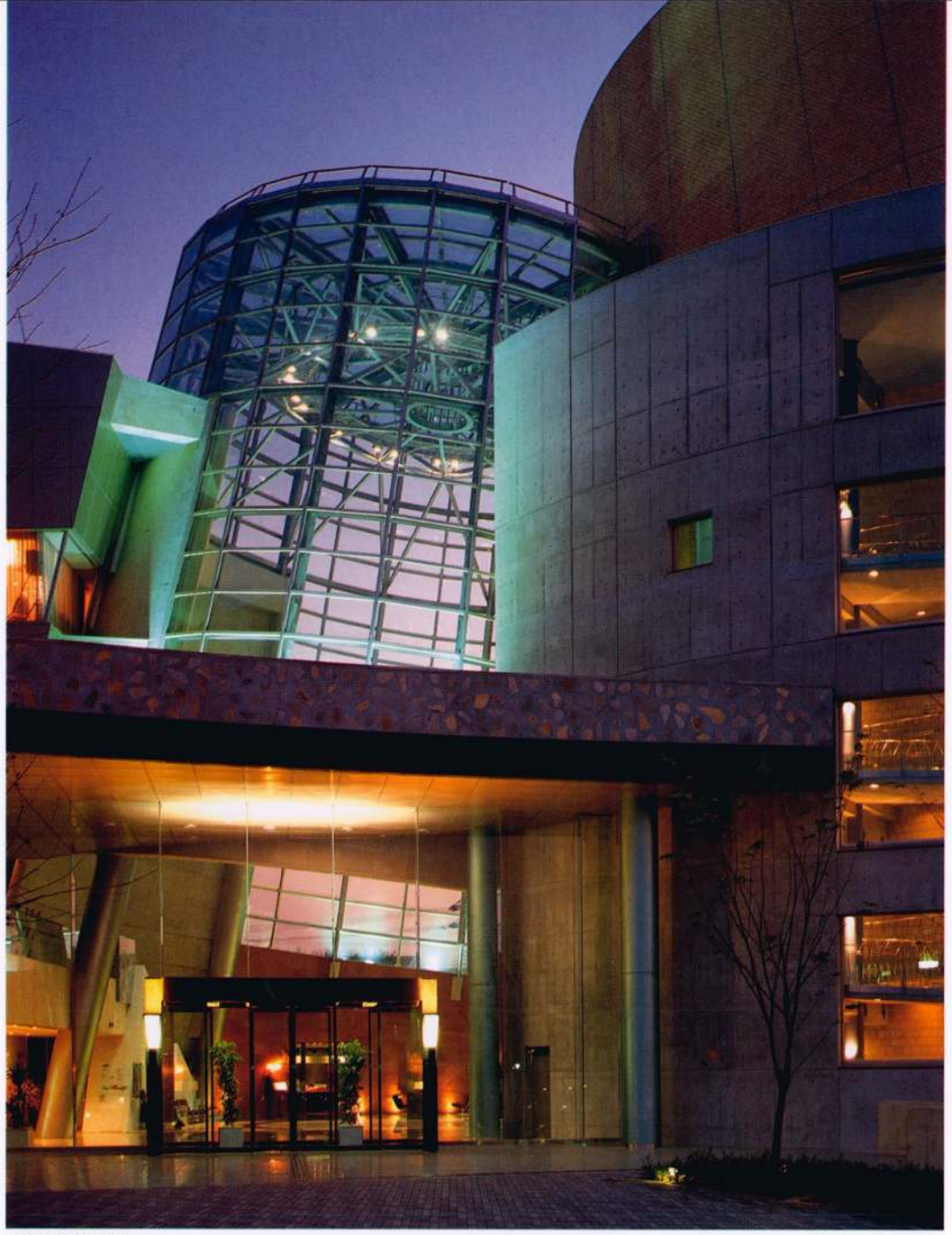






左から、レストラン中庭、北側サンクンガーデン、せせらぎ

Ar: M.Yamamoto, M.Nonoyama　StE: H.Chinami, R.Hayashi　ME/EE: H.Okumiya, S.Terada, S.Tomita
Su: S.Kimura, Y.Nokura, M.Nonoyama
DS: Seiichiro Nishimura, Professor, Kyoto Institute of Technology (Design planning)
NHK Engineering Services, Inc. (Acoustic planning)



メインエントランス





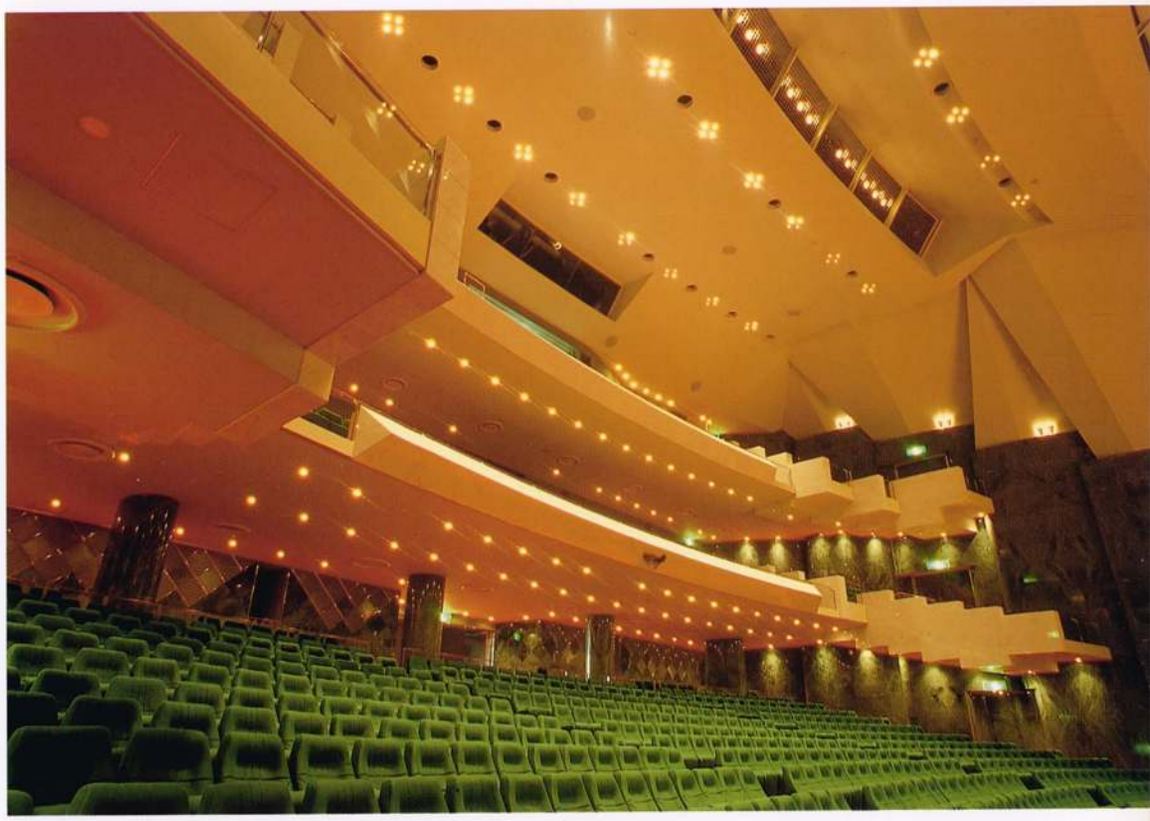




外観撮影位置　左：北西、右上：北、右中：南、右下：北東

隆起する大地

郊外のおおらかな田園風景がひろがる中で、外壁色はアースカラーを基調とし、建物がこの地から隆起したかのようなイメージを表現した。敷地の広さに恵まれ、建物内の各々の施設機能を外からでも感じられるようにデザインし、周辺環境に溶け込ませた。



ブラムホール









上左：図書館、上中：ブラムホールホワイエ、上右：市民プラザ、下：コスモホール（プラネタリウム）

文化施設の複合化

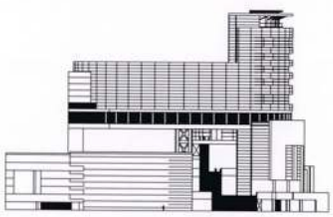
利用者が目的を各施設ごとで完結するだけでなく、施設の所々に出会いの仕掛けづくりをつくることで、複合文化施設としての文化創造の相乗効果をはかっている。そのため、利用者は目的のあるなしに関わらず、よりみち的利用を促されて、建物の各所でいつも賑わいを見せている。

(仮称) 高知市民総合文化プラザ

Kochi Cultural Complex (provisional name)

建築計画系

建築主: 高知市
所在地: 高知市九反田
構造規模: S+SRC. B3−11F
延床面積: 約35,000㎡
工期: 1998〜2001(予定)





新世紀への帆船

本施設は、約1100席の多目的ホール、大小5つの展示室をもつ市民ギャラリー、横山隆一記念漫画博物館および公民館の4つの施設からなる複合建築である。

基本構想、基本設計を通してワークショップ形式で市民団体との協議を重ね、使う人々のニーズを反映させている。

施設内都市計画という考え方をもとに、ガレリアと呼ぶ大きな吹抜け空間を中心に、各施設を立体的かつ有機的につなぎ、新しい複合施設のあり方を提案している。

坂本龍馬などの日本のリーダーを輩出している風土をふまえ、高知市の世界に発信する新しい文化活動のシンボルにふさわしいイメージとして、21世紀への船出をモチーフにしている。







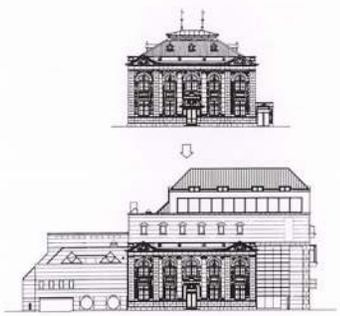
左から、完成予想図、模型ディテール写真、ガレリアイメージスケッチ

Ar: M. Yamamoto, T. Yamada / Hosogi Architect & Associate
StE: H. Kunitomo ME/EE: M. Nomachi, A. Akayama
DS: Masahito Yasuoka, Professor, Science University of Tokyo (General adviser)

京都市女性総合センター「ウィングス京都」・中京青年の家
Wings Kyoto Women's Center, Kyoto Nakagyo Working Youth House

建築計画系

建築主: 京都市
所在地: 京都市中京区東洞院六角下る御射山町
構造規模: SRC. B2－4F
延床面積: 10,464㎡
工期: 1991.6～1994.1





甦る歴史性と新しいコミュニティ
本施設は女性の活動拠点となる「女性総合センター」と、勤労者青少年の自己啓発・開発センターである「中京青年の家」を複合した生涯学習のための社会教育施設である。
敷地は市の中央業務地区にありながら、歴史的界隈景観地区の三条通りや鉾町にも近く、重層的な都市「京都」の魅力をもった一角である。
施設は南側の児童公園へ開放感をもたせ、アプローチ空間やサンクンガーデンで有機的なつながりをもたせた。
複数の運営主体がそれぞれ管理運営体制を異にするためゾーニングに配慮するとともに、利用者相互の交流も考えた平面計画とした。広々とした吹抜けをもつロビーは、開放感のあるダイナミックな構成として、多くの人との出合いを演出している。
外部デザインでは元「中京青年の家」の外壁を保存し地域の歴史性を継承したが、保存外壁と新設する外壁との間で建物を分節して全体のボリュームが与える威圧感を和らげた。







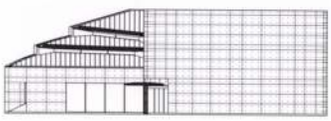
左から、夜景、ロビー、大会議室

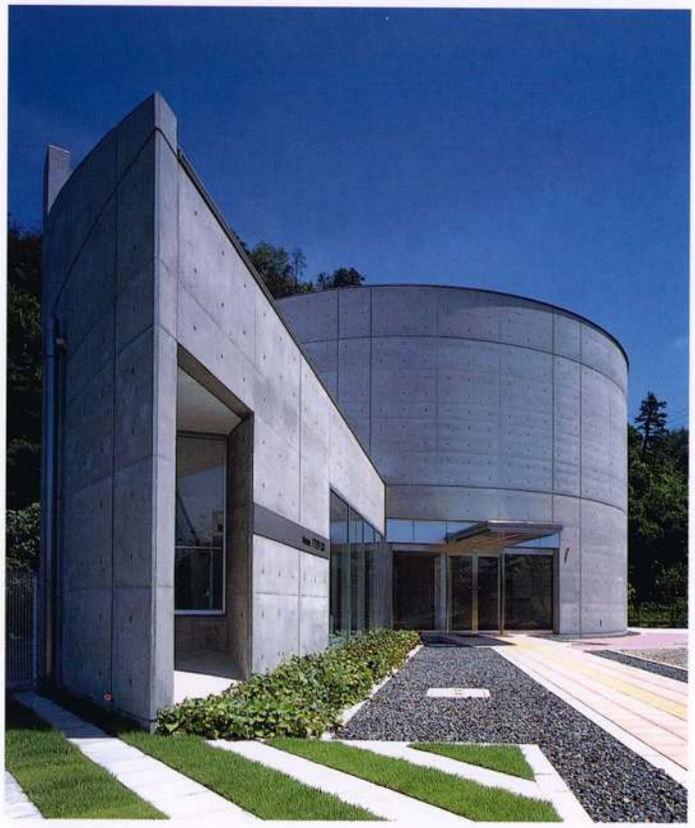
Ar: A.Onishi, H.Fujimori, T.Yamada　StE: H.Chinami
ME/EE: S.Terada, Y.Arima　Su: Y.Okuto, M.Nakajima, T.Kawakata

青木・平通両画伯記念館「ミューゼ・レスポアール」
Musée l'ESPOIR

建築計画系

建築主: 川西市
所在地: 兵庫県川西市下財字上ノ町
構造規模: RC. 2F
延床面積: 499㎡
工期: 1994.9～1995.5





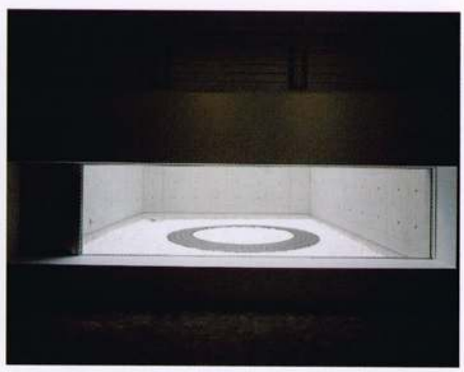
渦巻状動線の記念館

「ミューゼ・レスポアール」は、川西市ゆかりの画家、故青木大乗氏、故平通武男氏の作品を展示・収蔵するために建設された記念館である。
敷地は、大正期の和風建築と洋風建築が混在する川西市郷土館の一角に位置し、設計にあたっては、計画地に隣接する製錬所の遺構に注意を払いつつ、背後の緑豊かな山並みとの調和を考え、また"市民文化の求心性と発展性"をコンセプトとして、プランを渦巻状にして記念館としての"シンボル性"を表現した。

施設構成については、1階に遺構を望めるロビー、円形の企画展示室、事務室等を配し、2階に中庭を囲む形で常設展示室を設けている。外観においては、屋根を階段状に上げていくことで"渦巻状のプラン"を強調させ、またコンクリート打放し等の素材そのものを表出させて建物の"量感"を表現している。







左から、夜景、ホール、中庭

Ar: S.Naemura　StE: K.Nakao
ME/EE: M.Tsujita, K.Taniguchi　Su: T.Omura, M.Tsujita, K.Taniguchi

熊取町立総合体育館「ひまわりドーム」

Community Sports Plaza "Himawari-Dome"

建築計画系

建築主: 熊取町
所在地: 大阪府泉南郡熊取町大久保
構造規模: RC＋S. 3F
延床面積: 9,171㎡
工期: 1994.9～1996.7





宙（おおぞら）への夢

泉南の丘陵に輝く銀色のドームは、関西空港をさらに越えて飛び立たんとする航宙艦のメタファとなっている。メインアリーナの円盤部と大小のサブ施設（ヴォールト屋根）に分節し、敷地の傾斜を組み込んで、生きた空間の構成を試み、形態を建築的な構成で組み立てている。また、中央部にガラス格子状の展望スロープを貫入配置し、マッシブで不愛想な打ち放しの本体部分に対して、アクセントとなる動きのある空間となるよう配慮した。町民に親しまれ、印象深い施設とすることが、利用率をあげ、帰属意識も生まれると考える。ローコスト化のため、内外の仕上げの種類を極力抑さえ、形そのもので空間を見せることに徹した。結果としてむしろそのことで、逆にシンプルで突き詰めたデザインが実現したと考えられる。







左から、メインエントランス、メインアリーナ、展望スロープ

Ar: H.Higaki, Y.Ikemoto, Y.Sakai, H.Isikawa　StE: S.Tanaka, T.Konishi
ME/EE: K.Kagao, A.Akayama　Su: N.Nagoe, M.Nakajima

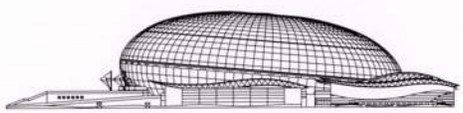


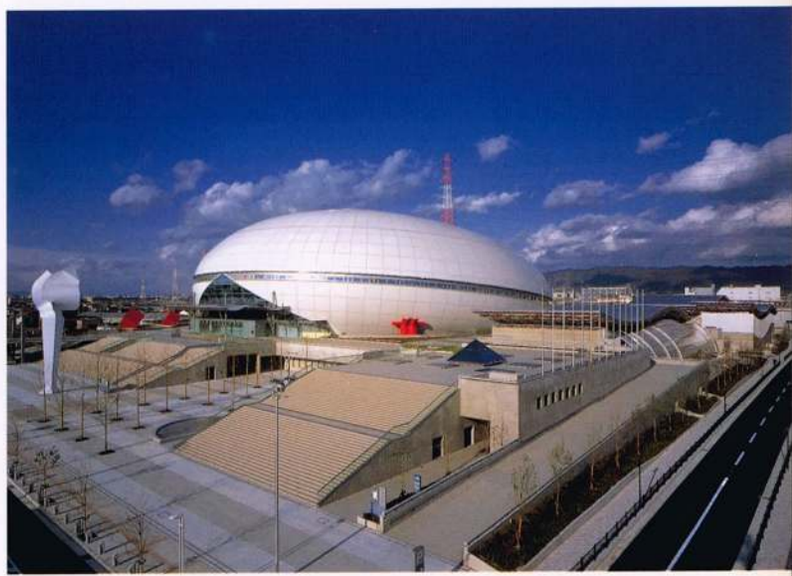
大阪府立門真スポーツセンター「なみはやドーム」

Namihaya Dome

建築計画系

建築主: 大阪府
所在地: 大阪府門真市大字三ツ島
構造規模: RC＋S＋SRC. B1－3F
延床面積: 37,371㎡
工期: 1993.6～1996.3





飛翔

大阪は浪速(なみはや)と呼ばれた昔より新しい文化を求め、また未来に対する希望を託して西に向かって船出していた。今ここに、再び未来に向かって飛び立とうとする姿を表現するとともに、スポーツのダイナミックさを表現するために、敷地を通る軸が大阪湾の長軸に対して5度ずれていることから、メインアリーナを水平軸に対して5度傾斜させた。これにより創られたシンプルでダイナミックな空間は、なみはや国体をはじめとする様々なイベントにおいて、人々の心に深い感動を与えるに違いない。

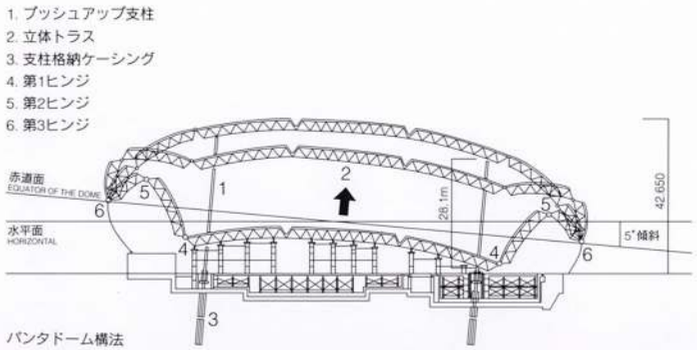
Ar: M.Kamada, Y.Matsuda, T.Kajiyama, K.Akiyama　StE: S.Tanaka, H.Kunitomo　ME/EE: I.Hashimoto, A.Akayama
Su: M.Nanno, Y.Matsuda, I.Hashimoto, T.Kamidaira
DS: Mamoru Kawaguchi, Professor, Hosei University (Structural planning)
Yoichi Ando, Professor, Kobe University (Acoustic planning)





楕円

この地は、古(いにしえ)の時代「河内湾」と呼ばれ、大阪湾と一体になった入江になっていたが、時代と共に湾岸線が変遷し、現在のような長軸：短軸＝2：1の整った楕円となった。このような経緯から、現在の大阪を象徴するとともに、大阪の“夢”と、ここで育まれるであろう人々の“夢”を柔らかく包み込むイメージを表現するため、メインアリーナの断面を大阪湾の2：1の楕円とした。



パンタドーム構法

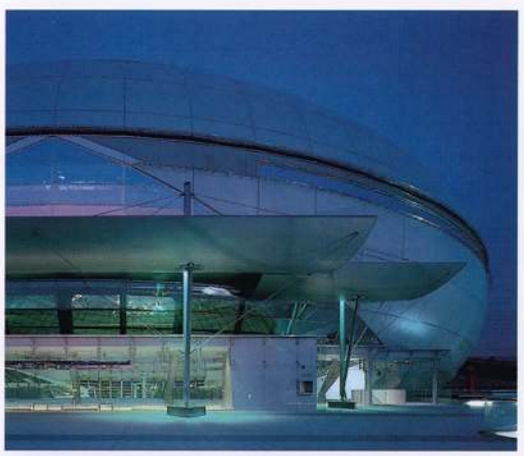
パンタドーム

ドームはパンタドーム構法が採用された。神戸ワールド記念ホールで初めて採用されてから5例目となるが、ここではさらなる進化が見られた。5度傾斜した本設杭に支柱を格納して連続的に押し上げる傾斜型支柱格納式連続プッシュアップ工法とすることで、世界で初めて5度傾斜したドームを1日（8.5時間）で28.1mプッシュアップすることに成功した。


1995.11.30 8:00


1995.11.30 12:00


1995.11.30 16:30









上左：2Fエントランス、上右：メインアリーナ内観、下左：1Fエントランスホール、下右：1Fジオメトリーレリーフ

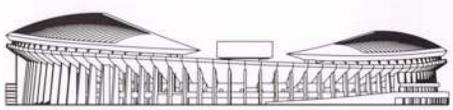

JAPAN

長居陸上競技場
Nagai Stadium

建築計画系

建築主: 大阪市
所在地: 大阪市東住吉区長居公園
構造規模: RC＋S. 5F
延床面積: 52,300㎡
工期: 1992.9～1996.5

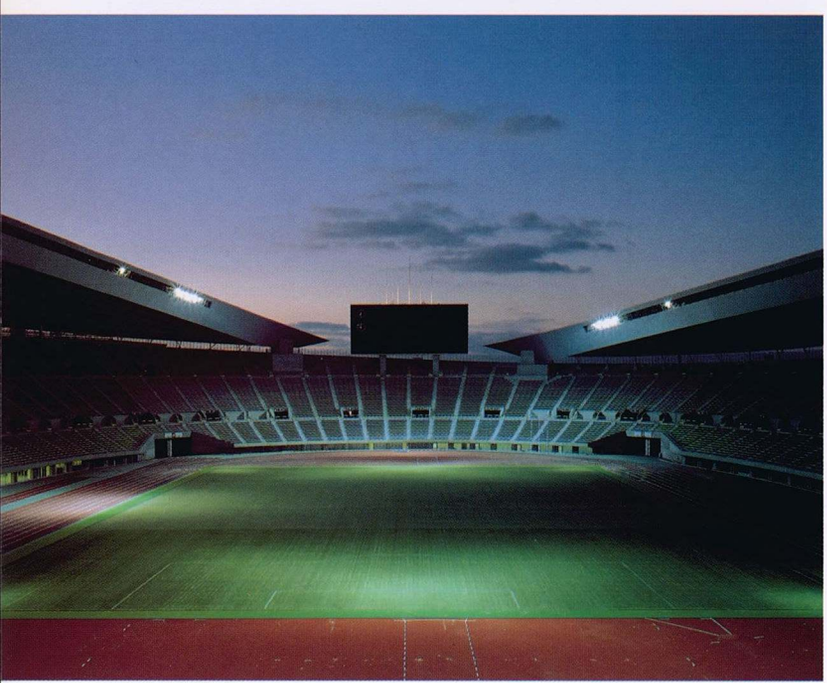




未来へ翔くスタジアム
スポーツのエキサイティングな感動・夢を乗せ、21世紀に向けて飛びたつ鳥の翼をイメージした屋根形状、そのシャープで優しい曲線と100本の列柱による力強い直線との対比が象徴的なファサードを醸し出す。平成9年「なみはや国体」をはじめ、2002年にはサッカーワールドカップの開催など、まさに21世紀に向け、世界に開かれた国際都市大阪にふさわしいスタジアムに生まれ変わった。

Ar: I.Morisaki, Y.Yasumoto　StE: H.Chinami　ME/EE: H.Okumiya, Y.Arima　Su: T.Kuwano, I.Morisaki, Y.Yasumoto
DC: Motoko Ishii Lighting Design Inc. (Lighting)





スタジアム内観夕景

ドラマチックスペース

50,000人を収容するスタンド。その2/3を覆う屋根は、キール梁と立体トラスの構成により、無柱の大空間を実現。今までにないダイナミックな空間を創出している。さらに、光を透過するテフロン膜により、光溢れる明るい空間を演出する。まさに、スポーツの新たなドラマを生み出す空間、ドラマチックスペースとして、人々に夢と感動を与える。

演出照明

長居陸上競技場は、陸上競技をはじめ、サッカー・ラグビー等の球技、その他イベント等の様々な用途に使用される。各用途に適した照明を行うと同時に、競技や会場の雰囲気をいかに高揚させ、演出するかが、これからの新しいスタジアムには必要であると考えた。そこで、テフロン膜の屋根に透過するカラーアップライト、天空に向かって照射するシンボルスカイビーム等、演出効果の高い新しいスポーツ照明を考案した。





上：内観夜景、下：外観夜景









上左：メインエントランスホール、上右：コンコース、下左：貴賓室、下右：バック室内練習場









左から、クリアホール(多目的ホール)、レストラン、図書館

島本町ふれあいセンター
Shimamoto-cho "Fureai" Center

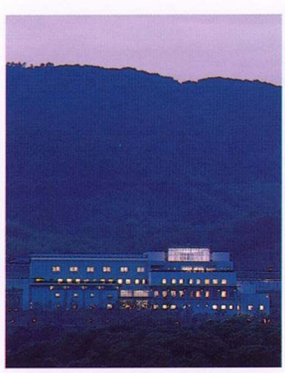
建築計画系

建築主: 島本町
所在地: 大阪府三島郡島本町桜井
構造規模: RC＋S. 5F
延床面積: 9,970㎡
工期: 1994.10～1996.5





“ふれあい”のためのインターフェース
ふれあいセンターは、健康･保健、社会福祉、生涯学習の施設と、図書館といった4つの機能によって構成されている。
各施設は利便性から階毎に配置され、それらをつなぐ装置としてアトリウムを設けた。アトリウムは、利用者がこの空間を通してお互いの息遣いを感じ、顔を合わせることで住民の交流の場としての機能を果たしている。
また、アトリウムの頂部に設けられたガラスのシリンダーは、昼間は外光を取り入れ、夜間は内部から洩れる光を発信する、いわば内と外を結ぶための装置であり、まちの情報発信基地であることを表す。
この施設は、男女を問わず、世代を越えて、まちとまち、まちと住民、人と人の交流を促進するための装置であり、“ふれあい”のためのインターフェースとなる。







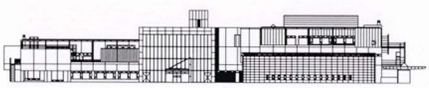
左から、夜景、遊歩道、アトリウム

Ar: A.Onishi, K.Kitamori, T.Shimada, M.Sadakata　StE: K.Nakao
ME/EE: S.Terada, H.Kawai　Su: O.Kaibara, T.Kunito, K.Matsunaga

三田市総合福祉保健センター
Sanda Welfare and Health Center

建築計画系

建築主: 三田市
所在地: 兵庫県三田市川除
構造規模: RS+S. B1−3F
延床面積: 7,134㎡
工期: 1995.3〜1996.3





福祉・保健の拠点づくり
本施設は、福祉および保健機関の連携したサービスを総合的に提供し、市民福祉の活動拠点となるべき施設整備をはかっている。また、市民ギャラリー、多目的ホール等の付属施設の設置によって、市民の交流する場をより多くつくり、“親しみある空間” “開かれた福祉・保健施設”の実現をめざしている。
内部計画：高齢者、身障者の利用頻度の高さを考慮し、ゆとりのある空間づくり、白を基調とした清潔感のある色彩計画、中廊下を基本としたわかりやすい平面計画、床高低差のないバリアフリーの思想を取り入れ、安全かつ快適な内部環境としている。
外部計画：外観についても、清潔感あふれる白を基調とした外壁に、施設規模をよりヒューマンなスケールにするよう、低層群的構成としている。また、“緑・花・水のまち−三田市”のキャッチフレーズにふさわしい緑ゆたかな外構計画は、建物の存在をより際立たせ、拠点施設としての演出に一役を担っている。







左から、エントランス、エントランスホール、多目的ホール

Ar: A.Nagao, K.Matsumura, H.Kobayashi, M.Awata, Y.Matsumura　StE: K.Nakao
ME/EE: K.Seto, M.Tsujita, K.Tsutsui　Su: Y.Okuto

東京都高齢者福祉・医療の複合施設基本計画

Basic Planning for Geriatric Complex and Facilities,Tokyo

建築計画系

建築主: 東京都
所在地: 東京都江東区新砂
構造規模: SRC＋RC. 7F
延床面積: 87,400㎡
計画期間: 1995.10～1996.3

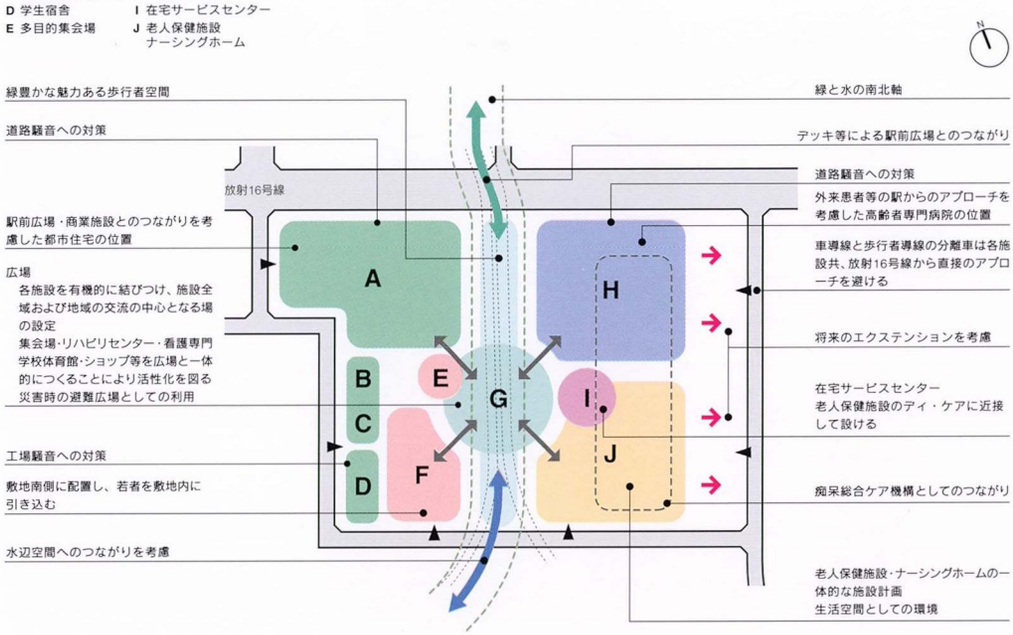


ヒューマンマインドオアシスの創造

本複合施設は、平成7年に発表された「とうきょうプラン'95」にうたわれている“高齢社会への備え”を実現するため、保健・医療・福祉サービスとして、増加する痴呆性高齢者に対しての医療の充実、家族の介護を支援するサービスの拡充や情報提供など総合的な施策を推進するとともに、痴呆性高齢者などに、福祉・医療の連携したサービスを提供する先駆的・モデル的施設として、位置づけられている。本計画においては、高齢化社会をめぐる厳しい社会情勢の中、様々な困難に直面した「都会」という砂漠に“やすらぎ”を創造するという思いを背景に、施設全体を支えるコンセプトを“ヒューマンマインドオアシスの創造”とし、世代間断絶、高齢者に対する無知・無関心・無理解、無味乾燥な都市空間に対して、新しい概念の高齢者施設を中心とした、お年寄りとともにある未来の街の理想的モデルづくりをめざしている。

ゾーニングコンセプト

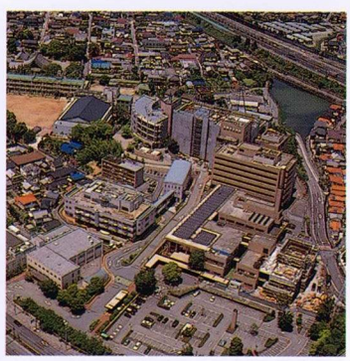
A 都営住宅等
B 医師等住宅
C 看護婦等職員住宅
D 学生宿舎
E 多目的集会場
F 看護専門学校
G 広場
H 高齢者専門病院
I 在宅サービスセンター
J 老人保健施設
ナーシングホーム



Ar: S.Mitsumune, A.Nagao, M.Chikusa, K.Ogino / Kurihara Kaichiro Architect & Associates
StE: H.Kunitomo ME/EE: S.Terada, K.Tsutsui







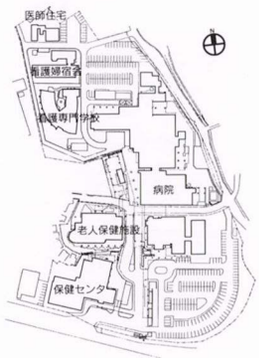
上：病院外観、下：看護学校外観見上げ

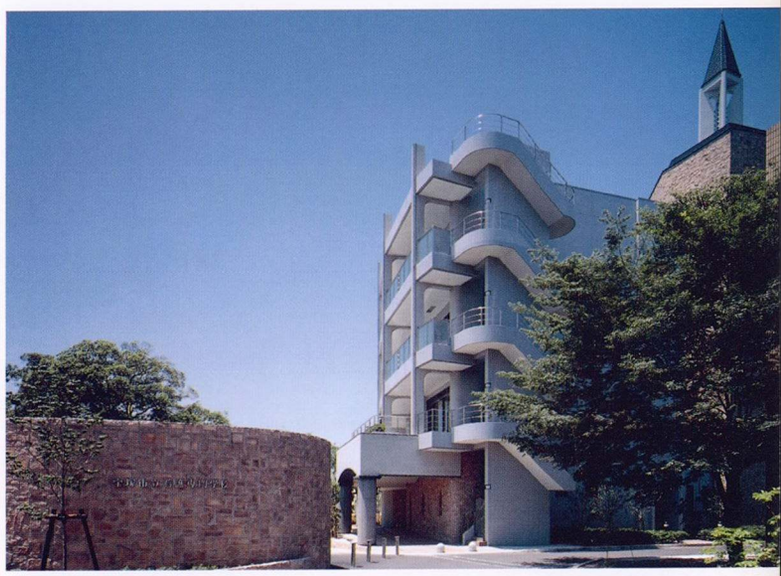
宝塚市立病院[*]・宝塚市立看護専門学校[**]
宝塚市立老人保健施設「ステップハウス宝塚[***]」

Takarazuka Municipal Hospital, Takarazuka School of Nursing
Step House Takarazuka Extended Care Facility for the Aged

建築計画系

建築主: 宝塚市
所在地: 兵庫県宝塚市小浜
構造規模: SRC+S.8F[*], RC+S.5F[**], RC+S.B1−4F[***]
延床面積: 30,471㎡[*], 3,493㎡[**], 5,441㎡[***]
工期: 1996.8〜1998.10[*](予定), 1994.4〜1995.3[**], 1993.6〜1995.5[***]





保健・医療・福祉の拠点づくり

宝塚市は来るべき21世紀の高齢社会にそなえて、保健・医療・福祉の連携による総合的なサービスが提供できる拠点づくりをめざしている。“すべての市民が健康で安心して暮らせるまちづくり”の一環として、先に建設された保健センターに隣接して市立病院、老人保健施設、看護専門学校の3施設が建設され、一体的に整備された。

拠点づくりの中心的な役割を担う市立病院は、ギャラリーを配したホスピタルストリートを中心とするわかりやすい構成と病院の特性である増改築への対応を。家庭復帰をめざす老人保健施設は、暖かい家族的な雰囲気づくりを。地域の医療施設をサポートする看護専門学校は、“優しさと力強さの両立”という看護教育の基本理念をテーマに掲げ、各々の施設にふさわしい空間形成を具体的に展開した。

さらに現在、保健・医療・福祉の連携のより一層の充実をはかるべく、市立病院の増改築工事が進行中である。





左から、老人保健施設、看護学校中庭夜景、看護学校ラウンジ

Ar: T.Miyamoto[*], M.Ito[*], T.Yamaguchi[*], Y.Matsumura[*], H.Watanabe[*], T.Yamakawa[**] / TMN Tamiko Nishida Architct & Associates[**], S.Naemura[***]
StE: T.Kitamura[*], F.O[**], H.Chinami[***] ME/EE: K.Seto[*,**,***], K.Otani[*,***], M.Tsujita[**,***], S.Takeyasu[**]
Su: O.Kaibara[*], T.Yamaguchi[*], K.Matsunaga[*,***], Y.Okuto[**], T.Omura[***]

姫路赤十字病院
Himeji Red Cross Hospital

建築計画系

建築主: 姫路赤十字病院
所在地: 兵庫県姫路市下手野
構造規模: SRC. 8F(一部9F)
延床面積: 約28,000㎡
工期: 1999.3～2001.3(予定)



患者の五感を満たす環境づくり

西播地域の基幹病院および災害時の拠点病院として、大きな期待がよせられている姫路赤十字病院では、わかりやすい明快な構成、将来変化への対応をはじめ、以下の点を基本方針としている。

機能の面では、①病院全体をコンパクトにまとめ、院内動線を短縮化。②ホスピタルストリートを軸とした多翼型部門構成の採用。③動線の短縮化と作業効率の向上をはかるため、外来・検査・放射線診断・リハビリテーション等の部門を同一フロアーに集約配置。④効率のよい病棟プランの採用。⑤物品の供給管理の一元化。⑥予約システムとオーダリングシステムの採用。

環境の面では、"病院は患者のためにある"という患者本位の視点を最重要視し、具体的には、患者の五感(視・聴・嗅・味・触)のすべてが快適に満たされる環境づくりを、自然・社会の両面からソフト(人)とハード(施設)の一体的な視点でとらえることを基本にしている。

新病院の規模は55㎡／床のきびしい設定の中、上記のような患者本位の視点で、現在設計を進めている。



左から、メインエントランスホール、喫茶・待合ゾーン、ホスピタルストリート(売店・ギャラリー)

Ar: T.Miyamoto, K.Akiyama, M.Nonoyama, Y.Matsumura
StE: H.Kunitomo ME/EE: K.Seto, H.Kawai

城東やすらぎセンター（十全病院*・医王ヶ丘病院**・老人保健施設「ピカソ***」）

Joto Yasuragi Center

Juzen Hospital, Iogaoka Hospital, Picasso Extended Care Facility for the Aged

建築計画系

建築主：医療法人社団 十全会、医療法人財団 医王会
所在地：金沢市田上本町
構造規模：RC.B1－4F*，RC.B1－2F**，RC.2F***
延床面積：18,397㎡
工期：1994.11～1996.6



Ar：S.Mimura　StE：F.O
ME/EE：M.Araki, K.Tsutsui　Su：S.Mimura, M.Araki, K.Tsutsui

六甲アイランドシティイーストコート9番街・特別養護老人ホーム「協同の苑六甲アイランド」

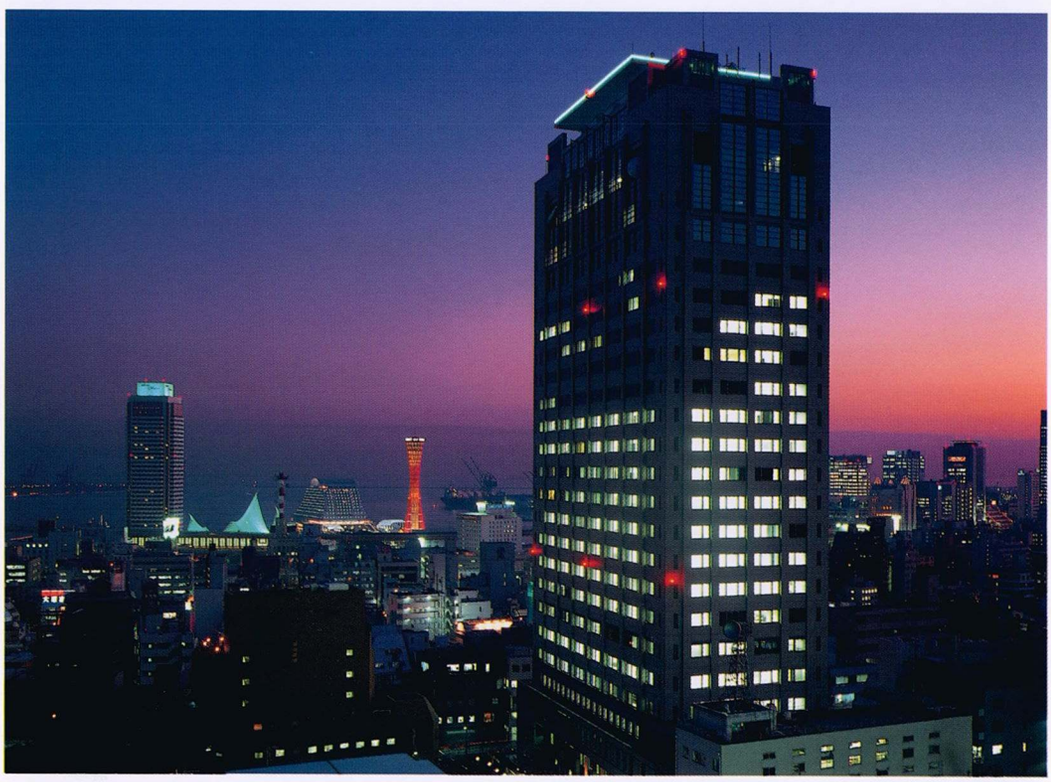
Rokko Island City East Court 9-Bangai, Kyodo-no-sono Rokko Island Nursing Home

建築主：神戸市
所在地：神戸市東灘区向洋町
構造規模：SRC＋S. 14F
延床面積：15,754㎡
工期：1993.4～1995.8



Ar：K.Hatanaka, Y.Matsuda, S.Kamitani
StE：F.O　ME/EE：K.Seto, H.Kawai

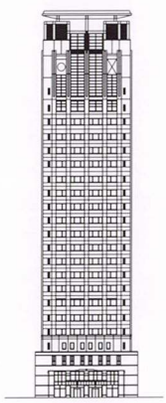




兵庫県警察本部庁舎
Hyogo Prefectural Police Headquarters

建築計画系

建築主: 兵庫県警察本部
所在地: 神戸市中央区下山手通
構造規模: S+SRC. B4－23F
延床面積: 44,300㎡
工期: 1993.6～1997.1





都市の風景

建築は、都市の景観を形成する重要なファクターとなっている。
伝統を継承する建築、生活に必要な建築、シンボルとしての建築など、それぞれ個性を持った建築が集まり、街区を形成し、都市に発展していく。
建築は自身の意味に加え、都市の文脈に呼応することで、都市との一体化が可能となり、都市の風景へと昇華するのである。特に、大規模建築になるほど、その社会的使命は高いといえる。
県警本部庁舎における我々のデザイン的アプローチは、“街区としての意匠的統一性”“＜治安の府＞としての象徴性と住民からの視線”“山や海からの視界に対する影響”等、都市的観点に立って考えることに重きを置いた。
県警本部庁舎が、神戸の街並みに溶けこみ、“都市の風景”としてなくてはならない存在となることを望む。







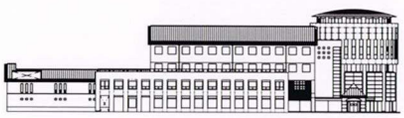
左から、県民ホール（メインエントランスホール）、エレベーターホール、交通管制センター

Ar: H.Higaki, K.Kitamori, S.Muraoka, H.Ishikawa　StE: H.Kunitomo
ME/EE: M.Araki, S.Tsukuda　Su: H.Higaki, K.Kitamori, M.Araki, S.Tsukuda

春日町庁舎
Kasuga-cho Municipal Government Office Building

建築計画系

建築主: 春日町
所在地: 兵庫県氷上郡春日町黒井
構造規模: RC＋S. 4F
延床面積: 5,400㎡
工期: 1994.1～1995.3





現在・過去・未来
情報ネットと交通網が進歩し、"距離"がかつてほどの意味を持たなくなってきている。京阪神から1～2時間の距離にある春日町は、過去の歴史性をふまえ、交通の要所として新しいふるさと像が形成されようとしている。新庁舎の建設に当たり、記念性とシンボル性を前提にして、過去・現在・未来という3つのテーマを3つの棟に端的にデザインしバランスをとった。いぶし銀の瓦という景観的なモチーフに、シルバーグレーのシリンダーを組み合わせ、不協和音的なイメージから生み出される印象深さをシンボル性へと昇華している。インテリアや外構は、春日町のもつ"暖かさ"のイメージそのままに、優しく明るい感覚にまとめ、町の素朴で柔和な人々に親しまれ、誇りとされる施設をめざしている。







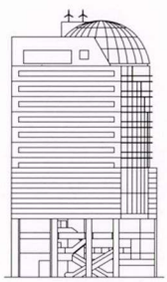
左から、町民ホール、議場、エントランスホール

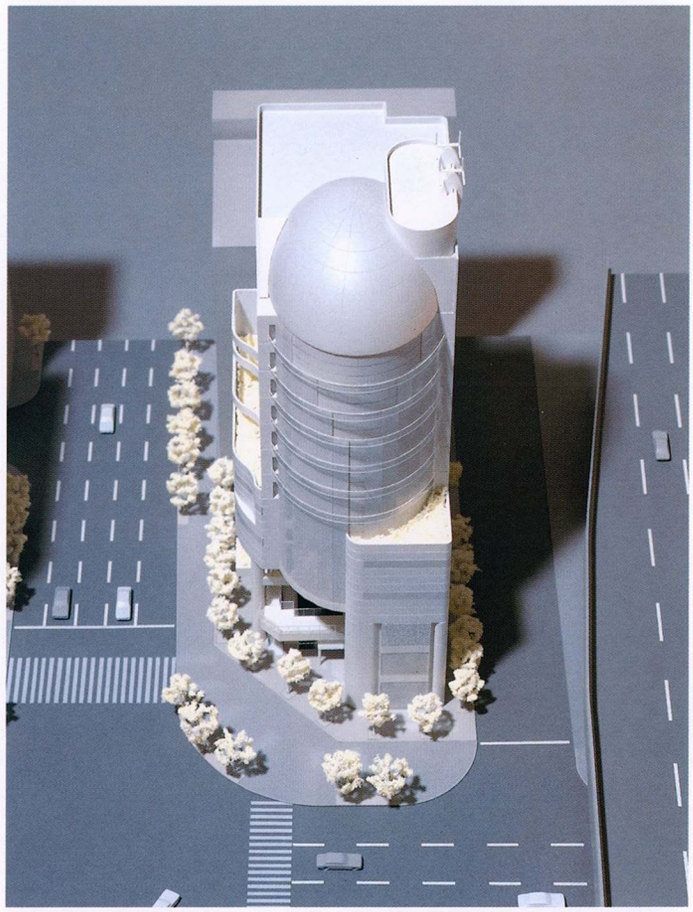
Ar: H.Higaki, Y.Ikemoto, N.Muraoka, H.Takagi　StE: K.Nakao
ME/EE: K.Seto, M.Tsujita, A.Akayama,　Su: Y.Okuto

(仮称) ホワイトドームプラザ
White Dome Plaza (provisional name)

建築計画系

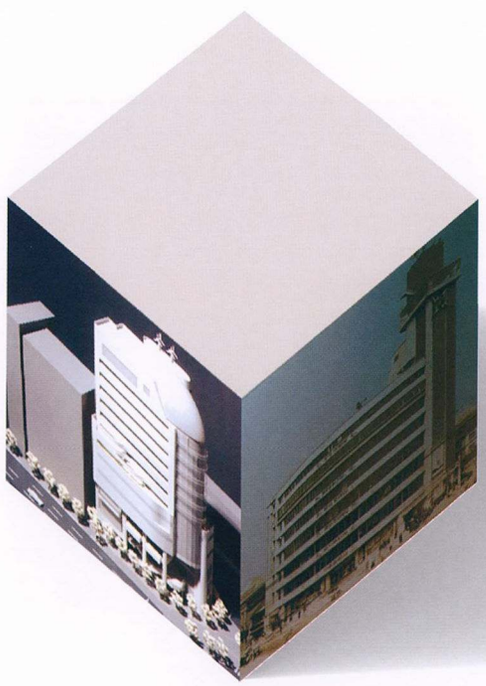
建築主: 伊藤忠商事 株式会社
所在地: 大阪市西区新町
構造規模: S+SRC+RC. B3−13F
延床面積: 7,540㎡
工期: 1998.6〜2000.2(予定)





歴史的シンボルの継承

電気科学館は、開館以来、最新科学技術の展示と東洋一のプラネタリウムを持つ施設として、発展する商工都市・大阪のシンボルであり続けた。そして今、大阪は商工都市より、国際集客都市へ生まれ変わり、さらに大きく世界へはばたこうとしている。この(仮称)ホワイトドームプラザは、新しい大阪のシンボルとして世界の期待に応える国際拠点施設としての計画である。具体的には国際ホテルマン育成を目的としたホテルスクールのアジアの拠点校を核とし、そのトレーニングホテルと商業施設で構成される全く新しい都市施設である。同時に、それは人をもてなすホスピタリティ教育を普及する文化拠点、地域交流拠点でもある。建築的にも、市民に慣れ親しまれた電気科学館の記憶を継承しながらも、長堀地下街の西の玄関口として、新しい四ツ橋界隈の街づくりに貢献する建物として設計を進めている。



Ar: A.Takatsu, K.Matsumura, T.Yokono, A.Mizuno StE: T.Yamamoto, H.Kunitomo
ME/EE: K.Seto, A.Akayama





ロマンとノスタルジィ
北、運河、小樽……。
人はその言葉にロマンやノスタルジィを想う。

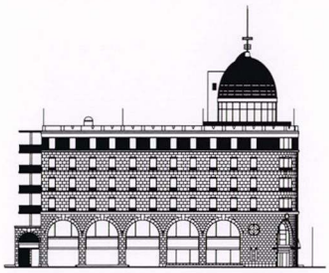
ホテルノルド小樽
昼は運河に映るその姿が、夜は灯りの燈るその姿が、小樽らしいと見る人に感じてもらえれば幸いである。



ホテルノルド小樽
Hotel Nord Otaru

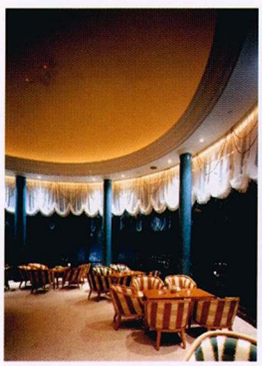
建築計画系

建築主: 北倉興発 株式会社、株式会社 日本旅行
所在地: 北海道小樽市色内
構造規模: SRC＋RC＋S. 6F
延床面積: 6,858㎡
工期: 1995.3～1996.3





テクスチャーへのこだわり
運河沿いの石造倉庫は、札幌軟石のノミ切り仕上げの荒々しい材質感で独自の雰囲気を醸し出している。本ホテルは外部全面に大理石を用い、低層部をこぶだし仕上げとすることによって、周辺環境との調和をはかっている。
ローコスト化のため、大理石はわが国では未だ使用されていないイスラエル産のラモンブラウンを採用することとし、現地で確認の上、こぶだし加工を行い輸入した。(エスタシオン・デ・神戸においても採用)






左から、ペントハウス北クラブ、エントランス、低層部外観、パティオ

Ar: W.Numata, S.Sasaki, T.Watanabe, K.Tsuchiya, G.Tahara　StE: R.Hayashi, T.Kitamura
ME/EE: H.Okumiya, A.Akayama　Su: S.Sasaki, K.Tsuchiya, H.Okumiya, A.Akayama

ジャンボオーナーズ淡路島
Jumbo Owners Awajishima

建築計画系

建築主: 大倉建設 株式会社
所在地: 兵庫県津名郡東浦町大磯
構造規模: SRC. 9F
延床面積: 7,718㎡
工期: 1995.4～1996.6



Ar: H.Torii StE: R.Hayashi
ME/EE: M.Araki, K.Otani Su: Y.Okuto, M.Nakajima, K.Otani

A・SQUARE
A・SQUARE

建築主: 綾羽 株式会社
所在地: 滋賀県草津市西渋川
構造規模: S.5F, S.2F, S+RC.1F
延床面積: 74,900㎡
工期: 1995.7～1996.2



Ar: S.Ogawa, Y.Sakai, A.Ono, O.Hashimoto, T.Kato, H.Toho, M.Higashimoto
StE: H.Kunitomo
ME/EE: S.Terada, S.Tomita
Su: Y.Nokura, A.Ono, T.Kunito, K.Matsunaga

森長組神戸支店
Kobe Branch Office, Moricho Co.,Ltd.

建築主: 株式会社 森長組
所在地: 神戸市中央区港島南町
構造規模: S+RC. B1－5F
延床面積: 5,036㎡
工期: 1996.10～1997.10



Ar: M.Sadakata StE: T.Kitamura
ME/EE: M.Nomachi, H.Shimono

SŌRA新大阪21
SŌRA Shin-Osaka 21

建築計画系

建築主: 住友信託銀行 株式会社（土地信託受託者）
所在地: 大阪市淀川区西宮原
構造規模: SRC＋S. B2－21F
延床面積: 40,101㎡
工期: 1992.7～1994.7



Ar: T.Kaminishi, K.Matsumura, Y.Hirose, F.Ishii　StE: F.Hirayama
ME/EE: H.Okumiya, S.Tsukuda　Su: T.Kaminishi, Y.Hirose, O.Kaibara, T.Kunito, K.Matsunaga

運輸省海技大学校本館
Marine Technical College Main Building, Ministry of Transport

建築主: 建設省近畿地方建設局
所在地: 兵庫県芦屋市西蔵町
構造規模: RC＋S. 4F
延床面積: 3,658㎡
工期: 1996.5～1997.3



Ar: M.Yamamoto, H.Fujimori, T.Nakai, H.Ishikawa
StE: S.Tanaka　Su: K.Samoto

神戸市立中央小学校
Kobe Municipal Central Elementary School

建築主: 財団法人 神戸市都市整備公社
所在地: 神戸市中央区神若通
構造規模: RC＋S. B1・4F
延床面積: 10,040㎡
工期: 1996.3～1997.8



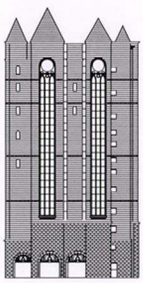
Ar: K.Hatanaka, H.Takagi, H.Iriguchi　StE: Y.Tachibana
ME/EE: K.Kagao, K.Taniguchi

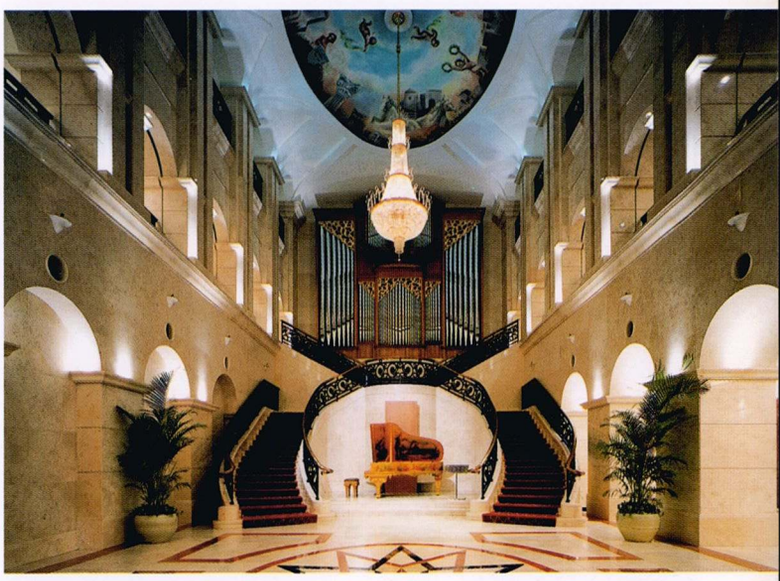


エスタシオン・デ・神戸
ESTACIÓN de Kobe

建築計画系

建築主: 株式会社 平安
所在地: 神戸市中央区弁天町
構造規模: SRC＋S. B1－12F
延床面積: 16,926㎡
工期: 1994.9～1996.10





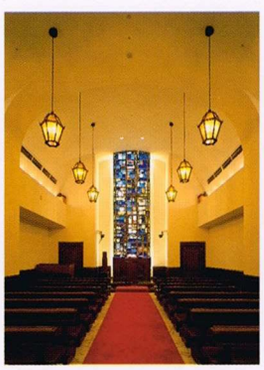
感動のドラマ創り

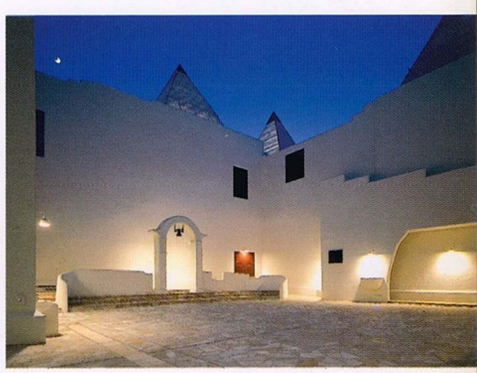
本施設は、誰しもが一度は“ハレ”の舞台として利用する婚礼施設であり、ブライダルの情報発信基地でもある。“感動のドラマ創り”をコンセプトワードに、伝統と格式を損なわず、西洋文化と日本文化の融合に努め、多様に変化するライフスタイルに対応できる新しいブライダルシーンのシンボルの創造をめざした。

イスラエル産総大理石貼りの建物は、ロマネスク様式をベースに、中世ヨーロッパの塔のイメージの再現をはかった。凹凸のある深みと存在感のある重厚なデザインが、画一化したモダンデザインとの対応の中で、ランドマークとしてシンボル性を発揮している。内部空間の3層吹抜けのエントランスホールは、天井画とパイプオルガンによってバロック調を演出し、建物内に本格的な桧造りの神式場を建設することにより、神秘的な日本空間の美の再現をはかった。チャペルは、地中海の小さな町並み広場をイメージできる中庭と素朴な教会式場で構成し、全体として、ドラマチックなスペース創りをめざした。









左から、低層部外観、神殿、チャペル、中庭夜景

Ar: W.Numata, M.Inoguchi, T.Yokono, K.Tsuchiya, G.Tahara　StE: F.O, Y.Tachibana　ME/EE: M.Obata, K.Tsutsui
Su: M.Fukamizu, M.Inoguchi, K.Matsunaga
DS: Toshiki Tabuchi, Professor Emeritus, Kobe University (Historical architectural design)



法政大学教授
川口 衛

昭和設計にかける期待

私が昭和設計とのおつきあいをするようになったのは、創設期のメンバーの1人である西沢清氏との交流が御縁であったと言ってよい。

われわれ2人は、福井大学の建築学科の同級生である（昭和26年入学）。当時のクラスは定員30名という、こじんまりした、家庭的とも言える雰囲気を持っており、その中で、吉田宏彦教授を中心とする秀れた教育者群に恵まれて、われわれは、のびのびと、有意義な学生生活を送っていた。

西沢氏は工業高校の出身であり、普通高校を出て来た私とはバックグラウンドも知識も異っており、それが相互に魅力に感じられて、却って親交を結ぶことができた。私が彼から得たものは多いが、今でも感謝しているのは、建築の設計が決して絵空事ではない事を、彼の体験談から学べた事である。当時、われわれのクラスでは、簡単なラーメンやトラスなどの構造物を数学を使って解くのではなく、直観だけで、内部の力の流れや曲げモーメントを当てあう、一種のゲームのようなものが流行していた。これは、前述の吉田宏彦先生の奨励によるところも大きかったと思われるが、とにかく、簡単なラーメンなどは、かなりの数の学生が、直観によって曲げモーメントだけでなく、変形の様子に至るまで、的確にイメージすることができるようになっていた。

そんなある日、昼休みの教室で、友人たち数人とトラスの力の流れを議論していたが、私は恥ずかしいことに、いわゆる「洋小屋」のトラスが通常の荷重を受ける際に、真束（しんづか＝king post）に引っ張りの力が生じる（直観的）理由が、どうしても解らなかった。私の素朴な質問に友人たちも答えることができず、みんなで首をかしげていたが、西沢氏は黒板にディテール入りの木造トラスのスケッチを画きはじめた。出来上って行くスケッチを見ていると、木造の仕口のディテールというものが、各材の力学的役割と力の伝達の有様を実によく表していることがわかってくる。画き上がった小屋組のスケッチを前にして、西沢氏は合掌が尻の部分ではどのようにして陸梁に引張力を生じさせるか、棟の部分では如何にして真束を「吊り上げ」るかという調子で、現実の小屋組のディテールから各部材に生じるべき力をいとも明快に説明してくれた。これは実に説得力のある解説であり、力学的に解けるとか解けないとか、静定だとか不静定だとかいう議論から構造に入門したわれわれ学生にとっては、まさに目から鱗が落ちる思いであった。

その後、西沢氏が神戸大学を経て昭和設計に入られ、私が東大の坪井研究室や法政大学で構造の研究をするようになってからも、2人の親交は続いた。彼が当面する構造設計上の問題について疑問を呈し、これに私がコメントするという形の文通が主であったが、折々の社会情勢に対する批評や建築論などもお互いに披露しあって、楽しいコミュニケーションが続いた。

具体的な仕事に関して私が昭和設計のお手伝いをしたのは、ポートアイランドの神戸市民プールが最初であろう。この頃になると、西沢氏は社内のまとめ役的な業務で多忙となり、この建物の実際の設計は三宗司郎氏を中心とするグループが担当された。この設計グループと議論を重ねる中に、私が「寄せ棟くずし」と命名した構造システムが採用されることになった。これは、合理的ではあるがあまりにスタティックな形態であるピラミッド構造の一部をくずし、それによって新しい緊張感を生みだす構造システムを提案しようとする試みであった。

この建物では、また、完結した屋根構造を地上で造り、それをリフトアップするというユニークな建設方法が試みられ、成功した。新しい建設方法という意味では、この建物に隣接して造られたワールド記念ホールが更に特徴的である。この記念ホールで、私が考案し、温めて来た「パンタドーム構法」がはじめて実現したからである。この構法はドームの周辺部を折りたたんだ形にすることによって、地上近いレベルでドームの大半を組み立て、この段階で構造システムが有する1自由度の不安定機構を利用して安全確実にリフトアップしようとするもので、合理的な建設方法を構造システム自体の中に内蔵した手法である。

新しい建設手法の提案が施工サイドの強い抵抗に会うのは決して珍しいことではないが、このホールの場合も、この意味での説得作業に多大の努力が必要であった。施工を担当した竹中工務店の協力もさる事ながら、一貫してこの構法の採用に積極的に力を尽して下さった昭和設計の努力に、今も感謝している。この構法がその後バルセロナスポーツホール、シンガポール屋内競技場、サンドーム福井などに発展的に採用され、近年では再び昭和設計の設計されたなみはやドームの実現に大きく役立ったことは、多くの人々の知るところであろう。私が昭和設計について知り得ていることは、概ね上に述べたようなことであり、これが昭和設計の全体像のごく一部に過ぎないことは言うまでもないが、上記の例から見ても、創設以来の40年間に昭和設計が築いて来られた業績と実力は、極めて高いレベルのものであると言うことができる。この確実なベースの上に立って、今後は近畿圏のみならず、日本全国、更には国際レベルでの設計活動を展開していかれることを心から願ってやまない。



照明デザイナー
石井幹子デザイン事務所代表
石井 幹子

昭和設計創立40周年によせて

この度の創立40周年まことにおめでとうございます。昭和設計が創立された1957年（昭和32年）はどんな時代だったのでしょうか。

手元の年表を開いて見ると政治的には岸内閣が初めて発足した年であり経済的には神武景気からナベ底不況への移行の時と言われています。戦後の復興がひと先ず一段落した時代とも言えるのでしょう。

そして特筆すべきことはソ連の人工衛星第一号スプートニクが成功した年でもあります。いってみれば宇宙時代の幕開けを告げる年でもあったわけなのでしょう。

その時の興奮を私はいまでも覚えていますが、スプートニクが地球の衛星軌道をクルクルと毎日回っているということを考えただけでも何か明るい時代の予感をみるような気がしたものでした。

それから40年、そんな時代にスタートした昭和設計は40年経った1997年の今日まで、何と大きな足跡を残されて来られたことかと、作品集を拝見して感嘆いたしました。いずれも誠実に一つ一つの仕事を完成させておられますし、その作風には使う側の立場を考えた親切な設計になっていることがよく見てとれます。

当時の大阪の状況については、私にはよくわかりませんが、東京で生まれ、育った私にとって大阪というところは、はじめて訪れた時以来、活気と刺激に満ちた街でした。

特に道頓堀界隈は何か内部から触発されるような魅力的な光、音、色が充満していて、日本の他の都市のどこにもない不思議な空間でした。また、水掛不動をとりまく町並みは異次元の場所のようにも思われたものです。

照明デザインに専念するようになって、海外との交流も増え、外国から照明関係者が日本に来る機会も多くなってきましたが、私たちの照明デザインに関連したシンポジウムの企画に携わることもいくつかあり、招待した外国人のパネリストを迎えて日本の照明デザインを語るとき、私はよく道頓堀のネオン群を引き合いに出します。

時には私自身が直接案内して心斎橋を訪れることもありますが、川に面した建物壁面一杯に広がるさまざまな色、形、めまぐるしい光の変化とそれらを映しこむ暗い川面のコンビネーションは、まるで光のモザイクといった感じで見飽きることがありません。同行する外国の友人達にとっては、まさに、エキゾチックな光のコンポジションといったところで、皆、感嘆の声を挙げます。この独特なエネルギーに満ちた光景を造りだす原動力は何かというと、いうまでもなく大阪の人達のバイタリティと独創性にあると考えられます。

私は司馬遼太郎さんの読者のひとりでその作品の殆どを読んでいますが、関西出身の司馬さんは大阪の特徴をユニークにその作品の中で伝えています。

即ち、長く幕府の直轄地であり経済の中心として栄えた商都大阪では、お上に頼らない独立心が培われたということです。道頓堀の夜景もなるほどと、頷けるような気がします。

そんな土壌の中で、『環境、都市、建築への取り組みを通じて社会に貢献することをめざして』（岡本行善代表取締役社長――WORKS OF SHOWA 1990～1994）というモットーのもとに40年という長い歳月を設計一筋に活動されてこられた原動力に大阪の個性が重なって思いあたるような気がいたします。一般に、日本の社会ではソフトよりハード重視の風潮の中で、しかも、関西という民間主導であり、且つ歴史的な伝統の強い土地での設計の仕事を遂行してこられたということは、さまざまなご苦労があったことと推測いたしますが、それを見事に克服されて、今や、全国的にそのお仕事を拡大され、立派な業績を修められていることに感服しております。

私たちは、1996年に竣工した長居陸上競技場の照明デザインのお仕事をお手伝いさせていただきました。この競技場は、陸上競技だけではなくサッカー競技も行われるものですが、打合せにあたって昭和設計の方々から模型を見せていただき、説明を伺いましたが、その美しい形態は大変印象的でした。特に、私たち照明デザイナーにとりましては、テフロン膜を使って内部の光が上空に仄かに洩れていくという、その材質の使い方は夜景を構築していく上では大変有効なものでした。さまざまなスタディーを経た結果、スポーツ照明としての機能を重視しながら、省エネルギー性を十分に加味して演出的な照明を加えるというような提案をさせていただきました。

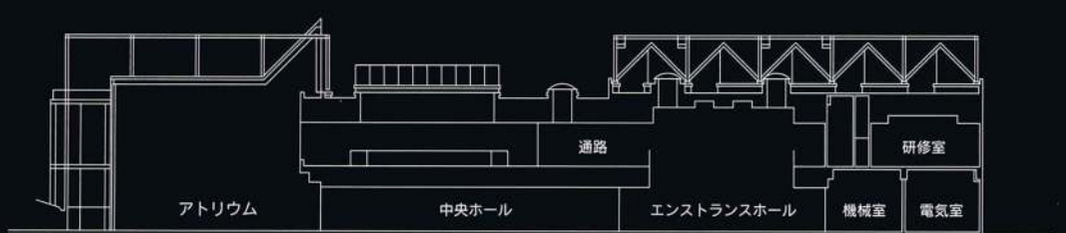
このテフロン膜を透して観客席中央の天井面にさまざまな光の色が映りこみ、ゆっくりと、また、時にはスピーディーに、また、ドラマティックに動くといったようなカラー・ライティングの演出と、また、競技の前後にスポットライト的な効果を競技場のいくつかの場所に光を集めて構成するといった手法、また細いビームを天空に向けてランドマークのようにV型のサインを出していくといったようなモノ等々、いくつもの新しい試みを実現することができました。長居陸上競技場はすぐれた機能性を持ちつつ、なお且つデザイン的にも美しく、清潔感に溢れ、また、楽しい施設として広く市民の方々に愛される存在となっています。

現在、昭和設計のお仕事は、関西を中心にしながら全国的な展開をみせておられます。その核の中心である大阪市は、21世紀の国際集客都市をめざして都市整備にたいへん力をいれているところでもあります。照明デザインの立場から言いますと、大阪の夜景整備はここ数年進んでいて、今や、日本でも屈指の夜美しい街となっております。そんな中で21世紀をめざして今後、ますますのご発展を心よりお祈りいたします。

RED BRIDGE
建物内部空間と外部をつなぐ赤い橋は自然からさしのべられた手であり、今後の地球環境に対する警鐘を意味している。



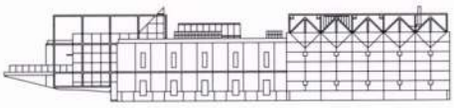
上：外部型アトリウム、下：内部型アトリウム

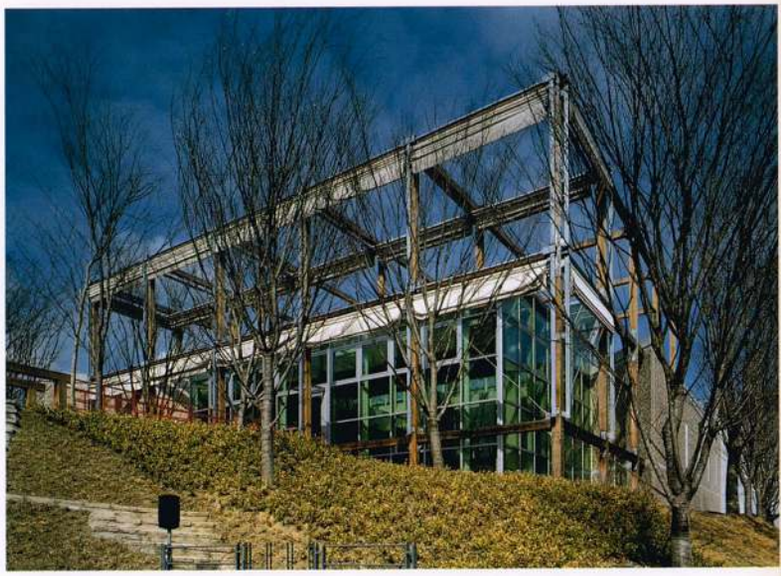


UNEP国際環境技術センター
UNEP International Environmental Technology Centre

環境計画系

建築主: 大阪市
所在地: 大阪市鶴見区緑地公園
構造規模: S. 2F
延床面積: 2,799㎡
工期: 1992.9～1993.10





地球環境保全技術の総合的具体化
本施設の空間は、光・水・風・緑と交流できる「外部型アトリウム」、自然の外気を取り入れた「内部型アトリウム」、照明・空調を効率よくコントロールする「先端技術棟」の3つのゾーンで構成されている。これらはそれぞれ見学者へのアピール、職員のための快適空間、研修員への啓発という機能を担い、自然と人が共生するこれからのアメニティを提案している。エネルギー面では、施設内の電力に太陽電池や燃料電池、ゴミ発電電力などの新エネルギーシステムを採用、さらに日本の伝統的家屋に見られるような自然を生かした空調システムや省エネルギー照明設備、水資源を守る給排水設備など、環境共生の技術を体系的に取り入れ、その利用状態をモニターできるよう工夫している。





左から、アプローチ夕景、エントランスホール

Ar: A.Onishi, T.Yamada StE: K.Nakao
ME/EE: S.Terada, K.Taniguchi Su: T.Yonemoto, T.Yamada, S.Terada, K.Taniguchi

神戸市立西神斎場
Kobe Municipal Seishin Funeral Hall

環境計画系

建築主: 神戸市
所在地: 神戸市西区神出町南字美濃谷
構造規模: RC+S. 2F
延床面積: 2,747㎡
工期: 1991.10～1993.8



Ar: H.Higaki, S.Naemura　StE: S.Tanaka
ME/EE: S.Terada, K.Otani

小野加東新斎場
Funeral Hall Managed by Ono and Kato Cities

建築主: 小野加東広域事務組合
所在地: 兵庫県小野市万勝寺町
構造規模: RC+S. 2F
延床面積: 約1,750㎡



Ar: H.Higaki, M.Awata　StE: F.O
ME/EE: I.Hashimoto, K.Otani

奥平野浄水場管理事務所・工事事務所
Okuhirano Water Purification Plant Management Office, Construction Office

環境計画系

建築主: 神戸市
所在地: 神戸市兵庫区楠谷町
構造規模: RC. B1－3F
延床面積: 5,227㎡
工期: 1995.5～1997.1



Ar: F.Ishii, S.Kamitani　StE: F.Hirayama, H.Nara
ME/EE: M.Nomachi, K.Taniguchi　Su: Y.Okuto, M.Nakajima

豊中市・伊丹市クリーンランド余熱利用施設「クリーンスポーツランド」
Clean Sports Land Toyonaka and Itami Cities' Heat Recycling Facility

建築主: 豊中市・伊丹市クリーンランド
所在地: 大阪府豊中市原田西町
構造規模: SRC＋S. B1－5F
延床面積: 6,738㎡
工期: 1995.11～1997.10



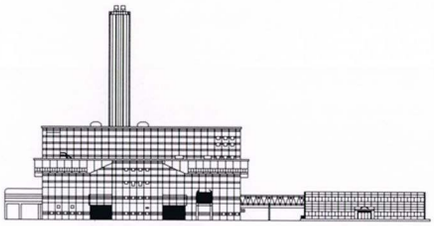
Ar: R.Yuji, K.Kitamori, T.Kajiyama　StE: K.Okada
ME/EE: K.Kagao, H.Shimono　Su: K.Nabeshima, R.Yuji, T.Kunito

堺市クリーンセンター東工場　第二清掃工場・管理棟

Eastern Incineration Plant, Sakai City

環境計画系

建築主: 堺市
所在地: 大阪府堺市石原町
構造規模: SRC. B1－6F
延床面積: 22,790㎡
工期: 1993.5～1997.3



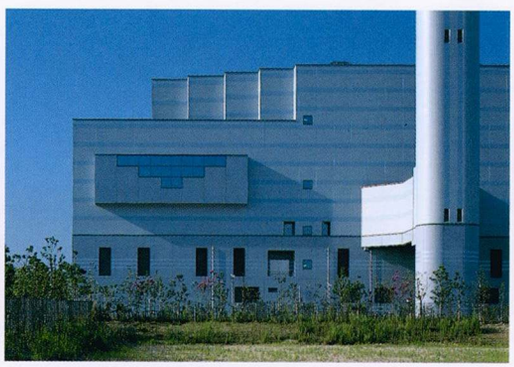


エネルギー新リサイクル

本施設は、堺市の北東部に位置し、旧炉の老朽化にともなう建て替えと、焼却能力の増強を目的として計画された。計画にあたっては、工場の巨大なボリュームが単調な表現に陥らないように、構造と機能にあわせた基段部と上段部の分割された二段構成を採用した。また上段部のボリューム感をいっそう和らげるために、空に溶けこむような薄いブルー系の水平ラインを設け、周辺環境との調和をめざした。

内部は、清掃工場の暗いイメージを払拭するために、パステルカラーの色彩でまとめている。また小学生をはじめ不特定多数の見学者が来場することから、見学者コースをわかりやすく、身障者配慮も徹底した。安全に、快適に、ごみをエネルギーに替える本施設は、最新の公害防止機器を設備し環境に配慮するとともに、従来型のごみ発電の発電効率を高めるため、ごみ焼却施設とガスタービンを設計段階から組み合わせた初の本格的「スーパーごみ発電」工場であり、ごみ焼却の排熱を効率よく、安定して発電に利用でき、エネルギーの新しいリサイクルの方法として注目される清掃工場である。







左から、全景、外観北面、タービン発電機室

Ar: H.Kato　StE: H.Kunitomo
ME/EE: M.Sakata, K.Taniguchi

神戸市垂水海浜センター「平磯芝生広場」

Hiraiso Lawn Square, Tarumi Seaside Center, Kobe

環境計画系

施主: 神戸市
所在地: 神戸市垂水区平磯
施設概要: 芝生広場、滝、せせらぎ、池
供用開始: 1993.4

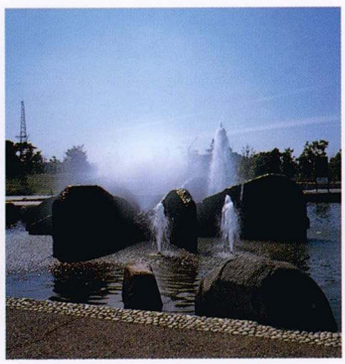




水と光のスクエア

この広場は、水処理施設の上部約20haを利用したルーフガーデンである。
広場内には、高度処理水を利用した滝、せせらぎ、水遊びのできる池などを設け、落水、流水、噴水、霧と多様な水の輝きの演出を行い、日だまりの芝生広場と共に親しみのある水辺空間を展開している。
また、夜は、水景のライトアップを行い、消化ガスを利用したガス灯と共にファンタスティックな光の世界にいざなう。
おおらかな築山をもつ芝生広場やせせらぎなどの水景と共に、オオシマザクラ、ネムノキなどの樹木、草花が四季を演出して、人口地盤を感じさせない自然の中での散策、休養、遊びと多目的に利用できる空間を提供している。







左から、夕景、噴水、せせらぎ

Ar: R.Yuji, H.Kudo ME/EE: T.Matsuoka
Su: Y.Okuto, K.Matsunaga

明石市大久保浄化センター
Okubo Sewage Treatment Plant, Akashi City

環境計画系

施主: 明石市
所在地: 兵庫県明石市大久保町八木
処理能力: 47,500㎥／日
供用開始: 1996.4





全市域を広域監視制御

明石市は、東西に長い地形上の特徴から、中小規模のポンプ場、浄化センターが数多く配置されている。そこで、これら複数の施設の効率的な運用をめざし、昭和61年よりポンプ場の無人運転、浄化センターの夜間無人運転に順次着手し、平成8年度にはNTT専用回線でネットワーク化することにより、広域監視と集中管理体制を確立している。この中枢となるのが、新たに完成した大久保浄化センターである。

敷地内の主要建物は維持管理の中枢となる管理棟と、水処理棟、機械棟がある。従来は機能優先であったこれらの施設を他の一般公共施設と同じく、地域住民に親しまれる町家の屋根の連なりをイメージし、落ち着きのあるデザインとしている。また、市民参加の場として、水処理棟の上部に子供たちの遊び場、テニスコートを設け、外部空間は積極的に緑化をはかり、スマートで明るい浄化センターを実現している。

夜間は、山陽新幹線から全景が見渡せる立地条件を生かし、ライトアップによる下水道施設のイメージアップをはかっている。







左から、外観、夜景CG、展示コーナーCG

Ar: R.Yuji　StE: T.Yamamoto　ME/EE: T.Matsuoka, H.Tachikawa
CivE: K.Oki, Ko.Oki, K.Hirano　PE: S.Yoshimatsu, T.Takayose

神戸市西部処理場消化タンク
Digestion Tank, Western Sewage Treatment Plant, Kobe

環境計画系

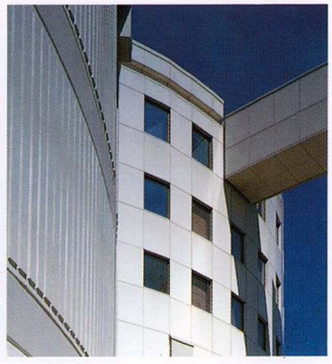
施主：神戸市
所在地：神戸市長田区南駒栄町
処理能力：9,000㎥×2槽
供用開始：1998.4（予定）





長田にツイン丸ビル誕生
その実体は、三宮地区等中心市街地の下水処理を受け持つ西部処理場の消化タンクである。
汚泥消化タンクは、嫌気性細菌の作用により下水汚泥中の有機物をメタン等に分解し、汚泥の減量化とエネルギー回収（メタンガス）をはかる施設である。
嫌気性の生物反応は20～30日間を要するため、タンク形状はΦ24m×H40mと非常に大きな寸法が必要となる。
工業地域の殺伐とした環境の中で、地域のイメージアップをはかるため、消化タンクの外壁をシンプルな形態でデザインし、ツイン丸ビルを出現させている。





左から、全景、外観見上げ

Ar: R.Yuji　StE: T.Yamamoto, H.Chinami　ME/EE: T.Matsuoka, H.Tachikawa
CivE: K.Oki, K.Hirano　PE: S.Yoshimatsu, T.Takayose

西宮市甲子園浜浄化センター
Koshienhama Sewage Treatment Plant, Nishinomiya City

環境計画系

施主: 西宮市、日本下水道事業団
所在地: 兵庫県西宮市甲子園浜
処理能力: 292,000㎥／日
供用開始: 1991.3



Ar: S.Nakajima　StE: T.Yamamoto　ME/EE: H.Inoki
CivE: K.Oki, H.Kobata　PE: T.Hayashi, K.Kunisada

和田山町和田山浄化センター
Wadayama Sewage Treatment Plant, Wadayama-cho

施主: 和田山町、日本下水道事業団
所在地: 兵庫県朝来郡和田山町土田字中川原
処理能力: 3,700㎥／日
供用開始: 1995.11



Ar: R.Yuji, H.Kudo　StE: T.Yamamoto　ME/EE: T.Matsuoka, A.Akayama
CivE: Y.Yabe, H.Kobata　PE: H.Nakamura, T.Mori

七尾市西部水質管理センター
Western Water Quality Control Center, Nanao City

環境計画系

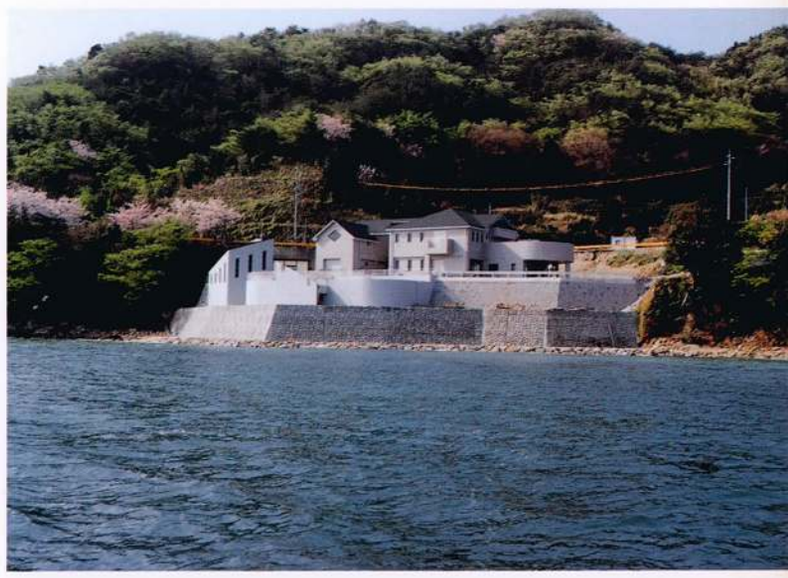
施主：七尾市
所在地：石川県七尾市石崎町
処理能力：9,000㎥／日
供用開始：1994.8



Ar: S.Nakajima StE: T.Yamamoto ME/EE: H.Inoki
CivE: K.Oki, K.Hirano PE: T.Hayashi, K.Kunisada

東和町東和片添浄化センター
Towa Katazoe Sewage Treatment Plant, Towa-cho

施主：東和町
所在地：山口県大島郡東和町平野
処理能力：1,700㎥／日
供用開始：1993.6



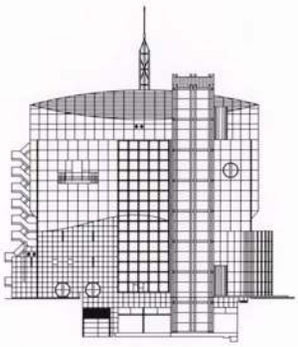
Ar: H.Kudo StE: T.Yamamoto ME/EE: T.Matsuoka
CivE: Y.Yabe, S.Kusano PE: T.Hayashi, T.Takayose



大阪市下水道科学館
Sewerage Science Museum, Osaka

環境計画系

建築主: 大阪市
所在地: 大阪市此花区高見
構造規模: SRC＋S. B1－6F
延床面積: 3,544㎡
工期: 1993.9～1995.4





水処理を体験学習

本施設は、大阪市の下水道事業着手100周年記念事業として、“水”をテーマに、市民の水資源に対する理解の場を提供することを目的として建設された。下水道局北部管理事務所に隣接し、周辺には高層住宅が建ち並ぶ敷地に、科学館らしい地域のランドマークとなる建築を計画することが要求された。展示ホールの他、多目的ホール、図書・ビデオルーム、恒温植物園を持つ7フロアをシースルーのエレベーターと階段室が結び、体験型の展示を楽しみながら下水道のしくみと働きが理解できる構成となっている。最上階の恒温植物園には滝が流れ、下水道高度処理水を利用した植物の水耕栽培が行われている。また、館内の冷暖房には処理水を熱源とするヒートポンプ方式を採用している。

Ar: K.Matsumura, M.Sadakata　StE: R.Hayashi
ME/EE: H.Okumiya, S.Terada, S.Tomita　Su: N.Nagoe

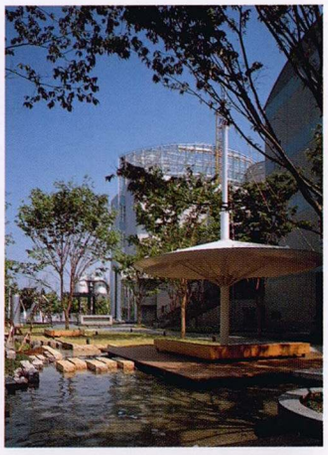


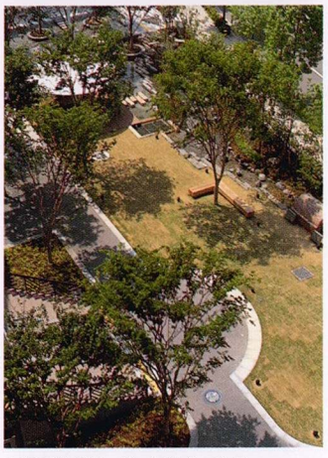


上：親水広場夜景、下：南西コーナー

科学館らしさの表現
スチールパネル、天然石、コンクリート打放しと大きなガラス面による外壁面の構成は、硬質で現代的な表現をめざしている。







親水空間

科学館および隣接する北部管理事務所の前面の屋外空間も科学館と同時に計画・整備された。緑に囲まれた広場には高度処理水を使用した池や滝が配され、遊歩道は処理汚泥を再利用したブロックで舗装されている。広場は昼夜開放され、地域住民に憩いと楽しさを提供する広場として機能している。

上左：水上ステージ、上右：シェルター、
下：広場前庭



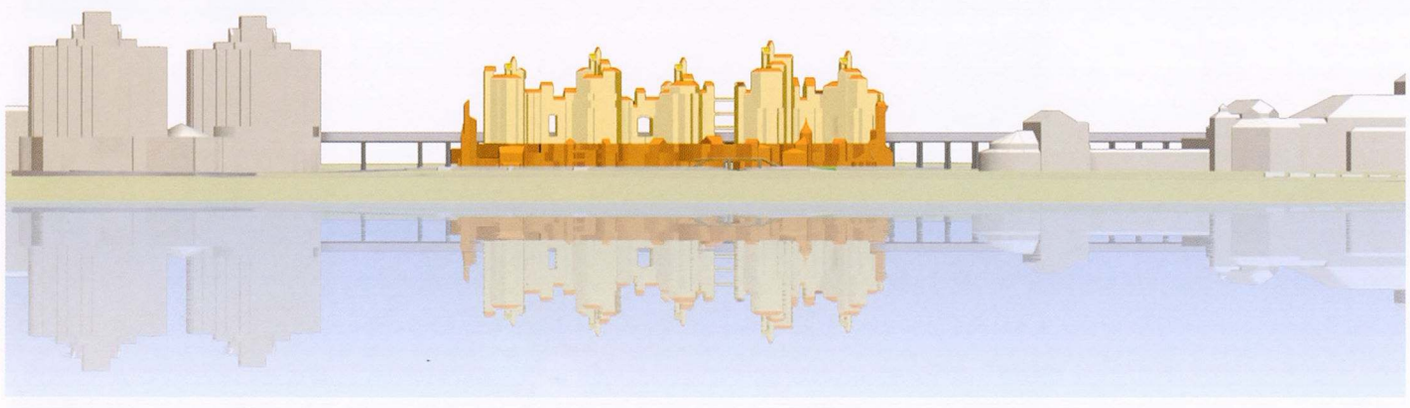






上左：エントランスホール、上右：階段室、下左：展示室、下右：恒温植物園





宝塚駅前（花のみち周辺）地区第二種市街地再開発事業

Urban Redevelopment Project in the Takarazuka Station District
(along Hana-no-michi)

都市計画系

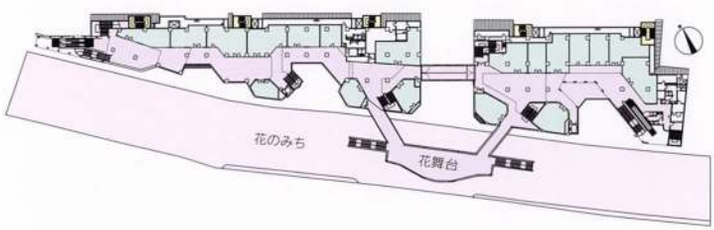
建築主: 宝塚市
所在地: 兵庫県宝塚市栄町
構造規模: SRC＋RC.B2－13F(7街区),BI－13F(8街区)
延床面積: 14,673㎡(7街区),10,774㎡(8街区)
工期: 1997.4～1999.11(予定)





花・緑・人・建築、憩いの回遊空間

当敷地は阪急・JRの宝塚駅ターミナルと、老舗遊園地宝塚ファミリーランド・宝塚歌劇の大劇場を結ぶ、約200mの「花のみち」とその沿道地区からなる地域に位置している。阪神・淡路大震災で大きな被害を受けた花のみち周辺地域の復興事業として都市計画決定された事業であり、設計公開プロポーザルにおいて選出された。基本コンセプトは"花のみちと一体となった自然の潤いあふれる憩いの空間を演出する"ことである。具体的には、街づくりの一体性や場所性を配慮し、リズミカルなスカイラインや街に対するビューをもたせ、国際観光都市・宝塚のシンボルとなる観光プロムナードの一環にふさわしい都市景観を形成する。空間構造としては、連続する路地・大小の広場・花舞台・デッキなどを設けることで花のみちとの立体的な一体化を計り、花のみちを歩く人々が自然にすい寄せられ、集まり、自由に憩える回遊空間を構築している。







左から、憩いの広場イメージスケッチ、花のみち周辺イメージスケッチ

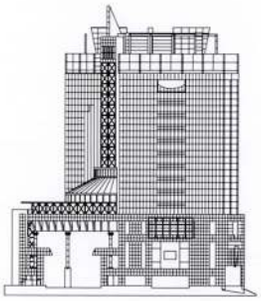
Ar: M.Kamada, M.Chikusa, S.Muraoka, H.Ikeda, S.Takaoka / Yuzo Nagata, Shunji Kitano & Associates co.,ltd
StE: F.O, T.Kitamura　ME/EE: K.Seto, A.Akayama　Su: T.Omura, T.Nakajima

阿倍野A1－1棟（阿倍野A1地区第二種市街地再開発事業施設建築物）

Abeno A1-1 Building (Urban Redevelopment Project in Abeno A1 District)

都市計画系

建築主：大阪市
所在地：大阪市阿倍野区阿倍野筋
構造規模：SRC＋RC＋S. B5－16F
延床面積：68,484㎡
工期：1994.12～1998.9（予定）





阿倍野ゲート地区のシンボルタワー

1969年に都市再開発法が公布され、全国に先がけて、再開発事業地区に制定されてから、はや30年近くが経った。市はもちろんのこと、全国の中でも、注目され続けた事業も最後に残されたA地区の事業開始で、最終段階をむかえつつある。

こうしたなかで、A1－1地区の事業は、まさにリーディング事業として位置づけられ、その成否は、あらゆる方面から注目を集めている事業である。また、天王寺地区は、関西空港開港以来南大阪地域の表玄関として、今後さらに発展が予想される地区でもある。

こうした状況をふまえ、このビルが阿倍野に新たなイメージを与えるコンセプト・タワーとなることをめざし、デザイン化した。





左から、阿倍野再開発地区全景、ガレリア

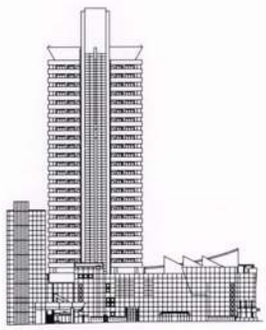
Ar: S.Ogawa, A.Nishiguchi, T.Watanabe, O.Hashimoto, T.Kato　StE: R.Hayashi　ME/EE: M.Obata, Y.Arima
Su: T.Noguchi, A.Nishiguchi, T.Watanabe, O.Hashimoto, R.Hayashi, M.Obata, Y.Arima, T.Tashiro
DC: Motoko Ishii Lighting Design Inc. (Lighting)

ピフレ SHIN-NAGATA（新長田駅前地区第一種市街地再開発事業施設建築物）

PIFURE SHIN-NAGATA
(Urban Redevelopment Project around JR Shin-Nagata Station)

都市計画系

建築主：神戸市
所在地：神戸市長田区若松町
構造規模：SRC＋RC. B2－27F
延床面積：30,810㎡
工期：1995.6～1998.10（予定）





大海へのいざない〈今、復興への出航（たびだち）〉
駅前の広い道路を南へ約1km、ケミカルの街「長田」から想像も出来ない光景に出合う。海である。この広い道、長田のシンボルロード五位池線の〈海への道〉の出発拠点である駅前広場に面した施設が「ピフレ（PEACE、FRIEND･FUTURE、LET'S GO）」である。人と人との出合い、集いの場、そして海を予感させる場を表現する意をこめて、施設コンセプトを多くの夢と希望を乗せた"THE CRUISE SHIP〈豪華客船〉"とした。また、情報を発信する港のシンボル「灯台」「波」「帆」といった形態を極力抽象化して用いといった形態を極力抽象化して用いる事により、港の情景を表現している。奇しくも、初航海が震災復興への船出となったが、この建物が新長田地区全体の水先案内人の役割を十分果たすものと考えている。







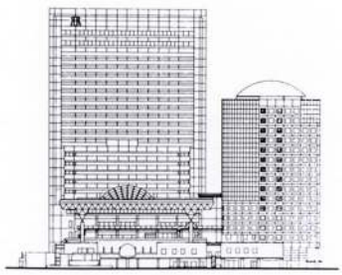
左から、配置構成、断面パース、大集会室

Ar: S.Ogawa, T.Watanabe, O.Hashimoto, S.Fujiwara, T.Kato　StE: R.Hayashi
ME/EE: K.Seto, K.Otani　Su: S.Yoshikawa, R.Itakura, T.Kato

ポルタス堺（堺駅西口地区第一種市街地再開発事業施設建築物）
Portus Sakai (Urban Redevelopment Project in the Sakai Station West District)

都市計画系

建築主：堺駅西口地区市街地再開発組合
所在地：大阪府堺市戎島町
構造規模：SRC＋S. B2－25F
延床面積：84,956㎡
工期：1990.8～1993.11



〈経緯〉
昭和60年 3月 旧堺港周辺地区整備計画
「ハーバーライト21構想」策定（堺市）
昭和62年 3月 旧堺港周辺地区施設計画策定（堺市）
12月 準備組合設立
昭和63年 5月 堺市都市計画審議会（堺市）
8月 大阪府都市計画決定（大阪府）
平成元年 1月 組合設立認可（大阪府）
平成 2年 4月 権利変換計画認可（大阪府）
8月 施設建築物新築工事 起工式
平成5年 10月 施設建築物新築工事・公共施設工事完了
11月 「ポルタス堺」グランドオープン



堺の玄関口、人と情報の出会う街
ポルタス堺のある南海本線堺駅周辺は、行政・商業機能の中心である南海高野線堺東駅周辺地域と大小路シンボルロードによって結ばれ、堺の中でも将来性豊かな都心軸を形成している。関西国際空港の開港にともない、国際的なビジネスチャンスも広がり、今後さらに業務需要が拡大する地区であり、また関西国際空港とは、鉄道をはじめ高速道路網で連絡される交通結節点に位置し、大阪の都心へ、日本各地へ、そして世界の主要都市へとつながる、きわめて利便性の高い好立地条件を備えている。

堺駅西口地区第一種市街地再開発事業は、集客力があり国際交流などに欠かせないコンベンション機能をもつホテル、増大するビジネスチャンスに対応し情報交換と業務中枢機能をもつインテリジェントビル、豊富なファッションブティックなどの商業サービス施設を設け、魅力ある都心景観を形成し、駅前広場や都市計画道路、歩行者空間などを配置して、堺市の西玄関口にふさわしいまちづくりを意図している。









左から、地区基本構成図、全景、ポルタスプラザ夜景、ポルタスセンタービル

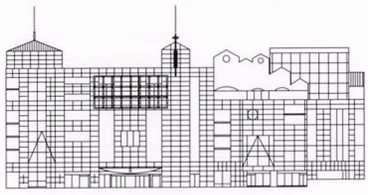
Ar: A.Nagao, S.Kimura, T.Yamakawa, T.Nakajima, M.Chikusa StE: F.Hirayama, Y.Tachibana
ME/EE: M.Nomachi, S.Tsukuda Su: A.Nagao, T.Noguchi, S.Kimura, M.Chikusa, M.Nomachi, T.Kamidaira

新金岡地区再整備計画（再開発地区計画）

Renewal Project in Shinkanaoka District (under the Redevelopment District Plan)

都市計画系

事業主体: 堺市、南海電気鉄道 株式会社、
住友信託銀行 株式会社(土地信託受託者)、
大阪府住宅供給公社
計画地: 大阪府堺市新金岡町
区域面積: 約2.8ha





〈経緯〉
昭和63年 6月 堺市新金岡駅前土地区画
整理事業認可
平成 2年 3月 堺市新金岡再開発地区計画
堺市都市計画決定
平成 2年 3月 堺市新金岡再開発地区計画
大阪府都市計画決定
平成 4年 4月 しんかなCITYオープン
平成 4年 4月 堺市新金岡駅前土地区画
整理事業完了
平成 9年 5月 堺市新金岡再開発地区計画
堺市都市計画変更
平成 9年 7月 堺市新金岡再開発地区計画
大阪府都市計画変更
平成12年 春 仮称「北支所」(C)、北保健施設、北図書館、
住宅オープン予定

誘導型まちづくり

堺の東の玄関口、大阪副都心中百舌鳥に隣接する地下鉄新金岡駅前地区は新住宅市街地再開発事業によって約30年前に開発された。
平成2年土地区画整理事業を契機として、"暮らしの中心"としての機能の集積、駅前地区として土地の高度利用と都市機能の更新をはかるため、「再開発地区計画」を適用することによって、計画に応じた用途の緩和、容積の緩和、地区に相応しい建築内容のコントロール等、きめ細かな規制・誘導を行い、まちづくりを建築的側面からも進めるものである。
一期の商業系複合地区(しんかなCITY)の整備は完了し、現在二期の行政系複合地区(堺市支所ほか)の整備事業中である。







左から、再開発地区全体計画、一期しんかなCITY*・公園、二期仮称「北支所**」(C)・北保健施設・北図書館・住宅(平成12年完成予定)

PI: H.Kubota, M.Kishida Ar: S.Ogawa*, S.Sasaki*, O.Hashimoto*, A.Ono** StE: H.Kunitomo*, K.Nakao**
ME/EE: M.Sakata*, A.Akayama*, S.Terada**, S.Tomita** Su: O.Kaibara*

てんきてんき村まちおこし計画
TENKI-TENKI Village Town Development Project

都市計画系

事業主体: 丹後町
計画地: 京都府竹野郡丹後町
区域面積: 約65㎢ (町全域)
町人口: 7,739人 (H9.7末現在)



肩のこらない村おこし

"煙の出ない工業"と称される観光開発に代表される直接的・速効的な町おこし事業があふれるなかで、丹後町では地域の主体性や時間感覚にあった街づくりプログラムを展開している。本プロジェクトは、その第一ステップであり、地域生活者の郷土の歴史、誇りを内在化し、それを身近な来訪者にアピールする事を目標として、日本海の荒々しい自然に育まれた海浜植物の生態を体験する自然観察園の整備、地域の歴史を本物を介して体験する古代の里(弥生時代の集落の復元)の整備、実体験を体系的に整理し、現代迄のつながりを伝達する資料館の整備を行なった。この様な地道な空間、環境整備は必ずしも飛躍的な経済効果につながるものではないが、地域のアイデンティティーや心のよりどころづくりであり、地域基盤の嵩上げにつながっている。







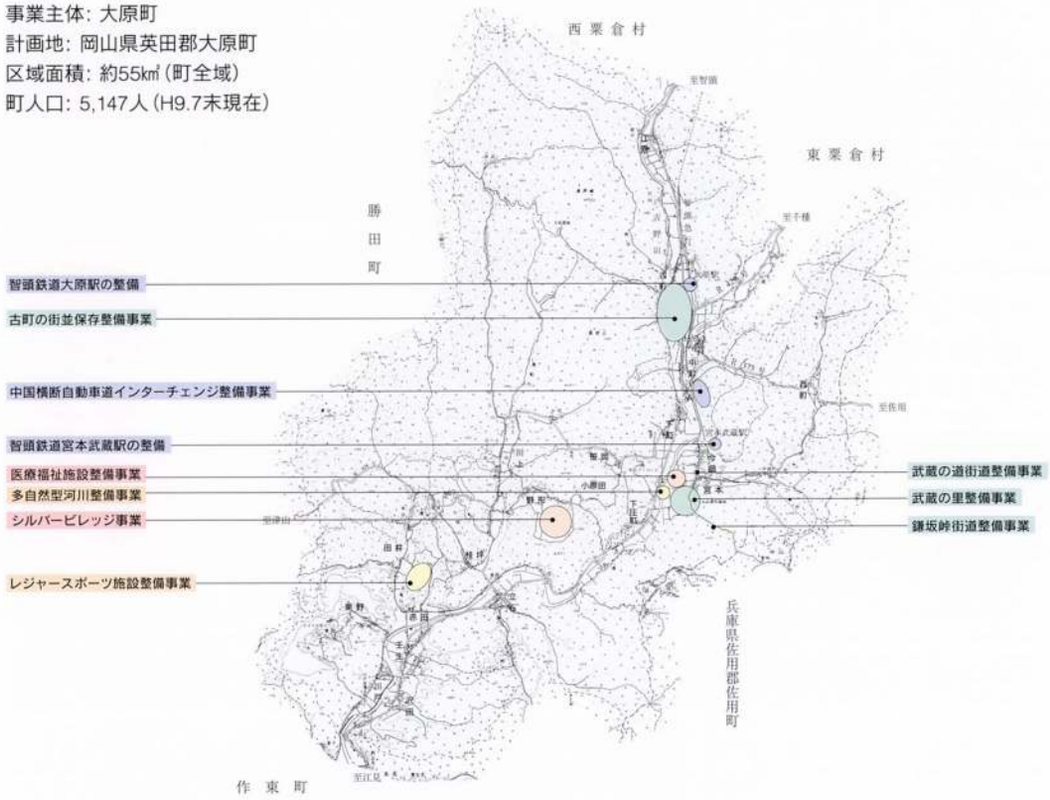
左から、全体計画図、古代の里全景、古代の里

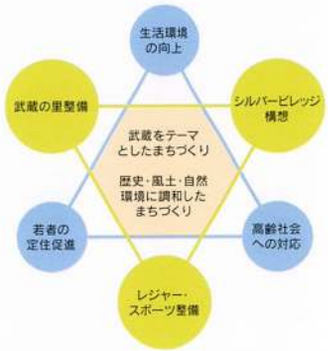
PI: H.Kubota, M.Kishida Ar: T.Watanabe, T.Kato StE: H.Chinami, T.Kitamura ME/EE: H.Okumiya, A.Akayama
Su: K.Nabeshima DS: Toshiki Tabuchi, Professor Emeritus, Kobe University (Historical architectural design)

岡山県大原町まちづくり計画
Developmental Consulting for Ohara-cho

都市計画系

事業主体: 大原町
計画地: 岡山県英田郡大原町
区域面積: 約55㎢(町全域)
町人口: 5,147人(H9.7末現在)





誇れるまちづくり

岡山県英田(あいだ)郡大原町は「宮本武蔵」の生誕地として知られ、武蔵の生家をはじめ、武蔵ゆかりの資料・足跡が数多く残された歴史と自然の豊かなまちである。

一方、まちの現況としては、若者の都市部への流出と幼年人口の減少、高齢化により、徐々に過疎化が進行している。このような状況を打開し、まちの活性化や若者の定住促進のために、宮本武蔵をテーマとした魅力あるまちづくりを行政と一体となり取り組んでいる。










左上から、武蔵の里整備イメージ図、クアガーデン武蔵の里(平成9年12月オープン)、武蔵の道街道整備、鎌坂峠街道整備
旧因幡街道の景観、シルバービレッジ構想、平和の塔整備、宮本武蔵の少年物語 あばれたけぞう(文・絵: 鳥獣図絵師 石原 正)

Co: W.Numata, N.Sawa, T.Watanabe, T.Nakai, T.Okazaki Ar: W.Numata, N.Sawa, T.Watanabe, T.Okazaki
StE: T.Konishi ME/EE: M.Sakata, S.Tomita Su: M.Fukamizu

東大阪新都心整備推進調査

Higashi-Osaka Suburban Developmeat Promotion Survey

都市計画系

事業主体: 東大阪市
計画地: 大阪府東大阪市長田・荒本地区
区域面積: 約140ha
人口フレーム: 夜間人口約12,000人
昼間人口約150,000人



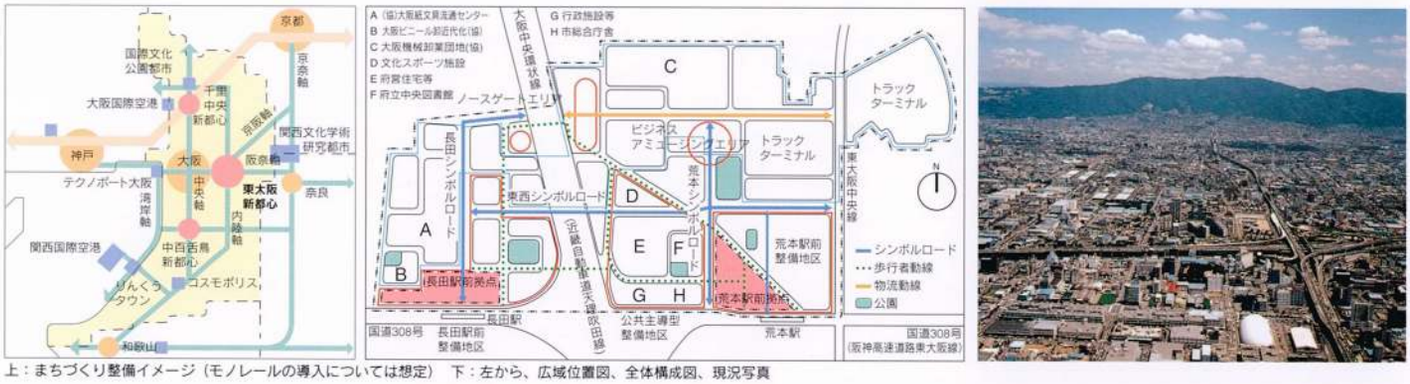
〈調査経緯〉
平成元〜2年度: 東大阪新都心交通施設整備計画調査
3〜5年度: 東大阪新都心整備推進調査
6〜7年度: 荒本駅北地区市街地再開発等調査(A・B調査)
8年度: 東大阪流通業務市街地整備基本計画等策定調査

段階的・戦略的な既成市街地の再生

千里中央地区、中百舌鳥地区と並ぶ府下3新都心の1つと位置づけられた東大阪長田・荒本地区では、わが国初の流通業務市街地と府営住宅をはじめとする一般市街地からなる特性を生かして、東大阪地域の中心核"産業・生活文化交流都市"の創出に向けたまちの再生をめざしている。

140haの多くが民有地で構成される広大な区域の再整備をすすめるうえでは、民間のまちづくり発意を高めていく誘導型まちづくりの展開が必要であり、"拠点開発とネットワーク化""公共主導リーディング事業の段階的・戦略的展開"を骨子とした整備計画を策定している。

この整備計画にもとづき、現在は、リーディング事業のひとつである荒本駅前での拠点整備(市街地再開発事業の導入など)や、区域の70%を占める流通業務地区での拠点整備事業など、段階的まちづくりの推進に向け、種々の検討がすすめられている。



上:まちづくり整備イメージ(モノレールの導入については想定) 下:左から、広域位置図、全体構成図、現況写真

PI: H.Kubota,S.Itani,M.Kishida,H.Naito



筑波大学名誉教授
栗原 嘉一郎

栗原嘉一郎

一層の創造的発信を期待する

ボーダーレス時代に入ったという。すべてのものや関係がソフト化・情報化に向かい、境界や役割が曖昧で見えにくくなってきたようだ。“住みわけ”の平和に安住していることができにくくなってきたといえよう。住みわけの平和に安住していると、気がついたときには時代のニーズは移り、己れは取り残されてしまう様相だといってもよい。個人でも企業でも、時に己れの過去の領域には存在しなかった価値観や行動原理によって己れを見直し、新たな発想を持つことが求められているといえよう。

設計事務所も例外ではあるまい。もともとかなりソフトな領域である設計という職能でさえ、その前後の企画から生産の段階までを含めて、情報通信ネットワーク技術の進展によって大きく様変わりし、それとともにイニシアチブはサプライヤーとしての建築家側からユーザー側に移っていくだろうという*。設計という行為をあまり固定的に考えていると、世界は次第に縮まってくるようだ。まずは時代のニーズをキャッチするアンテナを張ること、アンテナに飛び込んでくる無数の情報を評価し選別する感性と知性を磨くこと、選別された情報に対処し得る柔軟性を持つこと、等々が求められよう。

だが、世の中の動きに上手に対応していく技術を備えるだけではどこか空しい。設計の本質は世のニーズに添い従うのが基本であるには違いないが、同時に世をリードする創造的作業としての面もあるからだ。来たるべき次のニーズ、潜在的ニーズを触発する側面もあることに思いを致したい。先見性が問われるとともに、社会への責任も重い筈である。

組織事務所には豊富で多彩な人材が揃っているわけだから、上手に組織運営をすれば、この両面について絶妙なバランスを保ちつつ、安心できてしかも新鮮な展開が可能な筈である。だが、ややもすると組織事務所は前者に偏り、創造性の側面はアトリエ派に屈する場合が多いように感じられるのは私だけのことではなかろう。アトリエ派は己れの存在をアピールする必要上個性化せざるを得ないし、それ故にエキセントリックな作品で時に世を撹乱もするが、時に哲学的な深さを持ち本質を鋭く突いて世を大きく動かすこともある。挑戦的課題の公開コンペはしばしばアトリエ派が勝利を占めるし、組織事務所は指名コンペや指名プロポーザルの消化に忙しくて応募もしない、という場合も見られる。

作品の面だけでなく、組織事務所からは時代をリードするような建築論が発信されることもあまりない。建築論は評論家や一部著名建築家に任せておけばよいというのではなく、組織事務所からも地に足のついた組織事務所ならではの発信があってもよいのではなかろうか。設計を一つの作品としてまとめている以上、建築に対する一定の価値観がない筈はなく、それをレポートとして発信すればよいのである。建築家にとっては作品がすべてであるというのも一面の真理であるが、作品の裏側にかくれた試行錯誤の数々や結果として作品につながらない創造的思索もまた価値あるポテンシャルであり、上手に発信すれば世を動かす一つのモメントにもつながる筈である。

大手の組織事務所は何でもこなせる万能性が売りであるには違いないが、これはもとより無思想性とイコールではあるまい。仕事の本質としての創造に対する基本姿勢がすなわち事務所のアイデンティティになり、それがおのずから競争力として有効に作用するという形が、より望まれるのではなかろうか。情報化の進展が職能の解体的変質を迫ってくる情勢にあるとするならば、受け身に廻っていたずらにイニシアチブを奪われていくのか、社会に向けて創造的発信を有効に発していくことによりイニシアチブの一翼を担い続けていくかの分かれ目にさしかかっているといえるのではなかろうか。

まずは設計姿勢、設計思想の構築ないし確認が必要であり、次いでそれについて分かりやすい形で社会に向けて発信することが重要であろう。ボーダーレスな情報社会に入った今は、とりわけその意義が高いといえよう。このとき個々の設計作品自体が基本的な発信源であることはいうまでもないが、成熟社会においては、発信性の乏しい単なるビルディングづくりは地球の資源を浪費するだけの後向きの行為としてしか評価されなくなるかもしれない。事務所としてどんな価値をどれだけ世に発信し得るかの質的側面が、比重を増していくに違いない。設計とは何か、創造とは何かが繰り返し問われねばならない筈である。

昭和設計は岡本社長以下、柔軟で包容力ある組織によって順調な発展を遂げてきたように見える。最近は持ち前の堅実さに加えて意欲的な野心作も多くなってきた。今後とも時代の動きを見据えつつ、組織の活性化を通して更に踏み込んだ提案性を秘めた発信を次々に世に送り出してほしいものと願っている。

★「通信ネットワークが迫る建築家職能の百八十度転換」、月尾嘉男インタビュー、日経アーキテクチュア

進歩する技術

総合技術系

20世紀末に近づいた今、建築技術の分野では、富士山より高い4000mの超々高層建物、直径1000mの無柱空間建物が、技術的には建設可能と発表されている。21世紀には、さらに新しい技術が登場するであろう。
我々建築技術者は、未知の「未来技術」にどう取り組むべきであろうか。建築主・デザイナーの夢をかなえるために新しい技術に挑戦し、人間の快適な空間の創造に取り組み、技術者としての誇りを持って、質の高いエネルギーの蓄積と、社会に対して貢献できる技量の確保をめざし、我々は今後も努力すべきである。

空間を創る技術

高層建築







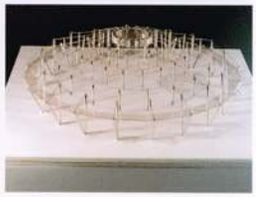
大空間建築

















1	4	7
2	5	8 9 10
3	6	11

SŌRA新大阪21 **1**
兵庫県警察本部庁舎 **2**
計画案 **3**

スペースフレーム
長居陸上競技場 **4**
パンタドーム構法
ワールド記念ホール（世界初）**5**
なみはやドーム（5°傾斜）**6**

膜
パラディッソ **7**

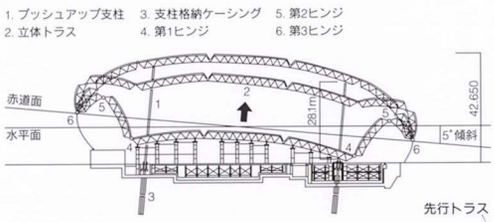
HPシェル
計画案 **8**

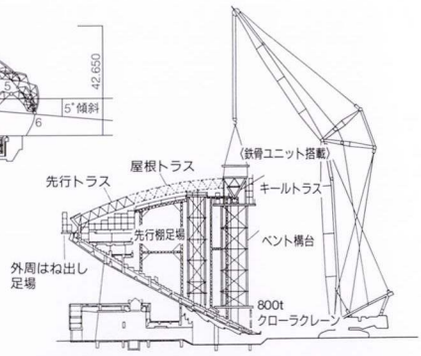
テンセグリティドーム
計画案 **9**

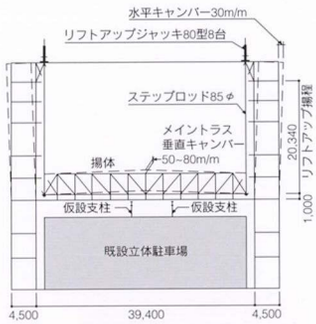
スーパーフレーム
神戸市立PIスポーツセンター **10**

大スパン（ISS）
松江生協病院 **11**

構法







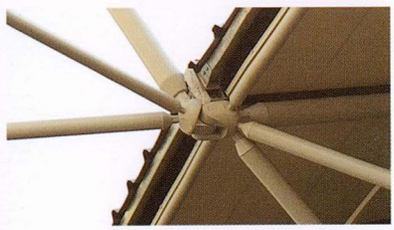
屋根工事施工計画断面図

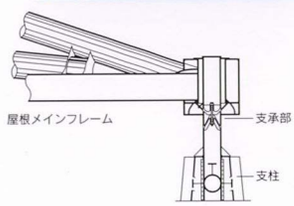


17 19 なみはやドーム　パンタドーム構法(傾斜型) **17**
18 20 東灘区民センター　多層階リフトアップ工法 **18**
長居陸上競技場　ブロック組工法 **19**
神戸市立PIスポーツセンター　リフトアップ工法 **20**

ディテール

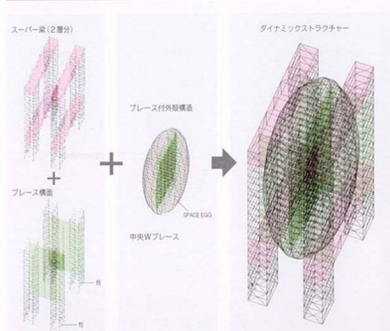






21 22 神戸ファッションマート　アトリウム柱脚ピン **21**
23 なみはやドーム　パンタドーム構法ヒンジ **22**
神戸市立PIスポーツセンター　大屋根支持部 **23**

実験・解析









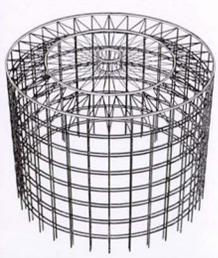
24 26 高層建築　某計画案 **24**
25 27 なみはやドーム　PC版取り付けワイヤーの緊張実験 **25**
六甲アイランド　風洞実験模型 **26**
六甲アイランド　ホテル棟サッシ風圧の実測 **27**

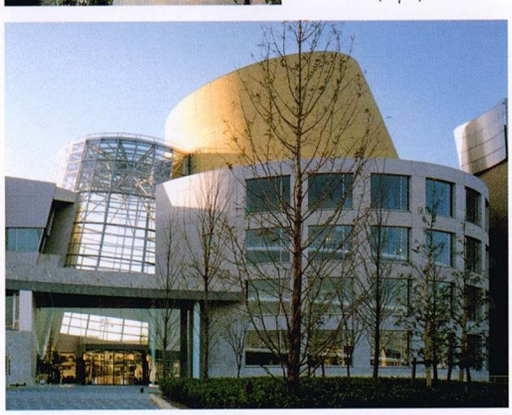
アトリウム建築











12 13 神戸ファッションマート **12,13**
14 15 神戸ファッションプラザ **14,15**
16 文化パルク城陽 **16**

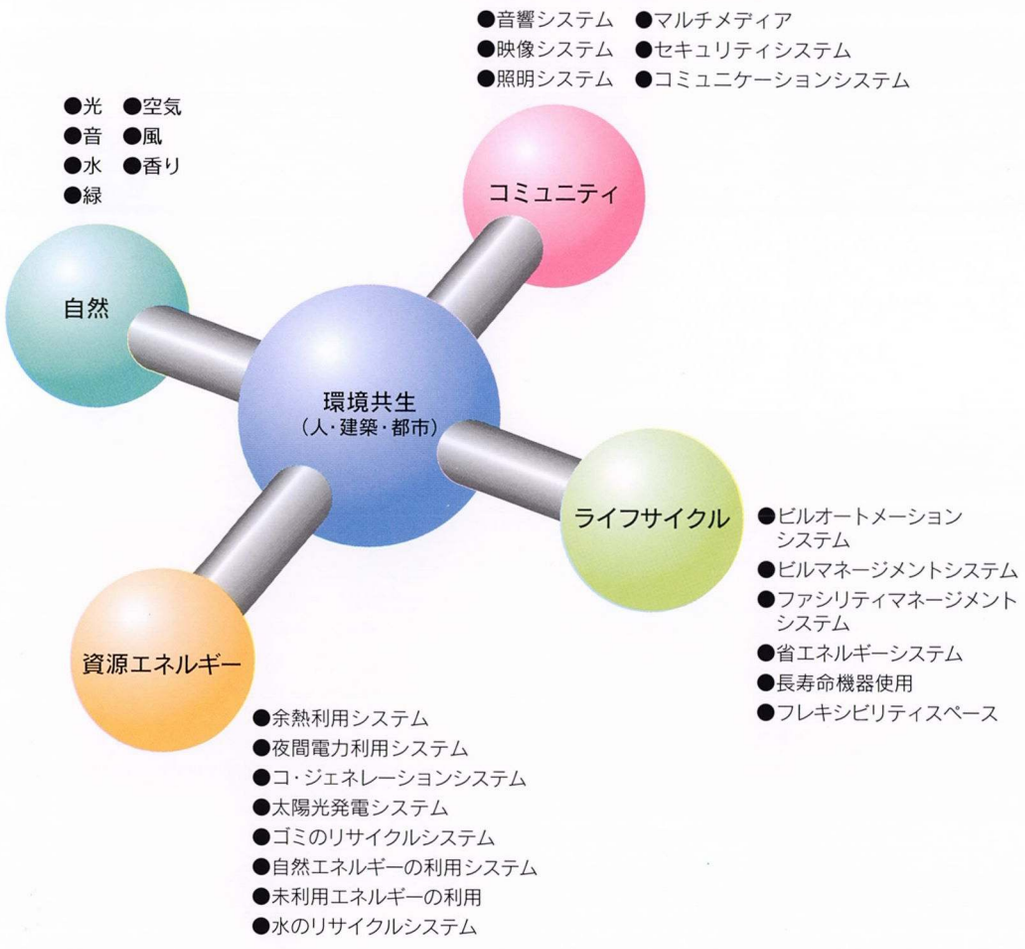
建築設備と環境共生

総合技術系

21世紀を目前にした今、建築設備と環境への取り組みについて振り返ると、欧米のライフスタイルや先進技術の導入、産業・経済の急速な発展により、都市と建築と共にめざましく変化してきた。さらに、人や都市に対してより良い住環境への欲求は、とどまるところを知らないかのようである。その一方で私たちは自然で豊かな、かけがえのない地球環境を失いつつある。
21世紀に向け、建築技術者は、これまでの豊かな暮らしを維持しつつ、自然と人と社会にやさしい環境共生型建築の創造に努めなければならない。

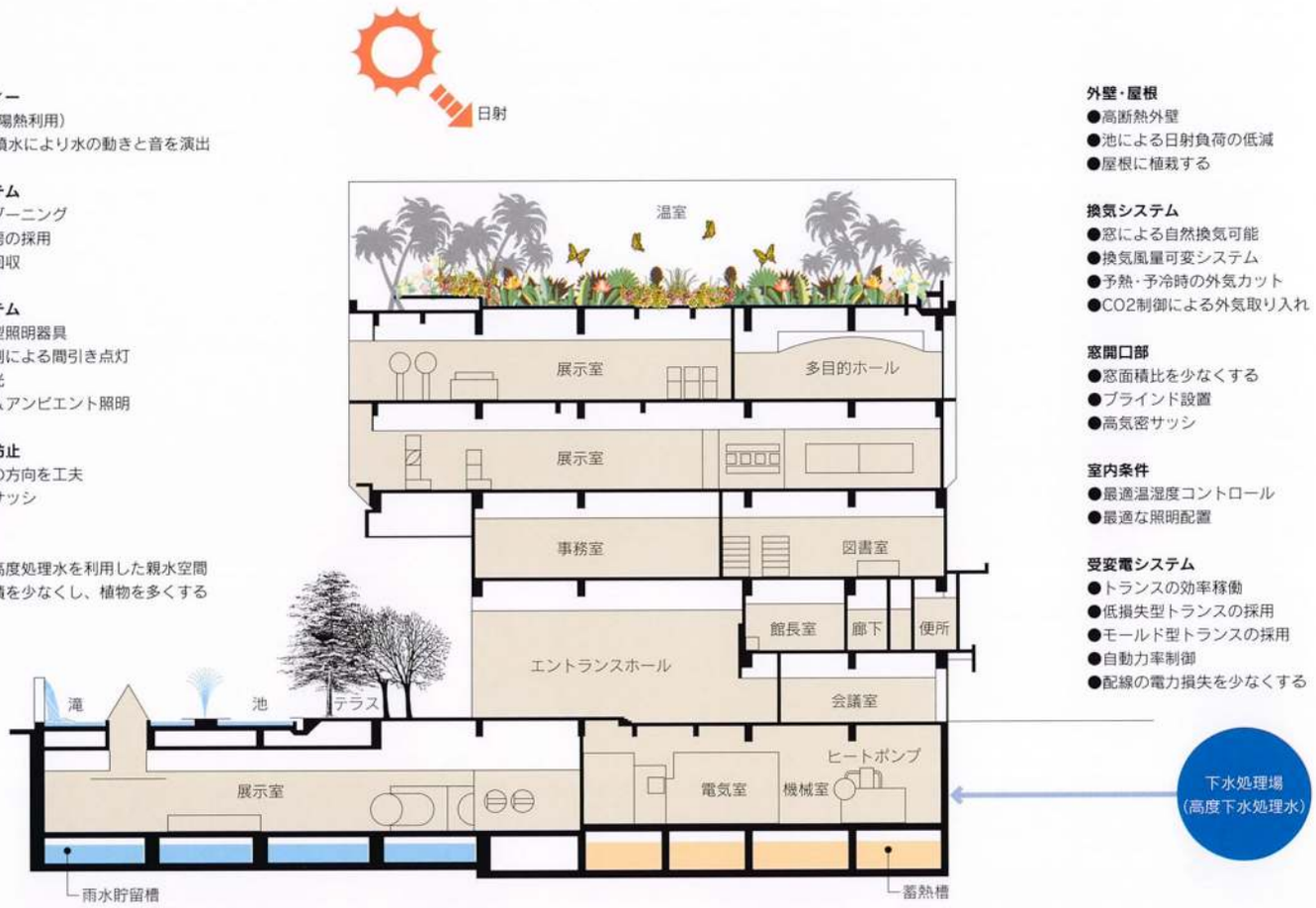


環境共生ネットワークイメージ



これからの環境共生型建築 イメージ図

都市型モデル



アメニティー
- ●温室(太陽熱利用)
- ●滝・池・噴水により水の動きと音を演出

空調システム
- ●適切なゾーニング
- ●外気冷房の採用
- ●排気熱回収

照明システム
- ●省電力型照明器具
- ●照度計測による間引き点灯
- ●自然採光
- ●タスク&アンビエント照明

すきま風防止
- ●風除室の方向を工夫
- ●高気密サッシ

外構計画
- ●下水の高度処理水を利用した親水空間
- ●舗装面積を少なくし、植物を多くする

外壁・屋根
- ●高断熱外壁
- ●池による日射負荷の低減
- ●屋根に植栽する

換気システム
- ●窓による自然換気可能
- ●換気風量可変システム
- ●予熱・予冷時の外気カット
- ●CO2制御による外気取り入れ

窓開口部
- ●窓面積比を少なくする
- ●ブラインド設置
- ●高気密サッシ

室内条件
- ●最適温湿度コントロール
- ●最適な照明配置

受変電システム
- ●トランスの効率稼働
- ●低損失型トランスの採用
- ●モールド型トランスの採用
- ●自動力率制御
- ●配線の電力損失を少なくする

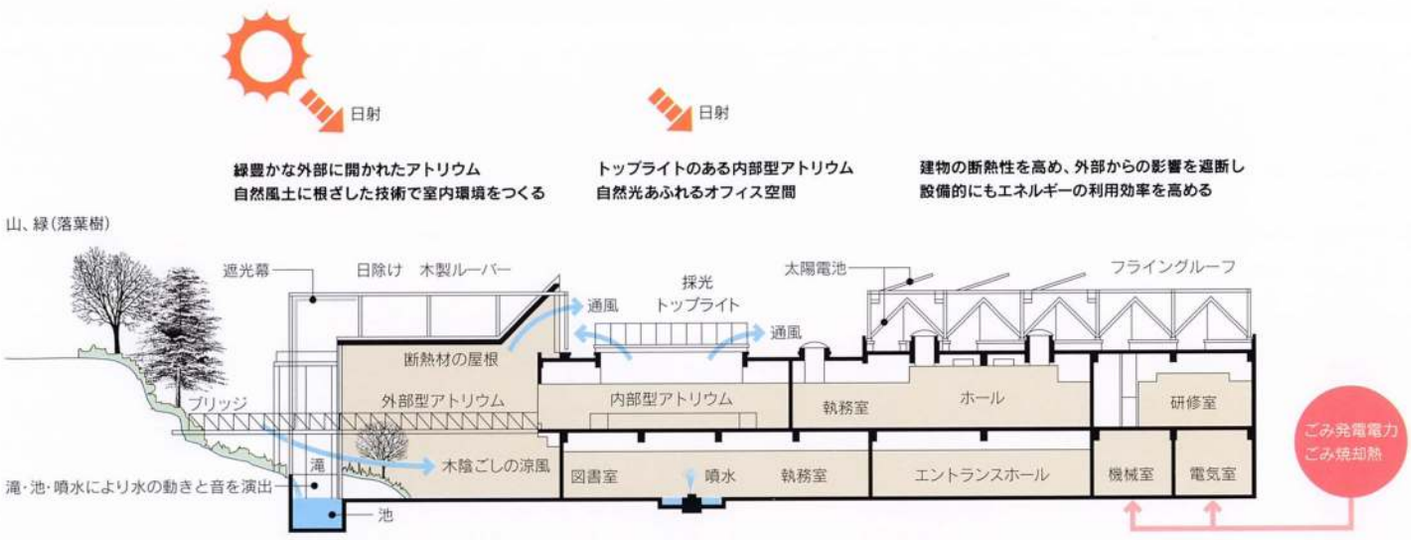
水のリサイクルシステム
- ●節水器具の採用
- ●便所洗浄に下水処理水を利用
- ●雨水利用
- ●中水利用

自動制御・中央監視
- ●熱源機器の最適運転制御
- ●タイムスケジュール運転
- ●自動温湿度計測システム

搬送動力の削減
- ●変風量システム(ファン回転数制御)
- ●変水量システム(ポンプの台数制御)
- ●可変流ポンプの採用
- ●高効率機器の採用
- ●配管、ダクト抵抗を少なくする
- ●配管、ダクトよりの熱ロス削減

熱源システム
- ●下水処理水を熱源としたヒートポンプシステム(未利用エネルギーの利用)
- ●夜間蓄熱システムの採用
- ●熱源機器の高効率運転(台数制御等)
- ●高効率機器の採用

郊外型モデル



熱源システム
- ●電気、ガスによるエネルギーのベストミックス利用
- ●燃料電池によるコ・ジェネレーションシステム(排熱回収:冷暖房・給湯に利用)
- ●ごみ発電電力利用による空調・高効率機器の採用

電力システム
- ●系統連系システム
- ●太陽光発電インバータシステム
- ●無停電電力システム

計測制御システム
- ●太陽光発電計測制御システム
- ●燃料電池計測制御システム
- ●データ解析システム

阪神・淡路大震災に学ぶ

総合技術系

兵庫県南部地震は、1995年1月17日午前5時46分、マグニチュード7.2の都市直下型地震として神戸市および阪神間南部一帯において多くの人命を奪い、建築物・土木構築物等に大きな被害をもたらした。

当社は、翌日直ちに大阪本社に災害対策本部を設置し、混乱する被災地からのより正確な情報把握に努め、被災建物・施設等の災害調査班を組織して、全社一丸となって対処していく体制を整えた。

調査は当初、被災建物の構造躯体損傷状況を中心に目視と写真撮影による外観調査を主に行い、余震に対する二次災害防止の使用可否判定および応急処置等に対する技術支援に努めた。その後調査は、順次、恒久的復旧・補強に向けた2次、3次調査へと移行し、基礎・杭の掘削調査(被災状況によっては杭本体の損傷調査)をはじめ、構造躯体(柱・梁・壁・床・ブレース等)の損傷調査並びに建築二次部材・建築設備の詳細調査などを行い、復旧・補強計画の提案、設計図書の整備、工事監理等、総合的に取り組んだ。

また、4月に発足した災害調査委員会は、この度の大震災を貴重な教訓として、人命尊重の立場から、建物の防災・避難・安全という視点で、構造・意匠・設備の専門分野からの技術的提案、改善・対策等をまとめた「地震に強く 人にやさしい建築設計をめざして－阪神・淡路大震災に学ぶ－」の小冊子を作成した。

さらに当社は、翌年も被災建物・施設等の災害調査、復旧・補強設計を通じて得た情報・資料等を全社一丸となって検討・分析した。その体験、経験、工学的判断に基づいて昭和設計として、今後新しい耐震設計法のあるべき姿を「地震に強く 人にやさしい建築設計の提案－阪神・淡路大震災に学ぶ－」としてまとめた。

これは、阪神・淡路大震災の教訓を基に、発注者と共により良い建物設計を目指して、建物のあるべき耐震性能を決定する為の指標を示したものである。

震災後のあゆみ

95. 1.18　大阪本社に災害対策本部を設置
95. 2.10　神戸事務所に災害対策室を設置
95. 4. 1　災害対策本部を復興プロジェクトチームに名称変更し、
　　災害復旧・復興に向けた組織を強化
95. 4.25　災害調査委員会を設置
95.12.18　災害調査委員会の報告書
　　「地震に強く 人にやさしい建築設計をめざして
　　－阪神・淡路大震災に学ぶ－」完成
96. 4. 1　設計標準化委員会を設置
96. 9.30　設計標準化委員会が新しい耐震設計の基準
　　「地震に強く 人にやさしい建築設計の提案
　　－阪神・淡路大震災に学ぶ－」を作成
97. 4. 1　品質向上委員会を設置





震災後の対外的活動

各種ボランティア活動、震災関連の公的調査への協力

日本建築学会	日本建築構造技術者協会（JSCA）
日本建築家協会（JIA）	日本建築士事務所協会 他

公的機関等の震災調査への協力

神戸市	芦屋市	兵庫県
西宮市	伊丹市	兵庫県住宅供給公社
宝塚市	尼崎市	日本下水道事業団
川西市	大阪市	神戸市開発管理事業団
豊中市	生活協同組合コープこうべ 他	

復旧計画の作成、補修調査および補修設計

建設省近畿地方建設局	兵庫県
兵庫県住宅供給公社	神戸市
神戸市開発管理事業団	芦屋市
神戸市住宅供給公社	西宮市
神戸港埠頭公社	伊丹市
神戸港厚生サービス協会	生活協同組合コープこうべ
各民間企業	

耐震診断および補強設計

学校・体育館・庁舎をはじめとする各種施設

災害復旧・復興住宅の設計

神戸市西神南住宅	神戸市若松住宅
神戸市番町住宅15～19号棟	神戸市本山第1住宅
神戸市玉津北第3住宅	（仮称）鷹取駅北団地

新長田駅南地区震災復興第二種市街地再開発事業（Cブロック）基本設計
（仮称）新長田南地区若松3再開発ビル
西宮市両度町団地
西宮マリーナパークシティ公団住宅・県営住宅・市営住宅
宝塚駅前（花のみち周辺）地区第二種市街地再開発事業

メゾン新御影	メゾンドール仁川 他



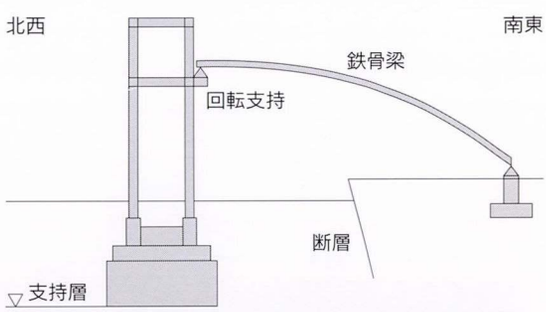




阪神・淡路大震災の記念碑「野島断層保存館」

阪神・淡路大震災の“生きた教材”ともいえる「野島断層」は関係団体の保存要請に応え、永久保存することが決定し、その保存館の設計を行う機会に恵まれ、当社は震災後の取り組み成果に基づき、下記の方針で設計を完成させた。
この記念館は、「野島断層」を単に天然記念物として保存・展示するだけではなく、防災教育に係わる施設および北淡町の復興の核となる施設である。

架構模式図

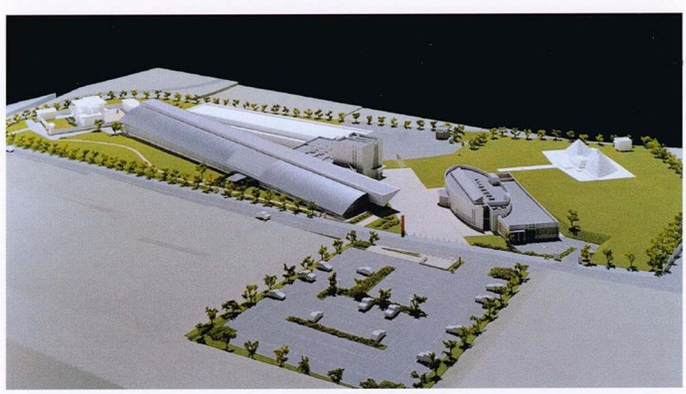


デザインコンセプト

- 野島断層の特徴である「軸線」「亀裂」「ズレ」といったモチーフを形態のメタファとするだけでなく、建物配置にも取り入れる。
- 自然の厳しさと優しさの対比を建物形態の中に表現する。
- 地球科学の生きた教材の場を創出する。

構造面での方針

- 断層線の両側の範囲内（約15m）にできるだけ基礎等をつくらない。
- 可能性としては少ないが、断層が動いた場合（水平約1.5m、垂直約0.5m）の建物の安全性を考慮する。
- 断層上に軽い屋根（鉄骨造）をアーチ構造にして掛け渡した架構とする。
- 万が一、断層が動いたとしても屋根が落ちないように配慮する。





神戸大学名誉教授・元学長
堯天 義久

Yoshihisa Gyoten

21世紀に向けて

創立40周年、心からお祝い申しあげます。

昭和32年創立以来、山あり谷ありの激動の時代を乗り越えて、いまも大手設計事務所として発展しつづけているのは、岡本社長を始め役員の卓抜した指導力、経営力と、各部門のスタッフの結集した技術力、業務遂行力の賜であると、深い敬意を捧げるものであります。

私達が遭遇した最近の一番大きい事件は、何といっても阪神・淡路大震災ではないでしょうか。

現代都市の地震災害と復旧復興は、社会と都市構造の変化に伴って過去のそれらとは様相が異なっています。

私は被災地の被害調査に従事し、また神戸市の復興計画の審議に関係して、都市の災害対応力の脆弱化について考えさせられ、そして復興は未来に責任を負うものでなければならないことから日本の社会、現代都市が潜在的にあるいは顕在的に抱えている課題を乗り越え、改善、解決して行かなければならないと痛感させられた。

嘗て一般に「地震災害は文明の二乗に比例する」といわれているが、被害を増幅するような文明－都市型文明は真の文明とはいえないし、我々の目指すものでないことは明らかです。

震災は地震動という自然現象が、社会システム（ハード、ソフトをひっくるめた）というフィルターにインプットされて現われる応答であると考えられる。震災は地震の大きさには比例的であるが、対応力がしっかりとしていると抑制されるので社会システムには反比例的で、理念的には(a)のようになるだろうと思われます。

$$[\text{震災}]=f\left[\frac{\text{地震動}}{\text{社会システム}}\right]\cdots\cdots\cdots\cdots(a)$$

社会システムの脆弱な要因としては、他者依存型の都市施設、都市機能や、総合的な耐震設計・防災理念の欠除、維持保全管理の不備、インナー対策、公的住宅、社会福祉の貧弱さなどが挙げられ、又、緊急救援の混乱、遅れなど危機管理体制の不備欠陥が問題になっている。

一方、復旧復興は地震災害を修復して復旧し、更にどう将来に向けて立ち上がれるかという社会システムのフィルターを通しての応答である。従って、復旧復興は震災に反比例的であり、社会システムには比例的であるので、(a)により(b)のように表現できるが、社会システムの如何が大きい鍵を握っていることが分かる。

$$[\text{復旧復興}]=F\left\{\frac{\text{社会システム}}{[\text{震災}]}\right\}$$

$$=F\left\{f\left[\frac{\text{社会システム}}{\text{地震動}}\right]\cdot\text{社会システム}\right\}\cdots\cdots(b)$$

復旧復興の隘路には、中央と地方が同等の責任を持っている統治体制でないこと、災害復旧には向いているが復興に向いていない予算システム、既存の法体系や画一的運用、規制などの行政の壁の厚さ、復旧復興期間中でのフロー経済の低下、激甚被災地でのコミュニティの崩壊、市民社会の不成熟さ、縦型社会と内と縦にだけ流れる情報等々が混在し複合して特に復興を阻害している。

阪神大震災から我々は数多くの教訓を得たが、地震災害と復興の問題を通して、これからの我が国の社会システムのあり方を考えていく視点が大切であると思います。

21世紀を目前に控えて事務所創立40周年の節目に当たっては、創立と発展の跡を顧み、現状を分析把握して明日に如何なる展望を持つべきか、昭和設計の個性ともいえる理念の原点に戻って、将来の充実発展への原動力としたいものです。

私は、社名、組織、経営、業務すべてに亘って昭和設計の理念が込められ具現されていると思っています。

特に敬服してやまないのは、個人名を付けない事務所である理由が既に創立の時から「設計業務は社会的なもので、決して個人が恣意のまま行うものでなく設計事務所はその使命から社会の公器であるべきだ」とする明確な信念に基づいていることであります。

同じく組織事務所であることについても「設計業務が多様化、巨大化、複雑化してきて、能力、活動期間に自づから限界がある個人では対応しきれなくなる。分野横断的であり且つ活力のあるスペシャリスト集団の集約し、又継承される組織総合力が必須である」との先見に基づく積極的理由からであるのも素晴らしく思います。

これによって、業務の継続性、クライアントとの信頼関係の永続性、更には社会への貢献と責務の長期性を保つことを確かなものにすることも出来ましょう。極めて重要なのは、個別分野には認識手段として限界があることから、個別分野間の衝突、周辺分野との連携は認識手段の拡大と創造に連がり、設計者、技術者の分野を越えた協力と理解は新しい可能性を見出す道であり、組織と個人を活性化する源泉ともなりうることです。

私はこれを「善なる全は善なる個より、能ある全は能ある個より生まれる」というホロン型組織を志向し具現したもので、新しい時代の事務所の個性と思っています。

設計プロジェクト制、デザインフォーラムの実施や、いち早く「水工部」「企画部」を設けるなど、組織や技術、提案力の充実に務められた先見性に脱帽します。

今回の地震と復興についても、昭和設計がその組織的技術力、提案力を遺憾なく発揮されて、被災地の復興に大きく貢献して頂いたことに感謝いたしています。

「設計」「計画」「企画」「提案」そして「自然と共生する人間の空間」を標榜して、21世紀こそ総合力のあるホロン型組織事務所－昭和設計の真価が期待される時代ではないでしょうか。益々の発展をお祈りします。

Material Texture






Stone



Wood

CRFC









Membrane



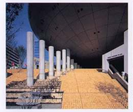
Glass





Metal
(Titanium)

Art









Landscape



Court



Interior

Lighting





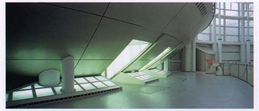



Exterior
Lighting



Interior
Lighting

Interior




Entertainment



Atrium







Court

Lobby

Restaurant

Part

Step

Canopy

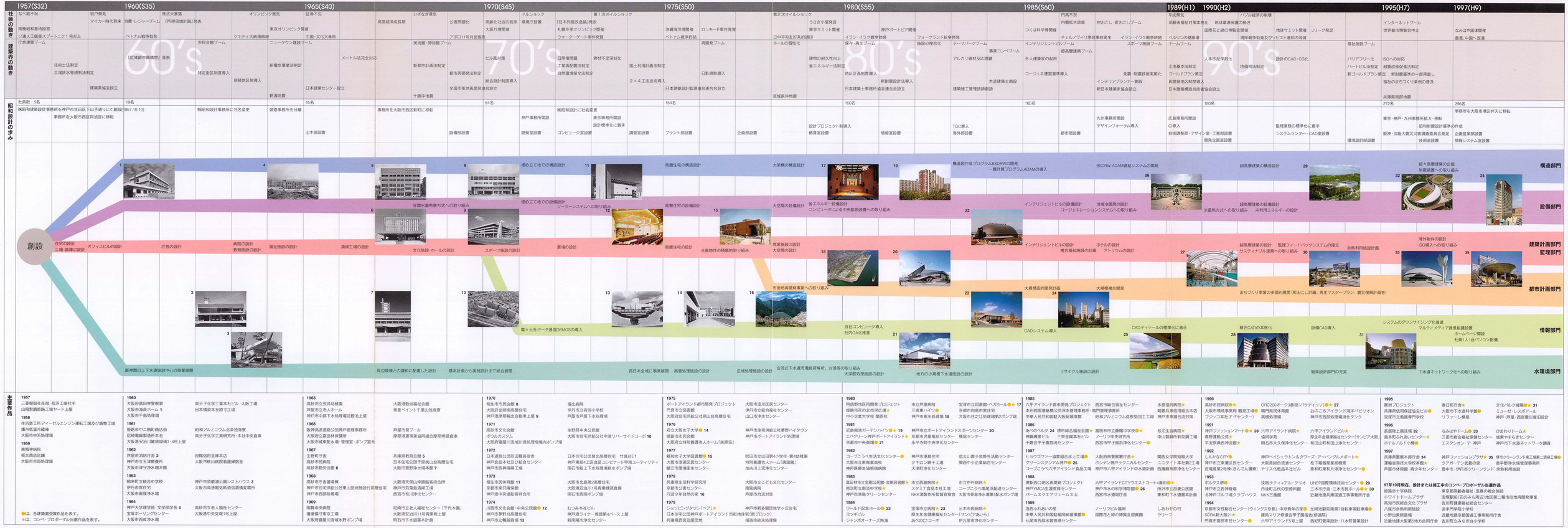
Sign

Elevator

Landscape

Natural

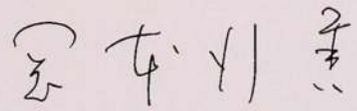
Artificial


1957(S32)
1960(S35)
1965(S40)
1970(S45)
1975(S50)
1980(S55)
1985(S60)
1989(H1)
1990(H2)
1995(H7)
1997(H9)
60's
70's
80's
90's
社会の動き
建築界の動き
昭和設計の歩み
なべ底不況
高板昭和基地設置
ソ連人工衛星スプートニク１号打上
岩戸景気
マイカー時代到来
消費・レジャーブーム
『株式大暴落
『所得倍増計画』発表
ベトナム戦争勃発
オリンピック景気
東京オリンピック開催
ケネディ大統領暗殺
証券不況
中国・文化大革命
高度経済成長期
いざなぎ景気
公害問題化
アポロ11号月面着陸
高齢化社会の到来
大阪万博開催
ドルショック
環境庁設置
「日本列島改造論」発表
札幌冬季オリンピック開催
ウォーターゲート事件発覚
第１次オリンピックショック
沖縄海洋博開催
ベトナム戦争終結
ロッキード事件発覚
第２次オリンピックショック
うさぎ小屋発言
東京サミット開催
イラン・イラク戦争勃発
神戸ポートピア開催
フォークランド紛争勃発
日中平和友好条約調印
円高不況
内需拡大政策
チェルノブイリ原発事故発生
村おこし・町おこしブーム
イラン・イラク戦争終結
スポーツ施設ブーム
つくば科学博開催
超高層建築ブーム
免震・制震技術実用化
平成景気
高齢者福祉対策本格化
ベルリンの壁崩壊
バブル経済の崩壊
地球環境保護の動き
国際花と緑の博覧会開催
地球サミット開催
湾岸戦争勃発及びPKO協力法の成立
Jリーグ発足
阪神淡路大震災
オウム真理教事件
インターネットブーム
世界都市博覧会中止
なみはや国体開催
香港、中国へ返還
インテリジェントビル
外人建築家の起用
コージェネ運営基準導入
ドームブーム
土地基本法制定
ゴールドプラン策定
再開発地区制度導入
日本建築構造技術者協会設立
人手不足深刻化
地価税法制定
設計のCAD・CG化
バリアフリー化
ハートビル法制定
新ゴールドプラン策定
福祉のまちづくり条例の普及
兵庫県南部地震
ISOへの対応
耐震改修促進法制定
新耐震基準の一部見直し
東京・神戸・九州事務所拡大・移転
昭和耐震設計基準の作成
阪神・淡路大震災復興基金共設立
技術室設置
超々高層建築の企画
制震装置への取り組み
超高層建築の構造設計
超高層建築の設備設計
水蒸熱方式への取り組み
未利用エネルギーの設計
まちづくり事業の多面的展開（町おこし計画、再生マスタープラン、震災復興計画等）
余熱利用施設計画
海外物件の設計
ISO導入への取り組み
システムのダウンサイジング化推進
マルチメディア推進組織設置
ホームページ開設
社員１人１台パソコン配備
下水道ネットワーク化への取り組み
管渠設計部門の充実
構造部門
設備部門
建築計画部門
監理部門
都市計画部門
情報部門
水環境部門
社員数：5名
19名
45名
84名
154名
150名
165名
180名
272名
296名
無給和建築設計事務所を神戸市生田区下山手通りにて創設(1957.10.10)
事務所を大阪市西区阿波座に移転
無給和設計事務所に社名変更
姫路事務所を分離
事務所を大阪市西区新町に移転
設備部設置
神戸事務所開設
開発室設置
無給和設計に社名変更
東京事務所開設
コンピュータ室設置
設計標準化に着手
設計プロジェクト制導入
積算室設置
情報室設置
プラント部設置
企画部設置
TQC導入
海外部設置
都市部設置
九州事務所開設
デザインフォーラム導入
広島事務所開設
C導入
技術調整部・デザイン室・工務部設置
開発企画室設置
監理業務の標準化に着手
システムセンター・CAD室設置
環境設計部設置
技術室設置
事務所を大阪市港区弁天に移転
1 住宅の設計 工場・倉庫の設計
2 オフィスビルの設計
3 庁舎の設計
4 病院の設計 教育施設の設計
5 福祉施設の設計
6 清掃工場の設計
7 文化施設・ホールの設計
8 スポーツ施設の設計
9 寺院の設計
10 高層住宅の設計
11 企画物件の積極的取り組み
12 商業施設の設計 大空間の設計
13 市街地再開発事業への取り組み
14 大架構の構造設計
15 大空間の設計
16 高層住宅の構造設計
17 高層住宅の設備設計
18 埋め立て地での構造設計
19 埋め立て地での設備設計
20 ソーラーシステムの取り組み
21 省エネルギー設備設計
22 コンピュータによる中央監視装置への取り組み
23 構造設作成プログラムBSDRWの開発
一貫計算プログラムADAMの導入
24 インテリジェントビルの設備設計
コージェネレーションシステムへの取り組み
25 インテリジェントビルの設計
複合福祉施設の計画
26 ホテルの設計
アトリウムの設計
27 BSDRW-ADAM連結システムの開発
28 大規模の開発計画
29 CADシステム導入
30 CADディテールの標準化に着手
31 リサイクル施設の設計
32 穂匠CADの本格化
33 設備CAD導入
34 電々公社データ通信DEMOSの導入
35 自社コンピュータ導入
社内OA化推進
36 地方の小規模下水道施設の設計
37 合流式下水道汚濁負荷解析、対策等の取り組み
大深度処理施設の設計
38 阪神間の上下水道施設中心の事業展開
39 周辺環境との調和に配慮した設計
40 基本計画から実施設計まで総合展開
41 西日本全域に事業展開
高度処理施設の設計
42 広域処理施設の設計
1957
三菱樹脂社長邸・長浜工場社宅
山陽製鋼建設工場サード上屋
1958
住吉鉄工所ディーゼルエンジン運転工場及び鋳物工場
播州低温冷蔵庫
大阪市中浜処理場
1959
東福神病院
松文商店店舗
大阪市市岡処理場
1960
大阪府富田林警察署
大阪市海員ホーム 1
大阪市千島処理場
1961
姫路市中二階町商店街
尼崎電線製造所本社
大阪港定治川雑貨埠頭3・4号上屋
1962
芦屋市消防庁舎 2
神戸市立玉津療養所
大阪市津守浄水場本館
1963
姫路町立統合中学校
伊丹市営住宅
大阪市営屋浄水場
1964
神戸大学理学部・文学部学舎 4
宝塚ボーリングセンター
大阪市西成浄水場
高分子化学工業本社ビル・大阪工場
日本橋梁本社掛工場
昭和アルミニウム北条独身寮
高分子化学工業研究所・本社中央倉庫
印刷信用金庫本店
大阪市横山病院看護婦宿舎
高分子化学工業研究所
神戸市須磨浦公園レストハウス 3
大阪市高速電気軌道信濃橋変電所
高砂市立老人福祉センター
大阪港中央突堤1号上屋
1965
高砂市立荒井幼稚園
芦屋市立老人ホーム
神戸市中部下水処理場増設棟上屋
1966
阪神高速道路公団神戸管理事務所
大阪府立園芸林保健所
大阪市城東配水場・管理室・ポンプ室他
1967
生野町庁舎
高砂市民病院
高砂市勤労会館 6
1968
高砂市庁舎議場棟
神戸市住宅供給公社東山団地施設(1期)
神戸市西部処理場
1969
箱根中央病院
播磨造船寺東京工場
大阪府警察局庁舎増築ポンプ棟
大阪港勤労福祉会館
東亜ペイント千里山浴身寮
1970
姫路市民会館 8
大阪府全国病風風館庁舎
神戸港摩耶輸出自動車上屋 9
1971
高砂市文化会館
ポプルカスタム
大阪府寝屋川流域川俣処理場増設
1972
日本道路公団吹田職員宿舎
神戸食品本社及び給食センター
神戸市西神浦球工場
1973
姫路市民体育館 11
京都市栄只隊保館
神戸港中突堤船客待合所
1974
川西市立市民会館・中央公民館 12
神戸市摩野台高層住宅
神戸市立鳴越倉庫 13
堀出病院
伊丹市立有岡小学校
芦屋市芦屋下水処理場
生野町中央公園
大阪市住宅供給公社中津リバーサイドコーポ 10
1976
県立大阪女子大学 14
姫路市市民会館
大阪府立特別養護老人ホーム「美原荘」
1977
姫路女子大学図書館 15
大阪市港湾区民センター
鮎江市環境衛生センター
1978
兵庫県生活科学研究所
京都市公害センター
丹波少年自然の家 16
1979
ショッピングタウン「ベア」
日本住宅公団神戸ポートアイランド市街地住宅(南フロジック)
兵庫県西宮芝屋団地
大阪市淀川区民センター
伊丹市立総合福祉センター
指宿市終末処理場
1980
阿倍野地区再開発プロジェクト
姫路市花の北市民広場
中小企業大学校 関西校
1981
近鉄百貨店ガーデンハイツ 19
エバグリーン神戸ポートアイランド
京都市中央倉庫 21
1982
ユープこうべ生活文化センター
大阪市立東高校
神戸医療生協板宿病院
1983
富田林市立新公民館・金剛図書館
南浜町立南浜中学校
神戸市港島クリーンセンター
1984
ワールド記念ホール 22
宝塚市立病院 23
ヨシモビル
ジャンボオーナーズ熱海
市立芦屋病院
三菱重パイプ
神戸市垂水処理場 18
神戸市ポートアイランドスポーツセンター 20
京都市児童福祉センター
永平寺町中央浄化センター
神戸市立ポートアイランド市民センター
神戸市ポートアイランド処理場
神戸市生活協同組合
タキロン網干工場
大津町浄化センター
神戸市立こども文化センター
芦屋市消防庁舎
大阪市港湾局
大阪市垂水処理場
宝塚市立図書館・ベガホール 17
京都市向島市営住宅
大阪市住之江処理場第2ポンプ場
佐土生漁港
ユープこうべ鳴尾浜配送センター
大阪市単独浄水場第1配水ポンプ場
水島協同病院
大阪市環境事業局 鶴見工場
朝銀兵庫信用組合本店
フジシコネ社(F.イセンター)
高槻処理場
1985
大学イノシシ部市開発プロジェクト
本州四国連絡橋公団淡木管理事務所・鳴門管理事務所
中華人民共和国駐大阪総領事館
1986
あべべルタ 24
神鋼興産ビル
千歳会甲子園物流センター
1987
大学イノシシ部ユープこうべ
グリーンスタジアム神戸 25
コープこうべ六甲アイランド食品工場
1988
富田林市立泉ヶ丘病院
兵庫県生活科学研究所
京都市公害センター
1989
摂津市立地区再開発プロジェクト
神戸RMC生涯教育センター
バームクスケアジェームス山
1990
大学イノシシ部
大阪市環境事業局 鶴見工場
フジシコネ社(F.イセンター)
1991
神戸ファッションマート 28
青野運動公園
平安保典西神会館
1992
しんかなCITY
神戸市立東灘区民センター
近電産業2号棟(きんでん 灘寮)
1993
ポルクス港
神戸市立西神会館
北神戸ゴルフ場クラブハウス
1994
京都市女性総合センター(ウィングス京都)・中京青年の家
SÖRA新大阪21
門真市南部市民センター
1995
青山プロジェクト
兵庫県信用保証協会ビル
大阪市立水道科学館
宝塚市立看護専門学校
1996
長居陸上競技場 32
島本町公民館センター
ホテルノルド小樽
1997
兵庫県警察本部庁舎 34
運輸省海技大学校本館
芦屋市体育館・青少年センター
春日町庁舎
大阪市下水道科学館
リファーム構尾
1998
神戸ファッションプラザ 35
ポーアイプラザ
ポートピアピア
1999
ポートピアホテル
2000
ORC200オークラ藤田ドリアティッソ 27
おのころライフランド淡洋/パビリオン
神戸市西部処理場消化タンク
2001
六甲アイランドビル
摩生年金健康福祉センター/サンピアえじま
松下電器産業高機度
2002
六甲アイランドビル
大阪港総合流通センター
松下電器産業高機度
2003
UNEF国際環境技術センター 29
三木市庁舎・三木市民ホール 30
近畿地建共庫国道工事事務所庁舎
2004
京都市女性総合センター(ウィングス京都)・中京青年の家
SÖRA新大阪21
門真市南部市民センター
光岡池駅前南第7自転車等駐車場
播磨マリア修道会甲子園宿舎(修道院)
六甲アイランド5号上屋
西紀町営展設計・八木町営展設計
文化パルク城陽 31
ミューゼ・レスポール
神戸・芦屋・西宮震災復旧設計
2005
なみはやドーム 33
三田市駅台福祉保健センター
エスタシオン・デ・神戸
2006
ひまわりドーム
城東やすらぎセンター
神戸市下水道ネットワーク調査
2007
神戸ファッションプラザ 35
ポーアイプラザ
2008
摂津マリンパーク
ポーアイプラザ
2009
ポーアイプラザ
2010
ポーアイプラザ
2011
ポーアイプラザ
2012
ポーアイプラザ
2013
ポーアイプラザ
2014
ポーアイプラザ
2015
ポーアイプラザ
2016
ポーアイプラザ
2017
ポーアイプラザ
2018
ポーアイプラザ
2019
ポーアイプラザ
2020
ポーアイプラザ
2021
ポーアイプラザ
2022
ポーアイプラザ
2023
ポーアイプラザ
2024
ポーアイプラザ
2025
ポーアイプラザ
2026
ポーアイプラザ
2027
ポーアイプラザ
2028
ポーアイプラザ
2029
ポーアイプラザ
2030
ポーアイプラザ
2031
ポーアイプラザ
2032
ポーアイプラザ
2033
ポーアイプラザ
2034
ポーアイプラザ
2035
ポーアイプラザ
2036
ポーアイプラザ
2037
ポーアイプラザ
2038
ポーアイプラザ
2039
ポーアイプラザ
2040
ポーアイプラザ
2041
ポーアイプラザ
2042
ポーアイプラザ
2043
ポーアイプラザ
2044
ポーアイプラザ
2045
ポーアイプラザ
2046
ポーアイプラザ
2047
ポーアイプラザ
2048
ポーアイプラザ
2049
ポーアイプラザ
2050
ポーアイプラザ
2051
ポーアイプラザ
2052
ポーアイプラザ
2053
ポーアイプラザ
2054
ポーアイプラザ
2055
ポーアイプラザ
2056
ポーアイプラザ
2057
ポーアイプラザ
2058
ポーアイプラザ
2059
ポーアイプラザ
2060
ポーアイプラザ
2061
ポーアイプラザ
2062
ポーアイプラザ
2063
ポーアイプラザ
2064
ポーアイプラザ
2065
ポーアイプラザ
2066
ポーアイプラザ
2067
ポーアイプラザ
2068
ポーアイプラザ
2069
ポーアイプラザ
2070
ポーアイプラザ
2071
ポーアイプラザ
2072
ポーアイプラザ
2073
ポーアイプラザ
2074
ポーアイプラザ
2075
ポーアイプラザ
2076
ポーアイプラザ
2077
ポーアイプラザ
2078
ポーアイプラザ
2079
ポーアイプラザ
2080
ポーアイプラザ
2081
ポーアイプラザ
2082
ポーアイプラザ
2083
ポーアイプラザ
2084
ポーアイプラザ
2085
ポーアイプラザ
2086
ポーアイプラザ
2087
ポーアイプラザ
2088
ポーアイプラザ
2089
ポーアイプラザ
2090
ポーアイプラザ
2091
ポーアイプラザ
2092
ポーアイプラザ
2093
ポーアイプラザ
2094
ポーアイプラザ
2095
ポーアイプラザ
2096
ポーアイプラザ
2097
ポーアイプラザ
2098
ポーアイプラザ
2099
ポーアイプラザ
2100
ポーアイプラザ
主要作品
●は、各建築賞受賞作品を表す。
★は、コンペ・プロポーザル当選作品を表す。
97年10月現在、設計または施工中のコンペ・プロポーザル当選作品
姫路赤十字病院
ホワイトドームプラザ
高知市民総合文化プラザ
八尾市老人保健施設
小野加東新庁舎
近畿地建大阪第5地方合同庁舎
東京都高齢者福祉・医療の複合施設
宝塚駅前(花のみち周辺)地区第二種市街地再開発事業
吉川町健康福祉総合センター
道平門学院小学校
播磨マリア修道会甲子園宿舎(修道院)
六甲アイランド5号上屋
西紀町営展設計・八木町営展設計
近畿地建共庫国道工事事務所庁舎
春日町庁舎
大阪市下水道科学館
宝塚市立看護専門学校
リファーム構尾
神戸・芦屋・西宮震災復旧設計
ミューゼ・レスポール
ひまわりドーム
城東やすらぎセンター
神戸市下水道ネットワーク調査

40年のあゆみ



代表取締役社長
岡本 行善



ごあいさつ

私たち昭和設計は、建築・都市・環境への取り組みを通じて社会に貢献することを目指し、1957年（昭和32年）に発足いたしました。以来、社会にかかわりの深いスペシャリスト集団として、創造性と先見性をもった個性豊かな人材の育成に努め、また各スタッフがのびのびと力を発揮できるように、「ホロン型」のフレキシブルな組織づくりを目指して活動してまいりました。

その当社もおかげをもちまして、本年創立40周年を迎えることができました。これもひとえにクライアントの皆様の深いご理解と、建築界はもとより関係各位のあたたかいご支援の賜ものと、心より感謝いたしております。

思いおこせば、戦後の復興期から高度成長期、第1次・第2次オイルショック、バブル期そしてその崩壊と、激動する昭和・平成の社会情勢の変化と、先の阪神・淡路大震災にみる未曾有の大災害にも遭遇し、建築界への幾多の試練を経験してまいりました。その間私たちは、住宅設計をはじめ、工場、倉庫、オフィス、ホテル、庁舎、医療・福祉施設、文化・スポーツ施設、環境施設、商業・アミューズメント施設を通じ、超高層や大空間など様々な新しい提案を実現させながら、常に創造性豊かなスペシャリスト集団として、信頼される組織づくりに努めてこられましたことは、誠に幸運であり、感慨深いものがございます。

私たちは、建築の原点を人と人とのかかわりと考え、私たちの創る建物は街のひとつの顔であるとも考えて、都市景観としての要素、デザイン、表情、ファッション性にも十分配慮しながらも、モノづくりの原点を見失うことなく、一件一件を大切に、建築としての価値の創造に努め、良質な社会資本としての「人間の空間」づくりを目指してまいりました。

さらに、地域社会とのかかわりについても、再開発事業を通して街づくりに積極的に参画し、行政との連携を保ちながら都市インフラの整備にも取り組み、専門家や市民の方々との心のかよう連携を得て、長期間におよぶエネルギーと体力を傾注しつつ、さまざまなプロジェクトに携わらせて頂きました。

特に最近のプロジェクトは、内容や質が多様化・高度化・国際化し、人と環境にやさしい思想も求められ、その実現にはプランニングから事業化・設計・監理まで、トータルに取り組むことが必須となっております。このような新しい時代のニーズに、私たちはスタッフの研鑽と組織の充実はもとより、さまざまな分野にわたる国内外の専門家とのパートナーシップの拡大、CAD・CG、各種データベースをはじめとする最新のハイテク・情報ツールの導入などにも以前から積極的に取り組み、クリエイティブな設計活動の展開に心がけてまいりました。

私たちは個人一人一人の能力が充分発揮できるフレキシブルな組織、「ホロン型」の組織づくりを目指しております。意匠・構造・設備といった個々の技術力が単に集まっただけの組織ではなく、総合化されたスペシャリスト集団を目標に努力してまいりました。つまり、私たち昭和設計は、個人の個性を伸ばし生かせる組織であり、個人の才能を育む環境としての、優れたインキュベータでありたいと考え、優秀な人材の育成を原点に、仕事を通じて社会に貢献できることが最善と信じてまいりました。

また、平成7年1月17日早朝、突如襲った大災害「阪神・淡路大震災」は、私たちにとって初めての大きな自然の災禍として、貴重な経験となりました。

震災直後、未だその被害予想もつきかねる中、地元各自治体の要請とクライアントの方々への安否を気遣う気持ちから、ただちに、公共施設、港湾施設、学校、オフィス、集合住宅、商業施設などを重点的に、広く被災地域の実態調査に全力を投入しました。

交通手段の途絶えた中、地元社員の総動員は勿論、徒歩で陸地から、船で海上から、また大学、行政、専門家の方々とチームを組むなどして、およそ半年をかけての調査でした。結果、被災地域の当社設計物件672件の被害損傷が極めて少ないことも判明し、関係者の皆様からはより大きな信頼を得ることもできたのでした。

クライアントへの対応は平時は勿論、非常時にこそ献身的な奉仕をすべきと、常日頃より心がけてまいりましたことが、この震災において社員一丸となって行動し復興に携わる千載一遇の機会を得て実現できましたことに、私たちは感謝いたしております。

21世紀を目前に、いま、社会全体が変貌をとげようとしています。私たちは、この時代の大きな変わり目こそが、当社の新たな飛躍の時であると考えております。未来をしっかりと見つめ「人間の空間」づくりをさらに推進してゆく昭和設計に、今後もどうかご期待いただきますようお願い申し上げます。

この記念冊子は、スペシャリスト集団としての昭和設計の「今」の一端を表現しようと、各部門が集まり編集いたしたものでございます。当社の個性と創造性が多少なりともお伝えできれば幸いかと存じます。

最後になりましたが、これからもより一層のご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

SHOWA SEKKEI

株式会社 昭和設計
SHOWA SEKKEI, INC.

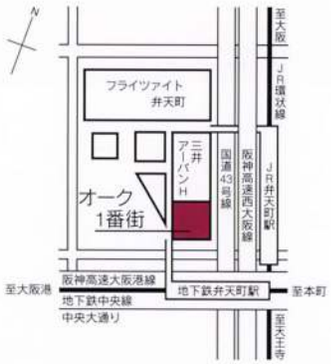
本社　552-0007 大阪市港区弁天1-2-1-800 オーク1番街（受付8階）　TEL 06-575-5555（代表）
東京　160-0015 東京都新宿区大京町23-3 四谷オーキッドビル4F　TEL 03-3357-8631
神戸　650-0024 神戸市中央区海岸通り6番地 建隆ビル302号　TEL 078-331-4568
広島　730-0015 広島市中区橋本町4-7　TEL 082-222-3760
九州　862-0954 熊本市神水1-25-11 北窪ビル5F A-1室　TEL 096-384-8045

本社　電話・ファクシミリ各部直通番号および位置図
大阪　06-575-

部署名	TEL	FAX
代表	5555	5556
総務部		
企画営業部	5550	
企画・設計部		
設計第1室	5501	5500
設計第2室	5502	
設計第3室	5503	
設計第4室	5504	
設計第5室	5505	
設計第6室	5506	
設計第7室	5507	
技術室	5511	
デザイン室	5512	
ハウジングデザイン室	5513	
プレゼンテーション室	5514	
環境設計部	5515	
都市計画部	5516	
構造設計部	5517	5518

部署名	TEL	FAX
設備部	5520	5519
設計第1室	5521	
設計第2室	5522	
設計第3室	5523	
設計第4室	5524	
設計第5室	5525	
コスト管理部	5530	5531
監理部	5532	5533
水工営業室	5540	5543
水工設計部	5541	
水工機電部	5542	
情報システム室	5551	5553
情報サービス部	5552	

ホームページ
URL http://www.showa-sekkei.co.jp



写真撮影

松村芳治	稲住泰広
エスエス大阪	島修一
京阪神航空写真	荒木義久
アンコール	イセヤ
エイ・エム・エス	エスエス北陸
柄松稔	桑原英文
河野豊	伸和
名執一雄	新津写真
フォトアクティブ	フォト・ビューロー
フジタ写真工房	山田誠良

写真提供
石井幹子デザイン事務所
INAX
神戸市建設局垂水事務所水環境センター
城陽市民余暇活動センター

デザイン・レイアウト
CID研究所

昭和設計創立40周年記念誌編集委員会
委員長：大西　晃
委　員：大木研一
大谷邦夫
佐々木栄
田中三郎
西川純一
野畑欣市
松田善弘
和田譲二
事務局：情報サービス部
（西川純一、斉藤治久、津村佳枝、中川慈、久慈環、道家幸子）

本記念誌発行にあたり、社団法人日本建築協会をはじめ関係各位のご協力をいただきましたことを、心より感謝申し上げます。
1997年10月10日

施工会社一覧

神戸ファッションプラザ
大成建設

文化パルク城陽
大成・住友・ツバサ・堀井JV

京都市女性総合センター「ウィングス京都」・中京青年の家
清水・要JV（建築）
東光・大栄・関西JV（電気）
川崎・扶桑JV（空調・衛生）

青木・平通両画伯記念館「ミューゼ・レスポアール」
道田工務店

熊取町立総合体育館「ひまわりドーム」
日本国土開発

大阪府立門真スポーツセンター「なみはやドーム」
竹中・鴻池・淺沼・住友・東海JV（建築）
ヨーコン、太洋組（杭）
きんでん・近畿工業・キンコーJV（電気）
須賀・トーヨコ理研・ナミレイ・増田JV（空調・衛生）
松下電工（大型映像）
シンドラーエレベーター（昇降機）

長居陸上競技場
竹中・フジタ・鴻池JV（建築）
中電工・野里JV（電気1）
住友・クリハラントJV（電気2）
三晃・日立冷熱JV（空調）
須賀・浦安JV（衛生）
大阪ガス（ガス）
東芝（昇降機）
松下電工（電光表示盤）
東芝ライテック（大型映像）
日本無線（音響）
クリエイティブ阪急（フィールド芝）
奥アンツーカ（トラック舗装）
三和通信工業（電話）

島本町ふれあいセンター
青木建設（建築・電気・空調・衛生）
村田設備工業所（給排水）

三田市総合福祉保健センター
大林組（建築）
きんでん（電気）
須賀工業（空調・衛生）
三菱電機（昇降機）

宝塚市立病院・宝塚市立看護専門学校・宝塚市立老人保健施設「ステップハウス宝塚」
奥村・鴻池JV
奥村組
フジテック（昇降機）

城東やすらぎセンター（十全病院・医王ヶ丘病院・老人保健施設「ピカソ」）
佐藤・間・大林JV

六甲アイランドシティイーストコート9番街・特別養護老人ホーム「協同の苑六甲アイランド」
日本国土開発（建築）
明和工務店・三ツ星電機・早水電機工業JV（電気）
中央工業（空調）
山本工業所・三神工業・中央工業JV（衛生）

兵庫県警察本部庁舎
鹿島・竹中・奥村・明和・神崎JV（建築）
川崎重工業（鉄骨）
きんでん・栗原工業・尼崎電機JV（電気）
新菱冷熱工業・須賀工業・三神工業JV（空調）
第一工業・新和商会JV（衛生）
大阪ガス（ガス）
日本オーチス・エレベータ（昇降機）
三菱電機（特高）
ヤンマーディーゼル（自家発電）

春日町庁舎
奥村組

（仮称）ホワイトドームプラザ
清水建設

ホテルノルド小樽
鹿島・三井・住友・新日鉄・小松JV

ジャンボオーナーズ淡路島
鴻池組

A・SQUARE
清水・錢高・住友JV

森長組神戸支店
森長組

SŌRA新大阪21
フジタ・錢高・長谷工JV

運輸省海技大学校本館
五洋建設（建築）
東邦電気工業（電気）
東洋空調（空調・衛生）
ダイコー（昇降機）

神戸市立中央小学校
益田・湊東・奥野JV（建築）
湊電気（電気）
明和・恒菱・神戸設備JV（空調・衛生）
大阪ガス（ガス）
サンセイ輸送機（昇降機）

エスタシオン・デ・神戸
竹中・大林・鹿島JV

UNEP国際環境技術センター
清水建設（建築）
住友電設（電気）
ナミレイ（空調・衛生）
大阪ガス（ガス）
日本オーチス・エレベータ（昇降機）

神戸市立西神斎場
関建・今津・宮田JV（建築）
小田・東洋・野田・東栄電気JV（電気）
明和・恒菱・神戸設備JV（空調・衛生）
神港農園芸（造園）
宮本工業所（火葬炉）

奥平野浄水場管理事務所・工事事務所
奥村組（建築）
甲南電設工業（電気）
長村商会（空調・衛生）
大阪ガス（ガス）

豊中市・伊丹市クリーンランド余熱利用施設「クリーンスポーツランド」
錢高組（建築）
三宝電機（電気）
須賀工業（空調）
伊丹産業（衛生）
三菱電機（昇降機）

堺市クリーンセンター東工場　第二清掃工場・管理棟
クボタ、大末建設

大阪市下水道科学館
ハンシン建設（建築）
北陸電気工事（電気）
協和建設工業（空調）
精研（衛生）
日本エレベーター製造（昇降機）

宝塚駅前（花のみち周辺）地区第二種市街地再開発事業
大林・東急JV（7街区）
安藤・大末JV（8街区）

阿倍野A1－1棟（阿倍野A1地区第二種市街地再開発事業施設建築物）
竹中・熊谷・松村JV（建築）
きんでん・千歳・近工JV（電気1）
九電工・四電工・三宝JV（電気2）
大気・大成・ダイキンJV（空調1）
新菱・精研・三冷JV（空調2）
ダイダン・トーヨコ・経塚JV（衛生）
大阪ガス（ガス）
東芝（昇降機）
日立製作所（エスカレーター）
新明和工業（ゴミドラム）
昭和起重機（立体駐車場）
栗田工業（噴水）

ビフレ　SHIN－NAGATA（新長田駅前地区第一種市街地再開発事業施設建築物）
竹中・住友・大日本土木JV（建築）
きんでん・新生テクノスJV（電気）
大和・長田松田・中村JV（衛生）
大阪ガス（ガス）
東芝（昇降機）

ポルタス堺（堺駅西口地区第一種市街地再開発事業施設建築物）
竹中・鹿島・新井・鴻池・錢高・西松JV

しんかなCITY（新金岡地区再整備計画）
熊谷・大林・南海JV

丹後町古代の里資料館（てんきてんき村まちおこし計画）
藤山工務店（建築・衛生）
藤村電業（電気・空調）

クアガーデン武蔵の里（岡山県大原町まちづくり計画）
住友建設・まつもとコーポレーションJV

OBAYASHI

あしたのものがたり



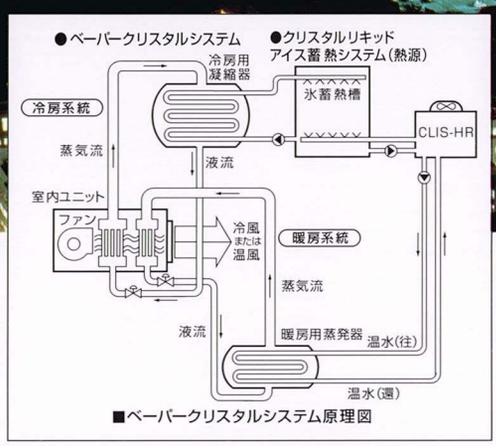
出会いは、
人をゆたかに変えてくれます。
ひとりひとりの夢は、語られ、共有されて
あしたのたしかなかたちになっていきます。
たてものは、人と未来が
出会う場所なのです。

株式会社 大林組

東京本社／東京都千代田区神田司町2-3 〒101 ☎03-3292-1111 神戸支店／神戸市中央区西町35 〒650 ☎078-332-6401［電話番号案内］

TAKENAKA
CORPORATION

ビルのエネルギー源は、今や、夜つくられる氷です。



■ペーパークリスタルシステム原理図

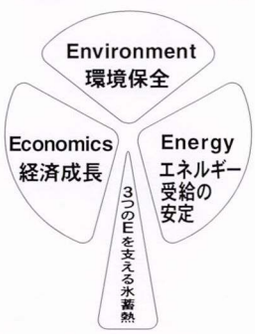
■省エネ、地球環境の保全に貢献。

ビルにとって最大のエネルギー消費である空調が、続々と「氷蓄熱空調システム」に変わりつつあります。世界的な潮流ともなりつつあるこのシステムは、安価な深夜電力で氷をつくって蓄熱し、その氷で昼間の空調をまかなうもの。電力のピークシフト、エネルギー資源の有効活用、地球温暖化の防止といった社会的課題の克服に大きく貢献します。同時に税制上の優遇措置、低利融資、イニシャルとランニングコストの低減など、ビルや工場のオーナーにとっても、数々の導入のメリットがあります。

■すでに、127件の稼働実績。

竹中工務店は、10年前から「氷蓄熱空調システム」の開発と改良に取り組み、すでに127件の稼働実績を数えています。その間、氷蓄熱部分では、製氷部と蓄氷部を分離した「ダイナミック型」を実用化。また空調システム部分では冷媒を自然循環させる「ペーパークリスタルシステム」を開発。これらの先進性によって、大幅な省エネ化と快適な個別分散型の空調が実現しました。エネルギー事情の改善と地球環境の保全に貢献するこのシステム――その普及に竹中工務店は全力を傾注します。

竹中の氷蓄熱空調システム



創業1610年
竹中工務店

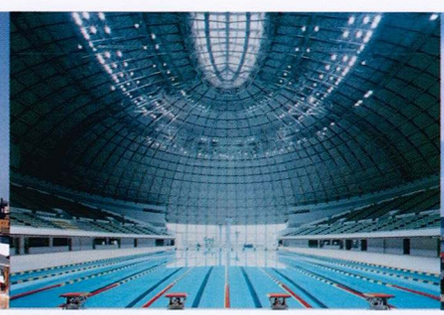
お問い合わせは――総本店広報へ
〒541　大阪市中央区本町4丁目1-13　Tel.06（252）1201
〒104　東京都中央区銀座8丁目21-1　Tel.03（3542）7100
［WWW Home page］http://www.takenaka.co.jp/

音を生む。
音を遮る。
どちらも私たちの技術です。

ハイクオリティな音を生み出す音響システム。音をシャットアウトして静かな空間をつくる技術力。私たちは「音」と「人」の素敵で快適な関係をプロデュースしています。これからも、高度な技術と多くの実績を活かして、よりよい「音」環境をご提案してまいります。音の環境クリエイター。——日本板硝子環境アメニティ株式会社。

遮音・吸音・シールド・音響設計・施工・測定・コンサルティング・防音建材の販売・OA床・防水


大阪ドーム


なみはやドーム


フジテレビ本社ビル

NEA 日本板硝子環境アメニティ株式会社

本　　社　〒105　東京都港区芝1-11-11　住友不動産芝ビル　TEL.03-5443-0201
大阪支社　〒531　大阪市北区大淀中1-1-90-300　梅田スカイビル　ガーデンファイブ　TEL.06-440-3865
名古屋出張所　〒450　名古屋市中村区名駅南2-14-19　住友生命名古屋ビル日本板硝子内　TEL.052-581-2760
福岡出張所　〒812　福岡市博多区博多駅前3-2-8　住友生命博多ビル　日本板硝子内　TEL.092-451-5603
竜ヶ崎研究所　〒301　茨城県竜ヶ崎市向陽台4-5　TEL.0297-62-5446

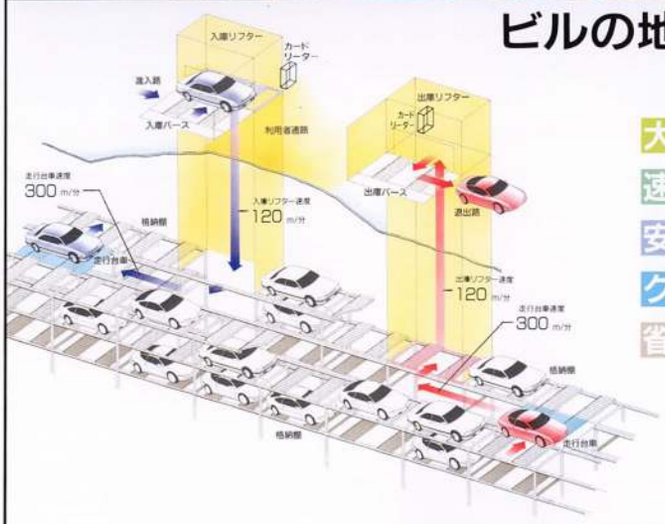
三菱重工

次世代への都市づくりに貢献。大規模・ハイテク駐車設備。

インテグレーテッド パーキング システム

IPS
INTEGRATED PARKING SYSTEM





ビルの地下・屋上、公園や道路の地下などの都市空間を、フレキシブルに活用。

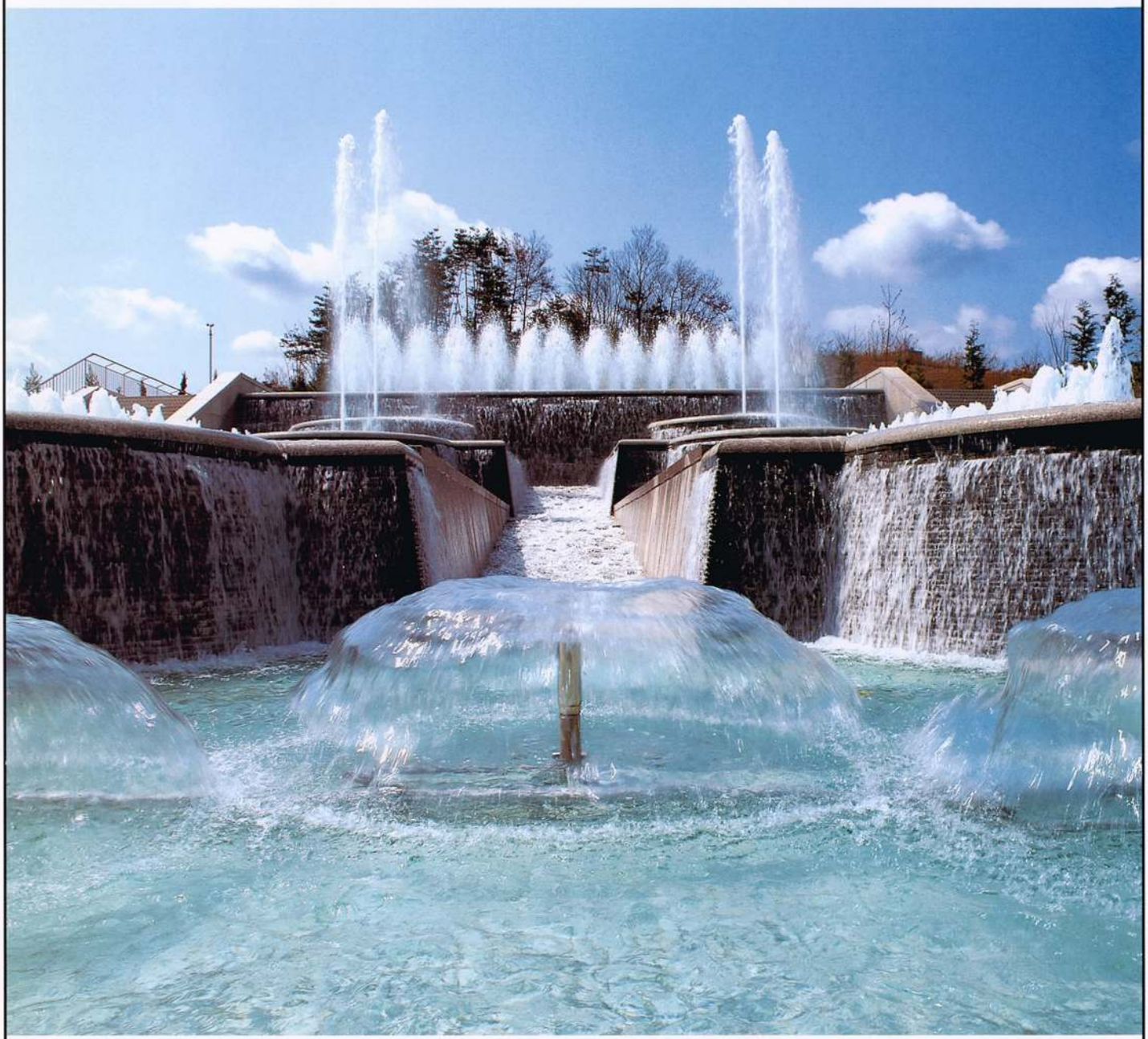
- 大規模 —— 100台規模から数千台の大量駐車を実現。
- 速い —— スピード処理。連続入出庫。約38秒。（従来の機械式駐車装置のほぼ3分の1）
- 安全・快適 —— 人と車が全く交差せず、初心者にもやさしい安全・快適設計。
- クリーン —— 排気ガスを出さないのでクリーン。
- 省スペース —— 高効率駐車。自走式に比べ、1台当りの専有面積は3分の1。

三菱立体駐車場

三菱重工業株式会社
本　　社　パーキングシステム部　東京都千代田区丸の内2-5-1 〒100 ☎(03)3212-9157～61
関西支社　立体駐車場課　大阪市北区中之島2-2-2(ニチメンビル) 〒530 ☎(06)201-0413～4
支　　社　中部(052)562-2163／九州(092)441-3866／北海道(011)261-1544／中国(082)248-5185／東北(022)264-1815／北陸(0764)32-8089／四国(0878)34-5157
営 業 所　新潟(025)241-6020／静岡(054)251-1211／長崎(095)827-4057／南九州(099)258-2167／沖縄(098)866-1226／道東(0155)21-8410／岡山(086)232-7011
青森(0177)75-8745／福島(0249)34-0551／金沢(076)231-6339

RISUI

水と環境の調和を考える
理水化学



営業品目

- ●プール水循環装置ならびにプール建設工事の設計施工
- ●上水道施設・工業用水処理施設の設計施工
- ●理水式噴水装置・滝・人工岩設備の設計施工
- ●その他、水処理施設の設計施工

水と共生する
理水化学株式会社

本　社　〒530　大阪市北区南森町1-4-10　理水ビル
TEL(06)365-0691　FAX(06)365-0632
営業所　仙　台(022)227-6388・東　京(03)3234-5731
名古屋(052)452-2181・大　阪(06) 362 -6526
広　島(082)262-0018・九　州(092)531-8935
南九州(099)251-5464
出張所　盛　岡(019)636-1562・山　陰(0852)25-0726

特集
昭和設計 40周年

協賛

建設業

株式会社青木建設大阪本店　大阪市北区大淀中1-1-30-1600 梅田スカイビルタワーウエスト16F　TEL06-440-5851

株式会社淺沼組　大阪市天王寺区東高津町12-6　TEL06-768-5222

株式会社新井組　兵庫県西宮市池田町12-20　TEL0798-26-3111

安藤建設株式会社大阪支店　大阪市福島区福島6-3-21　TEL06-453-2190

株式会社イチケン　神戸市中央区浜辺通2-1-30　TEL078-252-2111

今津建設株式会社　神戸市兵庫区吉田町2-27-10　TEL078-671-3632

株式会社大林組神戸支店　神戸市中央区西町35　TEL078-332-6401

株式会社奥村組関西支社　大阪市阿倍野区松崎町2-2-2　TEL06-621-1101

鹿島建設株式会社関西支店　大阪市西区阿波座1-3-15　TEL06-536-3311

関西建設工業株式会社　神戸市西区大津和1-6-2　TEL078-974-1441

株式会社熊谷組大阪支店　大阪市都島区片町2-10-5　TEL06-352-1151

株式会社鴻池組　大阪市中央区北久宝寺町3-6-1　TEL06-244-3500

五洋建設株式会社大阪支店　大阪市北区梅田2-5-25 ハービス OSAKA17F　TEL06-345-0631

清水建設株式会社大阪支店　大阪市中央区本町3-5-7　TEL06-263-2800

住友建設株式会社大阪支店　大阪市中央区北浜4-7-28　TEL06-220-8712

株式会社錢高組　大阪市西区西本町2-2-11 なにわ筋ツインズウエスト　TEL06-531-6431

大成建設株式会社神戸支店　神戸市中央区御幸通3-1-5　TEL078-221-8543

大末建設株式会社　大阪市福島区福島6-8-10　TEL06-456-3758

大日本土木株式会社大阪支店　大阪市北区堂島2-2-2　TEL06-341-5211

株式会社竹中工務店大阪本店　大阪市中央区本町4-1-13　TEL06-252-1201

東洋建設株式会社　大阪市中央区高麗橋4-1-1　TEL06-209-8711

南海辰村建設株式会社　大阪市浪速区難波中3-5-19　TEL06-644-7802

日本国土開発株式会社大阪支店　大阪市西区西本町1-10-10　TEL06-538-7351

株式会社ハンシン建設　大阪市北区梅田2-3-19　TEL06-347-6536

株式会社フジタ大阪支店　大阪市北区堂島2-1-16　TEL06-348-4510

株式会社藤木工務店　大阪市中央区常盤町1-3-3　TEL06-966-0440

株式会社まつもとコーポレーション　岡山市絵図町1-40　TEL086-253-2111

前田建設工業株式会社大阪支店　大阪市西区江戸堀1-3-15　TEL06-446-9511

株式会社松村組　大阪市北区東天満1-10-20　TEL06-353-1131

株式会社宮田組　神戸市兵庫区荒田町1-1-11　TEL078-511-5025

株式会社森長組　兵庫県三原郡南淡町賀集823　TEL0799-54-0721

空調・衛生・電気・各種工事業・建材・設備メーカー・その他

アーキヤマデ株式会社　大阪府吹田市江の木町24-10　TEL06-385-8545

アイホン株式会社大阪支店　大阪府東大阪市長田東5-18-2　TEL06-746-1811

株式会社アトラス　大阪市天王寺区東高津町11-9 日生上本町ビル7F　TEL06-385-1261

朝日スチール工業株式会社大阪支店　大阪市中央区本町4-1-7 第二有楽ビル　TEL06-261-3555

旭硝子株式会社　大阪市北区芝田1-1-4　TEL06-373-5811

旭硝子建材株式会社関西支社　大阪市西区立売堀1-3-13 第三富士ビル9F　TEL06-538-0521

旭電化工業株式会社　大阪市中央区南本町4-2-21　TEL06-245-2141

特集
昭和設計 40周年

協賛

浅海電気株式会社　大阪市北区西天満3-7-4　TEL06-362-8701

株式会社イーエス　大阪市中央区谷町3-5-5　TEL06-910-6000

株式会社イーブイアイオーディオジャパン　東京都杉並区和泉2-5-60　TEL03-3325-7900

株式会社イケモク　兵庫県姫路市飾磨区英賀東町1-4　TEL0792-36-5655

株式会社 INAX　大阪市西区新町1-34-15 大阪グレンチェックビル　TEL06-539-3516

石川島播磨重工業株式会社関西支社　大阪市中央区本町4-2-12 東芝大阪ビル　TEL06-281-2077

株式会社石垣大阪支店　大阪市淀川区宮原3-3-31 上村ニッセイビル　TEL06-350-0021

伊丹産業設備株式会社　兵庫県伊丹市北本町2-255　TEL0727-77-0001

株式会社稲治造園工務所　大阪府箕面市新稲2-3-2　TEL0727-23-0003

宇部コンクリート工業株式会社　大阪府堺市石津西町15-2　TEL0722-41-5252

宇部興産株式会社大阪支店　大阪市北区曽根崎新地2-2-16 桜橋東洋ビル8F　TEL06-346-1363

株式会社エービーシー商会　大阪市中央区大手前1-7-31 OMM ビル8F　TEL06-944-4900

エコー産業株式会社　大阪府吹田市南金田1-4-31　TEL06-368-6520

株式会社荏原製作所大阪支社　大阪市北区中之島2-3-18 新朝日ビル　TEL06-227-6611

株式会社遠藤照明　大阪市西区西本町1-2-17　TEL06-533-9180

オーエム工業株式会社　大阪市住之江区北加賀屋3-3-44　TEL06-685-0681

オリエンタル建設株式会社　大阪市北区芝田2-7-18 全日空ビル新館　TEL06-372-0104

大阪タキストロン株式会社　大阪府吹田市垂水町3-17-25 第1福徳ビル6F　TEL06-330-0404

大阪ニチマン商事株式会社　大阪市城東区関目1-21-11　TEL06-939-3521

大阪日本調理機株式会社　大阪府豊中市走井2-9-2　TEL06-853-4901

大阪避雷針工業株式会社　大阪市北区本庄西2-15-14　TEL06-372-6751

大島応用化学工業株式会社　大阪市旭区太子橋1-15-22　TEL06-954-6521

鳳工業株式会社　大阪市北区堂島2-3-23　TEL06-344-4788

株式会社岡村製作所関西支社　大阪市中央区南船場4-1-9 南船場第一東洋ビル　TEL06-282-4061

株式会社小野田関西支社　大阪市淀川区西中島6-1-1　TEL06-886-0180

株式会社カッシーナジャパン　大阪市中央区高麗橋4-8-10 スミトー横堀ビル　TEL06-222-5048

ガムスター株式会社　大阪府岸和田市まゆ町126　TEL0724-44-9021

株式会社かわでん　兵庫県川西市美園町1-2　TEL0727-58-5386

川崎重工業株式会社　大阪市北区堂島浜2-1-29　TEL06-348-8271

川崎重工業株式会社　神戸市中央区東川崎町1-1-3 神戸クリスタルタワー　TEL078-360-8612

川崎製鉄株式会社橋梁鉄構事業部　大阪市北区芝田1-1-4 阪急ターミナルビル　TEL06-315-4652

川崎設備工業株式会社大阪支店　大阪市都島区中野町4-3-9　TEL06-352-5371

株式会社川島織物販売　大阪府吹田市広芝町8-26 カワシマ江坂ビル　TEL06-369-6240

川重商事株式会社大阪支店　大阪市北区堂島浜1-2-6　TEL06-344-6651

川鉄アルミニウム工業株式会社　大阪市西区靱本町1-15-1 ディバージョンパークビル　TEL06-443-4040

株式会社鎌倉製作所大阪営業所　大阪市中央区谷町9-4-5 新谷九ビル　TEL06-768-0345

亀井鐵工有限会社　兵庫県西脇市和布町85　TEL0795-22-0101

瓦寅工業株式会社　大阪市生野区林寺1-5-14　TEL06-715-0201

株式会社川本製作所　大阪市東淀川区端光3-8-20　TEL06-328-0877

関西ペイント株式会社　大阪市中央区伏見町4-3-6　TEL06-203-5012

関西松下システム株式会社　大阪市北区天神橋1-5-7　TEL06-356-9570

元旦ビューティー工業株式会社　大阪市中央区北浜4-1-1 石原ビル　TEL06-223-1841

特集
昭和設計 40周年

協賛

株式会社きんでん　大阪市北区本庄東2-3-41　TEL06-375-6000

株式会社九電工大阪支店　大阪市北区豊崎5-6-2 北梅田大宮ビル　TEL06-374-6480

経塚工業株式会社大阪支店　大阪市北区天神橋3-10-8-104 与力町スカイハイツ　TEL06-353-3782

近畿工業株式会社　大阪市中央区谷町2-9-3 近鉄大手前ビル　TEL06-943-4975

株式会社クボタ上下水プラント事業部　大阪市浪速区敷津東1-2-47　TEL06-648-3561

空研工業株式会社大阪支店　大阪市淀川区西中島3-9-12　TEL06-302-5541

栗原工業株式会社　大阪市北区角田町1-1　TEL06-313-1101

株式会社栗本鐵工所　大阪市西区北堀江1-12-19　TEL06-538-7661

ケージーパルテック株式会社　大阪府八尾市北木の本1-51　TEL0729-23-1311

音響コンサルタント
株式会社建築環境技研　神戸市中央区布引町2-1-12　TEL078-271-7341

コクヨ株式会社　大阪市東成区大今里南6-1-1　TEL06-972-9564

コマニー株式会社関西市場開発部　大阪府東大阪市長田東1-68　TEL06-789-9861

小泉産業株式会社　大阪市中央区備後町3-3-7　TEL06-266-4815

小松ウォール工業株式会社　大阪市中央区西心斎橋1-1-13 東邦ビル3F　TEL06-241-8416

株式会社神戸製鋼所　大阪市中央区備後町4-1-3 御堂筋三井ビル　TEL06-206-6111

株式会社神戸製鋼所都市環境本部　大阪市中央区備後町4-1-3 御堂筋三井ビル　TEL06-206-6745

神戸不燃板工業株式会社　兵庫県三木市志染町三津田431　TEL0794-87-3121

甲南電設工業株式会社　神戸市兵庫区芦原通1-2-12　TEL078-651-4040

株式会社サンクレア　東京都中央区新川1-5-17 新川Mビル3F　TEL03-5543-1820

株式会社サンポール　広島市中区南吉島2-4-5　TEL082-244-4655

株式会社最北精密　山形県新庄市金沢1125　TEL0233-22-1931

佐渡島金属株式会社　大阪市中央区島之内1-16-19　TEL06-244-5623

三機工業株式会社大阪支店　大阪市中央区北浜2-2-21　TEL06-202-3071

三基ルーバ株式会社大阪支店　大阪市中央区北久宝寺町4-4-2 フットワーク住友生命ビル　TEL06-245-5140

三協アルミニウム工業株式会社　大阪市西区靱本町1-9-15 近畿富山会館ビル6F　TEL06-448-5456

三強設備株式会社　大阪市西区立売堀6-1-12　TEL06-541-6555

三晃金属工業株式会社　大阪市中央区北浜4-1-21　TEL06-231-8571

株式会社三晃空調　大阪市中央区城見2-1-61 ツイン21 MIDタワー11F　TEL06-949-1371

三精輸送機株式会社　大阪府吹田市江坂町1-13-18　TEL06-385-5621

三宝電機株式会社　大阪市北区西天満2-6-8 堂ビル　TEL06-364-1471

三洋電機株式会社　大阪府吹田市江坂町1-16-17　TEL06-339-5778

株式会社三冷社関西支社　大阪市西区京町堀2-9-8　TEL06-446-0901

三和シャッター工業株式会社　大阪市淀川区宮原4-4-50　TEL06-396-6871

株式会社山陽瓦　岡山県倉敷市中島2360-20　TEL086-465-1988

シポレックス西部販売株式会社　大阪市中央区本町3-2-6 日住金本町ビル　TEL06-243-7251

シンコールウォール株式会社　大阪府東大阪市長田東3-54　TEL06-747-5345

紫光通信工業株式会社　石川県金沢市進和町10　TEL076-291-6800

新熊取谷石材株式会社　滋賀県甲賀郡甲西町大字朝国91　TEL0748-72-0253

株式会社新都心クリエーション　東京都新宿区新宿6-26-4　TEL03-3209-5701

新日本製鐵株式会社大阪支店　大阪市北区中之島3-2-4　TEL06-223-6321

新明和工業株式会社 産機システム関西支店 パーキングシステム営業部　大阪市淀川区宮原3-5-24 新大阪第一生命ビル7F　TEL06-399-0080

神鋼電機株式会社　大阪市中央区北浜2-6-26　TEL06-203-2240

特集
昭和設計 40周年

協賛

神鋼パンテック株式会社　神戸市中央区脇浜町1-4-78　TEL078-232-8090

神東塗料株式会社　兵庫県尼崎市南塚口町6-10-73　TEL06-429-6262

須賀工業株式会社　大阪市西区土佐堀1-2-30　TEL06-441-5171

鈴木シャッター工業株式会社　大阪市旭区新森1-7-47　TEL06-956-6221

住友金属工業株式会社　大阪市中央区北浜4-5-33　TEL06-220-5607

住友重機械工業株式会社　大阪市中央区北浜4-5-33　TEL06-223-7240

住友電設株式会社　大阪市西区阿波座2-1-4　TEL06-537-3400

住友林業緑化株式会社　大阪市中央区南船場3-4-26　TEL06-258-5802

株式会社セイコーシー・エス・ティー　東京都台東区東上野1-28-9　TEL03-5818-4950

セコム株式会社新築営業部　大阪市中央区高麗橋3-5-12　TEL06-205-7437

株式会社西部技研大阪営業所　大阪市淀川区西中島3-7-13新大阪サクセスビル EAST702号　TEL06-305-9251

関ヶ原石材株式会社大阪支店　大阪市都島区都島本通4-20-26　TEL06-922-7661

積水化学工業株式会社　大阪市北区西天満2-4-4　TEL06-365-4522

株式会社ソナール　京都市右京区西京極畔勝町30　TEL075-322-4866

タキロン株式会社　大阪市中央区安土町2-3-13 大阪国際ビル　TEL06-267-2845

株式会社タジマ　大阪市西区京町堀1-10-5　TEL06-441-5951

ダイダン株式会社　大阪市西区江戸堀1-9-25　TEL06-441-8231

株式会社ダイワ大阪支店　大阪市西区立売堀1-3-13 第3富士ビル7F　TEL06-539-0200

株式会社大気社　大阪市北区中之島3-2-18 住友中之島ビル　TEL06-448-5851

大洋基礎株式会社　大阪市中央区北久宝寺町2-1-10 船場吉兆ビル　TEL06-267-5311

太洋組株式会社　大阪市北区梅田2-2-25 新阪神ビル　TEL06-344-2791

太陽工業株式会社空間建築事業部　大阪市淀川区木川東4-8-4　TEL06-306-3071

太陽セメント工業株式会社　大阪市福島区吉野4-22-9　TEL06-466-6751

大同塗料株式会社　大阪市淀川区三津屋北2-14-18　TEL06-308-6281

立山アルミニウム工業株式会社　大阪府守口市菊水通4-13-11　TEL06-994-8633

玉置産業株式会社　大阪市東住吉区湯里5-15-4　TEL06-700-5825

千歳電気工業株式会社関西支社　大阪市北区本庄西2-21-4　TEL06-372-7332

ツルガスパンクリート株式会社　大阪市北区茶屋町18-21 豊崎ビル　TEL06-374-1245

月島機械株式会社大阪支社　大阪市中央区高麗橋3-5-12　TEL06-229-1331

株式会社電業社機械製作所　大阪市中央区本町4-2-5　TEL06-251-2561

株式会社トウペ　大阪府堺市築港新町1-5-11　TEL0722-43-6411

トステム株式会社関西支店　大阪市淀川区西中島3-10-11　TEL06-390-5111

株式会社トップコン　神戸市西区玉津町今津443　TEL078-912-4316

ＴＯＡ株式会社　大阪市北区天神橋2-5-25　TEL06-358-1141

株式会社東芝関西支社　大阪市住之江区南港北1-14-16　TEL06-615-6163

株式会社東芝関西支社公共システム営業部　大阪市北区大淀中1-1-30 梅田スカイビルタワーウエスト　TEL06-440-2146

東陶機器株式会社　大阪市北区曽根崎2-3-7　TEL06-364-1624

東テク株式会社大阪支店　大阪市中央区平野町3-5-12　TEL06-203-4871

東洋シヤッター株式会社　大阪市中央区南新町1-2-10 TS ビル　TEL06-943-6571

東洋熱工業株式会社　大阪市西区靱本町3-1-27　TEL06-443-8071

東リ株式会社　大阪市中央区大手前1-7-31 OMM ビル　TEL06-943-1645

株式会社東和エンジニアリング　大阪市中央区城見2-1-61 TWIN21MID タワー14F　TEL06-949-1300

特集
昭和設計 40周年

協賛

巴工業株式会社大阪支店　大阪市北区堂島2-4-27 新藤田ビル　TEL06-457-2890

ナカ工業株式会社　大阪市淀川区田川3-9-36　TEL06-886-8961

ナブコドア株式会社　大阪市西区西本町1-13-8　TEL06-532-7341

ナミレイ株式会社　大阪市北区中之島3-2-4 朝日ビル　TEL06-202-7171

内外建材株式会社　大阪市城東区天王田12-21　TEL06-962-1149

株式会社内外テクノス　大阪府大東市谷川2-7-1　TEL0720-72-2161

中日本旭化成建材株式会社　大阪市北区堂島浜1-2-6 新ダイビル　TEL06-347-3847

ニチアス株式会社大阪支社　大阪市中央区南船場4-11-10　TEL06-252-1301

ニチコン株式会社大阪支店　大阪市北区菅原町3-2　TEL06-362-6421

株式会社ニチベイ　大阪市中央区北浜東1-8 北浜東森田ビル7F　TEL06-949-2806

株式会社新高製作所　大阪市東成区大今里南1-16-8　TEL06-971-1577

西日本三星シングル工事協同組合　大阪市西区京町堀1-10-5　TEL06-443-0431

日光化成株式会社　大阪市北区大淀北1-6-41　TEL06-458-5511

日新工業株式会社　大阪市西区新町1-12-22　TEL06-533-3191

日新電機株式会社関西支社　大阪市北区堂島浜1-2-6新ダイビル　TEL06-344-7323

日精株式会社　大阪市中央区本町4-4-24　TEL06-244-9401

日本板硝子環境アメニティ株式会社　大阪市北区大淀中1-1-90-300 梅田スカイビルガーデンファイブ　TEL06-440-3865

日本オーチス・エレベータ株式会社近畿支店　大阪市中央区城見2-1-61 ツイン21MIDタワー10F　TEL06-949-1331

日本碍子株式会社　大阪市中央区備後町4-1-3 御堂筋三井ビル11F　TEL06-206-5909

日本金属工業株式会社大阪支店　大阪市中央区南本町4-2-21 イヨビル7F　TEL06-251-5358

日本橋梁株式会社　大阪市港区福崎2-1-30　TEL06-576-3445

日本建鐵株式会社大阪支店　大阪市北区天満橋1-8-30 OAPタワー　TEL06-357-1844

日本興業株式会社　大阪市淀川区西中島7-5-25 新大阪ドイビル8F　TEL06-303-4881

日本サイン株式会社　大阪市西区新町2-4-2　TEL06-533-1033

日本スピンドル製造株式会社　大阪市中央区備後町2-5-8 綿業会館　TEL06-203-0391

日本臓器製薬株式会社エンジニアリング事業部　大阪市中央区平野町2-1-2　TEL06-203-0441

日本通信小野特機株式会社　大阪市北区末広町1-22　TEL06-313-1355

日本電気硝子株式会社　大阪市淀川区宮原4-1-14　TEL06-399-2721

日本電設工業株式会社大阪支店　大阪市北区豊崎3-17-15　TEL06-372-3533

日本電池株式会社関西支店　大阪市北区梅田2-6-20 スノークリスタル13F　TEL06-344-1641

日本ドライブイット株式会社　大阪市西区九条1-27-6 住金興産ビル8F　TEL06-584-4181

日本バイリーン株式会社　大阪府豊中市新千里西町1-2-2 住友コンピュータービルディング5F　TEL06-836-1921

日本ピクター株式会社近畿システム支店　大阪市天王寺区小橋町10-16　TEL06-768-5441

日本フレクト株式会社　大阪市北区芝田1-4-8 北阪急ビル　TEL06-374-1355

株式会社日本防災　大阪市都島区東野田町1-7-4 脇田・住友生命京橋第2ビル3F　TEL06-358-9111

株式会社ノザワ　大阪市北区曽根崎新地1-3-16 京富ビル8F　TEL06-345-1031

日立機電工業株式会社西部支店　大阪市中央区瓦町3-4-8 アサヒビル　TEL06-203-2871

株式会社日立製作所関西支社　大阪市住之江区南港東8-3-45　TEL06-616-1111

日立プラント建設株式会社関西支店　大阪市中央区本町1-8-12　TEL06-266-1931

株式会社フジ大理石大阪支店　大阪府東大阪市新庄903-1　TEL0729-61-7788

株式会社フジマック大阪支店　大阪府吹田市江坂町2-2-6　TEL06-338-0710

フドウ建研株式会社大阪支店　大阪市中央区平野町4-2-16　TEL06-201-3737

特集
昭和設計 40周年

協賛

ブリヂストン建築用品西部株式会社　大阪市西区新町2-4-2　TEL06-534-1861

福西鋳物株式会社　大阪市西区南堀江4-25-17　TEL06-541-2924

富士化工株式会社　大阪市中央区北浜3-2-12　TEL06-209-4233

株式会社富士昭　大阪市中央区農人橋1-4-33　TEL06-910-0081

富士電機株式会社　大阪市福島区鷺洲1-11-19　TEL06-455-3825

増田工業株式会社　大阪市北区梅田1-11-4-900 大阪駅前第4ビル9F　TEL06-344-3341

松下電器産業株式会社　大阪市中央区城見2-1-61 ツイン21ナショナルタワー12F　TEL06-949-2268

松下電工株式会社　大阪市中央区城見2-1-3　TEL06-943-1630

丸善株式会社環境デザイン事業部　大阪市中央区博労町3-3-2　TEL06-251-2679

丸五基礎工業株式会社　大阪市北区東天満2-6-2　TEL06-358-3601

ミズノ株式会社　大阪市中央区北浜4-1-23　TEL06-223-7368

株式会社三越関西建装事業部　大阪市中央区高麗橋1-7-6　TEL06-203-4769

三ツ星ベルト株式会社大阪支店　大阪市大正区泉尾6-5-1　TEL06-555-2550

三智工業株式会社　大阪府大東市御領2-1-47　TEL0720-72-4661

三菱化学株式会社　大阪市北区天満橋1-8-30 OAP タワー35F　TEL06-881-6048

三菱樹脂株式会社関西支社　大阪市北区天満橋1-8-30 OAP タワー27F　TEL06-881-6204

三菱重工業株式会社関西支社　大阪市北区中之島2-2-2 ニチメンビル6F　TEL06-201-0413

三菱電機株式会社関西支社　大阪市北区堂島2-2-2　TEL06-347-2076

美和ロック株式会社　大阪市城東区東中浜5-7-35　TEL06-962-5551

ムツミ産業株式会社　大阪市西区靱本町1-17-15　TEL06-441-0378

株式会社明電舎関西支社　大阪市中央区瓦町4-2-14 瓦町ビル　TEL06-203-5261

ヤマキ工業株式会社　大阪市西区江戸堀1-8-17 岡本ビル5F　TEL06-446-1431

ヤマギワ株式会社　大阪市浪速区日本橋3-4-9　TEL06-643-3211

ヤマハ発動機株式会社　大阪市西区北堀江3-6-13　TEL06-541-0605

ヤンマーディーゼル株式会社　大阪市北区茶屋町1-32　TEL06-376-6266

株式会社安川電機大阪支店　大阪市北区堂島2-4-27 新藤田ビル　TEL06-346-4540

矢橋大理石株式会社大阪支店　大阪市中央区高麗橋2-2-7 東栄ビル2F　TEL06-202-4905

山崎電機照明株式会社　神戸市中央区御幸通3-2-21　TEL078-232-0151

山城鉄工株式会社　京都府亀岡市薭田野町佐伯院ノ芝47　TEL0771-22-2133

山武ハネウエル株式会社大阪支店　大阪市北区天満橋1-8-30 OAP タワー　TEL06-881-3371

山田照明株式会社　大阪府東大阪市楠根2-2-6　TEL06-745-6811

株式会社ユニオン　大阪市西区南堀江2-13-22　TEL06-532-3188

ヨーコン株式会社　大阪市北区大淀中1-7-19　TEL06-458-5761

横河ジョンソンコントロールズ株式会社大阪支店　大阪府吹田市江坂町1-23-101　TEL06-368-7761

横河電機株式会社関西支社　大阪府吹田市江坂町1-23-101　TEL06-368-7112

株式会社四電工大阪本部　大阪市中央区南船場3-2-4　TEL06-261-3605

理水化学株式会社　大阪市北区南森町1-4-10　TEL06-362-6526

ルノン株式会社　大阪市中央区森之宮中央2-7-5 森之宮センタービル5F　TEL06-941-8478

YKKアーキテクチュラルプロダクツ株式会社　大阪市中央区谷町4-8-7　TEL06-942-6138



“安心”の上に暮らす。

我が家に帰ると、ほっとする。それは住まいが
雨、風、暑さ、寒さから私たちをまもってくれるばかりでなく、
そこが家族や愛着のあるモノに囲まれた安心できる空間だからこそ。
カジマの免震ハウジングは文字どおり地震の揺れを大幅に低減し、
家具の転倒などの二次災害にも効果を発揮。
地震から建物の安全はもちろんのこと、
住む人の暮らしをしっかりまもります。

快適環境創造企業
鹿島
KAJIMA CORPORATION
本社：〒107 東京都港区元赤坂1-2-7



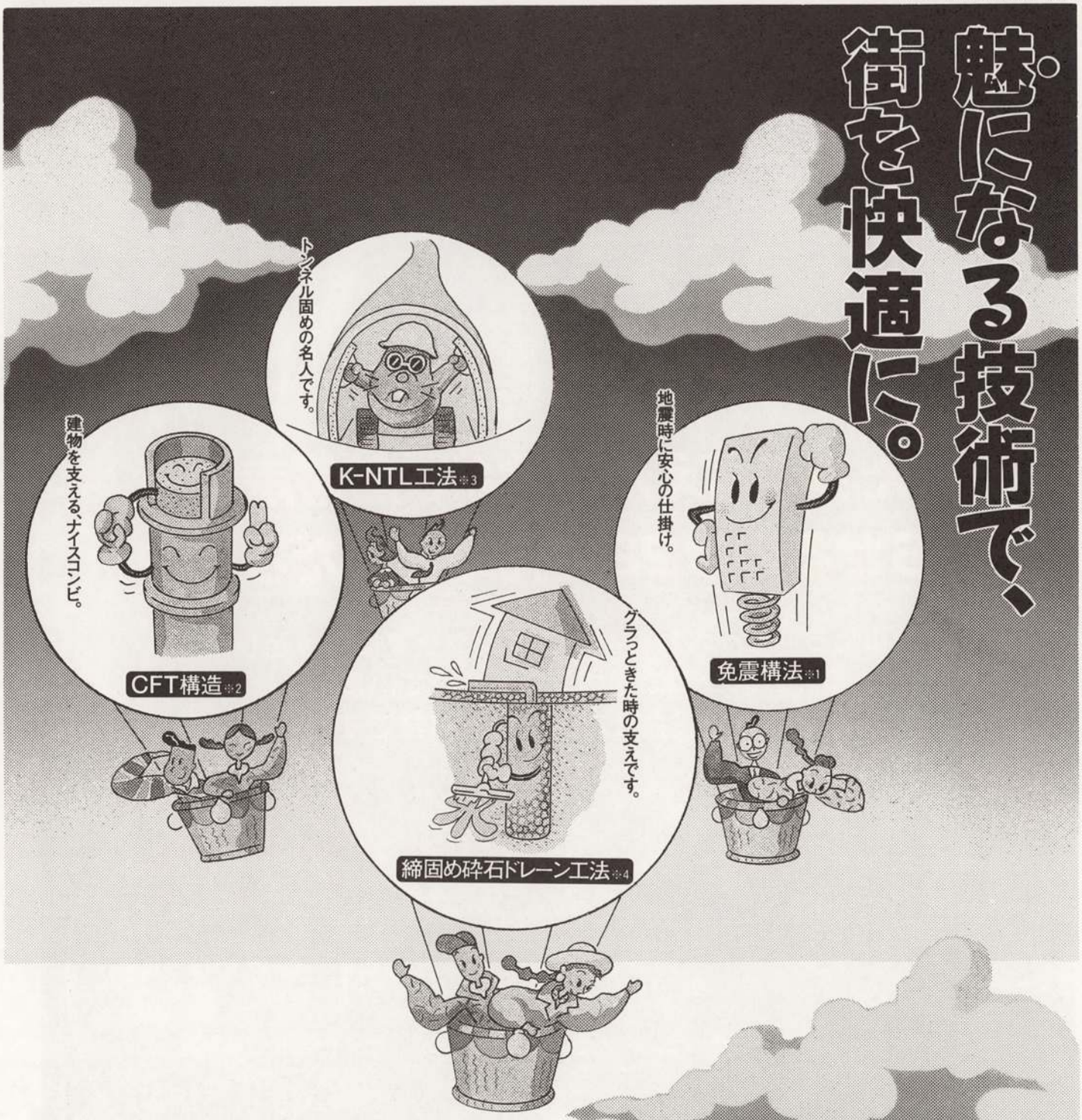
西神斉場建設工事
発注者■神戸市住宅局営繕部
設計・監理■株式会社昭和設計
所 在 地———神戸市西区神出町南
敷地面積———63,000㎡
建築面積———2,777㎡
延床面積———2,747㎡
構造規模———ＲＣ、２Ｆ
竣　　工———平成４年12月

関建・今津・宮田建設共同企業体

関西建設工業株式会社
〒651-21 神戸市西区大津和1-6-2　　TEL(078)974-1441

今津建設株式会社
〒652 神戸市兵庫区吉田町2-27-10　　TEL(078)671-3632

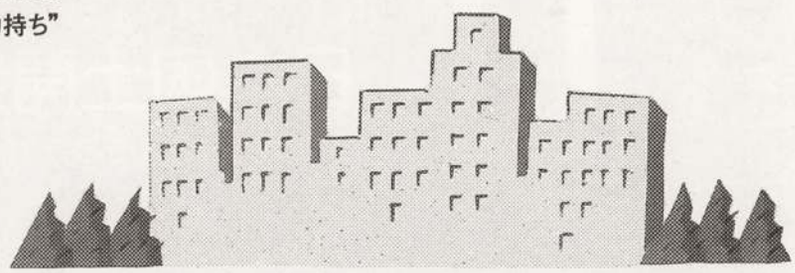
株式会社　宮田組
〒652 神戸市兵庫区荒田町1-1-11　　TEL(078)511-5025



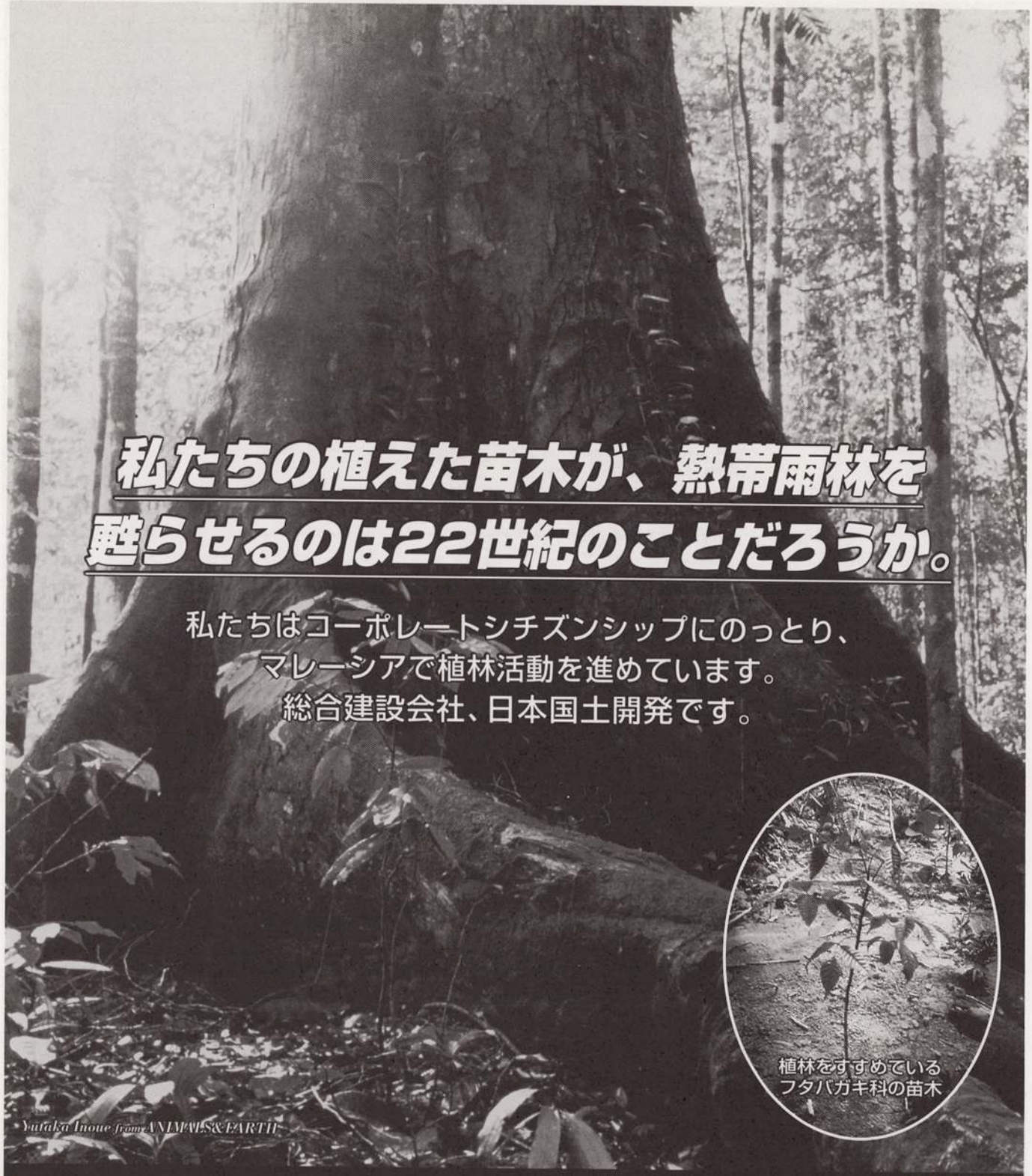
暮らしのすみずみにある、鴻池組の技術。

地下、山地、ビルの中・・・さまざまな所で活躍する鴻池組の技術。
目立つ存在とは言えませんが、でも、見えないところでしっかりと、
暮らしの快適や安全を支えています。まるで“縁の下の力持ち”
のように、あなたを見守る鴻池組です。

鴻池組
KONOIKE CONSTRUCTION CO.,LTD.



※1 免震構法は建物と基礎を切り離し、アイソレーターとダンパーなどで地震の振動を和らげる構法です。 ※2 CFT構造は、鋼管にコンクリートを充填した高強度の超高層ビル用の構造材です。 ※3 K-NTL工法は、トンネルの一次覆工の自動化、省力化を実現した新しいトンネルライニングです。 ※4 締固め砕石ドレーン工法は、砂地盤を締固めながら地盤中に砕石柱を築造して、地震時に発生する液状化を防ぎます。



私たちの植えた苗木が、熱帯雨林を
甦らせるのは22世紀のことだろうか。

私たちはコーポレートシチズンシップにのっとり、
マレーシアで植林活動を進めています。
総合建設会社、日本国土開発です。

植林をすすめている
フタバガキ科の苗木

Yutaka Inoue from ANIMALS&EARTH

KOKUDO

Ambience Creation －快適環境の創造－

日本国土開発 株式会社

東京都港区赤坂4-9-9 〒107　TEL.(03)3403-3311(代表)



ビフレ SHIN—NAGATA(神戸市長田区)　設計監理：神戸市都市計画局再開発部・昭和設計
ベランダ内壁と立駐にグランデをご採用　施工：竹中工務店・住友建設・大日本土木ＪＶ

グランデ

ベランダの内壁にご採用戴いた グランデタイルパネル

『軽さ』(素材気乾比重0.6)がポイントです。

経済性

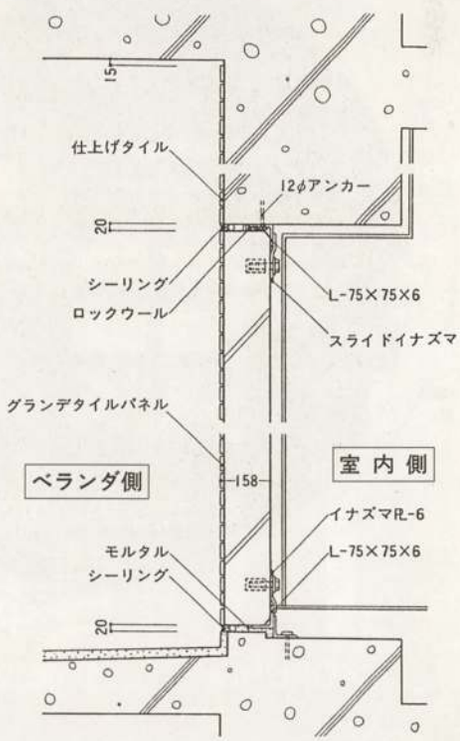
コストダウンに役立ちます。パネル材工+付帯資材(ファスナー、シーリング等)のコストがPC版より低減できるのに加え、杭・鉄骨工事も軽減できます。また工期が短縮(通常PC版の約1/2)できることから、経費の削減に貢献できます。

免震性

免震性アップに有利です。グランデは免震構法が標準使用となっております。先の阪神淡路大震災でもその性能が証明され、復興物件にもご採用いただいております。

断熱性

断熱性アップに有利です。グランデは熱伝導率がコンクリートの約1/10のため、室内側に断熱処理を施さなくても良いケースが多くなります。



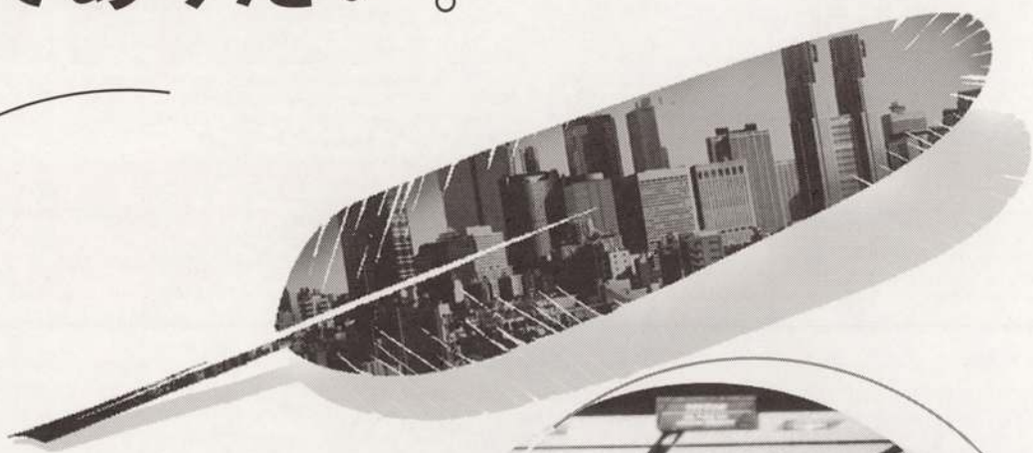
環境親和を考える——

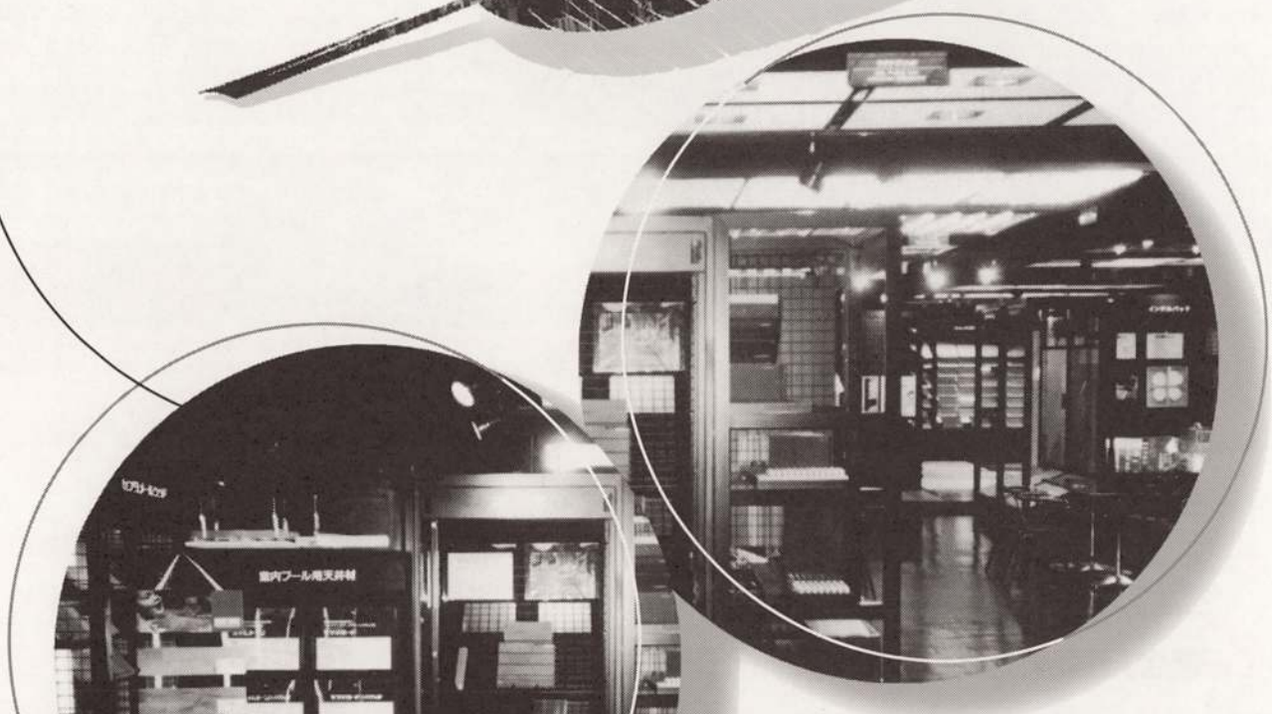
旭化成建材

●東京 ☎03(3507)7855 ●名古屋 ☎052(212)2233 ●札幌 ☎011(261)5443 ●仙台 ☎022(223)5155 ●金沢 ☎0762(31)7188
●大阪 ☎06(347)3847 ●高松 ☎0878(22)0305 ●広島 ☎082(247)6131 ●福岡 ☎092(752)3974

＜グランデのホームページ＞ http://www.asahi-kasei.co.jp／akk／grande

ひとのいる場所に、
夢をひろげる
建材でありたい。





「大阪ショールーム」

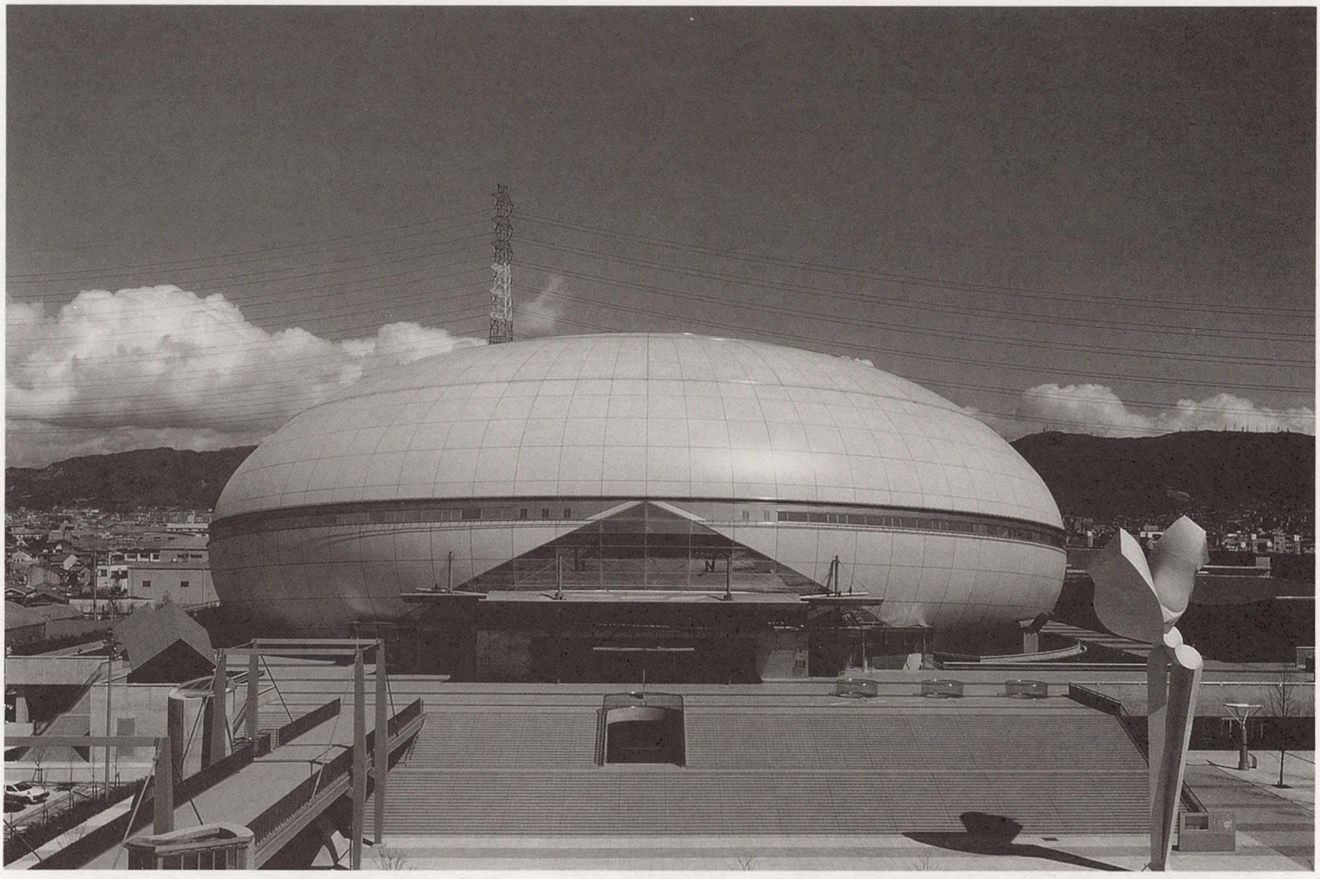
エービーシー商会は、本当に価値ある建材を
納得価格でお届けし、新鮮な発想と総合力で、
空間づくりの「満足、納得、安心」をご提案します。

㈱エービーシー商会
大阪営業所　〒540　大阪市中央区大手前1-7-31 OMMビル8F　TEL06-944-4900
本　　社　〒100　東京都千代田区永田町2-12-14　TEL 03-3507-7111(代表)

ABC shokai

ORIKEN

感動と躍動の空間、PC



なみはやドーム（ＰＣ段床版採用）

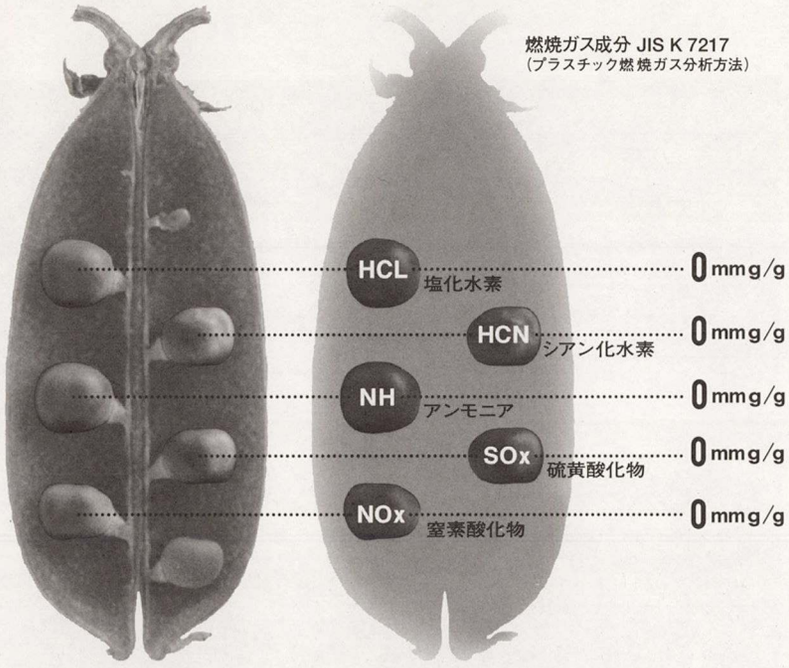
オリエンタル建設株式会社

本　　社	TEL. 03—3261—1171
東北支店	TEL. 022—222—4691
東京支店	TEL. 03—5350—6410
建築支店	TEL. 03—3265—9811
名古屋支店	TEL. 052—582—1021
大阪支店	TEL. 06—372—0101
福岡支店	TEL. 092—761—6931

マテリアル進化論。

建築材料から発生する化学物質が、生活者の健康面や自然環境にダメージを与えるケースが少なくありません。
なかでも塩化水素ガスや窒素酸化物は有害性が高く、火災など燃焼時の安全性が指摘されています。
［ベルスシート］は、塩素や可塑剤を含まない国産初のポリオレフィン系長尺床材。
タキロンのプラスチック技術が、また一歩進化した建築用マテリアルを生み出しました。





ベルスシートは、燃焼時の有害ガスの発生を抑えた、人や環境にやさしい長尺床材です。

ポリオレフィン系 環境にやさしい 塩素・可塑剤を含まない

welssheet

タキロンポリオレフィン系長尺床材

ベルスシート

国内初登場

主な特長●塩素・可塑剤を含まない素材●燃焼時の有害ガスの発生を抑制●木材なみの低燃焼カロリー●優れた耐薬品性・低臭気性
●塩ビ床材と同等の優れた施工性●高いコストパフォーマンス性・メンテナンス性

主な用途●学校、幼稚園などの文教施設●病院、老健施設などの医療・福祉施設●庁舎、コミュニティセンターなどの公共施設
●デパート、量販店などの大型商業施設●地下街商業施設●車両、船舶など

規格●寸法：巾1,820mm×長さ9m・厚さ2.0mm　梱包：9m／巻　色数●18色
メーカー希望設計価格●4,500円／m^2（材料のみ・税別）

大阪タキストロン株式会社

〒564 大阪府吹田市垂水町3-17-25 第一福徳ビル TEL(06)330-0404 FAX(06)330-0408



躯体高耐久性混和材（膨張材）
小野田エクスパン

耐震補強無収縮グラウト材
プレユーロックス

躯体高耐久性混和材(防水材)
小野田ＮＮ-Ｐ

セルフレベリング材
小野田生 SL

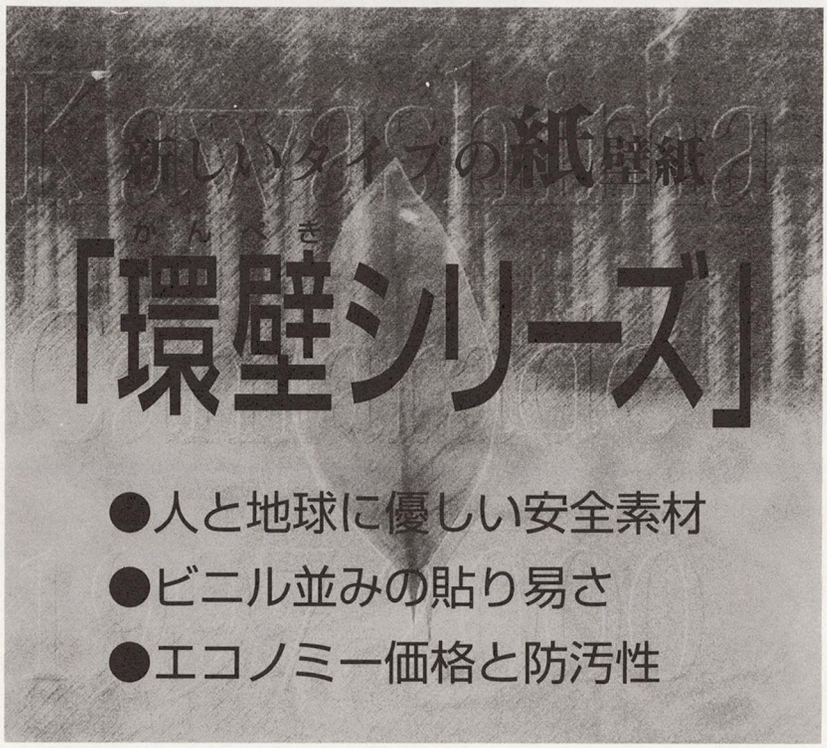
株式会社 小野田

本　　社　〒135 東京都江東区東陽 4-1-13　東陽セントラルビル　TEL03-5683-2011
関東支社　〒135 東京都江東区東陽 4-1-13　東陽セントラルビル　TEL03-5683-2030
関西支社　〒532 大阪市淀川区西中島 6-1-1　新大阪プライムタワービル　TEL06- 886-0180

Kawashima

10月発売

新製品



環壁シリーズは安全性、施工性、経済性に優れた画期的な紙壁紙です。

特　長

①安全性
- ●安全性を考えて、食品包装等で使用されるキッチンペーパーを採用。
- ●ホルムアルデヒド・重金属類を含有していません。
- ●燃焼時に有害ガスを発生しません。（可塑材等の物質も含まれていません。）

②施工性
- ●糊付け後の施工可能時間が約5時間、従来の紙壁紙に比べ施工性が大幅にアップしました。
- ●全厚がありますので下地の凹凸を拾いにくくしています。
  （従来の紙壁紙は0.3mm程度ですが0.6mm程度にしています。）
- ●ジョイント部の目開きが少なく、きれいに仕上がります。
- ●織物壁装と同様に均一に剥がれますので張り替えが楽です。

③経済性
- ●表面にフイルムをラミネートしていますので汚れがつきにくく、汚れはご家庭で簡単に落とせます。
- ●価格は1000円／m（92cm幅）とお手頃です。

④防火性
- ●壁装材料 第0001号／●紙壁紙 1級検定品／●認定商品名 EPT
- ●防火材料ですから、建築基準法の不燃、準不燃、難燃に適応できます。

川島織物

SHOWROOM

●旭川（0166）26-8210 ●帯広（0155）22-6806 ●札幌（011）261-2131 ●仙台（022）235-5811
●大宮（048）652-5177 ●千葉（043）245-2022 ●東京（03）3355-0575 ●新宿（03）5322-6526
●横浜（045）451-5531 ●名古屋（052）932-8681 ●京都（075）621-0292 ●ライブ麟（075）415-1280
●大阪（06）369-6180 ●神戸（078）857-8108 ●広島（082）224-3051 ●福岡（092）724-3000



10年後の
きみのまわりも
優しく、明るく。

今よりももっと素敵な未来のために。
人・環境・技術の調和をめざして
快適でゆたかな人間環境づくりに
取り組んでいます。

ヒューマンエンジニアリング
九電工

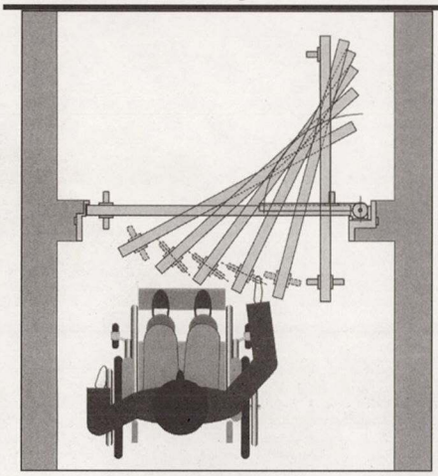
本社
福岡市南区那の川1-23-35 〒815
電話（092）523-1231

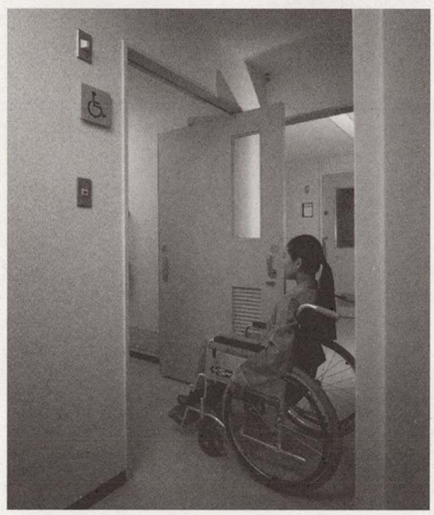
小松ウォール

間仕切の総合メーカー

200gの優しさ…「カムフォートドア」







1. 狭いスペースが有効に利用できます。

従来のドアに比べ、大幅なスペースセービングが可能。トイレ等の狭い箇所に最適です。

2. 車椅子でもスムーズ。

ほとんど身体の向きを変えずにドア操作ができ、出入りが大変スムーズです。

3. 床レールがありません。

床レールのないフラットな床面が、スムーズでつまずきの心配もありません。

4. 軽量、静音設計。

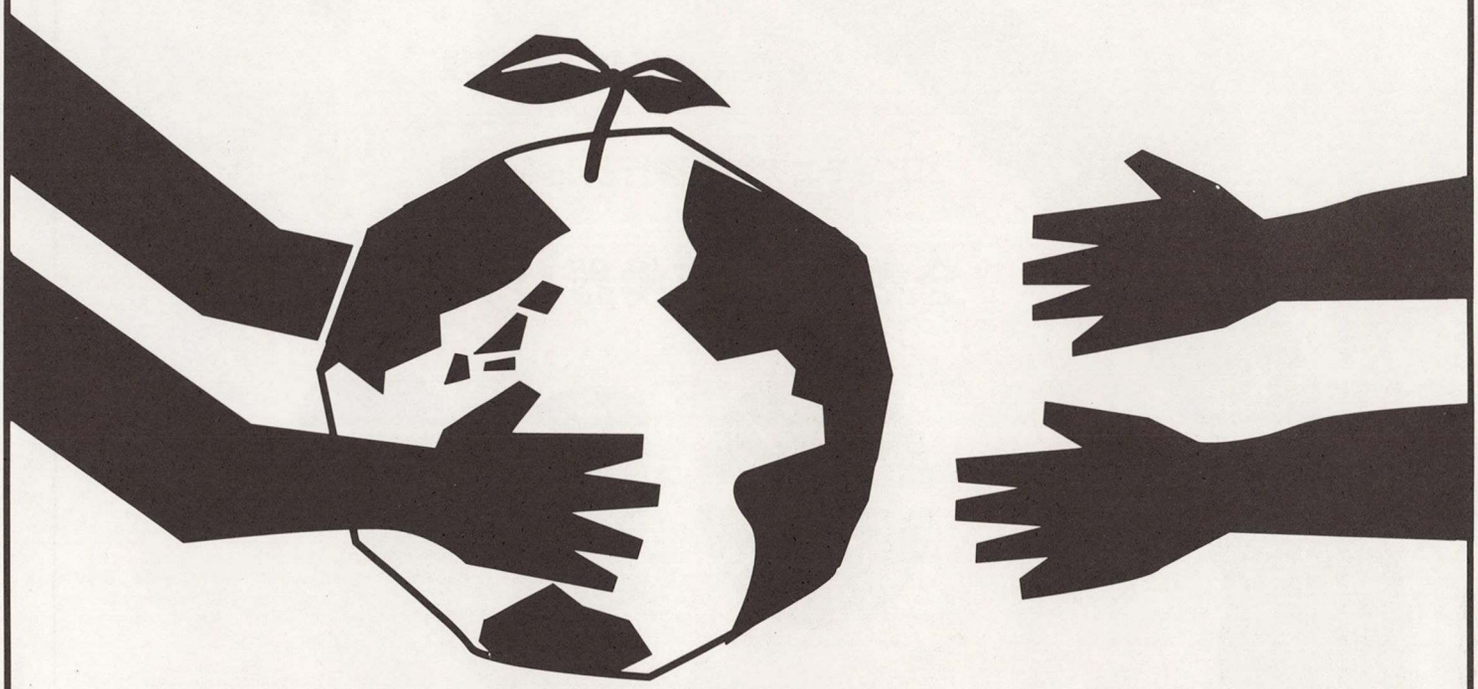
独自の軽量、低摩擦設計により、軽い操作でドアの開閉ができます。

信頼の生活空間をお届けします。

小松ウォール工業株式会社

本社　／〒923 石川県小松市工業団地 1-72　☎(0761) 21 - 3131(代)
大阪営業本部／〒542 大阪市中央区西心斎橋1-1-13　☎ (06) 241- 8416
近畿地区営業拠点／大阪・和歌山・神戸・京都

空気と水のエンジニア
SUGA
須賀工業株式会社
本社 06-441-5171



環境と未来の世代のために。

よりよい環境を受け継ぐ世代に、子供たちのために。
わたしたちは、その理想の姿を、未来の世代の視点で捉え、
幅広い分野でSUGAの技術を活かしています。
空気調和設備、給排水衛生設備、防災設備……、
地球の環境を守りながら、人びとに快適な空間を提供する。
英知を集めた＜空気と水のエンジニアリング＞は、
世代を超えて、未来へ向かいます。

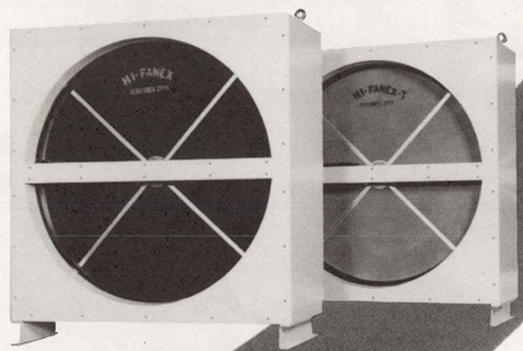
SEIBU GIKEN

（営業品目）
熱交換器・除湿機
有機溶剤回収装置・空気浄化エレメント

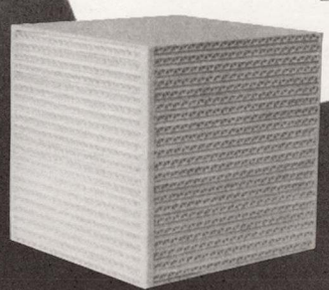
①臭気移行防止を実現

②アンモニアガス移行防止を実現

全熱・顕熱交換器ハイ・パネックス



エレメント素材
アルミ、セラミック
ポリエステル
塩化ビニール
ステンレス、難燃紙



すべてはここからはじまった

時代が要請するテーマと西部技研の研究テーマとが一致して、画期的な呼吸する構造体・全熱交換器・顕熱交換器が誕生した。この、小さな波状のコルゲーションの集合体の中に、大いなる可能性が秘められている。地球環境、エネルギー問題へ向けて、小さな波が、時代を動かす大きな波へと成長しようとしている。そして、そのすべてはここからはじまったのだ。

人とエネルギーと環境と

株式会社 西部技研

本社・古賀工場
福岡県古賀市青柳3108-3
PHONE：092-942-3511（代表）
092-942-5711（営業直通）
FAX：092-942-3761
092-944-6811（営業直通）

東京営業所
東京都新宿区新宿5-11-1
ホーメスト新宿ビル2階
PHONE：03-3356-3060
FAX：03-3356-3065
〒160

大阪営業所
大阪市淀川区西中島3-7-13
新大阪サクセスビルEAST7F
PHONE：06-305-9251
FAX：06-305-6824
〒532

東海事務所
愛知県岩倉市石仏町206-1
PHONE：0587-37-4559
FAX：0587-37-1121
〒482

多面的発想企業。



さまざまな分野のニーズに合った
マルチメディアシステムをご提案します。

マルチメディア
株式会社 東和エンジニアリング

本　社／〒101 東京都千代田区神田佐久間町1-9 ☎(03)3255-1661(代表)
関西支店／〒540 大阪市中央区城見2-1-61TWIN21MIDタワー14F ☎(06)949-1300(代表)
支　店／関　東・東関東・九　州
営業所／北海道・仙台・筑波・群馬・西東京・横浜・名古屋・神戸・広島

「光」と「人」のために、パネル化発想。



平安祭典 西神会館　設計・監理／㈱昭和設計

いま、ガラスブロックとPCの機能がひとつに。

パネルウォールは品質管理の行き届いたガラスブロック、鉄筋、モルタル、フレーム等の
材料を使って工場生産される、光を透す大型のガラスブロック・パネルです。

安定品質
ガラスブロックを工場生産にてパネル化するので、より均一な壁面施工が可能です。

工期短縮
パネルだから、従来工法に比べ施工が簡単で、工期を大幅に短縮します。

壁面自由
一個積みと同様に、模様積みや曲面壁のパネル化も自由自在にデザインできます。



パネルウォール吊込み工程

光のアーキテクチュア Glass Block
GB パネルウォール

■お問い合わせは、下記までお気軽に。
〈日本電気硝子〉ショールーム　□東京(03)3456-3511　□大阪(06)399-2728　□恵那(0573)28-2468　〈代理店〉ショールーム　□東京 日本硝子建材株式会社(03)3632-7721　□大阪 エヌイージー建材株式会社(06)392-2711

ハイテクガラスで未来をつくる
日本電気硝子

●日本電気硝子株式会社 建材事業本部 東京(03)3456-3511 大阪(06)399-2728 ●株式会社建材社 札幌(011)736-1137 釧路(0154)23-4121 苫小牧(0144)74-1651 旭川(0166)48-5935 帯広(0155)36-5191 ●日本硝子建材株式会社 仙台(022)254-8411 新潟(025)249-0331 高崎(0273)25-3220 松本(0263)48-4650 東京(03)3632-7721 横浜(045)661-1531 ●エヌイージー建材株式会社 静岡(054)283-4805 名古屋(052)522-5491 金沢(076)243-1058 大阪(06)392-2711 広島(082)229-0013 高松(0878)66-8822 福岡(092)561-3611 鹿児島(099)259-5516

日本電気硝子のガラス建材製品　ガラスブロック　甲防ガラスブロックF　ハウスパネル　ネオパリエ　ラピエ　クリスタルクレイ　X線遮蔽用鉛ガラス〈LX〉　ファイアライト

★インターネットで日本電気硝子の建材製品情報をご覧ください。 http://www.meshnet.or.jp/neg-ken/

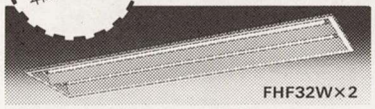
National 松下電工

改修工事

リニューアル新快速

リニューアル専用の埋込型照明器具





コンフォート15 Hf蛍光灯32W2灯
FHA42734 標準価格**19,800**円（税別）



マルチコンフォート15 Hf蛍光灯32W2灯
FHA42735 標準価格**22,600**円（税別）

リニューアル対象器具〈下面開放埋込型〉
- 埋込424K（FA42754）● 埋込424KS（FA42708） ● 埋込425K（FA42795）● 埋込F426K（FA42700）
- 埋込426K（FA42785）● 埋込426KN（FA42785K）● 埋込434K（FA43774）● 埋込435K（FA43785）

もちろん省エネ。やっぱりHf。

Hfインバータ照明器具
ナショナル
クイックアップ
〈リニューアル専用埋込型器具〉

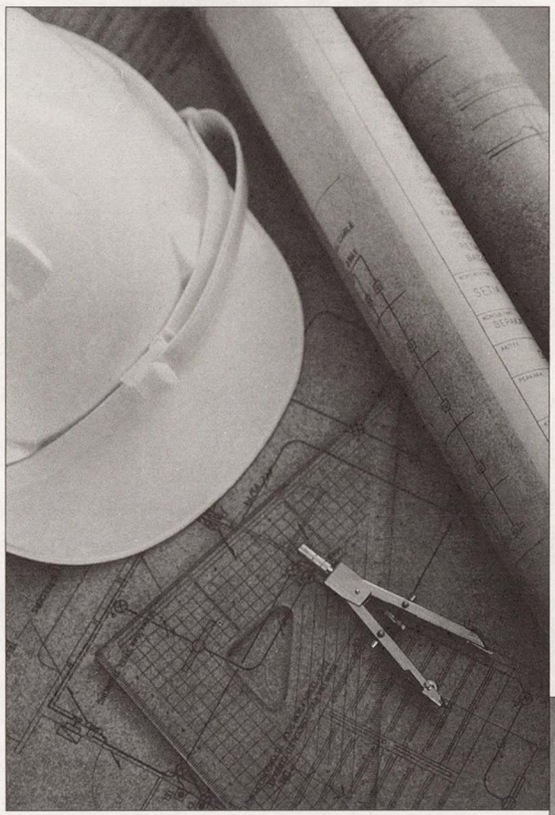
サッと取り替え パッと明るい オフィスの明かり
たちまち・かんたん リニューアル

A&i 快適を科学します

Hfクイックアップのカタログを差し上げます。ご請求と商品のお問い合わせは●〒571 大阪府門真市門真1048 松下電工・電機マーケティング部 TEL06(908)1131まで。
●照明器具のお取替えは、約8～10年が目安です。

超高層ビルから 一戸建てまで

愛される夢を育てる

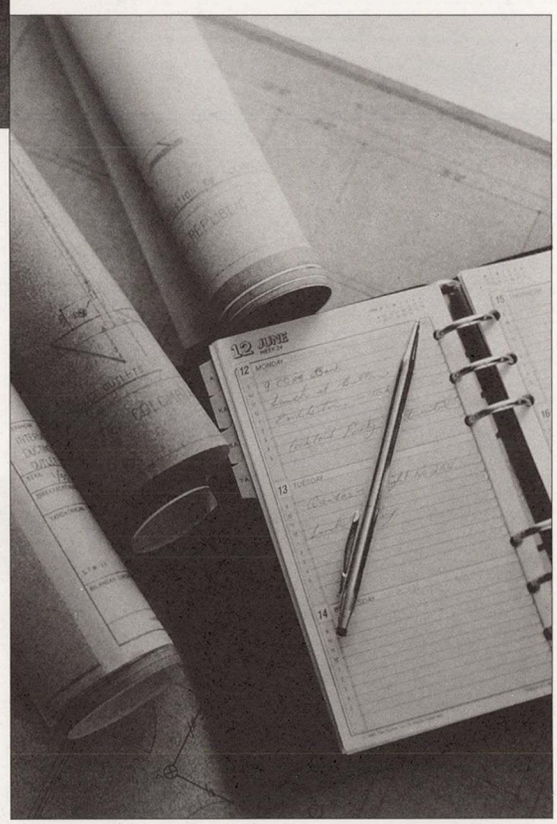


わたしは‥今‥考える

日立冷熱株式会社 代理店
- ◆冷暖房エアコン(住宅設備用各種タイプ)◆
- ◆空調・パッケージエアコン(店舗、オフィス&ビル用)◆
- ◆電気温水器(各種タイプ)◆

日立化成工業株式会社 代理店
- ◆バスルーム(ホテル・集合住宅)◆
- ◆システムバスルーム(戸建住宅用)◆
- ◆温水洗浄便座・洗面化粧台◆
- ◆キッチンユニット・流し台◆
- ◆ガス給湯付風呂釜・ガス追いだき給湯機◆

新明和工業株式会社 代理店
- ◆立体式・二段式モータープール◆



三協アルミニウム工業㈱代理店
立山アルミニウム工業株式会社代理店
- ◆アルミ・スチールサッシ(施工共)◆
- ◆フレクサラム・門扉・住宅建材◆
- ◆ユニットキッチン・流し台・家庭用品◆
- ◆カーテンウォール・外装アルミパネル◆

信越ユニット株式会社 代理店
- ◆代表的なトイレブース◆
- ◆車イス専用トイレブース◆
- ◆小児園児用オリジナルブース◆
- ◆シャワー専用ブース◆

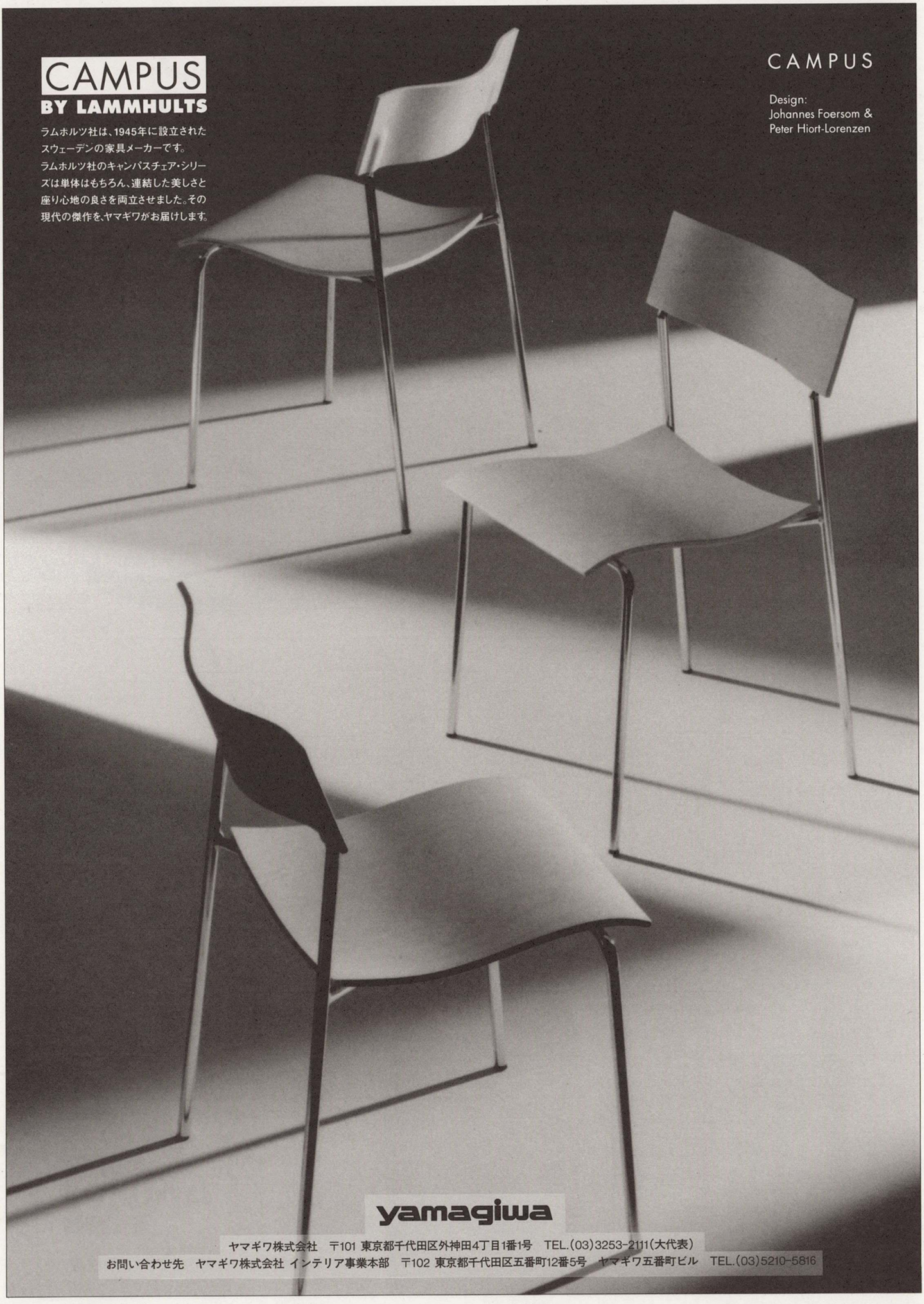
BRIDGESTONE 代理店
- ◆FRP評準プール
- ◆WATER AMENITY PROGRAM
- ◆高減耐震ゴム構法

昭和ロック株式会社 代理店
- ◆ファッション玄関錠◆

GLOBEN
庭づくりのパイオニア
- ◆噴水システム◆
- ◆自動散水システム・スプレー式・ドリップ式・ポイント式

ムツミ産業株式会社

本　社　〒550 大阪市西区靭本町1丁目17番15号　TEL.06-441-0378 / FAX.06-445-1258
京都事務所　〒606 京都市左京区下鴨高木町46番305号　TEL.075-722-3169 / FAX.075-722-3169
出 張 所　東京・北九州


CAMPUS
BY LAMMHULTS
ラムホルツ社は、1945年に設立された
スウェーデンの家具メーカーです。
ラムホルツ社のキャンパスチェア・シリー
ズは単体はもちろん、連結した美しさと
座り心地の良さを両立させました。その
現代の傑作を、ヤマギワがお届けします。
CAMPUS
Design:
Johannes Foersom &
Peter Hiort-Lorenzen
yamagiwa
ヤマギワ株式会社　〒101 東京都千代田区外神田4丁目1番1号　TEL.(03)3253-2111(大代表)
お問い合わせ先　ヤマギワ株式会社 インテリア事業本部　〒102 東京都千代田区五番町12番5号　ヤマギワ五番町ビル　TEL.(03)5210-5816

ソフトの眼で見る21世紀

●建設は人々の暮らしの基幹を担っています。自然からエネルギーを取り出し、人や物の交流の道を作り、人々の生命や活動をまもります。

●やがて21世紀——人々はさらに便利さと安全、そして快適さを求めることでしょう。そのニーズにこたえ建設にも〝心〟をふきこみ、やすらぎと暖かさをもたらすのはハードを超えたソフトの眼です。

●青木建設は未来をしっかりと見つめ、人々の豊かな生活への貢献をテーマに、世界の各国で力強く事業を展開しています。

AOKI
AOKI CORPORATION

株式会社青木建設 東京本社●東京都渋谷区渋谷2-17-3 〒150/TEL03-3407-8511
大阪本店●大阪市北区大淀中１丁目１番30-1600号 〒531/TEL06-440-5851

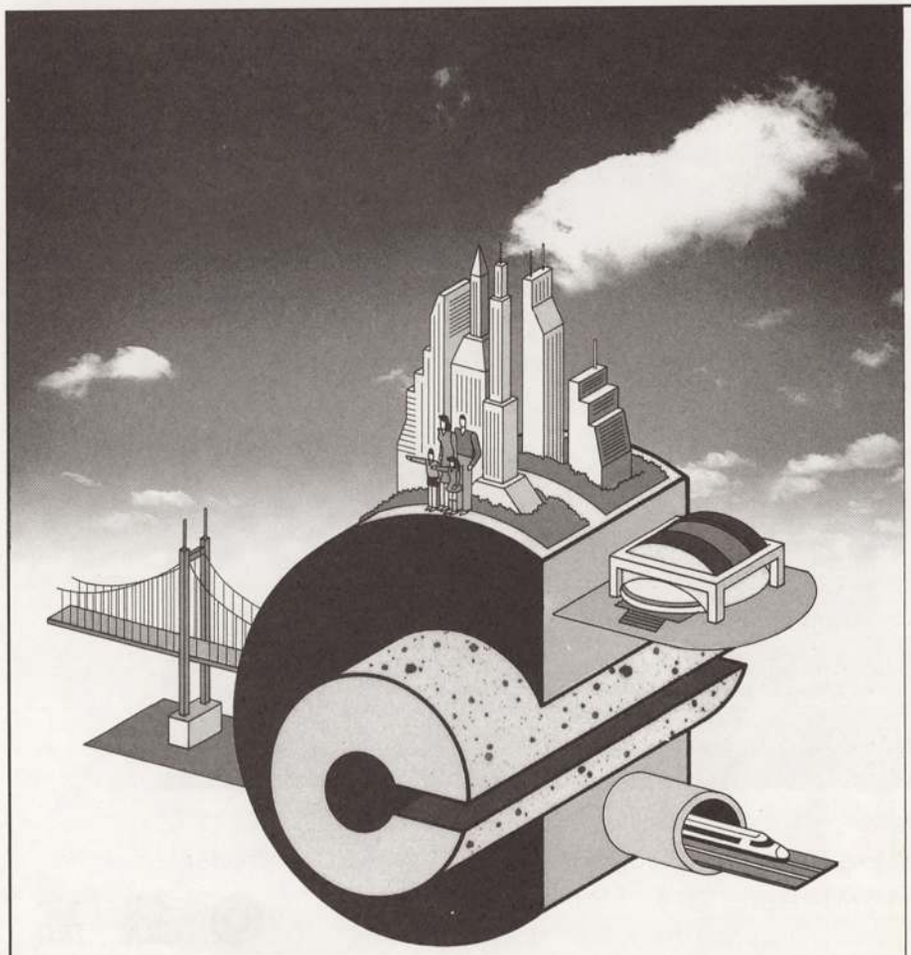


安藤建設株式会社 東京都港区芝浦3-12-8 〒108
TEL.03-3457-0111(大代表)

かつて森を訪れた時のことを思い出してみてください。その時何を感じましたか。この上ない清々しさや包み込まれるような優しさや慌ただしい日々の生活の中では得られない開放感を覚えたことでしょう。そんな自然がもたらす形にはならない何かを、アーキテクチャーも備えていなければならないと思います。というより、人のための空間を創るかぎり、それは当然であり、基本なのです。初めてなのにどこか落ち着く空間、心を解きほぐしてくれるような空間、のびのびと働きやすい空間。自然にはかなわないけれど、人に安らぎや心地よさを贈れる私たちでありたいと思うのです。人を真ん中に据えた発想を大切にします。

ANDO

人の気持ちで。人の視点で。安藤建設。



自然のチカラと
人のワザの融合エネルギー。

先端技術を生かした快適で安全な街づくりをベースとして、さらに、心が満たされ、気がかりのない「安心」できる生活空間が求められています。その実現をめざし、自然の換気、自然光の導入、自然エネルギーの活用、木々や植物の採用など自然と共存する、斬新なコンセプトでコミュニティづくりを提案…それが、人と地球にやさしい環境を創造する奥村組のエネルギーです。

好きです、大地。たいせつに築きます、未来を…

奥村組
OKUMURA CORPORATION
本　社：大阪市阿倍野区松崎町2-2-2 TEL.06(621)1101
東京本社：東京都港区元赤坂1-3-10 TEL.03(3404)8111



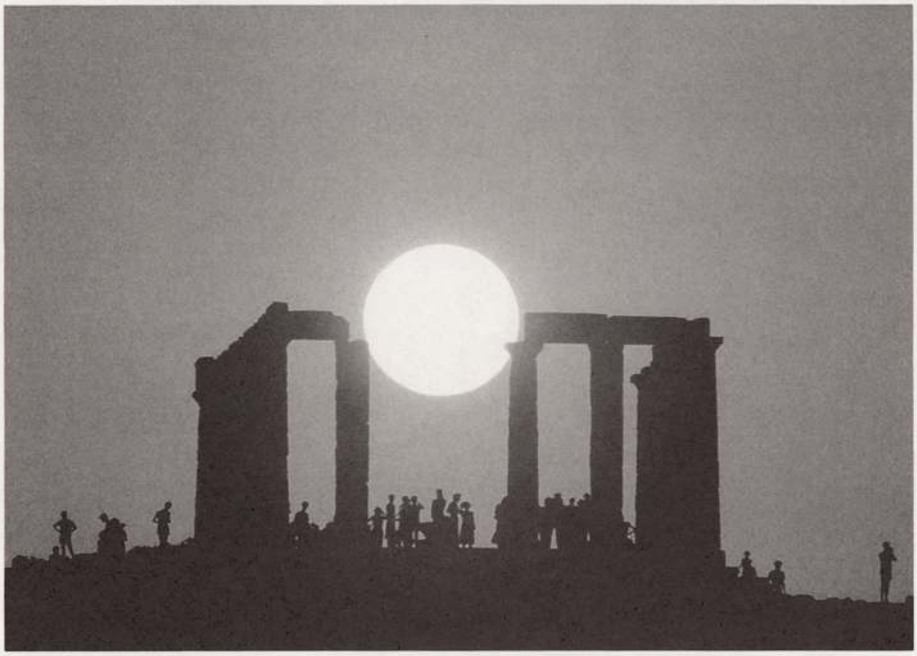
HEART & TECHNOLOGY
住友建設

あなたのまちまで。

地域社会に根ざしたエンジニアリング・コンストラクターとして、
私たち住友建設は、人とくらし、くらしと環境を見つめてきました。
これからも"HEART & TECHNOROGY"をテーマに、
自然環境と調和した、
豊かな明日のまちづくりに力をそそいで行きます。

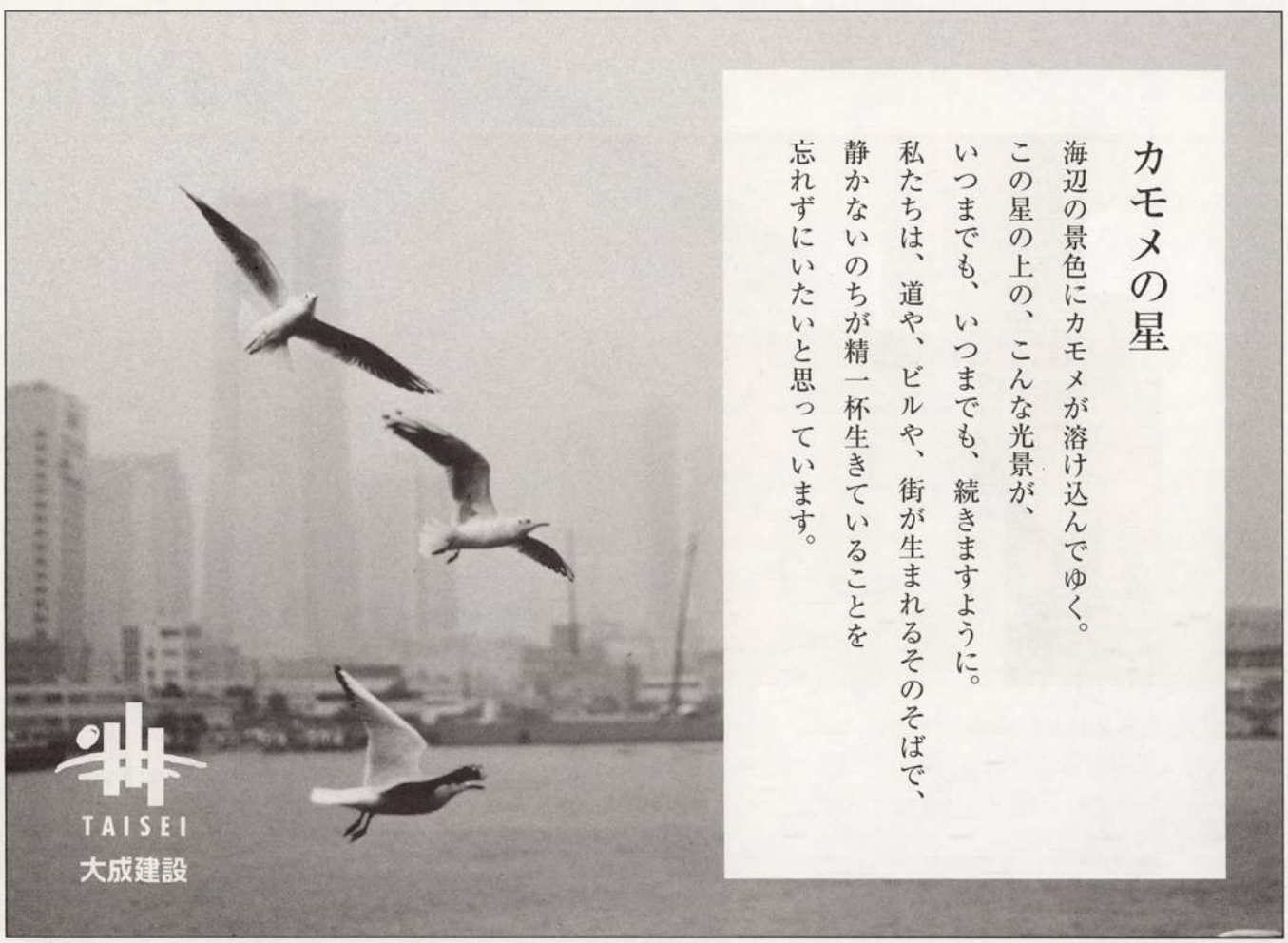
Zenitaka

それは人が集まる場所。



存在感、魅力あるスペース、独創……　いい建造物には、そんな表現が当てはまります。
でも、人が何故集まってくるのかと言えば、そこにある優しさや信頼感からではないでしょうか。
我々は人に優しい空間を目指し、これからも期待に応えて行きます。

錢高組
URL http://www.zenitaka.co.jp



誠意と技術できずく　ハンシン建設

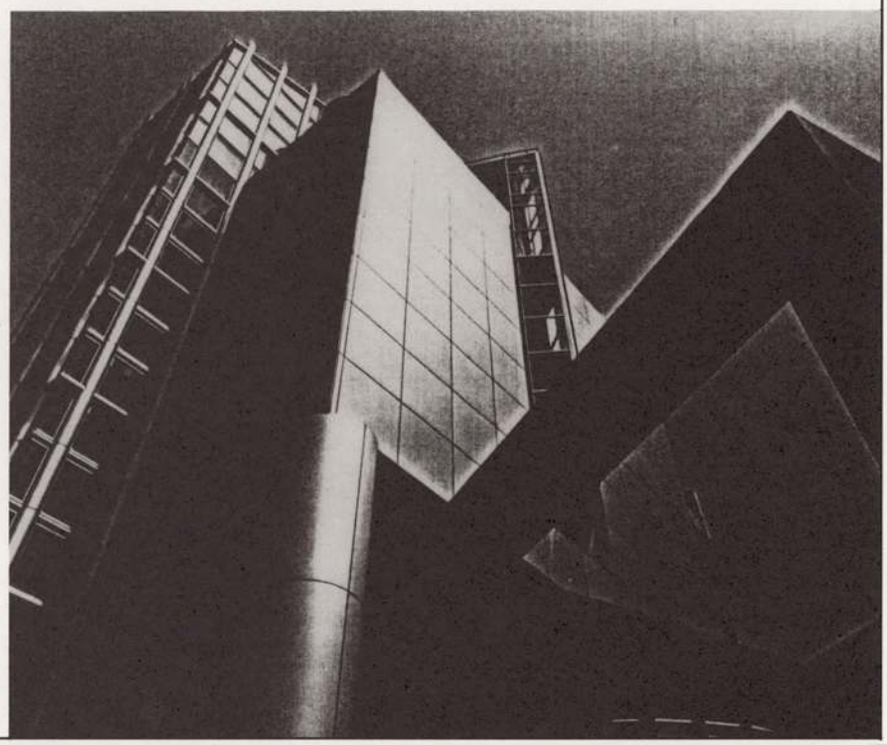
HANSHIN
株式会社ハンシン建設
（旧社名　阪神土木工業株式会社）

代表取締役社長　和栗良成

本　社　大阪市北区梅田２丁目３番19号
TEL（06）347-6556（代）

支　店　東京・神戸・名古屋

営業所　京都・岡山・奈良・西宮・尼崎
三木・寝屋川・堺・茨木・和歌山


大阪市下水道科学館

創造という力、建設という知恵。

FUJITA



時代の先の先を見越した企画提案を。
フジタには先端技術を駆使しての建設を核に、
都市開発やエネルギー開発やレジャー事業など、
多岐にわたる実績と豊富なノウハウがあります。
すべての力を創造に向けて。

―"高"環境づくり―
フジタ

本　　社　〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-6-15tel（03）3402-1911
大阪支店　〒530 大阪市北区堂島２丁目１－16tel（06）348-4510

NEXT!



次代に向かって、遠い未来に向かって、
挑戦することから生まれる何かがあります。
例えば、新鮮さを失わない発想と、信頼のテクノロジー。
私たちも、常に次の夢の具現化を考え続けています。

未来へ——安心を創る
FUJIKI 藤木工務店

本　社 〒540 大阪市中央区常盤町 1-3-8 ☎06-966-0440　本支店 大阪・東京・横浜・京都・倉敷・四国・福岡
東京本社 〒160 東京都新宿区三栄町 23-1 ☎03-3357-1600㈹ 営業所 札幌・水戸・北関東・埼玉・多摩・府中・八王子・相模大野・静岡・名古屋・泉南・和歌山・西宮・神戸・岡山
広島・徳島・新居浜・松山・長崎

たくさんの人々が、毎日、出会ったり別れたり、恋をしたり、仕事をしたり、
泣いたり笑ったりしながら生きていく場所。
そんな人間の場所が、もっともっと温もりを持てるように、私たちは技術を磨き続けます。

人間の場所



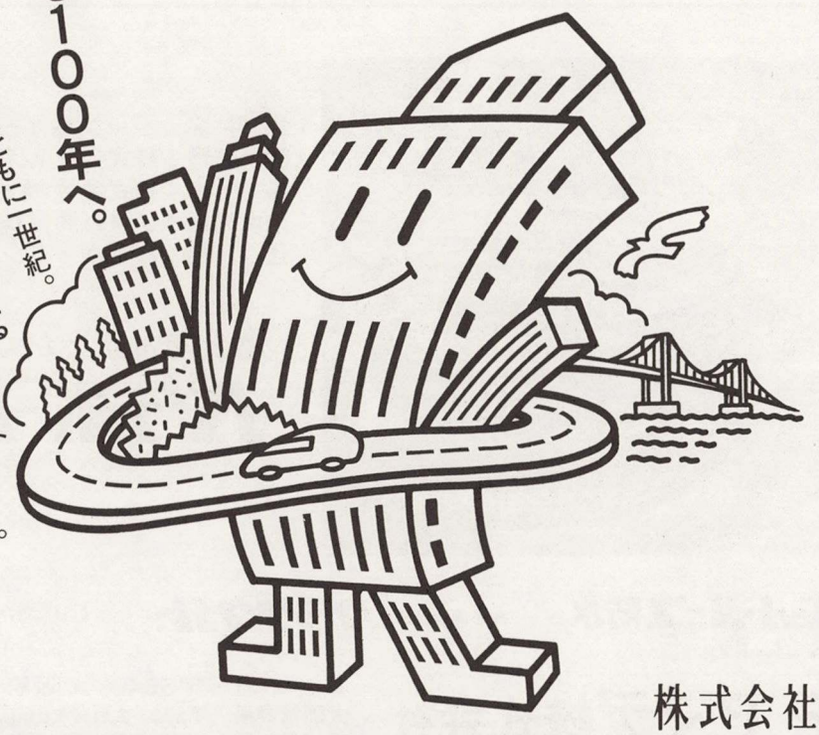
MAEDA 前田建設

本　社　東京都千代田区富士見2-10-26　電話(03)3265-5551　ホームページ http://www.maeda.co.jp/
大阪支店　大阪市西区江戸堀1-3-15　電話 (06)446-9511

Matsumura

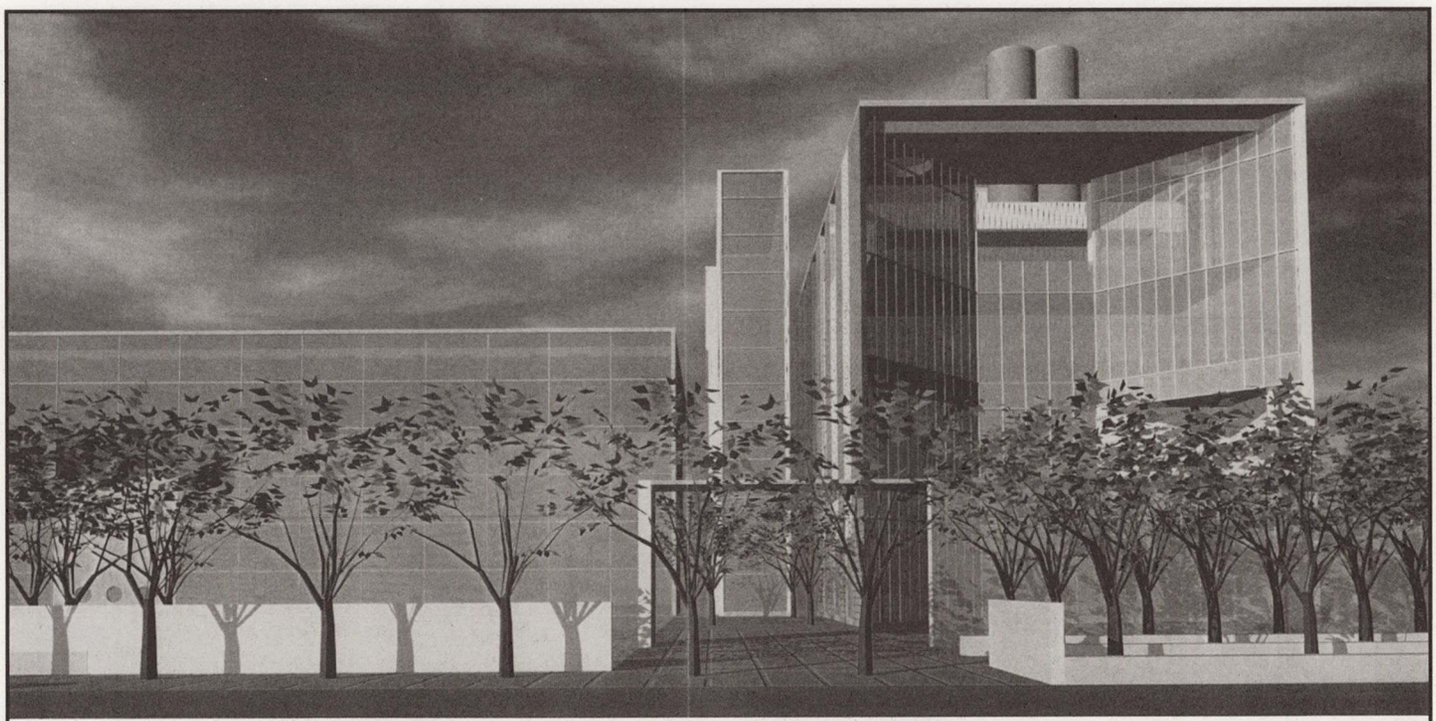
次なる100年へ。

街とともに、人とともに一世紀。
これからも21世紀の夢に応える
建築・土木の総合企業として、
新たな可能性を見つめ続けます。



株式会社松村組

本社・大阪本店 大阪市北区東天満1-10-20　東京本店 東京都千代田区内幸町1-1-2　支店 名古屋・札幌・東北・広島・九州・神戸・京都

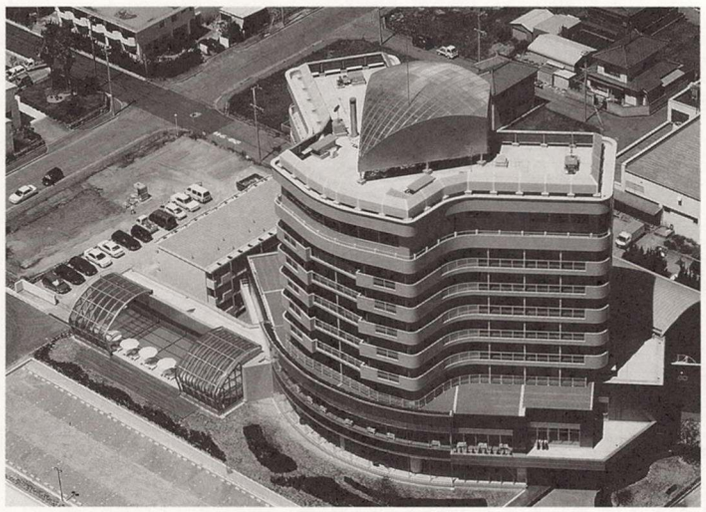


森長組神戸支店

株式会社 森長組
MORICHO CORPORATION
代表取締役 森 紘一
本社：兵庫県三原郡南淡町賀集823番地
〒656-05 ☎(0799)54－0721(代)

Architectural
Yamade Corp.

祝　昭和設計創立４０周年



物 件 名：ジャンボオーナーズ淡路島
設計監理：株式会社 昭和設計
施　　工：株式会社 鴻池組
防水施工：フタバ興業株式会社
仕　　様：パラボードシステム PBU-1A

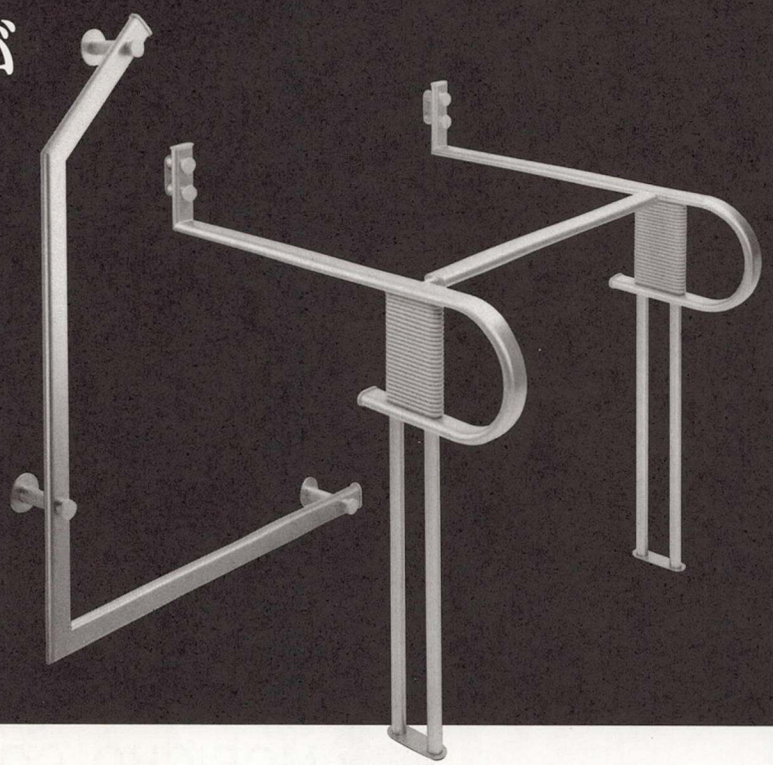
屋上防水立上がり乾式保護システム
パラボードシステム

塩ビ系シート防水 リベットルーフ防水　成形伸縮目地材 クラクタイト　折りたたみ式 ヘキサユニット瓦

アーキ ヤマデ株式会社
本　　社・〒564　大阪府吹田市江の木町24-10
大阪営業所・〒564　大阪府吹田市江の木町24-10　TEL 06(385)1261
営　業　所・ 仙台・千葉・大宮・東京・横浜・名古屋・大阪・神戸・広島・福岡

欲しかった手すりが
ここにある。

優れた機能性、美しく極められたデザイン、
そして空間にジャストフィットするフレキシビリティ…。
私たちはそれらの全てを手に入れました。



ACTHOLDER
補助手すり アクトホルダー

建築環具の創造を目指す…
株式会社アトラス
本　社　〒543 大阪市天王寺区東高津町11-9 日生上本町ビル7F
TEL. (06)765-2360㈹ FAX. (06)765-2366
札幌・青森・仙台・高崎・東京・横浜・名古屋・北陸・京都・大阪・神戸・広島・高松・福岡
ATLAS

樹材・加工から木工事まで一環システム







貯木展示場　15,700㎡

池 イケモク

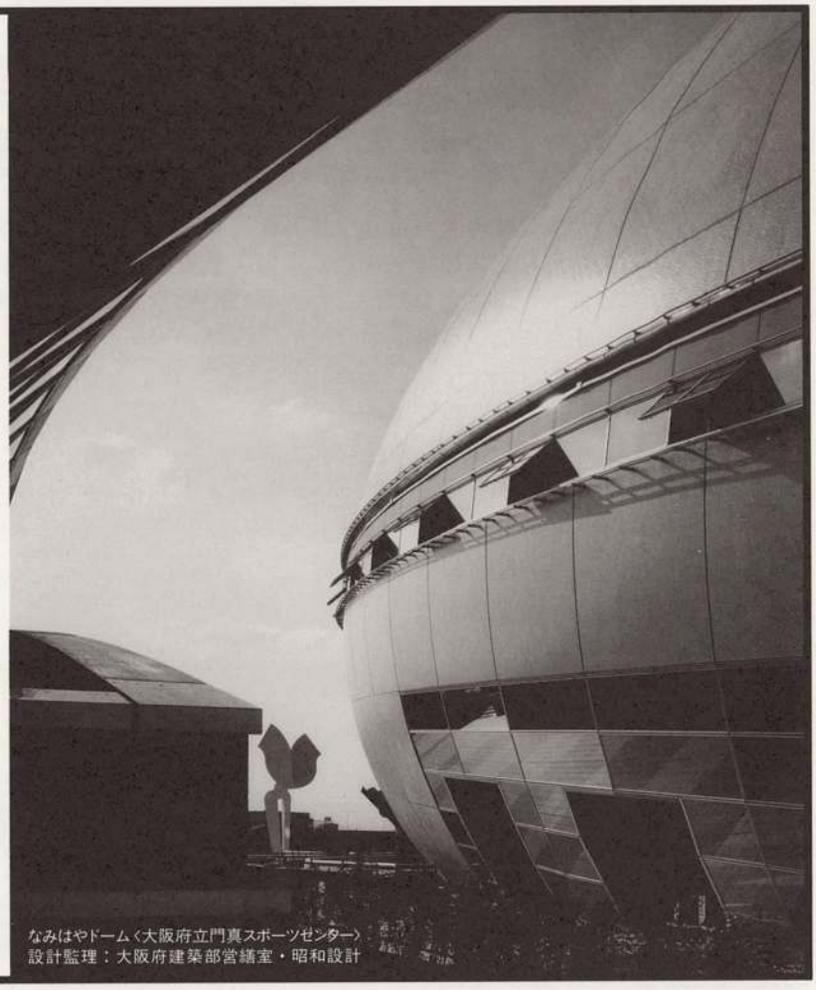
天然木展示ルーム・貯木展示場：15,700㎡

〒672 姫路市飾磨区構東飯田新田1096
TEL**0792-35-6225**代表・**0792-34-6021**代表
FAX**0792-34-1895**

東町オフィス
〒672 姫路市飾磨区英賀東町1丁目4番地
TEL**0792-36-5655**代表・FAX**0792-39-6221**

INAX

そうです。
この優美さが、
INAX。



なみはやドーム〈大阪府立門真スポーツセンター〉
設計監理：大阪府建築部営繕室・昭和設計

株式会社 INAX
大阪支社　〒550 大阪市西区新町1-34-15
大阪グレンチェックビル　TEL.06-539-8500



メルトーチの特長

- ●抜群の耐久性、水密性、下地亀裂追従性
- ●低温特性、耐熱性、寸法安定性に優れる
- ●施工が容易で安全
- ●メルトーチ工業会による責任施工
- ●工期の短縮化を実現し、経済的



宇部興産株式会社

大阪支店 防水材販売課 〒530 大阪市北区曽根崎新地2-2-16
TEL(06) 346-1363
東京本社 防水材販売課 〒140 東京都品川区東品川2-3-11 UBEビル
TEL(03)5460-3306

窓一枚にもこだわりを貫きます。
一棟の建物建設に情熱を傾けます。

**サッシやドア工事のスペシャリストとして培った実績を武器に、
オフィスビルから一般住宅まで幅広い工事請負ビジネスを展開。
一枚の窓やドアの据えつけにこだわるきめ細やかな設計監理によって、
建築専業企業とはひと味違うサービスを行います。**

事業内容

①金属製建具事業
アルミ・ステンレス・スチール・カーテンウォール・各サッシ、トップライトなどの販売・設計・製造・施工

②建材製品事業
アルミキャストドア・集合住宅玄関ドア・福祉対応ドア＆引戸・ガラス入り甲種防火ドアの企画・製造

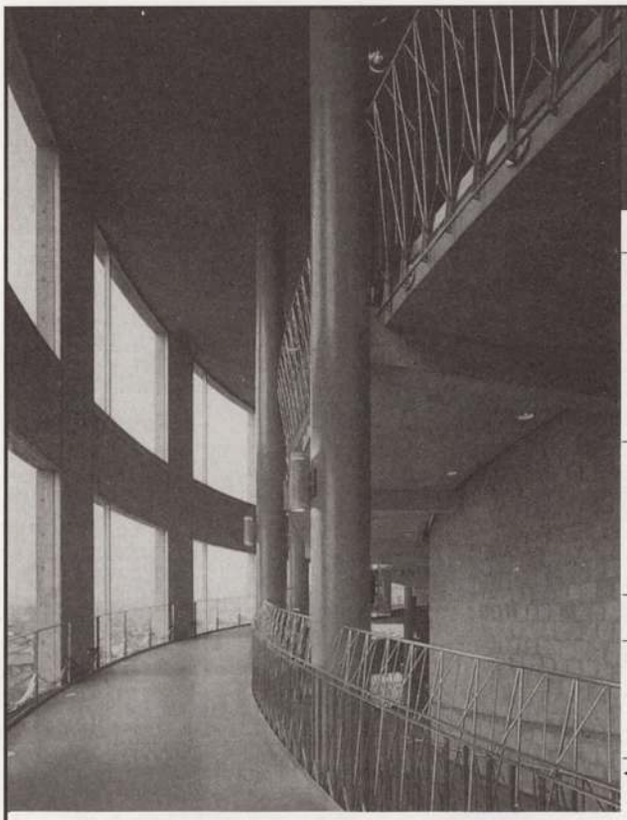
③塗装事業
エポキシ系、ポリエステル系の各粉体塗料と溶材型塗料

④建築事業
あらゆる建物の建築、リニューアル、リフォーム、メンテナンスなどの設計・施工および各種電気設備施工
（一級建築士事務所）

エコー産業株式会社

本社・大阪事務所　〒530 大阪市北区茶屋町18—21
TEL 06—375—1701
FAX 06—375—1709

〔その他の事務所〕
大阪北事務所・京滋事務所
東京事務所・福井工場



"知的でハイテクなイメージを
天然ゴムのもつソフトな特性で表現"
それがアストロシリーズです。

	商品名	施工例
軟質ゴムタイル	アストロフェース	神戸ファッションプラザ 青木・平通画伯記念館 文化パルク城陽 海技大学校本館 三田市総合福祉保健センター
軟質ゴムタイル	ハイステップ	長居陸上競技場 大阪府立門真スポーツセンター 鳴門体育館 神鋼第2ビル
軟質ゴムタイル	ダンセルII	SORA 新大阪21
硬質ゴムタイル	ゴムタイル	宝塚市民病院 フジッコ 熊取町立総合体育館

◀文化パルク城陽：アストロフェーステクノ仕様
市民プラザと多目的ホールを囲むように設置されたスロープ

大阪ニチマン商事株式会社
〒536 大阪市城東区関目1丁目21-11
Phone 06-939-3521 Fax 06-939-3592

東京ニチマン商事株式会社
〒111 東京都台東区花川戸1-15-1 フェスタ花川戸3F
Phone 03-3845-7601 Fax 03-3845-7606

おかげさまで、
創業50周年

TOF フッ素樹脂積層被覆鋼板 & COM 耐酸被覆鋼板



JR東日本東京駅中央線重層化改良工事

「耐酸被覆鋼板」のパイオニアとして約半世紀の経験を生かし、新たに「フッ素樹脂積層被覆鋼板」を製品群に加えました。
建築物の耐久性と、独創的な色彩と外観をクリエイトします。

■ フッ素樹脂積層被覆鋼板
TOF（タフフロール）
■ 耐酸被覆鋼板
COM（ケミカラーオーシマメタル）
EBM（エバーブライトメタル）

OSHIMA OHYO

本社 大阪市旭区太子橋1-15-22 Tel.06(954)6521 Fax.06(954)6480
●支店 東京、名古屋、新居浜 ●工場 新居浜、寝屋川 ●営業所 四日市、岡山、広島、宇部、福岡

大島応用化学工業株式会社

okamura

リニアモータが自動ドアを変える。

世界初のリニアモータ式自動ドア〈リニアード〉



●従来の自動ドアに比べ、開閉音が静か。

●各々の病室に合わせて開閉スピードを自在に変更可能。

●病室に不可欠なフリーストップ機能を自動ドアで初めて装備。

●停電時等の非常時には手で軽く開閉可能。(0.5kgf)

Lineared
リニアード
よい品は結局おトクです
オカムラ

株式会社 岡村製作所
建材事業本部 大阪南支店 TEL06-282-4031
関西支社　営業推進室 TEL06-282-4061
〒542 大阪市中央区南船場4-1-9
南船場第一東洋ビル

お客様サービスセンター
フリーダイヤル 0120-81-9060
月曜～金曜(祝祭日を除く) AM9:00～PM6:00



なみはやドーム

Cassina INTER－DECOR

カッシーナ・インターデコールグループ
大阪支店・ショールーム 〒541 大阪市中央区高麗橋 4-8-10 スミトー横堀ビル　tel. 06-222-5048　fax. 06-222-1595
本社 〒150 東京都渋谷区東 2-9-6　tel. 03-3498-9303　fax. 03-3498-9306

KAMEI

より安全に、よりやさしく

亀井式引戸門扉

引戸門扉用電動駆動装置

KETS ゲートMan

亀井鐵工有限会社

西脇市和布町85番地　TEL.0795-22-0101　FAX.22-0728

空気調和
給排水

防災・公害防止
設計施工

川崎設備工業株式会社大阪支店

常務取締役
支店長　佐野悦男

〒534 大阪市都島区中野町4丁目3番9号
電話 06（352）5371㈹
FAX 06（352）8590



古代を受け継いだ平瓦、丸瓦を一体化した
新式で、姿形はそのままに伝統の在来型として
耐震強風軽量引掛桟工法の【飛鳥野瓦】



飛鳥野瓦は

堂宮建築の瓦葺きに81年の実績を誇る〈瓦寅工業〉が、瓦づくりの伝統技術に合理的な開発思想を吹き込み誕生しました。平瓦と素丸瓦を連結し、一枚瓦としています。そのため在来型本葺瓦と葺き継ぎができ、葺き上がり、外観ともに異なるところはありません。



松井建設㈱　大阪市専念寺様

創業82年　飛鳥野瓦総発売元・綜合屋根材施工卸

㈱クボタ　松下電工㈱　日本モニエル㈱　積水化学工業㈱　特約代理店

瓦寅工業株式会社

本社
大阪市生野区林寺１丁目５番14号
電話代表 06(715)0201～5
ＦＡＸ 06(715)0194・06(716)6539

元旦

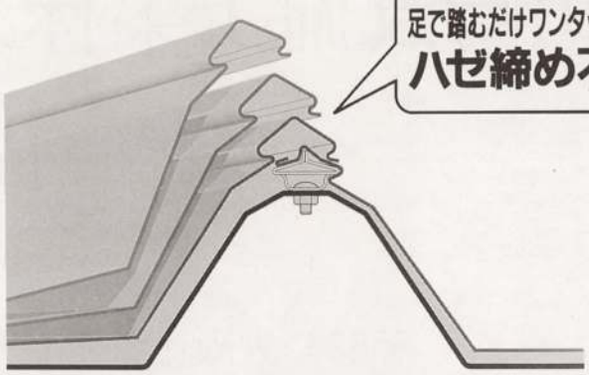
現場リストラ・PL法対応

施工が速い・価格が安い・風雨に強い



完全嵌め込み式新型折板

■強度
●従来の丸ハゼ折板の一点固定に比べ、A・B二か所で強度を負担するため強度が格段に向上しました。
●屋根材のハゼ部が二重になっているため、ハゼ強度もさらに向上しました。
■施工性
●カバーレスの完全嵌合式でハゼ締め作業も不要です。
●足で踏み込むワンタッチ式で施工が楽で速い。
●タイトフレームが左右対称なのでタイトフレーム設置時点で屋根材の方向性を考慮しなくて良い。
■意匠性
●ハゼ締め機を使用しないため、屋根材をキズ付けません。
●山高170mmで大型建築物のスケール感を活かします。



ハゼ締め不要　■特許　特許出願中3件　意匠出願中60件

元旦折板G-170

屋根30分耐火構造　通則指定FP0112・FP0113　個別指定FP0079・FP0080

製造発売元　元旦ビューティ工業株式会社

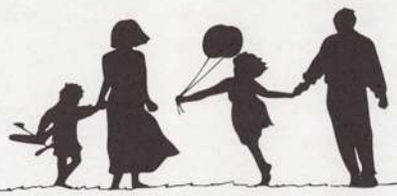
●本　社　神奈川県藤沢市湘南台1-1-21　TEL(0466)45-8771
●大阪支店　大阪市中央区高麗橋2-6-10新高麗橋ビル　TEL(06) 223-1841
●全国7支店21営業所

YUME TRONICS

夢×技=∞

無限大

安らぎと喜びがある。
生み出すための第一歩は
夢からもらった。
形を築くための第一歩は
技からもらった。
ふたつの可能性が出会う時
私たちのフィールドは
無限大です。



何時もあなたの街で、
お会いしている
クリハラ。

私達の生活環境に必要な
電気設備・エネルギー
情報通信・環境の分野で
企画、設計、施工、保守に
わたる一貫したシステムで
事業を展開しています。

創業1919 あなたの街でお会いしています
栗原工業㈱

本社／〒530 大阪市北区角田町1−1(東阪急ビル) TEL.06(313)1101
東京本店／〒105 東京都港区芝大門1−4−8(浜松町清和ビル) TEL.03(3432)1901

KOKUYO

機能性を追求すると、デザインはシンプルになる。

ムダを省いたシンプルなデザインと快い座り心地。
そして耐食性と強度、保守管理の手軽さや、組合せの自在性など
優れた機能性を備えた<スタジアムチェアー>。興奮と感動の空間を丈夫に美しく支えます。

STADIUM CHAIR
スタジアムチェアー



コクヨ株式会社 〒537 大阪市東成区大今里南6丁目1番1号 TEL.06-976-1221
ホームページURL http://www.kokuyo.co.jp

お問い合わせ、ご相談はフリーダイヤル(全国共通)
お客様相談室 0120-201594
お客様相談室FAX 0120-060660

TREEFORMS

Plastic Laminate Doors（プラスチックラミネートドア）

ツリーフォームズウッドロッカーの中で、特にプラスチックラミネートウッドロッカーはスポーツ施設に最適なロッカーです。水やキズ、汚れに強く耐久性に優れています。又、カラーバリエーションも約200種類におよび、施設の雰囲気やイメージに合わせて最適なドアをお選び下さい。



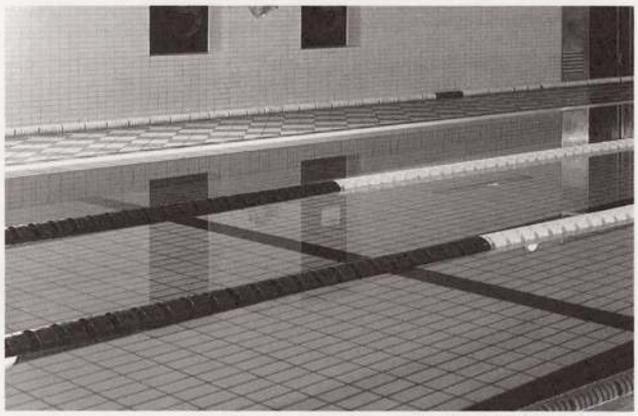
なみはやドーム（大阪府立門真スポーツセンター）ロッカールーム

財団法人 日本水泳連盟公認コースロープ

WAVELESS FLOAT

ウエーブレス・フロート　　実用新案出願中

ベストコンディションの泳ぎをバックアップします。波浪現象の減衰効果に最も優れた競泳用コースロープです。これは、東京大学での流体力学性能検査でも実証されました。最新の研究開発が生んだハイクオリティーなコースロープです。



品　番：KGS-150　　材　質：硬質ポリエチレン

株式会社サンクレア　〒104　東京都中央区新川1-5-17 新川Mビル3F
TEL 03-5543-1820　FAX 03-5543-1828

Suncrea

環境エクステリア総合メーカー
サンポールからの
提案です。

駐車場無人管理

AUTO SUNBARICAR® オートサンバリカー

●耐久性抜群。ステンレスタイプの自動ゲート
●無断駐車、侵入をシャットアウト
●専用のワイヤレスリモコンでカンタン操作
●さらに便利なオプションも多彩

待望のステンレスモデル TC-700 新登場



■車止め
■横断防止柵
■ストリートファニチャー
■アルミ旗ポール

〈専用カタログをご請求ください〉

株式会社サンポール

本社	〒730 広島市中区南吉島2丁目4-5	TEL.(082)244-4655	FAX.(082)243-5914
東京	〒150 東京都渋谷区神宮前3丁目27-15	TEL.(03)3408-2691	FAX.(03)3408-1895
大阪駐在員事務所	〒554 大阪市此花区島屋4丁目4-10	TEL.(06) 464-4655	FAX.(06) 464-4115

佐渡島金属株式会社

本　　社　大阪市中央区島之内1丁目16番19号

クリンタイル事業部

本　　社(06) 244-5603
東　　京(03)3292-8375
栃木工場(0287)46-0380

駅や道路、公共施設などに利用されるクリンタイルを製造して40年。当部門は製造・販売・施工を事業化し、一貫体制のもと全国数万カ所にも及ぶ実績を築いてきました。佐渡島金属のクリンタイルは、ＪＩＳ規格の２倍の耐久性、優れた防音効果、安全かつ快適な歩行性、そして工期の短縮化などを実現し、今や市場占有率は60%以上に達しています。さらに、天然花崗岩の光沢を持つ床材も開発するほか、レンガや階段ブロックなども扱い、美しい街づくりに貢献しています。

商　品　名
クリンノンスリップタイル
クリンＳ・Ｇストーン
クリンテラゾータイル
レンガ
エバーストーン
クリンノンスリップストーン
クリンステップストーン
クリンランプウェイタイル
クリンガードタイル
クリンリベガード
パクストンステップ
クラプレート
各種タイル

建築部門

本社(06) 244-5623
東京(03)3292-2731

ビルや駅、公共施設などは化粧金物を取付して40年になりました。
町のいたる所に当社の製品を見る事が出来ます。
設計、製作、施工の一貫作業で、信頼を得ています。
アルミ、ステンレスの化粧金物、金属屋根の工事等、あらゆる建物に使用されております。

主な取扱商品
アルミ：スペンドレル、パネル、笠木、手摺
ステンレス：パネル、手摺
屋根：アルミ、銅、ステンレス

ガラリはタテ、タテは三基のタテ型ルーバ

取扱商品（主要分）

1．タテ型防水ガラリ……【サンキルーバ】大きな開口率【50%】ながら、暴風雨の時でも100%近く雨水は侵入しません。

2．平面用防水ガラリ……【スカイパーゴラ】雨水と暑い日射は防ぎ、空気と光は通す一種の屋根材です。【厚さ：70mm & 100mm】

3．タテ型防音防水ガラリ……【エースルーバ】大きい遮音性能【500Hz：TL =11dB】を兼ね備えた防水ガラリです。

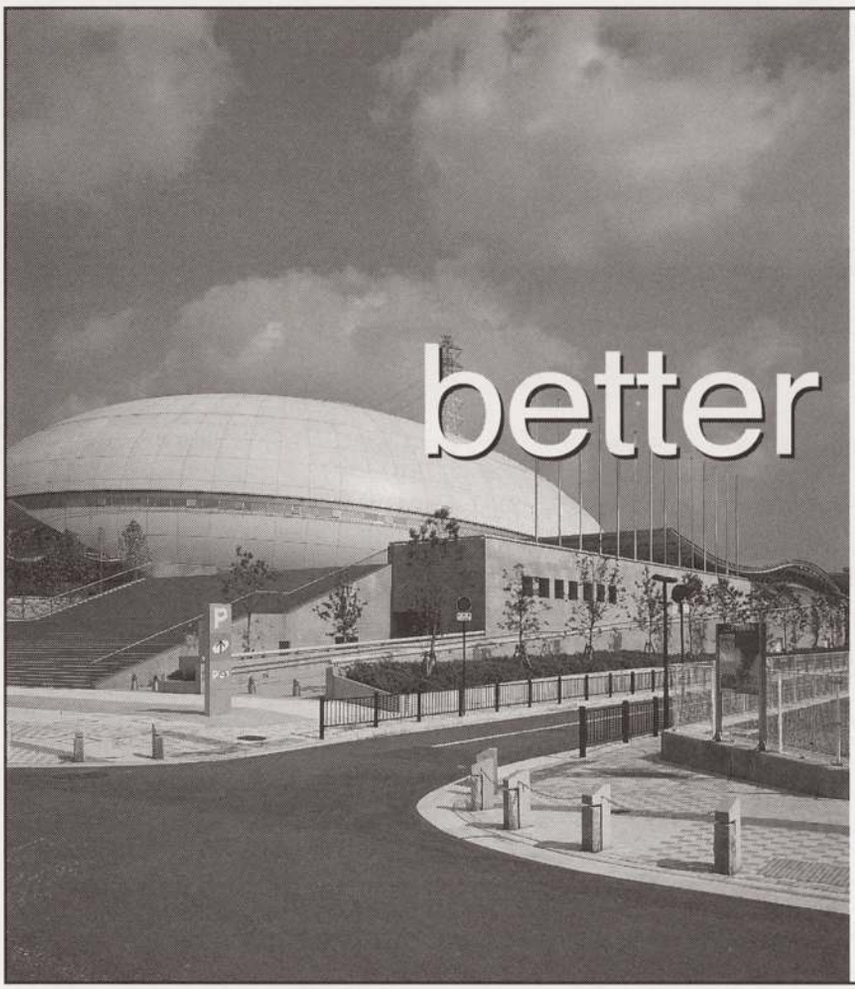
アルミ製ガラリ等の専門メーカー

三基ルーバ株式会社

本社 〒104 東京都中央区八丁堀4-13-5
TEL：03(3551)7506㈹
FAX：03(3551)7568

大阪支店 〒541 大阪市中央区北久宝寺町4-4-2
TEL：06(245)5140
FAX：06(245)5242

千葉研究所 TEL：043(445)3144
名古屋営業所 TEL：052(211)3808
福岡営業所 TEL：092(481)1982



三協アルミ

better to BEST

暮らしにいちばんの快適さをお届けしたい。
住宅用建材からビル用建材まで。
三協アルミの技術です。

なみはやドーム

三協アルミニウム工業株式会社
大阪統括支店:〒550 大阪市西区靱本町1-9-15 TEL 06-448-5456
ホームページ http://www.sankyoalumi.co.jp/

三晃金属工業株式会社
Sanko

金属屋根のパイオニア

●長尺屋根……責任施工による折板・瓦棒・円筒葺・横葺屋根・フラット屋根
●R-T工法……屋根の美しさと防水性を追求したステンレスシーム溶接工法
●Mルーフ……耐候性鋼板による自立式多目的複合屋根
●ハイタフ……ファスナー緊定による外断熱/EP系シート防水システム
●塗　　装……建物のライフと外観美を増す屋根・壁塗装

※美観重視：屋根一体型太陽発電屋根システム
※新 製 品：ソーラーシステム　フラット&ヨコブキ

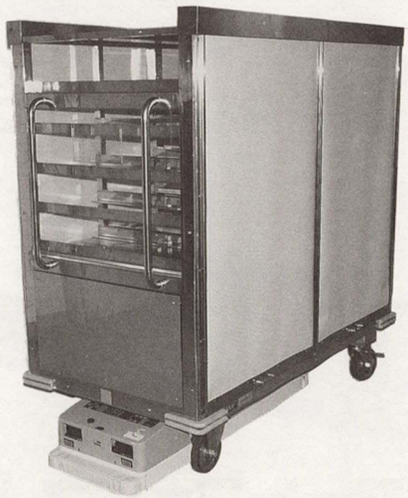
三晃金属工業株式会社

大阪支店　大阪市中央区北浜4-1-21 住友生命淀屋橋ビル
☎06(231)8571　FAX06(222)6393

神戸営業所☎078(732)7272 大津営業所☎0775(24)7572 福知山営業所☎0773(27)2372 泉南営業所☎0724(66)4763
奈良営業所☎07442(4)1034 高松営業所☎0878(22)4451 松 山 営 業 所☎0899(33)6055

自動搬送台車製造メーカー

・用　途：食事ワゴン車の自動配送
・誘　導：磁気テープ貼付、磁界線埋設
　その他各種手法採用
・走　行：24H稼働、エレベーターの自動呼
　込み乗り入れ可
・搬送能力：100Kg～500Kg
・外　装：ステンレス、抗菌仕上
・仕　様：当社は設計から製造するメーカー
　です。皆様方のご要望は何なりと
　お申し付け下さい。

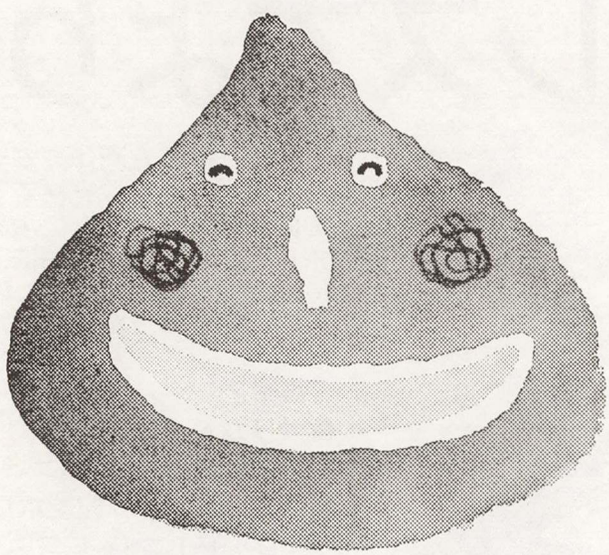




紫光通信工業株式会社

□本社工場：〒921　石川県金沢市進和町10番地　■TEL 076-291-6800 FAX 076-291-5559
□東京営業所：〒153　東京都目黒区下目黒1-3-2-301号（目黒第3ビル）　■TEL 03-3495-7072 FAX 03-3495-8770
□名古屋営業所：〒452　愛知県西春日井郡春日町大字落合字上河原2番地　■TEL 052-400-3313 FAX 052-400-8648

ほっと、ネット。



わはは、ハート。

オフィスビルを、もっと知的に、使いやすく。工場やプラント施設を、明るく、クリーンに、効率的に。すべての街を、そして、すべての人を、元気に、豊かに、イキイキと…。私たちは「電気」「水」「空気」「情報」を通じて、みんなに幸せを届ける総合設備事業のクリエイティブ・カンパニー。だれにも負けない大きな笑顔で、どこよりも快適な環境を創造します。



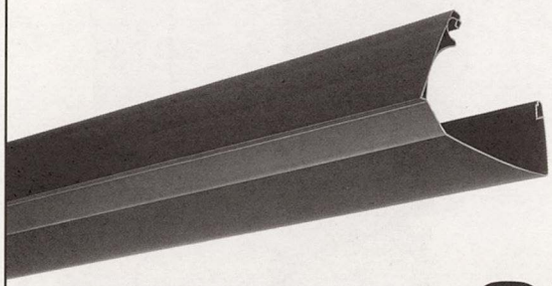
いろんな快適、笑顔でつなぐ。

住友電設

SEKISUI

積水化学工業株式会社
住宅資材事業本部 建材事業部
〒530 大阪市北区西天満2-4-4

スクエアなフォルムが、
軒先をシャープに演出。



アートフェイス S120

●端正なフォルムが屋根材と美しく調和。洋風瓦、平瓦に違和感なく一体化。
軒下から見上げた印象もスッキリ。軒先にシンプルな直線ラインが映えます。
●排水性向上を追求した前面傾斜角度が、雨ダレを最小限に抑え、美観を保ちます。
●熱伸縮を吸収する洋風じょうごが、施工時間の短縮と省力化を実現します。
●完全内吊り式のエンプラブラケットが、多積雪や強風に余裕の高強度を発揮。

お問い合わせは ☎ 06-365-4189

強く、軽く、誇らしく。
高密度圧縮したセメント材を高分子繊維で強化。
瓦の逸品「ブルック」。



ゼロアスベスト

セキスイかわら・ブルック
BROOK II

●レリーフ模様が光により屋根の色調を微妙に変える、気品と風格のデザイン。
●高密度素材を高圧プレス加工で成型し、優れた耐久性を維持。
●粘土瓦の約1／2(※1)と軽く、また独自の固定方式で60m/秒(※2)の強風にも耐え、
地震や台風などの自然災害にも強さを発揮。(※1当社調べ・※2当社実験値)
●高い断熱性や遮音性、優れた通気性が住み心地の良い快適空間を実現。
●人体に悪影響をおよぼす石綿をまったく含まないゼロアスベスト屋根材。

お問い合わせは フリーダイヤル 0120-269-055 ブルックはココ
※多雪地・寒冷地など対応できない地域もありますのでご相談ください。

[セキスイかわら・ホームページ] http://www.sekisui.co.jp/juushi/index.htm

ボルトレスでより美しく



ポリカドームは、ドーム面体に安全性に優れたポリカーボネート樹脂を使用した天井採光材です。ボルトレスタイプは、アルミ製の面体押えフレームによる全周押え組立方式により、面体取付ボルトをなくすとともに、本体フレームもコーナーソケットによる組み立て方式で、四隅のコーナーソケットに結露排水のためのドレン機能を持たせました。

＜規格＞
●ポリカドーム排煙型ボルトレスタイプ
半球形状ドーム、ピラミッド形状ドーム
●ポリカドーム一般型ボルトレスタイプ
半球形状ドーム、ピラミッド形状ドーム

＜ボルトレスタイプ＞
タキロン ポリカドーム

タキロン株式会社
本 社 〒541 大阪市中央区安土町2-3-13 ☎(06)267-2692 仙 台 ☎(022)266-2171
東 京 ☎(03)3278-5513 名古屋 ☎(052)971-6600 大 阪 ☎(06)267-2841 福 岡 ☎(092)761-3381
●お問い合わせ・資料のご請求は本社広報部まで。

あくまでも カーペットのような ビニル床シート
スーラズ キャビティ 誕生

好評のスーラズ シリーズに、カーペット調の「スーラズ キャビティ」誕生。
医療施設や福祉施設 商業施設をはじめ、さまざまな空間で活躍します。
表層に特殊抗菌剤を使用していますので、床表面に落下、
付着した細菌の発育、増殖を抑制し常に清潔です。
価格も、シリーズ中もっともリーズナブル。



SHEET VINYL FLOORING
重歩行用ビニル床シート

スーラズ キャビティ

価格（工事費別）
3,500円／m²

規 格 ●寸法 2.0mm（厚さ）×1,820mm（幅）×9m（長さ） ●色数 18色

●カーペット調マルチカラーにより、落ち着いた空間づくりができます。
●保温性に優れ、暖か味があります。
●ナチュラルエンボスにより、すべりにくさを実現。
●継ぎ目は断面溶着型「シームシーラーS」により見栄えが良く、
継ぎ目からの水の侵入もなく、クリーンな状態を保つことができます。
●表層に特殊抗菌剤を使用していますので、床表面に落下、付着した
細菌の発育、増殖を抑制し常に清潔です。

株式会社タジマ
営業本部／〒101 東京都千代田区岩本町3-11-13
TEL.03-5821-7731 FAX.03-3862-5908
大阪営業所／〒550 大阪市西区京町堀1-10-5
TEL.06-441-5951 FAX.06-444-2596

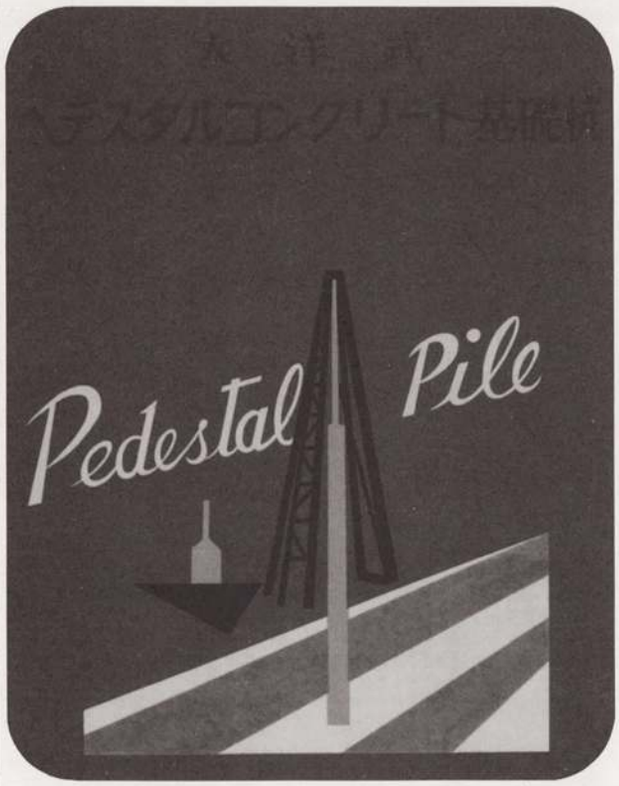


あなたの、
いちばん心地良い場所はどこですか。
きっと、多くの方が、
大自然の中をイメージされることでしょう。
私たちは、そんな快適さを
あらゆる建物の内に
創造していきたいと考えています。
もっとナチュラルに、
いつもあなたのそばに、ダイダンです。

Always With You.

—光と空気と水を生かす—
ダイダン

大洋基礎株式会社
TAIYO FOUNDATION CO., LTD.



本　　社　〒103 東京都中央区日本橋小舟町３－４
(03)3663-5561　(代表)
大阪支店　〒541 大阪市中央区北久宝寺町２－１－10
船場吉兆ビル(06)267-5311　(代表)
支　　店　東京・新潟・福岡・地盤改良部
営 業 所　名古屋・広島・南九州・沖縄
出 張 所　仙台

から　45年

営　業　種　目

●場所打鋼管コンクリート杭	耐震杭工法(NKTB･SKTB･KKTB･SMTB)
●場所打拡底杭工法	ACE工法・WING工法
●全周回転式オールケーシング工法	岩盤・転石掘削・CD工法
●一般場所打杭工法	アースドリル工法･オールケーシング工法 リバース工法・深礎工法
●地盤改良工法	エポコラム工法･CSL 工法･表面改良工法 サンドコンパクション工法･ドレーンパイプ工法 パックドレーン工法･サンドドレーン工法

創業65年の伝統と新技術
拡底工法・連続土留壁工法
21世紀未来都市に貢献する

営業種目　場所打コンクリート工法全般　場所打拡底杭工法全般
既製杭工法全般　山留工事･地盤改良工事
載荷試験・各種試験工事　設計・コンサルタント

(社)日本基礎建設協会々員

太洋組株式会社

本　　社　大阪市北区梅田２－２－25
TEL06(344)2791　FAX06(344)4060
営 業 所　神戸市中央区中町通３－１　サンビル
TEL078(351)5141

なみはや国体まであとわずか！

準備万全 “夢舞台”

快適なスポーツ観戦が約束された
スタンドへ。
TMトラスと膜が織り成す空間が
提供します。





長居陸上競技場　設計／昭和設計　施工／竹中工務店・フジタ・鴻池JV

太陽工業株式会社 空間建築事業部 建築システム事業部

大阪市淀川区木川東4-8-4 〒532 ☎ (06) 306-3071（膜） ・ (06) 306-3078（トラス）
東京都目黒区東山3-22-1 〒153 ☎ (03) 3714-3470 ・ (03) 3714-3471
名古屋・札幌・仙台・北関東・広島・福岡

●イリノイ・ニューヨーク
●一級建築事務所　特定建設業者大臣許可（特-5）第381号
●㈳日本膜構造協会正会員　㈶日本体育施設協会特別会員
インターネットホームページ　http：//www.taiyokogyo.co.jp/

薄型打ち込み型枠ＲＭユニット　〝ＤＥＮＸ〟　デンクス

新しい鉄筋コンクリートへの提案

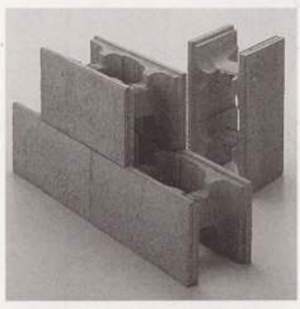
乾式施工　目地のモルタルが不要となり、施工スピードのアップが図れます。

省力化施工　壁型枠が不要となり、施工の省力化が可能です。

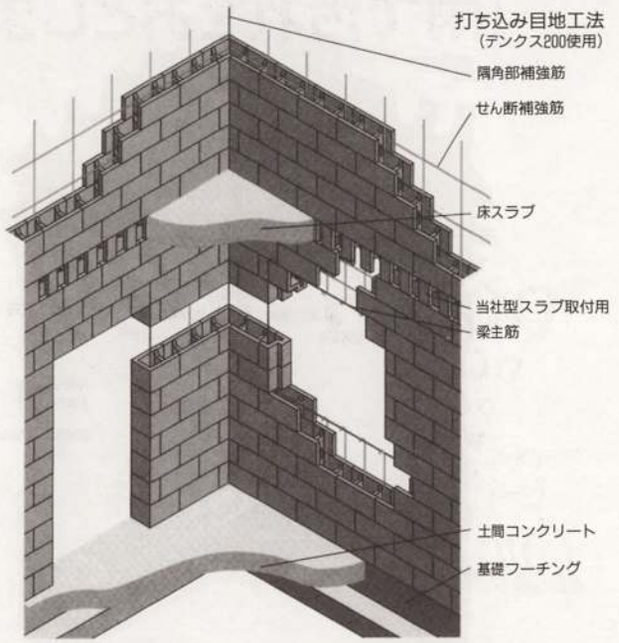
高耐久性　高強度ユニットが打ち込みコンクリートを保護するシェル(殻)となるため、構造物の耐久性が向上します。

環境に優しい　建築材料を大幅にカットする事が出来ます。

建築施工のシステム化　小型のためハンドリングが容易で密集地での完全な土地利用や不整理地への適応にも優れています。又、モジュール寸法の採用で施工のシステム化が図れます。



DENX200

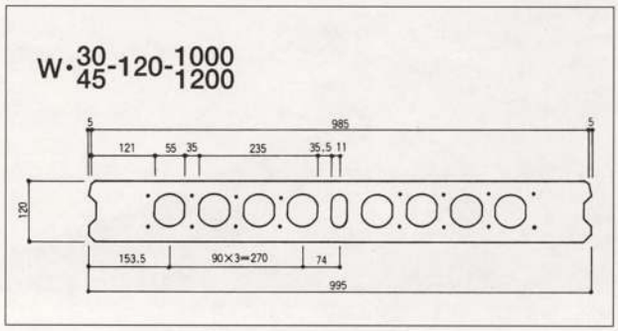


太陽セメント工業株式会社
本　社　〒553 大阪市福島区吉野4－22－9　TEL 06 (466) 6753
東京支店　〒101 東京都千代田区岩本町2-9-3第2片山ビル4F　TEL 03 (3863) 8978

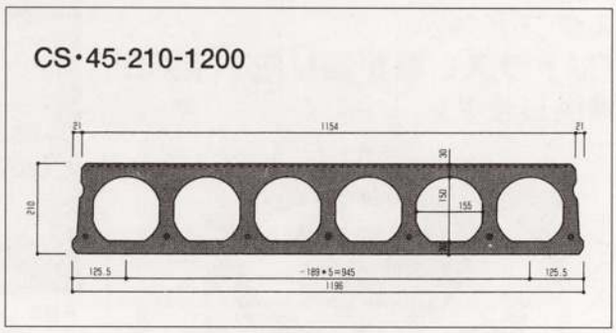
ニーズにこたえる穴あきPC板

スパンクリート&バリアックス

強くて、軽くて堅牢な
スパンクリートです。



建築シーンに革命を起こす
バリアックスです。



ツルガ スパンクリート株式会社

本　　社　〒530　大阪市北区茶屋町18-21(豊崎ビル)　TEL 06-374-1245　FAX 06-371-3823
名古屋支店　〒450　名古屋市中村区名駅4丁目7-35(毎日会館)　TEL 052-571-7481　FAX 052-582-0239
神戸工場　〒651-22　神戸市西区枦谷町福谷字助広339-2　TEL 078-991-1956　FAX 078-991-1277

雨とお友達になりました。
(雨で汚れをおとします。)



雨筋汚れ防止
低汚染形ふっ素樹脂塗料

DC ニューガーメットDCシリーズ



株式会社トウペ

旧社名　東亜ペイント

本　社　592 大阪府堺市築港新町1丁5番地11
☎(0722)43-6411　FAX (0722)43-6451
東京支店　103 東京都中央区日本橋室町2丁目3番14号(古河ビル)
☎(03)3279-6441　FAX (03)3279-6453

TOSHIBA

乗る人の気持ちを考える。
そこから始まる技術、
すすめています。

21世紀を生きる、私たちの子供たち、そのまた子供たちが安心して利用できるエレベーター・エスカレーターづくりを。
そのために東芝が理想としている技術をひと言でいえば、それは、技術を感じさせない技術。乗っていることを感じさせない技術こそ、私たちの理想です。
人やモノを運ぶタテの輸送機関から、人の気持ちを考えたアメニティ空間へ。
私たち東芝は、21世紀を見すえた都市環境づくりに取りくんでいます。



東芝エレベーター・エスカレーター

株式会社 東芝　関西支社　昇降機部

〒559 大阪市住之江区南港北1-14-16大阪WTCビル9F
TEL(06)615-6163～4　FAX(06)615-3084

バケツ4745杯

TOTOの節水便器なら、年間にバケツ4745杯節水できます。(当社比※)

※バケツは、一杯を4Lとして計算しています。◎4人家族、1人1日に大1回小2回使用するとして計算→従来シリーズに対しNEW ZG・ZS NEW CSシリーズは、約33%、18,980L／年を節水できます。

◎商品についてのお問い合わせは、TOTOお客様相談室 フリーダイヤル 0120-03-1010まで。受付時間9:00～17:30(土、日、祝日を除く)



快適な明日を提案する
TOYO Shutter

ビルに居たまま、耐震補強と外装リニューアル。



耐震補強・省エネ外装改修システム
BUILFINE®

日本のビルを生まれ変わらせる新工法『ビルファイン・マーク2』。

外装改修システム『ビルファイン』をさらに発展させて、既存建物の外側構面に補強ブレースやその他の装置を配置することで、耐震補強と外装リニューアルを同時に行う新工法『ビルファイン・マーク2』。工事中も、建物内部はそのまま使用できます。（鹿島建設株式会社との共同開発）

東洋シヤッター株式会社
本　社〒540 大阪市中央区南新町1-2-10 TSビル
☎ 06 (943) 6571
東京本社〒106 東京都港区六本木6-3-18 第一地所麻布ビル
☎ 03(3479)2911

東熱



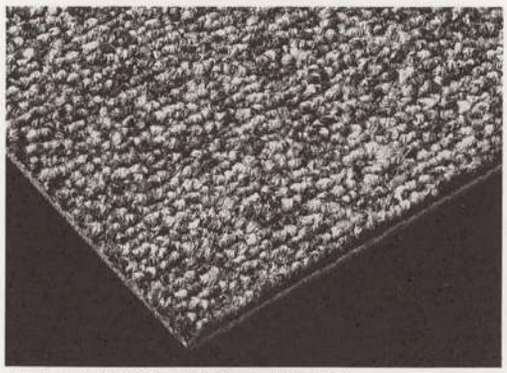
時代の呼吸に応える技術
東洋熱工業株式会社

本　社　〒104東京都中央区京橋2-5-12　TEL03-3562-1351
大阪支店　〒550大阪市西区靭本町3-1-27　TEL06-443-8071

多色

新発売。多色感あふれる色彩が特長

GA7000



•BCFナイロン100% •8,900円/m²（税抜き）

多彩

プリントタイルカーペット

GF2300



•BCFナイロン100% •10,300円/m²（税抜き）

◆東リ タイルカーペット◆

東リ株式会社

■西日本営業開発部　〒540 大阪市中央区大手前1-7-31 OMMビル　TEL.06（943）1645
■大阪ショールーム　〒540 大阪市中央区大手前1-7-31 OMMビル7F　TEL.06（943）1649

nichicon

高調波環境レベルの改善に
ニチコンの技術がお役に立ちます。

◆ハイテク機器にひそむ、電気のウイルス。
◆通産省"高調波抑制対策ガイドライン"制定。
※「高調波対応お客様相談室」を設けております。
お気軽にどうぞ。

取扱品目

高調波の監視と測定
高調波電圧監視装置・高調波分析器・高調波過電流警報装置

高調波の流入対策
高調波対応高圧進相コンデンサ・直列リアクトル

高調波の流出対策
交流フィルタ・アクティブフィルタ・ハイブリッドパワーフィルタ



ニチコンの
高調波対策技術

ニチコン株式会社　京都市中京区御池通烏丸東入 上原ビル3階 〒604 TEL.075-231-8461 FAX.075-256-4158
支店/東京 TEL.03-5493-3611・大阪 TEL.06-362-6421・名古屋 TEL.052-223-5581 営業所／札幌・仙台・水戸・栃木・熊谷・八王子・沼津・長野・広島・鳥取・高松・福岡

祝　株式会社 昭和設計　創立40周年

ニチベイは、快適な光空間の創造を目指します。



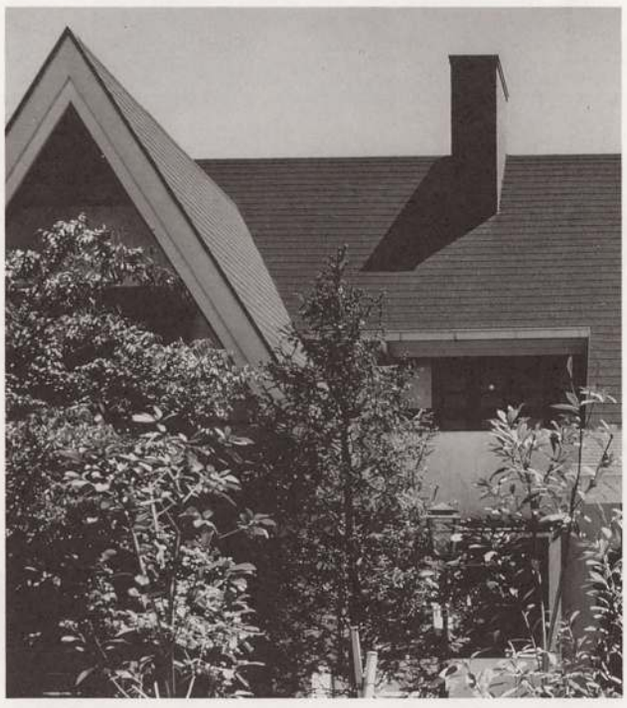
窓装飾と間仕切りの専門メーカーとして、
つねにマーケットニーズを見つめ、
ホームユースからコントラクトユースまで、
幅広い商品づくりを心がけてきました。
これからも、ニチベイは、
機能性とデザイン性に富んだ、
さまざまな商品を通じて
快適空間の創造を目指します。

商品名：ロールスクリーン「ソフィー テクノサイレントタイプ」

株式会社ニチベイ
本社 / 〒103 東京都中央区日本橋3-15-4
ビル事業部 営業推進室 / 〒103 東京都中央区日本橋3-15-4 TEL. (03) 3272-2233
/ 〒540 大阪市中央北浜東1-8 TEL. (06) 949-2806

くっきり、鮮やか。

——屋根はいま、新しい表情をもった



柔らかな質感、鮮やかなライン、深い色どり。美しい葺き味でフネンシングル・一文字は日本の屋根に確実に定着してきました。親しめる建物や環境づくりにあわせて選んだ、新色9色がそろって、さらに個性的、さらに魅力的になりました。

三星フネンシングル
一文字

お陰様で20周年

西日本三星シングル工事協同組合
田島ルーフィング株式会社

大 阪：〒550 大阪市西区京町堀1-10-5 TEL(06)443—0431
神 戸：〒650 神戸市中央区栄町通5-1-22 TEL(078)362—6121
広 島：〒730 広島市中区西平塚町8-13 TEL(082)246—8625
福 岡：〒810 福岡市中央区大名2-4-35 TEL(092)724—8111



だから、
日精パーキング。

これからの街づくりに
駐車場スペースの確保は欠かせない問題。
限られた都市空間を効率よく活用するために、
日精では多彩なバリエーションの機械式駐車設備を開発。
収納効率、安全性、スピーディーな入出庫など、
日精だからの独自の技術が高い評価をえています。
快適な都市づくりに、業界の先端をいく
パーキングシステムで貢献する日精です。



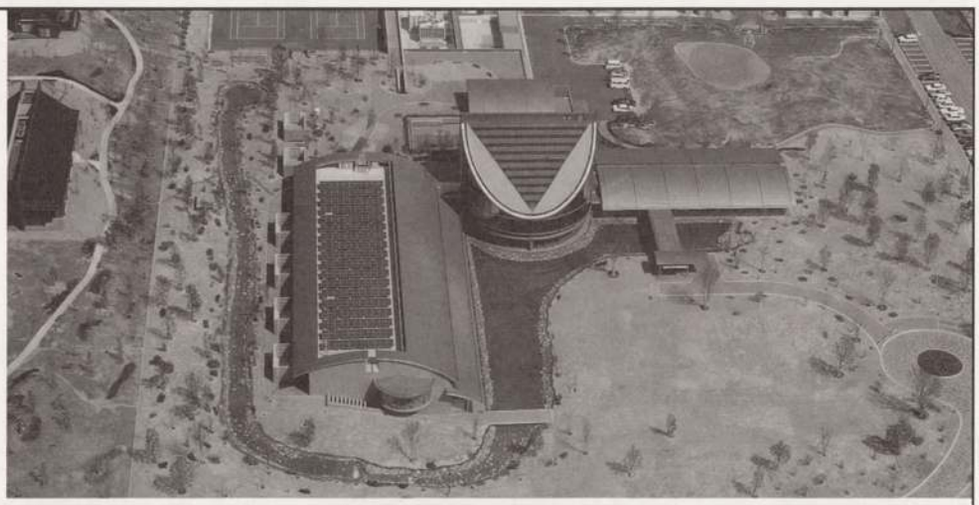
ELパーキング
エレベータ方式（フォーク式）
スピーディーな入出庫を可能にした独自のフォーク式。昇降時の騒音、振動も少なく安全面でも耐震設計を取り入れるなど利用者の立場に立った設計がうれしいエレベータ式駐車設備です。



CSパーキング
平面往復方式
地下スペースを最大限に活用した大量駐車に最適。入出庫準備運転システムの採用により取り出し時間を大幅に短縮、さらに低コスト化も実現した新型の中・大規模地下式駐車設備です。

日精株式会社 大阪支店
〒541 大阪市中央区本町4丁目4番24号 TEL.(06)244-9401(代表) FAX.(06)244-9408
本社(03)3502-9555/札幌(011)231-8513/東北(022)227-8257/日立(029)285-8000/名古屋(052)252-0360/広島(082)247-1421/山口(0833)43-6637/宇部(0836)35-1220/福岡(092)474-6261

逸品の選択



あらゆる自然条件や地理的条件から建築物を守りつづける、機能としての屋根・壁。色や質感、葺きあがりにもこだわりたい、美観としての屋根・壁。そのすべてに満足が得られるものこそが、逸品と呼ばれる。耐食・耐久性にすぐれたステンレスに各種コーティングで、ゆたかな色彩と色調を与えた日金工のスワンカラーシリーズ。逸品のマテリアルとして、全国各地でご好評をいただいています。

シリコンポリエステル塗装ステンレス
スワンカラー
●標準色：シルバー、ゴールド、ブラウン、ブルー、他5色

フッ素樹脂塗装ステンレス
スワンカラーF
●標準色：シャトーグレー、シルクブラック、カカオブラウン、メタリックシルバー、他1色

艶消塗装ステンレス
スワンカラーLG NEW
●標準色：クリスタルシルバー、ダークブラウン、タキシードブラック、緑青、銀黒、モスグリーン、ミッドナイトブルー

フッ素樹脂塗装ステンレス
スワンクリアF
●標準色：クリアFブロンズ、クリアFブラック、クリアFブルー、クリアFクリア、他3色

■パーフェクト防水に
ステンレス溶接防水工法
SG工法

ステンレスの
日金工
日本金属工業株式会社

大阪支店 建材チーム
大阪市中央区南本町4-2-21(イヨビル)
〒541☎(06)251-5358(直通)
● FAX. 251-5349



LIVEWARE
ライブウエア

＜機械と機能を人間らしい感性で紬ぐ＞

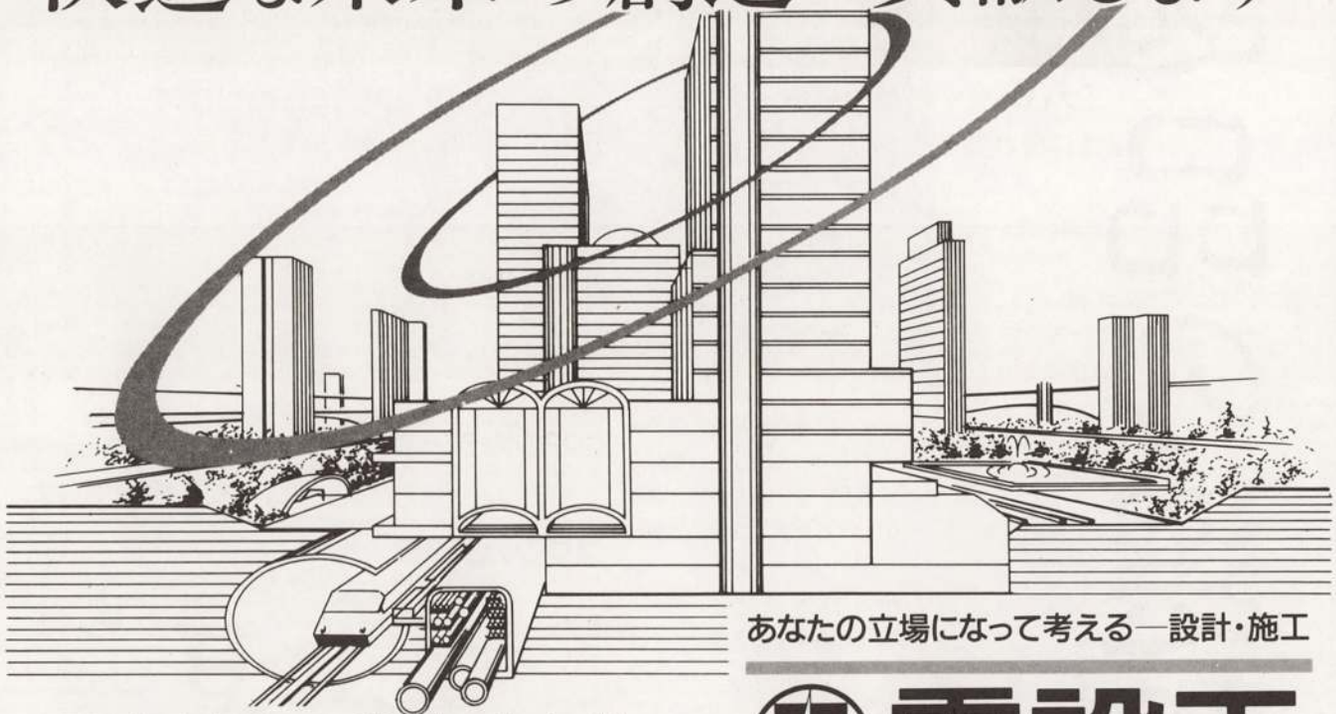
高度情報社会は、私たちのコミュニケーションの
あり方を大きく変えようとしています。
今こそ、もっと人に優しく、人でなければできないことを
提供する必要があると考えます。
JATOがめざすのは、そんなきわめて人間的なモノづくりです。

JATOは、ハードウェア(機械)とソフトウェア(機能)に
ヒューマンウェア(人間の感性)を融合し、調和のとれた最適なシステムを作り出すことを
LIVEWARE〈ライブウエア〉と名づけました

営業品目●ホール音響システム●スタジオAVシステム●会議場AVシステム●各種宴会場・専門結婚式場AVLシステム●特殊音響照明システム●各種一般・防災放送システム●地下鉄集中自動放送システム●CATVシステム●CCTVシステム●入室管理システム●セキュリティシステム●ホテルフロント会計システム●ホテル客室管理システム●ホテルベイシステム●フロントキー管理システム●特殊インターホンシステム●空調システム●産業用省力・自動制御システム

JATO 日本通信小野特機株式会社
〒530 大阪市北区末広町1番22号 TEL 06-313-1351 FAX 06-313-0582
支店／東京　営業所／神戸・広島・四国・九州・北京

快適な未来の創造に貢献します



あなたの立場になって考える―設計・施工

日本電設工業株式会社
本　店　東京都台東区池之端1－2－23
TEL (03) 3822－8811(大代表)
大阪支店　大阪市北区豊崎3丁目17－15
TEL (06) 372－3533

電設工

◇頭付きスタッド・スタッドボルト溶接工事
◇耐震スタッド　・パイルスタッド溶接工事
◇建設用びょう打ち銃
（ドライブイット，パトロー，MAC25）
◇SRC造柱脚用アンカー（フリーベース工法）
◇耐震補強工事
◇コンクリート用アンカー（金属拡張型アンカー，
樹脂接着型アンカー，耐震用ＴＳアンカー）
◇工業用ファスナー　各種
◇スタッド溶接装置　各種

日本ドライブイット株式会社

□本社　東京都大田区田園調布南8-10 〒145 ☎ 03-3750-1211　FAX 03-3750-3200

□ 札幌市東区北19条東21-4-13 〒065 ☎ 011-786-2612
□ 仙台市宮城野区榴岡4-13-13 〒983 ☎ 022-295-2731
□ 新潟市米山2-6-3 〒950 ☎ 025-241-0325
□ 宇都宮市不動前1-3-45 〒320 ☎ 028-635-4532
□ 大宮市上小町516 〒331 ☎ 048-647-7630
□ 東京都大田区田園調布南8-10 〒145 ☎ 03-3750-1311
□ 厚木市田村町11-20 〒243 ☎ 0462-22-7100
□ 静岡市高松2-23-5 〒422 ☎ 054-237-8780
□ 名古屋市中区新栄1-26-18 〒460 ☎ 052-242-0761
□ 大阪市西区九条1-27-6 〒550 住金興産 ☎ 06-584-4181
□ 神戸市中央区下山手通5-7-7 〒650 ☎ 078-371-9001
□ 岡山市青江928-7 〒700 ☎ 086-264-9668
□ 高松市松縄町48-3 〒760 ☎ 0878-68-2233
□ 広島市中区吉島西1-30-12 〒730 ☎ 082-248-3935
□ 福岡市博多区東那珂1-16-22 〒816 ☎ 092-441-8321
海外 □ シンガポール □ クアラルンプール
工場 □ 真岡市

—— スタッド施工代理店 ——

株式会社　サンアロー

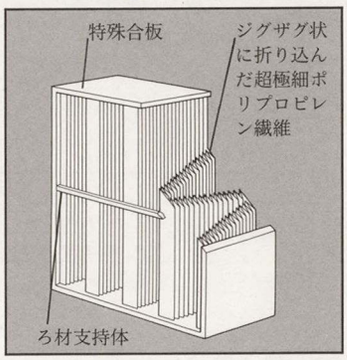
〒551 大阪市大正区三軒家東１丁目12番18号
ＴＥＬ．０６－５５４－８９０８
ＦＡＸ．０６－５５４－８９０９

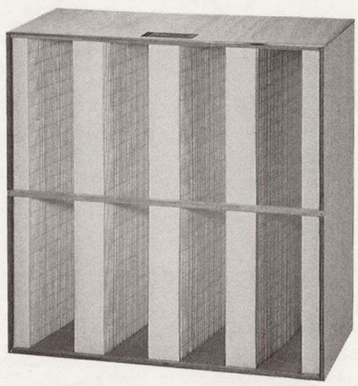
塩害防止用フィルタ

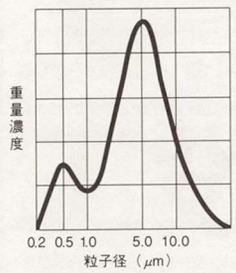
フィロ・ソルト
VILO SALT

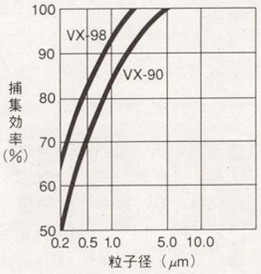
「フィロ・ソルト」は超極細ポリプロピレン繊維（繊維径0.5～2μ）と
保型性に優れた不織布による2層構造のろ材よりなる塩害防止用フィルタです。

●高い捕集効率
海塩粒子に対し、非常に高い捕集効率を示します。
●耐湿性に優れたろ材
不織布からできているので、耐湿性に優れ使用中での破損はありません。
●優れたろ材強度
耐圧性に優れ、輸送中や取付け時のショックによる破損がなく、取扱いが簡単です。









vilene®
日本バイリーン株式会社
空調資材営業本部

東　京／〒101 東京都千代田区外神田2-14-5 バイリーンビル
TEL (03) 3258-3371　FAX (03) 3258-3324
大　阪／〒565 大阪府豊中市新千里西町1-2-2 住友コンピュータービルディング
TEL (06) 836-1921　FAX (06) 836-1934
名古屋／〒460 名古屋市中区錦２-18-５白川第6ビル
TEL (052) 203-1461　FAX (052) 203-1570

Victor
JVC
※JVCは、日本ビクターの世界ブランドです。

Victor Original Sound Systems
VOSS



時間(とき)を彩る音。

音創りのコンセプトはハイスピード・ハイファイ。小音量でも素早く遠くまで行き渡るパンチ力（ハイスピード感）、声や音を個性豊かに表現する暖かいハート（ハイファイ性）を獲得したVOSS。アンプ/スピーカー/ミキサーなど豊富な製品ラインアップに加え、音響設備の設計から施工までをトータルシステムとして取り組むビクター。コンベンションホールや会議場など各々の音響空間が求めるキメ細かなニーズに対応し、その個性に合わせて、鮮やかな時間(とき)を彩ります。

●お問い合わせは——日本ビクター株式会社 システム営業本部 近畿システム支店
(〒543)大阪市天王寺区小橋町10-16 ☎(06)768-5356

VICTOR CREATES IT.

大型ビルの個別分散、ゾーニング空調に対応した
省スペース、床置形全熱交換機ユニット

▶省スペース
●機械室設置にも、柱間の壁面設置にも対応する、省スペースな床置形全熱交換器ユニット。

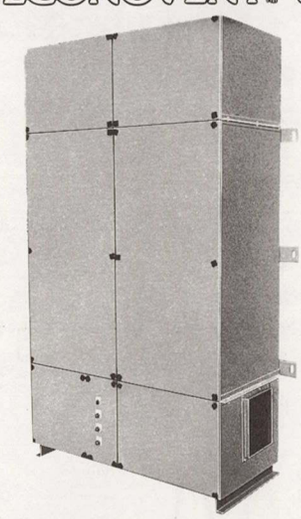
▶省エネルギー
○高効率で全熱交換ができる回転型全熱交換器使用。

▶システム性
○ゾーニング空調に対応可能。

▶操作性
○各ゾーンごとに操作可能。

▶メンテナンス
○メンテナンス容易。

ECONOVENT V



	型式	EVU -15V		EVU - 25V	
要目	電源	1φ-200V-50/60Hz		3φ-200V-50/60Hz	
	外形寸法(mm)	780W×1760H×490D		1233W×2225H×580D	
	送風機特性(Hz)	(50Hz)	(60Hz)	(50Hz)	(60Hz)
	風量(CMH)	1500	1500	2500	2500
	熱交換素子	アルミニウム素子		アルミニウム素子	
	消費電力(W)	800	1100	1700	2300
	電流値(A)	4.3	5.6	6.5	7.3
	騒音値dB(A)	41	43	43	44
	エアフィルター	フィレドンFS1705(給・排気共通)			
	重量(Kg)	145		250	

エコノベントVには、
EVU -15VとEVU - 25Vの2機種があります。

Fläkt
日本フレクト株式会社

本社 〒107 東京都港区赤坂 5-2-39 円通寺ガデリウスビル
TEL. 03(5563)7676(代) FAX. 03(5563)7654
大阪支店 〒530 大阪市北区芝田1-4-8 北阪急ビル
TEL. 06(374)1355(代) FAX. 06(375)1369
名古屋支店 〒460 名古屋市中区錦 2-18-5 白川第6ビル
TEL. 052(211)6230(代) FAX. 052(211)6345

熱と薬品に強いユニークな材質

ポリプロピレンパイプ

フジ・ポリレン-PP

特長　軽量で取扱いが容易
高温に使用出来る
耐薬品性がすぐれている
機械的強度が高い
低温に強い
施工が簡単である

用途　化学工業用管、上下水道管、温泉用管、研究所、病院等の排水管。食料原料輸送管。その他各種配管

ガラス繊維強化ポリプロピレン管

フジGRPパイプ

特長　耐薬品性がすぐれている
耐熱性が高い
軽量である
熱膨張係数が小さい
機械的強度が高い
施工が簡単である

備考　防火区画への貫通配管が可能になりました。
※ニジカン-APW(壁用)、※ニジカン-APF(床用)は(財)日本建築センター、(財)日本消防設備安全センター防災性能評定済。
※は古河電気工業株式会社の製品です。

富士化工株式会社

本社・工場／静岡県富士市前田90番地 TEL0545(61)1370 〒416

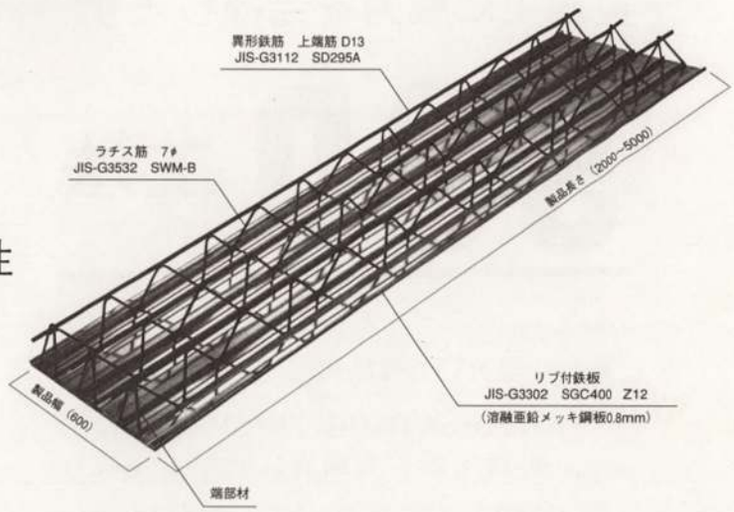
東京営業所 TEL 03(3861)6131
大阪営業所 TEL 06 (209)4233～6
名古屋営業所 TEL 052(202)3155
九州営業所 TEL092 (471)3358～9
仙台営業所 TEL0222(67)0339
札幌営業所 TEL011(214)8166
千葉営業所 TEL0436(43)2241
富士営業所 TEL0545(63)9566
広島営業所 TEL082(246)2840～1
富山連絡所 TEL0764(33)6429

フェローNCデッキ

トラス筋付合成スラブ

意匠登録・実用新案・特許　出願済

☆合理的構造　☆工期短縮
☆工事費低減　☆高い安全性
☆広い設計範囲



株式会社 富士昭

《大　　阪》〒540 大阪市中央区農人橋1-4-33　アメリカーナビル
TEL06-910-0081㈹　FAX06-910-0080

《名古屋営業所》〒460 名古屋市中区栄3-32-23　青木ビル西館2F
TEL052-242-3605㈹　FAX052-242-3626

National

省エネバンガード21
会長賞受賞

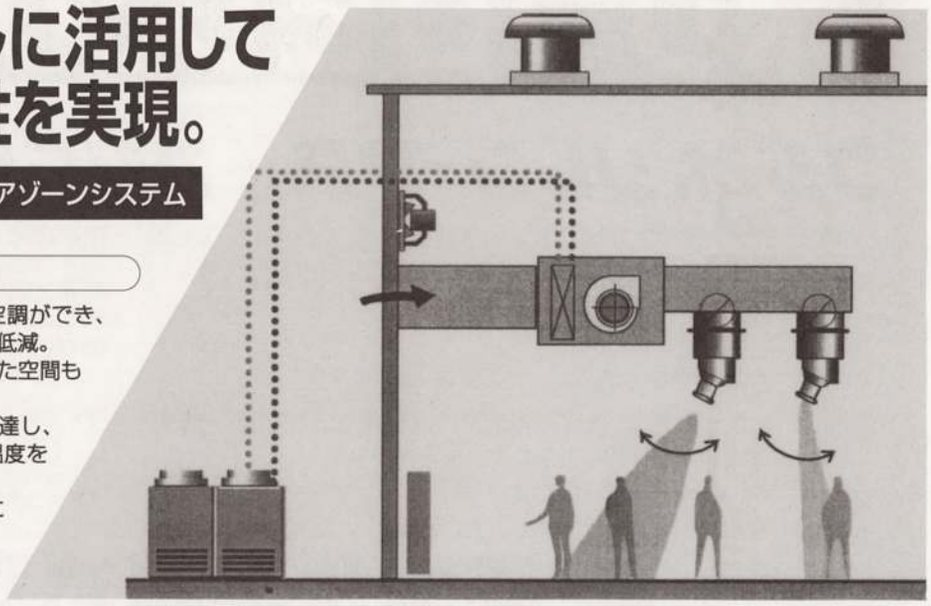
風の効果をフルに活用して省エネと快適性を実現。



産業用空調バリアゾーンシステム

主な特長

●必要スペースのみ空調ができ、イニシャルコストを低減。
●従来空調の難しかった空間も快適空間へ。
●最大8mまで風が到達し、大風速により体感温度を下げます。
●吹出口のスイング機能で、人の動きにも対応します。
●新鮮な外気を人のいるスペースに取り入れるので、空気環境が良化。



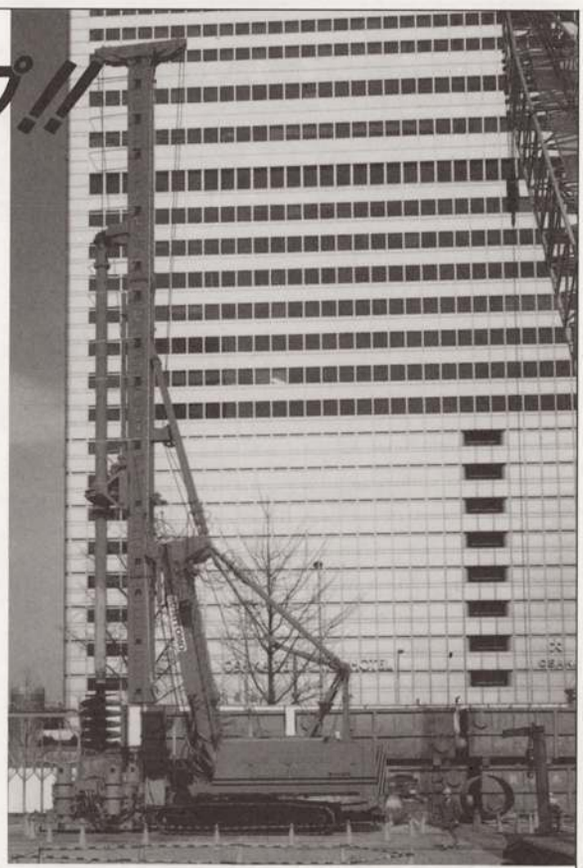
産業用空調「バリアゾーンシステム」

●お問い合わせは……松下電器産業株式会社 建設システム営業本部 ☎(03)5500-7504
松下精工株式会社 環境設備営業本部 ☎(0568)81-1511

岩盤破砕 パワーアップ!!

超大口径・超大深度**アースドリル工法**との
一貫施工に威力を発揮します。

SSD 工法



新しい場所打ち拡底杭

NKTB・SKTB・KKTB・SMTB杭工法
（耐震場所打ち鋼管コンクリート杭）

OMR／A工法（リバース式拡底掘削）

OMR／B工法（バケット式拡底掘削）

㊄ 丸五基礎工業株式会社

本　社　大阪市北区東天満2-6-2(南森町中央ビル) 〒530 ☎(06)358-3601㈹
関西支店　大阪市北区東天満2-6-2(南森町中央ビル) 〒530 ☎(06)358-3601㈹
東京支店　東京都江東区東陽6－3－30 〒135 ☎(03)3649-5131㈹
名古屋支店 ☎(052)222-6801㈹　福岡支店 ☎(092)472-4392㈹
広島支店 ☎(082)246-3211㈹　高松営業所 ☎(0878)81-2257

大いなる空間創造。

テクニックでは感動は生まれない。機能だけでは潤いが得られない。視点は「人と語る空間」。この思想を基に、私たちは幅広いステージで創作を積み重ねています。人と空間の豊かな関係を目指して、企画から設計・施工までトータルに展開。三越のインテリア。

官公庁、文化・公共施設、ホテル、オフィス、商業施設、レジャー・スポーツ施設、教育・医療施設、寺社、住宅・別荘



MITSUKOSHI

株式会社 三越 建装事業本部
関西建装事業部

〒103-01 東京都中央区日本橋室町1-4-1 TEL/03-3241-3311(大代表)
〒541 大阪市中央区高麗橋1-7-5 TEL/06-203-4769
大阪・札幌・横浜・仙台・倉敷・広島・高松・松山・新潟・金沢・福岡・鹿児島

三菱化学株式会社

先端新素材を補修、補強に活かす。

コンクリート補強用炭素繊維シート

REPLARK®

リペラーク®

日本建築防災協会技術評価対象材料
（コンクリート柱・煙突耐震補強）

コンクリート構造物を元気にしたい。

炭素繊維シート リペラーク® 工法

炭素繊維シート「リペラーク®」は、高強度炭素繊維を一方向に引き揃え、微量の樹脂を含浸させた補強効率が高く、作業性に優れたコンクリート補修・補強材料であり、エポキシ樹脂「エポサーム®レジン」を含浸、接着するだけの簡単施工により、工事の簡便化、工期の短縮を実現します。

「リペラーク®」の特徴

- ■ 軽　量　比重が鉄の1/5　貼付けによる躯体の重量増が殆どない
- ■ 高 強 度　鋼板の10倍の引張強度
- ■ 高 弾 性　鉄筋の応力負担を軽減
- ■ 高耐久性　錆は全く発生しないので、塩害等の腐食環境に最適
  また紫外線による強度劣化がなく、耐薬品性にも優れている
- ■ そ の 他　疲労に強く、様々な形状への貼付けが可能

適用部位

橋脚、橋梁・床版・煙突・トンネルの内壁・建物の柱、梁、天井、庇などあらゆるコンクリート構造物

施工手順



機能資材カンパニー
複合材事業部 CF複合材グループ
（平成9年6月27日付より組織名称変更）

国内販売：
〒100 東京都千代田区有楽町1-10-1（有楽町ビル）
TEL.03-3287-8056 FAX.03-3287-8058

海外販売、技術開発：
〒100 東京都千代田区丸の内2-5-2（三菱ビル）
TEL.03-3283-6838 FAX.03-3283-6769



ポルタス堺　設計：昭和設計　施工：竹中・鹿島・新井・鴻池・錢高・西松ＪＶ

ヤマキ工業株式会社

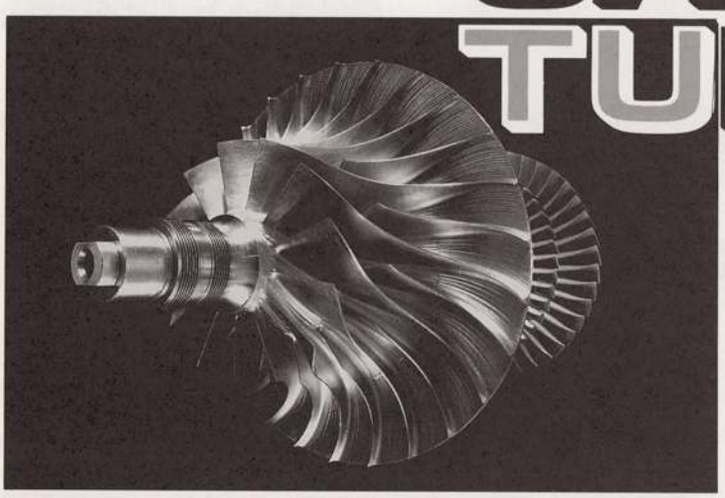
本社・工場　〒382 長野県須坂市小河原3954-20(松川林間工業団地) ☎026(248)1121代 FAX026(251)2000

東京支店　〒101 千代田区神田美土代町9-3(日経タイプビル2階) ☎03(3295)7961代 FAX03(5259)7105
大阪支店　〒550 大阪市西区江戸堀1-8-17(岡本ビル5階) ☎06(446)1431代 FAX06(459)3595
名古屋支店　〒460 名古屋市中区錦3-7-13(ユーハウスビル3階) ☎052(971)1885代 FAX052(950)1575
東北支店　〒980 仙台市青葉区本町2-10-22(第三太田ビル2階) ☎022(214)0555代 FAX022(216)4488
北信越支店　〒382 長野県須坂市小河原3954-20(松川林間工業団地) ☎026(251)2105代 FAX026(251)2000
九州支店　〒812 福岡市博多区博多駅前2-17-25(博多クリエートビル10階) ☎092(472)1161代 FAX092(472)1165
新潟営業所　〒950 新潟市中山3-3-16(貝津アパート2F) ☎025(272)3081代 FAX025(272)3082

"E"こと、咲かせる。
YANMAR
人と自然とテクノロジーの和を広げます。

E。その語感は、"いい=GOOD"。
E。それは EARTH。
E。それは、ECOLOGY, ENERGY,
ECONOMY, ENGINEERING,
ENSURE, EVOLUTION…

GAS TURBINE
一歩進んだヤンマーガスタービン





自家発電設備に関する多年の経験と優れた技術によりヤンマーが独自に開発した国産ガスタービン発電装置です。構造・作動がシンプルで信頼性が極めて高く、しかも、高効率で優れた経済性を実現。軽量・小形・コンパクトで設置場所を選びません。ヤンマーガスタービン発電装置ATGシリーズは、自家発電装置に最も適した原動力として注目を集めています。

●消防法の基準をすべて満たした型式認定商品です。

ヤンマーガスタービン発電装置
ATGシリーズ187.5〜2500kVA

ヤンマーディーゼル株式会社　〈本社〉大阪市北区茶屋町1番32号〒530 ☎(06)376-6223
●カタログご希望の方は、本社、宣伝部まで。

もっと素敵に 創・快・環

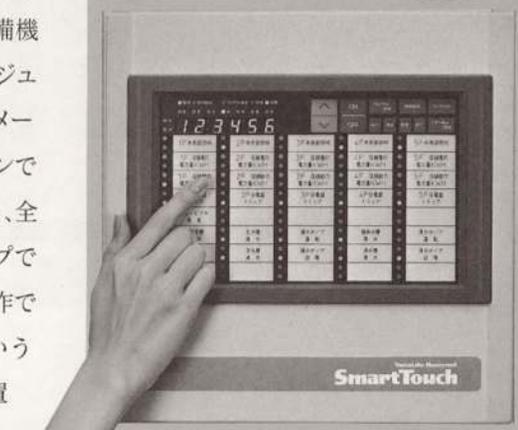
YAMATAKE

こんな管理システムを待っていた！

1台4役 Smart & Simple

「スマートタッチ」は、延床面積3000m²前後の建物で、その威力を発揮する管理パネルです。建物内の各設備機器の[発停操作][週間/年間スケジュール運転][運転状態監視][積算メータの計量]などが行え、オプションでプリンタも付けられます。しかも、全点窓表示のアナンシエータタイプですので、どなたにでも簡単に操作できます。また、たてよこ30cmというコンパクトな壁掛けタイプで、設置場所を選びません。

新製品



関東電気保安協会理事長賞受賞

山武ハネウエルの

SmartTouch

小型集中管理パネル スマートタッチ

山武ハネウエルは、空調・衛生・電気設備から防災・セキュリティまでの制御・管理を、高度なビルディング・オートメーションにより統合化。便利で快適なビル環境の創造をはじめ、安全性の向上、ライフサイクルコストの低減など、オーナーにも利用者にもさまざまな「創・快・環」をお届けしています。

■ご相談は、お気軽にお電話で。(大阪地区)

06(881)3371

※その他、全国の弊社支店・営業所および販売店へご相談ください。

山武ハネウエル株式会社

ビルシステム事業部

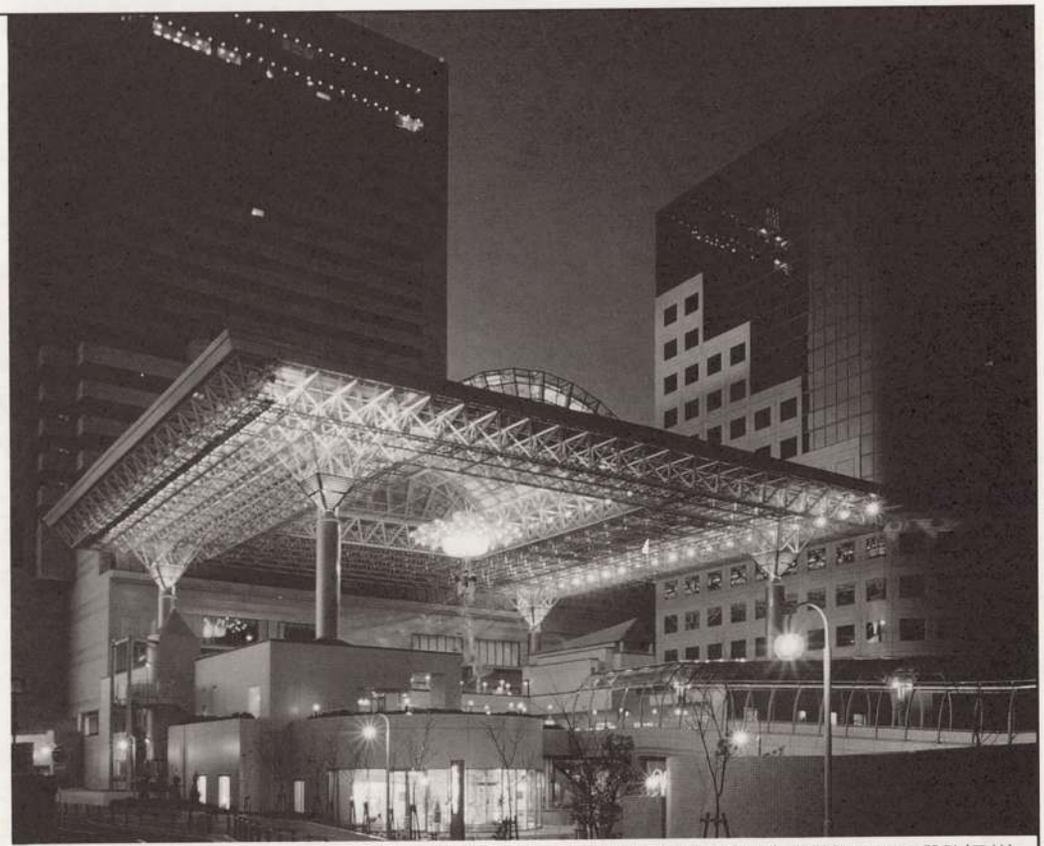
●大阪支店／〒530 大阪市北区天満橋1丁目8番30号 OAPタワー

●本　社／〒150 東京都渋谷区渋谷2-12-19

yamada

表情多彩

照明は空間づくりの重要なポイント。
人々に、常に気持ちよく空間を利用してもらいたい・・。
山田照明ではさまざまな条件やニーズを満たすために、多種多様な照明器具を用意。ベストなあかりで、ひとつひとつの空間を、個性的・機能的に演出し、表情多彩な空間創造を力強くバックアップしています。



ボルタス堺 リーガロイヤルホテル堺(大阪) 設計監理：昭和設計(屋外)

山田照明株式会社

本　社/ショールーム 〒101 東京都千代田区外神田 3-16-12 TEL.03-3253-5161 横浜支社/ショールーム 〒220 横浜市西区南幸 2-20-1 TEL.045-311-1731
大阪支社 〒577 大阪府東大阪市楠根2-2-6 TEL.0 6-745-6811 梅田オフィス 〒812 大阪府大阪市北区梅田 2-5-25 ハービスPLAZA 5F TEL.0 6-343-7507
仙台支社 TEL.022-267-1630 札幌営業所 TEL.011-811-2215 北関東営業所 TEL.0273-63-1442 宇都宮事務所 TEL.028-660-1381 静岡事務所 TEL.054-247-0811
名古屋事務所 TEL.052-963-8411 広島営業所 TEL.082-293-6119 福岡支社 TEL.092-282-7635 鹿児島営業所 TEL.099-258-0031

ジオテクノロジーで未来を支える ヨーコン



Yocon

「地球未来学」

「ヨーコン」は総合基礎業として
時代のニーズにお応えしてまいりました。
「地球未来学」。
それは毎日の仕事のなかで
発見し創造してゆく
企業マインドをメッセージする
一つの言葉。
「ヨーコン」は、
これからも人と自然とのよりよい環境づくりに、
新しいパラダイムでチャレンジすることに、
大きな誇りを抱いています。

総合基礎業：既製杭から場所打杭まで

ヨーコン株式会社

■本　　社：名古屋市東区葵三丁目24番2号　〒461
Tel(052)936-0214　Fax(052)935-3683

■大 阪 支 店：大阪市北区大淀中一丁目7番19号　〒531
Tel(06)458-5761　Fax(06)458-5370

■東京営業所：東京都港区西新橋1-5-10 新橋アマノビル7F　〒105
Tel(03)3593-0741　Fax(03)3593-0740

■岡山営業所：岡山市野田屋町1-9-12　〒700
Tel(0862)25-5451　Fax(0862)25-5454

■福岡営業所：福岡市博多区豊2-1-7 豊ビル2F　〒812
Tel(092)476-5835　Fax(092)476-5836

■岐阜営業所　■京滋営業所



人と空間
都市と地球

YKK APがめざしているものは
調和とやさしさに満ちた高品位商品の提供と
建築創造に携わる方々への
総合的なサポート体制の確立です。

YKK ap

YKKアーキテクチュラルプロダクツ株式会社

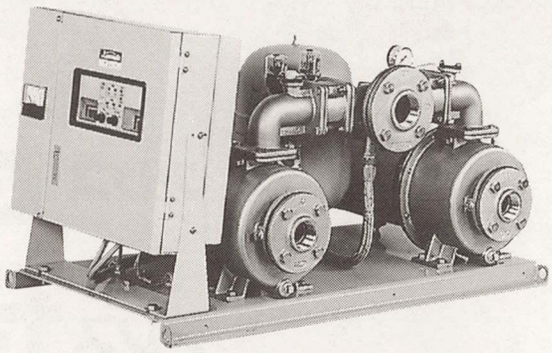
大阪支店/06-945-0414
本　社/03-3864-2261

YKK APホームページ　http://www.ykkap.co.jp/

コンピュータ制御 電能 2インバータ 給水

（「省エネバンガード21」省エネルギーセンター 会長賞）

40%省エネ運転



ステンレス速度制御ユニット

ポンパー®KF

（KF-G形）

—BL認定品—

●ステンレス鋳物製で清潔給水
●小形、軽量
●静音

川本ポンプ

本　社／名古屋市中区大須4-11　TEL〈052〉251-7171㈹
東京支店／東京都豊島区南大塚2-10　TEL〈03〉3946-1161㈹
大阪支店／大阪市東淀川区瑞光3-8-20　TEL〈06〉328-0877㈹

商品は空気です。



熱と空気のエンジニア

株式会社

大気社

●営業種目

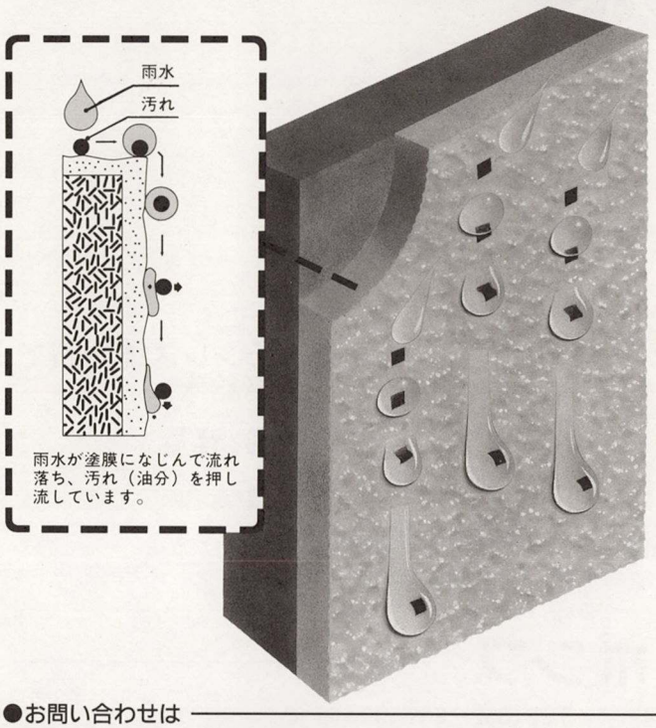
空気調和設備/給排水衛生設備/塗装プラント
公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1
新宿住友ビル　☎03-3344-1851(代)
大阪本社・大阪支社　大阪市北区中之島3-2-18
住友中之島ビル　☎06-448-5851(代)

ALESCO

提案形塗料シリーズ

汚れを雨で洗い流す、という発想。



水になじむ塗膜が外壁の汚れを防ぎます。

セラミック特有の優れた耐久性と非汚染性にフッ素樹脂やウレタン樹脂の高耐候性をプラス。
「水になじみやすい塗膜ほど汚れにくい。」
従来とは全く逆の発想で汚れを寄せつけない画期的な塗料が誕生しました。

セラミック変性非汚染形フッ素樹脂塗料
アレス セラフッソ

セラミック変性非汚染形ウレタン樹脂塗料
アレス セラレタン

●お問い合わせは
関西ペイント株式会社 建築塗料本部
東　京　〒140 東京都品川区東大井5丁目24番15号　TEL.03(3472)3111　FAX.03(3471)4137
大　阪　〒541 大阪市中央区伏見町4丁目3番6号　TEL.06(203)5012　FAX.06(204)0067

Engineering and Service



人類は今、グローバル・パワーで環境破壊を
懸命にくい止めようと努力している
星を汚した現代人……
次代人にきれいな星を渡したい。

空気調和・衛生設備・設計施工
株式会社 三晃空調

本　社　大阪市中央区城見2-1-61
ツイン21MIDタワー11階
電話（06）949-1371

室谷

内装不燃材

室谷商事株式会社

本社　神戸市中央区三宮町3−7−6(神戸フクトクビル5階)
電話　神戸(331) 0881〜3
支店　大阪市北区西天満2丁目6番8号(堂ビル5階)
電話　大阪(364) 2031〜4

OM

テトカッパー防水層

カッパー防水帯 ——— コーパータイト／オクロン防水帯

資料をご請求下さい。

奥山化工業株式会社

本　社 東京都中央区銀座8-4-9 奥山ビル TEL03(3571)2703㈹ FAX03(3571)0264
大阪事務所TEL06(391)1081〜2FAX 06(395)2109　名古屋出張所TEL052(811)3660
横浜営業所TEL045(320)4832 FAX045(320)4765　厚木出張所TEL0462(21)1761FAX0462(23)4341
埼玉営業所TEL048(774)2845　茨城出張所TEL0292(28)0878FAX0292(28)2614

新しい時代の、新しい扉をひらきたい。

TOYO Shutter

東洋シヤッター株式会社

本　社　〒540 大阪市中央区南新町1−2−10(TSビル)
TEL(06)943−6571(代)
■東京/横浜/盛岡/仙台/水戸/静岡/岡崎/名古屋/富山/大津/京都/神戸/広島/高松/福岡/他全国主要都市

学校建築のトータルアドバイザー

二葉工業株式会社

黒　板・掲示板・家　具
電動黒板装置・サイン・スクリーン

〒547 大阪市平野区加美北3−4−5
TEL06(792)5858　FAX06(792)2810

＊奉仕感謝の店

タイル及び規格石一式施工

株式会社 川岸窯業商店

本　社　大阪市西区西本町1の13の33
TEL.06−532−0461(代表)
FAX.06−535−5181
天理営業所　天理市丹波市新町49

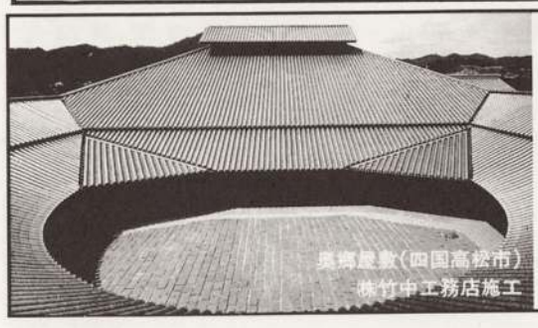
新鮮

情報処理／編集・企画／印刷・製本

ハード&ソフト…プリンティングの先端を拓きます。

ND
日本電植株式会社

〒530 大阪市北区天満2丁目5番15号　TEL.06(352)7502㈹
FAX.2F事務所 06(355)2714　3F制作 06(357)7250



奥郷屋敷(四国高松市)
株竹中工務店施工

〒556 大阪市浪速区塩草二丁目二番三号
ナニワ瓦株式会社
あらゆる屋根工事の相談は、
ファックス 五六一〜七四五四
☎ 五六一〜七四一六

空調・衛生・クリーンルーム設備
（設計・施工）

朝日工業社

本社・本店　東京都港区浜松町1-25-7　電話03(3432)5711
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59 電話 06(302)2270
支　　店　北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

商品は空気です。

熱と空気のエンジニア
株式会社

大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03－3344－1851(大代)　大阪本社☎06－448－3603(代)
大阪支社 ☎06－448－5851(代)　名古屋支店 ☎052－211－1535(代)　中国支店 ☎082－247－5541
九州支店 ☎092－431－2147(代)　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒550 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)441-8231
東京本社　〒102 東京都千代田区富士見2丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支　　社　名古屋・福岡
支　　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営 業 所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出 張 所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

空　気　調　和　　搬送機設備
給排水衛生　　設　計　施　工

人に優しい環境づくり

第一工業株式会社

大阪支店　〒530 大阪市北区西天満3丁目6番14号
電話　06－364－6661(代表)
本　　社　〒100 東京都千代田区丸の内3丁目3番1号
電話　03－3211－8511(代表)

空気調和設備　　産　業　設　備
給排水設備　　水処理施設
電気設備　　環境施設

三機工業株式会社

取締役社長　大島　剛
取締役大阪支店長　琴浦　健

大阪支店　大阪市中央区北浜2－2－21　電話 06(202) 3071（代表）
本社・東京本店　東京都千代田区有楽町1－4－1　電話 03(3502)6111（大代）
支　　店　名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸・横浜・東関東・北関東・京都・神戸・四国

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本　　社
大阪営業所　大阪市此花区西九条2丁目13番28号　電 06－466－2268
枚方営業所　枚方市甲斐田東町9－3　電0720－49－2128

空気調和設備
衛生設備　設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話（352）1131代
本　　社　東京都中央区日本橋蠣殻町2－22　電話(3667)3431(大代)
支　　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

給・排水・衛生・消火・空調設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市北区中津6丁目8番4号　電話大阪(458)3628番
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西・神戸

空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社 三晃空調

本　　社　大阪市中央区城見2丁目1番61号ツイン21MIDタワー　電話 06-949-1371
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話03-3344-7911
大阪本店　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話 06-363-1371
支　　店　仙台・横浜・名古屋・京都・神戸・広島・福岡
営 業 所　札幌・茨城・大宮・千葉・山梨・静岡・福井・滋賀・和歌山・松江・長崎・沖縄
出 張 所　青森・秋田・盛岡・川崎・富山・岐阜・三重・鳥取・岡山・高松・下関・大分・熊本・宮崎・鹿児島

OKUJU
スペース クリエイター

建築に革命をもたらした技術がある

「大規模天井無足場工法」

内外装創作パネル・システム天井・間仕切

株式会社 オクジュー

本　社
大阪市北区西天満5丁目3番7号 〒530
TEL(06)312-4131　FAX(06)312-7998
東京・九州・横浜・名古屋・仙台・宮崎・京都

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社精研

本　　社　大阪市中央区瓦屋町2丁目11番16号(オートセンタービル1・2階)
郵便番号542 電話 大阪（06）768－5031 代表
メンテナンス部　電　話　大阪（06）768－1651 代表
東京支店　東京都文京区小石川1丁目12番14号(日本生命小石川ビル7階)
郵便番号112　電話（03）5689－2351 代表

夢×技=∞ 無限大
何時もあなたの街で
お会いしている
クリハラの技術



電気・計装・空調・土木
K 栗原工業株式会社
本社/〒530 大阪市北区角田町1-1（東阪急ビル）
TEL 06(313)1101
創業1919

Carrier
冷暖房は
CARRIER
キャリア
東洋キャリア工業㈱デストビューター関西地区
日本冷熱工産株式会社
本社及大阪営業所 吹田市豊津町40番38号
電話 大阪（384）1201～7

電気工事設計施工
株式会社 三興社
代表取締役社長 上田正雄
本 社 大阪市北区西天満2丁目6－8（堂ビル5階）
電 話 06（361）3671(代)
支 店 東京都中央区日本橋茅場町2丁目17番3号
電 話 03（3666）1478(代)
営業所 堺・泉 州・泉 南・滋 賀

人と都市の快適な環境をつくります
営業種目 設計・施工・監理
● 電気設備
受変電・幹線
動力・制御装置
電話、放送、インターホン
防犯、防災
中央監視制御
システム計装
● 空調・給排水・衛生設備
空気調和
工場配管
水処理
コージェネレーション
クリーンルーム
● プラント
プラント計装
システムエンジニアリング
● 情報通信設備
情報通信ネットワーク
情報処理
通信システム
放送システム
● 電力流通設備
受変電
架空送配電
地中送配電
まちと暮らしにあふれるフリエイティブカンパニーをめざす。
住友電設株式会社
大阪本社 〒550 大阪市西区阿波座2-1-4 ☎(06) 537-3400
東京本社 〒105 東京都港区芝2-2-17 ☎(03)3454-7311

電気設備・計装制御設備・空調設備・クリーンルーム設備・プラント設備
給排水衛生設備・エネルギー集中監視システム…設計施工
SANPO
三宝電機株式会社
取締役社長 嘉納秀一
本 社 〒530 大阪市北区西天満2-6-8（堂ビル） TEL 06(364)1471・FAX 06(364)5533
東京支社 〒105 東京都港区西新橋3-6-3ランディック新橋ビル TEL 03(5472)3311・FAX 03(5472)0085
名古屋支店 〒462 名古屋市北区金城3-12-14 TEL 052(991)5131・FAX 052(914)7535
神戸支店 〒657 神戸市灘区友田町3-6-11K・Tビル TEL 078(842)6411・FAX 078(842)6416
堺研究所 〒590 大阪府堺市三宝町七丁369 TEL 0722(27)8408・FAX 0722(27)1424

電気設備 設計施工
朝陽電気株式会社
代表取締役 山本貴士
本 社 〒530 大阪市北区中之島三丁目2-4（朝日ビル） 電話06（385）1361(代)
大阪営業所 〒564 吹田市垂水町3丁目34-6 電話06（385）1361(代)
京都営業所 〒615 京都市右京区西京極葛野町21 電話075(311)1185(代)
神戸営業所 〒650 神戸市中央区浪花町59（神戸朝日ビル） 電話078(333)7756(代)

特殊壁装材製造販売 和室に最適
● 聚楽壁紙 ● ホクシノン（無機質壁紙）
(株)ホクシンクロス
〒583 大阪府羽曳野市島泉8－173－1
TEL（0729）39－3610
工場 〒580 大阪府松原市三宅中8丁目1番9号
第一 〒639-11奈良県大和郡山市小泉町2744
第二 〒597 大阪府貝塚市王子501

電気設備工事設計施工
東光電気工事株式会社
関西支社
常務取締役支社長 馬田栄
大阪市中央区高麗橋4丁目3番7号 電話 大阪（202）0325～9番
本 社 東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支 社 北海道・東北・丸ノ内・新宿・神奈川・東関東・中部・九州

省エネルギー時代の断熱用シート防水材
日立バイナリーシートP
日立バイナリーシートPは，日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した，二重構造の断熱兼用二重防水シートです。
日立電線株式會社 本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号（千代田ビル）

Construction chemistry for the future.
コンクリート用混和剤／コンクリート用補修材
高性能無収縮材／コンクリート用高性能床材
株式会社 エヌエムビー
株式会社 ボゾリス物産
Master Builders Technologies
本 社：東京都港区六本木3－16－26
大阪支店：大阪市中央区北浜3-2-23(信愛ビル)
TEL.06-202-3294

Digital Pri-Press
AOBA PRINTING CO.,LTD.,
代表取締役社長 依藤孝行
青葉印刷株式会社
〒534 大阪市都島区中野町2丁目10番11号
Phone.06-351-5428 Fax.06-351-5299

価値あるWORKSをめざす活動
建築写真 オガワグラフィック
CATALOGUE PROJECT / PHOTO
代表作品集 企画・印刷
OGAWA GRAPHIC
小川和利
CD-ROM制作
〒540 大阪市中央区島之内1-5-10 昭和島之内ビル206号
TEL・FAX (06)244－0826
確かな技術・豊かな実績 どうぞお気軽にお電話ください

デンカCSAファミリー製品

●デンカCSA（膨張性混和材）	コンクリートのひびわれ防止に
●デンカタスコン（グラウト用無収縮材）	鉄骨ベース、逆打部の充塡モルタルに
●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント）	コンクリート軀体の漏水補修に
●デンカES（土質安定用急硬材）	地盤補強用薬注入
●デンカΣ1000（製品用超高度混和材）	コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・網野（07727）2−2220
舞鶴（0773）76−0133

金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（06）332−6861
TEL 東京（03）3272−8501

小浦産業株式会社
TEL 大阪（06）443−6181

光洋物産株式会社
TEL 大阪（06）252−6000

東郷化成株式会社
TEL 滋賀・守山（0775）83−2381
TEL 大阪（06）877−1581

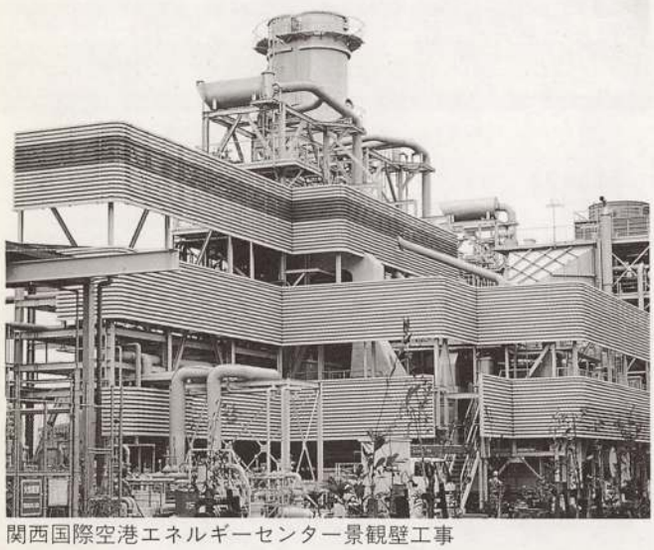
特　許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料

オリエンタルメタル

半世紀の実績が誇る技術とアフターケアー！

長尺物・色彩豊富・責任施工

品　種・オリエンタルエターノコア（ETC-F）
・オリエンタルスチールライト（STL）
・オリエンタルユニライト（UNL）


関西国際空港エネルギーセンター景観壁工事

波板規格　S小波・S大波・V波・ボックス波・Wジャンボ波・Vデッキ
SVジャンボ波・ボルトレスルーフBL・其の他

用　途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・竪樋・軒樋
各種換気装置〔モニター・ベンチレーター・ムーバー・エキゾスター（強制）〕
ボーロイド（断熱材）D.G.　※カタログをご請求ください。

オリエンタルメタル株式会社

本　　社　〒335 埼玉県蕨市塚越5−12−2 TEL（048）442-3111
東日本支社　〒335 埼玉県蕨市塚越5−12−2 TEL（048）442-3115
西日本支社　〒660 兵庫県尼崎市長洲中通3−24−35 TEL（06）487-2121
支　　店　関東、東北、大阪、名古屋、広島、九州
工　　場　熊谷・東条・姫路

ES CO.,LTD. | OMRON

いろんな駐車場に出会いたい・・・

私たちは、創業以来社会のニーズに即した駐車場システムを提案し、立体駐車場や無人パーキングシステム（料金管理システム）等で、業界の高い評価を受けてまいりました。社会の情報化、システム化が進むなかで交通機能を改善し、都市の活性化を図るために、駐車場は大きな役割を担っています。
私たちは、駐車場システムのプロフェッショナルとして駐車場作りから経営アフターメンテナンスまでをトータルにコーディネイトしてまいります。

「いろんな駐車場に出会いたい」

人と車と環境の調和を目指し、私たちは今後も駐車場のシステム提案でいろんな駐車場と出会います。







パークサイン

お客様へのインフォメーションの明確化、及び環境美化を促進します。

多様なニーズにお応えする、
イーエスのラインアップ

Parkig

- 駐車場管理システムの設計☆施工
- 料金管理システムの設計◇施工
- 立体駐車場装置の販売♡施工
- チェーンゲートの販売♧施工

駐車場機器からご相談まで・経営・の

◇オムロン㈱駐車場機器特約店

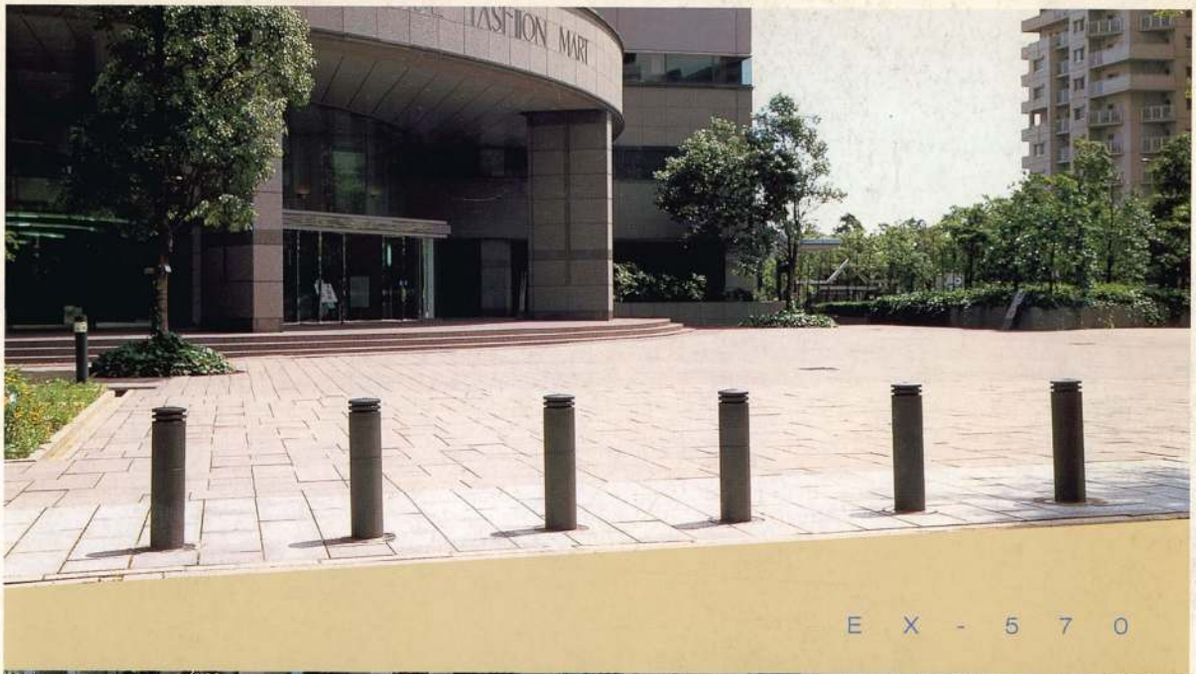
株式会社イーエス

本　　社　〒540 大阪中央区谷町3-5-5
TEL.06-910-6000㈹　FAX.06-910-6011

東京支店　〒164 東京都中野区中央2-9-1　サンロータスビル4F
TEL.03-3371-8941㈹　FAX.03-3371-8940

京都支店　〒604 京都中京区御池通間之町東入高宮町206番地
京都東邦生命ビル7F
TEL.075-213-4719㈹　FAX.075-213-4729

神戸支店　〒650 神戸市中央区相生町4-4-13　ＩＳビル3F
TEL.078-362-1187　FAX.078-362-1186



EX-570

人と車と街と自然が調和した

都市をかたちづくるさまざまなストリートファニチュアの中で、これまで、機能を重視するあまり、生活者の視点に対して配慮のなかったモノは少なくありません。二十一世紀の都市景観を視野にしたユニオンのランドポールシリーズは、開発の当初から明確なポリシーを貫き製品化がなされています。住みたい街、美しい町づくり・・・・・・・車止めを越えたアーバンデザインです。



都市景観®

EX-504

UNION LAND POLE

ユニオンランドポール®

UNION 建設環境金属製品の 株式会社ユニオン
UNION CORPORATION

■本社
大阪市西区南堀江2-13-22 〒550
■大阪支店・ショールーム
大阪市西区南堀江2-13-22 〒550
☎06(532)3731
㊫06(532)0568
■東京支店
東京都江東区白河2-9-5 〒135
☎03(3630)2811
㊫03(3630)2816
■東京ショールーム
東京都港区虎ノ門2-3-22 〒105
☎03(3506)1717
㊫03(3506)1718
■名古屋営業所・ショールーム
名古屋市中川区舟戸町3-20 〒454
☎052(363)5221
㊫052(363)5255

営業アイテム ●建物用ドアハンドル ●レバーハンドル ●ケアシステム―ハンドバー&つかまっ手 ●クロセットドア ●ドアストップ―エッセ ●サインシステム―ピクト ●消火器ケース―アルジャン ●フロアシステム ●都市景観―ランドポール・エキスポール ●視覚障害者足元誘導―ナビライン

カタログご請求ください
catalog no.E22A
急送いたします

雑誌 03379-10